

群馬町菅谷

^{suga}菅 ^{ya}谷 ^{isi}石 ^{duka}塚 遺 跡

主要地方道高崎渋川線改築（改良）工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第9集

2003

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬町菅谷

^{suga}菅 ^{ya}谷 ^{isi}石 ^{duka}塚 遺 跡

主要地方道高崎渋川線改築（改良）工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第9集

2003

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



2区Ⅵ (As-C) 層下水田 W→



3区Ⅲ (As-B) 層下水田 S→

序

主要地方道高崎渋川線は近世の三国往還を踏襲しており、古くから往来が盛んな道路として知られております。現在では高崎市街地を南北に縦断しながら国道17号線と交差して渋川市を結ぶ地方幹線道として、近年交通量がさらに増加しています。

本道路改築（改良）工事1期は、現道の東側を迂回するバイパスとして整備しつつあり、渋滞緩和のため早期開通が囑望されておりました。この工事に先立って、当該する埋蔵文化財の記録保存として昭和63年からは群馬町教育委員会、そして平成6年からは当事業団が発掘調査を実施してまいりました。

本遺跡の周辺には三ッ寺I遺跡、保渡田古墳群、上野国府跡、上野国分寺跡、日高遺跡のような重要な遺跡が存在しております。また、周辺では高速道路、新幹線建設、土地改良工事などに伴って、発掘調査が数多く行われてきました。それらの中間に当たる地域として、本遺跡は当地域の歴史を究明する上で重要な資料を提供することと思えます。

本遺跡は古墳時代から中世・近世にいたる、特に水田・畠などの生産遺構と中世の館関連の遺構が発見されております。今回の調査で発見した水田遺構は当地での農耕生産の様相に新たな見知を与え、当地の古代史を解明する上で重要な資料となり得ると確信します。

本報告書の刊行にいたるまでには、群馬県土木部道路建設課、高崎土木事務所、群馬県教育委員会、群馬町教育委員会の諸機関並びに地元関係者の皆様に大変な尽力を賜りました。銘記して心から感謝申し上げるとともに、本報告書が広く基本的な歴史資料として活用ようされることを念願し、序とします。

平成15年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本報告書は、群馬県主要地方道高崎渋川線改築（改良）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は以下のとおりである。
群馬県群馬郡群馬町大字菅谷字石塚・村西
3. 事業主体 群馬県土木部道路建設課・高崎土木事務所
4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 2000年（平成12）1月4日～2001年（平成13）3月31日
6. 調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 理事長 小野宇三郎
7. 事務担当 赤山容造、神保侑史、能登 健、住谷 進、小山友孝、相京健史、坂本敏夫、笠原秀樹、
小山建夫、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、岡島伸昌、森下弘美、片岡徳雄、吉田恵子、
並木綾子、今井もと子、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子
8. 調査担当 平成11年度 神谷佳明、須田正久、長岡将之、小林一弘（囑託員）
平成12年度 神谷佳明、須田正久、松島久仁治、青木さおり
9. 整理期間 2002年（平成14）4月1日～2003年（平成15）3月31日
10. 整理組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 理事長 小野宇三郎
11. 事務担当 吉田 豊、神保侑史、萩原利通、巾 隆之、西田健彦、植原恒夫、小山建夫、須田朋子、
田中賢一、高橋房雄、吉田有光、森下弘美、今井もと子、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、
本間久美子、北原かおり、狩野真子
12. 整理担当 神谷佳明
13. 報告書作成関係者
編集 神谷佳明 本文執筆 神谷佳明、榑崎修一郎、古環境研究所 観察表 神谷佳明
石器・石製品石材鑑定 飯島静男
写真撮影 遺構：発掘調査担当者、航空写真 株式会社 測研、遺物：佐藤元彦
整理補助員 長岡和恵、小久保トシ子、小菅優子、猪野熊洋子、中橋たみ子
遺物実測補助 田中富子、富沢スミ江、伊東博子、岸 弘子、田中精子、酒井史恵
保存処理 関 邦一、土橋まり子、小材浩一
14. 発掘調査、基礎整理作業は平成11年度、平成12年度に（主）地方道高崎渋川線改築（改良）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に配属された事業団登録発掘調査作業員の方々に従事していただいた。本来なら本書にご芳名を記載すべきところであるが紙面の都合上割愛させていただいた。
15. 発掘調査、整理作業では多くの方々にご指導、ご教授を受けた。
群馬県道路建設課、高崎土木事務所、群馬県教育委員会、高崎市教育委員会、群馬町教育委員会、群馬町菅谷自治会
16. 記録図面、記録写真、出土遺物、その他記録類等は群馬県埋蔵文化財センターに保管している。
17. 菅谷石塚遺跡は現在の行政境界で隣接する正観寺西原遺跡と区分した。そのため1996年度に発掘調査した1区本線部分の報告については「小八木志志貝戸遺跡群1」1999刊行、「小八木志志貝戸遺跡群2」2001刊行に掲載してある。

凡 例

1. 挿図中に使用した方位は座標北を表示している。
2. 本報告書（VI 分析・鑑定を除く）で使用したテフラの略号は下記のとおりである。
As-B 浅間山B軽石、As-C 浅間山C軽石、
Hr-FP 榛名二ツ岳噴出軽石、Hr-FA 榛名二ツ岳噴出火山灰
3. 挿図中の遺構図縮尺は原則下記のとおりであるが、異なる箇所もある。
掘立柱建物 1/80、墓坑・土坑・井戸 1/40、溝 平面 1/50、1/100、1/200・断面 1/50、1/100
水田 個々の遺構図で異なる 畠 個々の遺構図で異なる。
4. 挿図中の遺物図は原則1/3であるが大型品については1/4、小型品は1/2、1/1で掲載したのものもある。
原則以外の縮尺で掲載したものは遺物番号の後ろに（ ）で明示した。
5. 挿図中の遺構名称は調査区を省略してある。
6. 本報告書で使用した地形図は下記のとおりである。
国土地理院 地勢図「長野」・「宇都宮」(1/200.000)
使用は昭和58年横山衡器製作所100周年記念調整図を使用。
地形図「前橋」・「室田」(1/25.000)、「前橋」・「榛名」(1/50.000)
群馬町都市計画図 No12・16 (1/2.500) 都市計画図は縮尺を変えて使用している。
7. 遺構の面積はデジタルプランニメーターを使用して3回の計測値を平均したものである。
8. 図版中の遺物縮尺は任意である。
9. 遺物観察表の計測値は単位の記載されていないものは口径・底径・器高等がcm、重量がgである。

目次

口絵

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

図版目次

I 調査の経過

1. 調査に至る経緯 2
2. 調査の経過 3

II 調査の方法

1. 調査区の設定 6
2. 基本的土層 7

III 遺跡地の環境

1. 地理的環境 10
2. 歴史的環境 12

IV 遺構と遺物

1. 調査の概要 17
2. 縄文時代～古墳時代中期の遺構と遺物
 - (1) 土坑 20
 - (2) 列石 21
 - (3) 溝 22
 - (4) 水田 27
 - (5) 遺構外出土遺物 30
3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物
 - (1) 墓坑 35
 - (2) 土坑 35
 - (3) 溝 45
 - (4) 水田 63
 - (5) 遺構外出土遺物 72

4. 平安時代末以降の遺構と遺物

- (1) 掘立柱建物 76
- (2) 墓坑 78
- (3) 土坑 81
- (4) 井戸 94
- (5) 池 100
- (6) 道 101
- (7) 溝 106
- (8) 水田 131
- (9) 畠 141
- (10) 遺構外出土遺物 147

V まとめ 149

VI 自然科学分析・鑑定

1. 土層・テフラの分析 150
2. 放射性炭素年代測定 161
3. プラント・オパール 162
4. 花粉分析 168
5. 菅谷石塚遺跡出土人骨 170
6. 菅谷石塚遺跡出土馬骨 174
 - 出土人骨図版・挿図 175
 - 出土馬骨図版・挿図 178

図版

遺跡抄録

挿図目次

第1図	遺跡位置図 (1/200,000)	1	第60図	平安時代末以降土坑遺構図 (1)	83
第2図	遺跡調査区位置図 (1/250,000)	3	第61図	平安時代末以降土坑遺構図 (2)	84
第3図	遺跡調査範囲図 (1/5,000)	5	第62図	平安時代末以降土坑遺構図 (3)	85
第4図	調査区設定図	6	第63図	平安時代末以降土坑遺構図 (4)・遺物図	86
第5図	遺跡地土層柱状図	8	第64図	平安時代末以降土坑遺構図 (5)・遺物図	87
第6図	棟高東弥三郎遺跡住居確認地点位置図	9	第65図	平安時代末以降土坑遺構図 (6)・遺物図	88
第7図	棟高東弥三郎遺跡試掘調査出土遺物図	9	第66図	平安時代末以降土坑遺構図 (7)・遺物図	89
第8図	遺跡周辺地形図 (1/100,000)	11	第67図	平安時代末以降土坑遺構図 (8)	90
第9図	周辺遺跡図 (1/25,000)	15	第68図	平安時代末以降土坑遺構図 (9)	91
第10図	周辺発掘調査地点図	16	第69図	平安時代末以降土坑遺構図 (10)・遺物図	92
第11図	層位別全体図 (1)	18	第70図	平安時代末以降土坑遺構図 (11)	93
第12図	層位別全体図 (2)	19	第71図	3区1号井戸・2号井戸遺構図	94
第13図	6区土坑遺構図・全体図	20	第72図	4区1号井戸遺構図・遺物図	95
第14図	5区1号列石遺構図・遺物図	21	第73図	4区2号井戸遺構図	95
第15図	1区5号溝遺構図	23	第74図	4区3号井戸遺構図	96
第16図	1区7号溝・2区12号溝・22号溝遺構図	24	第75図	4区4号井戸遺構図・遺物図	96
第17図	2区20号溝・21号溝・3区12号溝・13号溝遺構図・遺物図	25	第76図	5区1号井戸遺構図	97
第18図	3区11号溝遺構図・遺物図	26	第77図	5区2号井戸遺構図	97
第19図	2区VI (As-C)層下水田遺構図	29	第78図	5区3号井戸遺構図	98
第20図	縄文時代～古墳時代中期遺構外出土遺物遺物図 (1)	30	第79図	5区4号井戸遺構図	98
第21図	縄文時代～古墳時代中期遺構外出土遺物遺物図 (2)	31	第80図	7区3号井戸遺構図	98
第22図	縄文時代～古墳時代中期遺構外出土遺物遺物図 (3)	32	第81図	7区1号井戸遺構図	99
第23図	縄文時代～古墳時代中期遺構外出土遺物遺物図 (4)	33	第82図	7区2号井戸遺構図	99
第24図	2区1号墓坑遺構図	35	第83図	7区2号井戸遺物図	100
第25図	古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図 (1)・遺物図	38	第84図	7区4号井戸遺構図	100
第26図	古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図 (2)	39	第85図	5区1号池遺構図	100
第27図	古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図 (3)	40	第86図	2区1号道遺構図	101
第28図	古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図 (4)	41	第87図	4区1号道遺構図	102
第29図	古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図 (5)・遺物図	42	第88図	4区2号道遺構図	103
第30図	古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図 (6)・遺物図	43	第89図	4区5号道遺構図	103
第31図	古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図 (7)	44	第90図	4区3号道遺構図	104
第32図	古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図 (8)	45	第91図	4区4号道遺構図	105
第33図	1区4号溝遺構図・遺物図	47	第92図	1区1号溝・2区1号溝・2号溝遺構図	108
第34図	1区6号溝・2区18号溝遺構図	47	第93図	2区3号溝・4号溝・5号溝・6号溝遺構図	109
第35図	2区14号溝・15号溝・16号溝・17号溝遺構図・遺物図	48	第94図	2区7号溝・9号溝・10号溝・11号溝遺構図	110
第36図	6区6号溝・7号溝・8号溝・9号溝遺構図	49	第95図	2区8号溝・13号溝・3区2号溝・3号溝遺構図・遺物図	111
第37図	6区11号溝・13号溝・14号溝・15号溝・16号溝・23号溝遺構図	50	第96図	3区5号溝・6号溝・7号溝遺構図	112
第38図	7区7号溝遺構図・遺物図 (1)	51	第97図	3区8号溝・9号溝・4区6号溝・7号溝遺構図	113
第39図	7区7号溝遺物図 (2)	52	第98図	4区4号溝・5号溝遺構図・遺物図	114
第40図	7区8号溝・9号溝遺構図・遺物図 (1)	53	第99図	4区12号溝・13号溝・15号溝・16号溝遺構図・遺物図	115
第41図	7区8号溝遺物図 (2)	54	第100図	4区8号溝・9号溝・10号溝・20号溝遺構図	116
第42図	7区10号溝・13号溝・14号溝・15号溝遺構図・遺物図	56	第101図	4区1号溝・21号溝遺構図・遺物図	117
第43図	7区11号溝・12号溝・17号溝遺構図・遺物図	57	第102図	5区1号溝・3号溝・27号溝遺構図	118
第44図	7区16号溝・18号溝・19号溝・20号溝・21号溝・22号溝 遺構図・遺物図	58	第103図	5区4号溝・5号溝・6号溝遺構図・遺物図	119
第45図	7区23号溝・8区8号溝遺構図・遺物図	59	第104図	5区7号溝・8号溝・9号溝・30号溝遺構図・遺物図	120
第46図	8区6号溝・7号溝遺構図・遺物図	60	第105図	5区10号溝・11号溝遺構図・遺物図	121
第47図	3区1号埋没河川・2号埋没河川遺構図	61	第106図	5区12号溝・13号溝・23号溝・24号溝・26号溝遺構図・ 遺物図	122
第48図	3区1号埋没河川・2号埋没河川遺物図	62	第107図	5区14号溝・15号溝・16号溝・17号溝・29号溝遺構図	123
第49図	2区東V (Hr-FA)層下水田遺構図	66	第108図	5区19号溝・20号溝・21号溝遺構図	124
第50図	2区西V (Hr-FA)層下水田遺構図	67	第109図	6区3号溝遺構図	125
第51図	2区V (Hr-FA)層上水田遺構図	69	第110図	菅谷城址概略図	125
第52図	2区洪水層下水田遺構図・遺物図	71	第111図	6区1号溝・2号溝・22号溝遺構図・遺物図	126
第53図	古墳時代後期～平安時代後期遺構外出土遺物遺物図 (1)	72	第112図	6区4号溝・5号溝・7区6号溝・8区1号溝・2号溝 遺構図	127
第54図	古墳時代後期～平安時代後期遺構外出土遺物遺物図 (2)	73	第113図	6区17号溝・18号溝・19号溝遺構図	128
第55図	古墳時代後期～平安時代後期遺構外出土遺物遺物図 (3)	74	第114図	7区1号溝・2号溝・3号溝・4号溝・5号溝遺構図	129
第56図	5区1号掘立柱建物遺構図	76	第115図	8区3号溝・4号溝・5号溝遺構図	130
第57図	7区1号掘立柱建物遺構図	77	第116図	Ⅲ (As-B)層下水田遺構図 (1)	137
第58図	6区1号墓坑・2号墓坑遺構図・遺物図	79	第117図	Ⅲ (As-B)層下水田遺構図 (2)	138
第59図	6区3号墓坑・4号墓坑遺構図・遺物図	80			

第118図	Ⅲ (As-B) 層下水田遺構図 (3)	139	第128図	土層・テフラ分析地点の土層柱状図 (2)	159
第119図	Ⅲ (As-B) 層下水田遺構図 (4)	140	第129図	土層・テフラ分析地点の土層柱状図 (3)	160
第120図	4区1号畠遺構図	141	第130図	プラント・オパール分析結果 (1)	166
第121図	4区2号畠遺構図	142	第131図	プラント・オパール分析結果 (2)	167
第122図	6区1号畠遺構図	143	第132図	6区2号墓坑出土人骨出土部位	175
第123図	6区2号～5号畠遺構図・遺物図	144	第133図	6区4号墓坑実測図	176
第124図	7区1号畠・4号畠遺構図	145	第134図	6区4号墓坑出土人骨出土部位	177
第125図	7区2号畠・3号畠遺構図	146	第135図	6区4号墓坑出土人骨出土部位	177
第126図	平安時代末以降遺構外出土遺物遺物図	147	第136図	7区51号土坑出土火葬人骨出土部位	177
第127図	土層・テフラ分析地点の土層柱状図 (1)	158	第137図	7区2号井戸出土馬歯出土部位	178
付図1	縄文時代～古墳時代中期 遺構全体図				
付図2	古墳時代後期～平安時代後期 遺構全体図①				
付図3	古墳時代後期～平安時代後期 遺構全体図②				
付図4	古墳時代後期～平安時代後期 遺構全体図③				
付図5	平安時代末以降 遺構全体図①				
付図6	平安時代末以降 遺構全体図②				
付図7	平安時代末以降 遺構全体図③				

表目次

第1表	(主) 高崎・渋川バイパス発掘調査遺跡一覧	2	第13表	2区～4区南Ⅲ (As-B) 層下水田区画表	133～135
第2表	縄文時代～古墳時代中期土坑表	20	第14表	4区北Ⅲ (As-B) 層下水田区画表	135
第3表	縄文時代～古墳時代中期溝表	23	第15表	5区Ⅲ (As-B) 層下水田区画表	135・136
第4表	2区Ⅵ (As-C) 層下水田区画表	28	第16表	テフラ検出分析結果表 (1)	157
第5表	古墳時代後期～平安時代後期土坑表	37・38	第17表	4区東トレンチ採取地点における屈折率測定結果表	157
第6表	古墳時代後期～平安時代後期溝表	46	第18表	2区採取地点における屈折率測定結果表	157
第7表	2区東Ⅴ (Hr-FA) 層下水田区画表	65	第19表	テフラ検出分析結果表 (2)	157
第8表	2区西Ⅴ (Hr-FA) 層下水田区画表	65・66	第20表	プラント・オパール分析結果表	165
第9表	2区Ⅴ (Hr-FA) 層下水田区画表	69	第21表	花粉分析結果表	169
第10表	2区洪水層下水田区画表	70	第22表	菅谷石塚遺跡出土人骨歯冠計測値及び比較表	173
第11表	平安時代末以降土坑表	81～83	第23表	菅谷石塚遺跡永久歯の非計測的形質	173
第12表	平安時代末以降溝表	106・107	第24表	菅谷石塚遺跡出土馬歯値	178

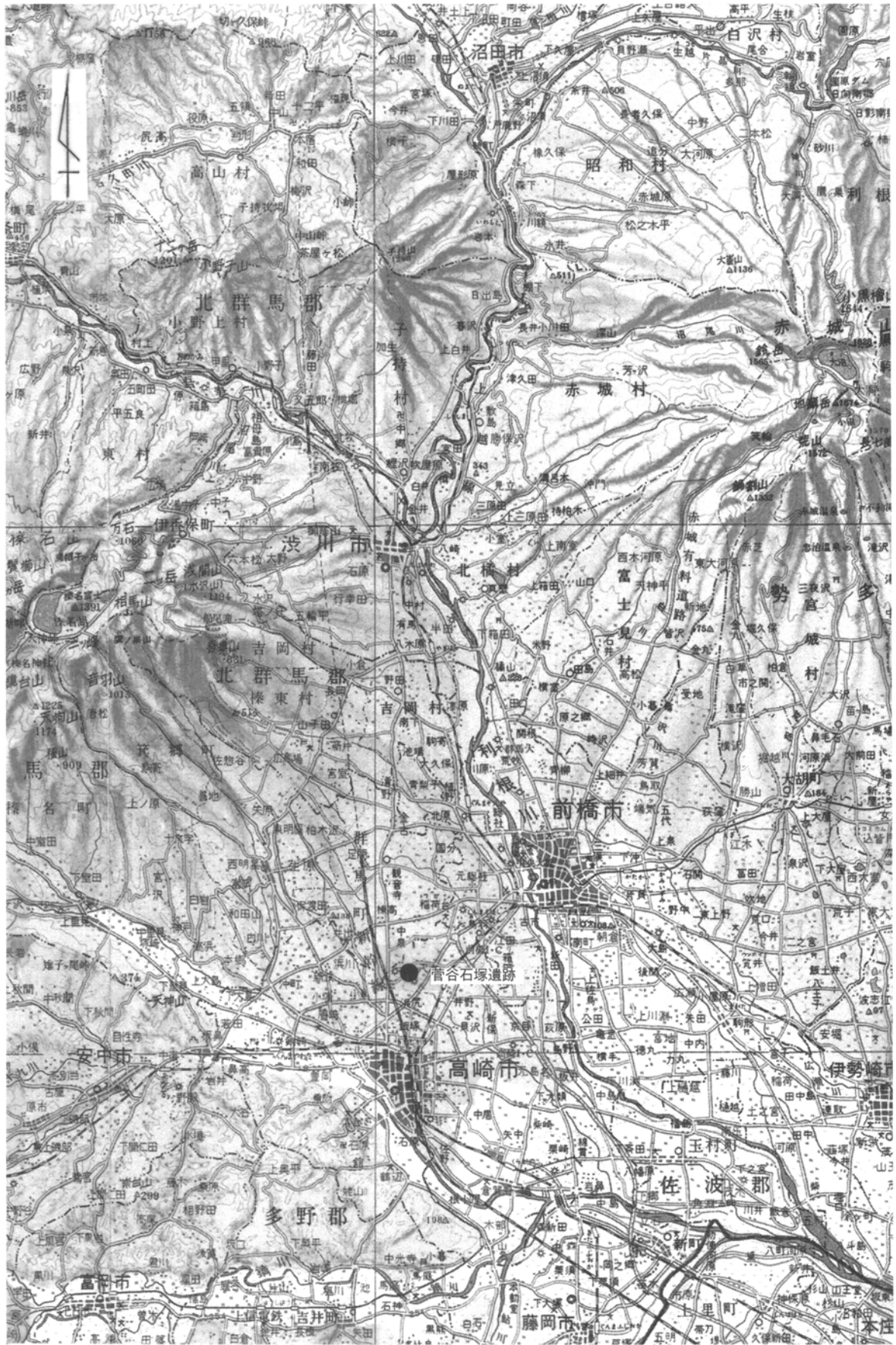
図版目次

PL 1	遺跡地遠景 S→	3区11号溝断面② S→	
	遺跡地近景 S→	3区12号溝 N→	
縄文時代～古墳時代中期遺構図版			
PL 2	6区43号土坑 E→	3区12号溝断面 N→	
	6区44号土坑 E→	PL 5	2区Ⅵ (As-C) 層下水田 垂直
	6区45号土坑 E→		2区Ⅵ (As-C) 層下水田 W→
	6区46号土坑 E→	PL 6	2区Ⅵ (As-C) 層下水田近景 S→
	6区47号土坑 E→		2区Ⅵ (As-C) 層下水田近景 W→
	6区48号土坑 E→		2区Ⅵ (As-C) 層下水田近景 W→
	6区49号土坑 E→		2区Ⅵ (As-C) 層下水田近景 S→
	6区50号土坑 E→		2区Ⅵ (As-C) 層下水田水口 S→
PL 3	1区5号溝 E→		5区遺構外出土遺物 出土状態
	2区20号溝 S→		5区遺構外出土遺物 出土状態
	2区21号溝 N→		5区遺構外出土遺物 出土状態
	1区7号溝 N→	古墳時代後期～平安時代後期遺構図版	
	2区12号溝 垂直	PL 7	2区1号墓坑検出状態 S→
	2区12号溝 N→		2区1号墓坑 S→
	2区12号溝断面① N→		2区1号墓坑 E→
PL 4	3区11号溝 NE→		2区1号墓坑掘方 E→
	3区11号溝 E→		3区22号土坑 S→
	3区11号溝中間部分 S→		3区22号土坑断面 S→
	3区11号溝南部分 E→		3区23号土坑 S→
	3区11号溝断面① E→		3区24号土坑 S→
		PL 8	5区4号土坑 W→

	5区5号土坑 E→		7区23号溝 E→
	5区6号土坑 E→		8区8号溝 W→
	5区7号土坑 E→		8区8号溝断面 W→
	6区5号土坑 E→	P L 17	3区古墳時代後期～平安時代面全景 垂直
	6区8号土坑 S→		3区1号埋没河川 W→
	6区14号土坑 E→		3区1号埋没河川断面 W→
	6区22号土坑 W→		3区2号埋没河川 E→
P L 9	6区23号土坑 W→	P L 18	2区東V (Hr-FA) 層下水田 S→
	6区25号土坑 W→		2区東V (Hr-FA) 層下水田 N→
	6区26号土坑 W→		2区東V (Hr-FA) 層下水田 N→
	6区27号土坑 W→		2区東V (Hr-FA) 層下水田 W→
	6区28号土坑 W→		2区東V (Hr-FA) 層下全景 W→
	6区29号土坑 W→	P L 19	2区西V (Hr-FA) 層下水田 垂直
	6区31号土坑 W→		2区西V (Hr-FA) 層下水田 S→
	6区32号土坑 W→	P L 20	2区V (Hr-FA) 層上水田 W→
P L 10	6区34号土坑 S→		2区V (Hr-FA) 層上水田 N→
	6区36号土坑 S→		2区V (Hr-FA) 層上水田 W→
	6区39号土坑 E→		2区V (Hr-FA) 層上水田 N→
	6区40号土坑 N→		2区V (Hr-FA) 層上水田 N→
	6区54号土坑 S→		2区V (Hr-FA) 層上水田 N→
	6区54号土坑断面 W→		2区V (Hr-FA) 層上水田 S→
	7区93号土坑 S→	P L 21	2区洪水層下水田 垂直
	7区94号土坑 S→		2区洪水層下水田 N→
P L 11	7区95号土坑 S→	P L 22	2区洪水層下水田 W→
	7区96号土坑 S→		2区洪水層下水田水口
	7区97号土坑 S→		2区洪水層下水田水口
	7区98号土坑 S→		2区洪水層下水田アゼ・耕作土断面
	7区100号土坑 S→		2区洪水層下水田アゼ・耕作土断面
	7区101号土坑 S→		平安時代末以降遺構図版
	7区102号土坑 S→	P L 23	2区平安時代末以降面全景 垂直
	7区103号土坑 S→		2区平安時代末以降面全景 N→
P L 12	7区104号土坑 S→		2区平安時代末以降面全景 S→
	7区107号土坑 N→	P L 24	3区平安時代末以降面全景 垂直
	7区108号土坑 W→		3区平安時代末以降面全景 N→
	7区108号土坑断面 S→		3区平安時代末以降面全景 S→
	7区109号土坑 N→	P L 25	4区平安時代末以降面全景 垂直
	7区113号土坑 E→		4区平安時代末以降面全景 N→
	7区114号土坑 E→		4区平安時代末以降面全景 S→
	7区117号土坑 S→	P L 26	5区平安時代末以降面全景 垂直
P L 13	1区4号溝 N→		5区平安時代末以降面全景 S→
	2区14号溝 N→		5区平安時代末以降面全景 N→
	2区14号溝断面 S→	P L 27	6区平安時代末以降面全景 垂直
	2区15号溝 N→		6区平安時代末以降面全景 N→
	2区15号溝断面 S→		6区N平安時代末以降面全景 W→
	2区16号溝 N→		6区S平安時代末以降面全景 垂直
	2区16号溝断面 S→		6区2次平安時代末以降面全景 E→
	6区6号溝・7号溝 W→	P L 28	7区平安時代末以降面全景 N→
P L 14	6区9号溝 N→		7区平安時代末以降面全景 S→
	6区9号溝断面 N→		7区・8区平安時代末以降面全景 N→
	6区10号溝・11号溝 N→		8区平安時代末以降面全景 N→
	6区10号溝・11号溝断面 N→		8区平安時代末以降面全景 S→
	6区14号溝 N→	P L 29	5区1号掘立柱建物 E→
	6区15号溝・16号溝 N→		7区1号掘立柱建物 S→
	6区15号溝断面 N→		6区1号墓坑 S→
	6区23号溝 N→		6区1号墓坑断面 S→
P L 15	7区古墳時代後期～平安時代溝群 垂直		6区2号墓坑 S→
	7区古墳時代後期～平安時代溝群 N→		6区3号墓坑 S→
P L 16	7区7号溝断面 W→		6区4号墓坑 S→
	7区8号溝断面 S→		6区墓坑周辺出土石塔群
	7区11号溝断面 E→	P L 30	2区1号土坑 S→
	7区16号溝断面 E→		2区5号土坑 S→
	7区17号溝断面 E→		2区7号土坑 S→

- 2区9号土坑 N→
 2区11号土坑 W→
 2区13号土坑 S→
 2区14号土坑 S→
 2区16号土坑 S→
 P L 31 3区1号土坑 E→
 3区4号土坑 N→
 3区6号土坑 S→
 3区7号土坑 N→
 3区8号土坑 W→
 3区8号土坑断面 E→
 3区11号土坑 W→
 3区13号土坑 W→
 P L 32 4区3号土坑 S→
 4区3号土坑断面 S→
 5区1号土坑 W→
 5区1号土坑断面 S→
 5区2号土坑 N→
 6区1号土坑 S→
 6区2号土坑 E→
 6区3号土坑 S→
 P L 33 7区2号土坑 S→
 7区2号土坑断面 E→
 7区5号土坑 S→
 7区5号土坑断面 N→
 7区6号土坑 S→
 7区8号土坑 S→
 7区19号土坑 S→
 7区20号土坑 S→
 P L 34 7区22号土坑 S→
 7区28号土坑 S→
 7区29号土坑 S→
 7区33号土坑 S→
 7区34号土坑 S→
 7区39号土坑 S→
 7区47号土坑 W→
 7区47号土坑断面 E→
 P L 35 7区51号土坑 E→
 7区51号土坑断面 E→
 7区53号土坑 S→
 7区58号土坑 S→
 7区79号土坑 S→
 7区83号土坑 S→
 8区1号土坑 S→
 8区2号土坑 S→
 P L 36 3区1号井戸 N→
 3区1号井戸断面 E→
 3区2号井戸 S→
 3区2号井戸断面 S→
 4区1号井戸 N→
 4区1号井戸遺物出土状態 N→
 4区2号井戸 S→
 4区2号井戸断面 N→
 P L 37 4区3号井戸 N→
 4区3号井戸礫出土状態① N→
 4区3号井戸礫出土状態② N→
 4区3号井戸断面 S→
 4区4号井戸 E→
 4区4号井戸断面 S→
 5区1号井戸断面 E→
 5区1号井戸 E→
 P L 38 5区2号井戸断面 N→
 5区4号井戸 E→
 7区1号井戸 S→
 7区2号井戸 S→
 7区3号井戸断面 N→
 7区4号井戸断面 S→
 5区1号池 W→
 5区1号池断面 E→
 P L 39 2区1号道 NE→
 2区1号道路面下 E→
 4区1号道 N→
 4区2号道断面 E→
 4区2号道 E→
 4区2号道・3号道 W→
 P L 40 4区4号道 N→
 4区1号道・3号道交差部分 W→
 4区3号道断面 E→
 4区5号道W→
 4区4号道 N→
 4区4号道断面 S→
 P L 41 2区3号溝 S→
 2区3号溝断面 S→
 2区7号溝・9号溝 W→
 2区7号溝断面 E→
 2区8号溝 S→
 2区10号溝・11号溝 N→
 2区10号溝断面 N→
 2区11号溝断面 S→
 P L 42 3区1号溝 S→
 3区4号溝 W→
 3区5号溝断面① S→
 3区5号溝断面② S→
 3区7号溝 E→
 3区7号溝断面 E→
 4区13号溝 S→
 4区13号溝断面 E→
 P L 43 5区1号~4号溝 E→
 5区3号溝 W→
 5区1号溝断面 E→
 5区5号溝・6号溝 N→
 5区7号溝・8号溝 N→
 5区9号溝 N→
 5区9号溝断面 N→
 P L 44 5区10号~12号溝 W→
 5区14号~18号溝 N→
 6区1号溝 W→
 6区1号溝・22号溝(2次部分) E→
 6区1号溝遺物出土状態 W→
 6区1号溝断面 E→
 6区2号溝 W→
 6区2号溝断面 E→
 P L 45 6区3号溝 N→
 7区1号溝 W→
 7区2号溝 N→
 7区2号溝断面 W→
 7区3号溝 W→
 7区3号溝断面 W→
 7区4号溝 W→
 7区4号溝断面 E→
 P L 46 Ⅲ(As-B)層下水田 2区③
 Ⅲ(As-B)層下水田 3区①(南端)
 Ⅲ(As-B)層下水田 2区②
 Ⅲ(As-B)層下水田 2区⑤(北端)

	Ⅲ (As-B) 層下水田	2区① (南端)			遺構外出土遺物①
	Ⅲ (As-B) 層下水田	2区④		P L 54	遺構外出土遺物②
P L 47	Ⅲ (As-B) 層下水田	3区④ (北端)			古墳時代後期～平安時代後期出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	4区③			1区1号土坑出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	3区③			6区54号土坑出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	4区②			7区108号土坑出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	3区②			3区1号埋没河川出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	4区① (南端)			7区7号溝出土遺物①
P L 48	Ⅲ (As-B) 層下水田	5区① (南端)		P L 55	7区7号溝出土遺物②
	Ⅲ (As-B) 層下水田	5区④ (北端)			7区8号溝出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	4区⑤ (北端)			7区14号溝出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	5区③			7区16号溝出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	4区④			7区23号溝出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	5区②			8区6号溝出土遺物
P L 49	Ⅲ (As-B) 層下水田	区画417→415東水口			8区8号溝出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	区画417→415西水口			2区洪水層下水田出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	区画415→414東水口			遺構外出土遺物①
	Ⅲ (As-B) 層下水田	区画481→477水口		P L 56	遺構外出土遺物②
	Ⅲ (As-B) 層下水田	区画487→481東水口			平安時代末以降出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	区画487→481西水口			6区2号墓坑出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	区画481→477水口			6区3号墓坑出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	区画481→477水口			6区4号墓坑出土遺物
P L 50	Ⅲ (As-B) 層下水田	区画560→522→550水口			6区2号土坑出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	区画578→573水口			4区1号土坑出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	3区水路 (3区8号溝)	S→		7区5号土坑出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	3区水路 (3区8号溝)	N→		7区17号土坑出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	3区水路 (3区8号溝)	S→		7区75号土坑出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	4区水路 (4区17号溝)	N→		4区1号井戸出土遺物
	Ⅲ (As-B) 層下水田	4区水路 (4区17号溝)	N→		4区4号井戸出土遺物
P L 51	4区1号畠・2号畠	垂直			7区2号井戸出土遺物
	4区1号畠	N→			2区8号溝出土遺物
	4区2号畠	N→			4区1号溝出土遺物
	6区1号畠	S W→			4区4号溝出土遺物
	6区1号畠	W→			P L 57
	6区2号畠	N→			5区4号溝出土遺物
	6区3号畠	N→			5区9号溝出土遺物
	6区3号畠	E→			5区10号溝出土遺物
P L 52	6区4号畠	N→			6区1号溝出土遺物
	6区4号畠	E→			6区2号溝出土遺物
	6区5号畠	N→			6区2号畠出土遺物
	6区5号畠	E→			6区5号畠出土遺物
	7区1号畠・2号畠	N→			遺構外出土遺物
	7区1号畠	W→			棟高東弥三郎遺跡試掘調査出土遺物
	7区2号畠	E→			自然科学分析図版
	7区3号畠	S→			P L 58
P L 53	縄文時代～古墳時代中期出土遺物				植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真 (1)
	5区1号列石出土遺物				P L 59
					植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真 (2)
					検出花粉顕微鏡写真



第1図 遺跡位置図 (1/200,000)

I 調査の経過

1. 調査に至る経緯

(主) 地方道高崎渋川線は高崎市から群馬郡群馬町、前橋市、北群馬郡榛東村、吉岡町を通り渋川市を結ぶ県中央部における南北方向の基幹的地方道である。近年の交通量は著しい増加量が見られ、この地域も例外でなく主要道との交差点を中心に慢性的な渋滞を引き起こしている。この渋滞緩和のため新たにバイパスを建設する計画が持ち上がった。バイパスは特に渋滞の激しい高崎市、群馬町部分を第1期工事分として高崎市浜尻町の国道17号線「大八木」交差点から前橋市青梨子町の現(主)地方道高崎渋川線「金古上宿」交差点までの8km間について建設を実施することになった。

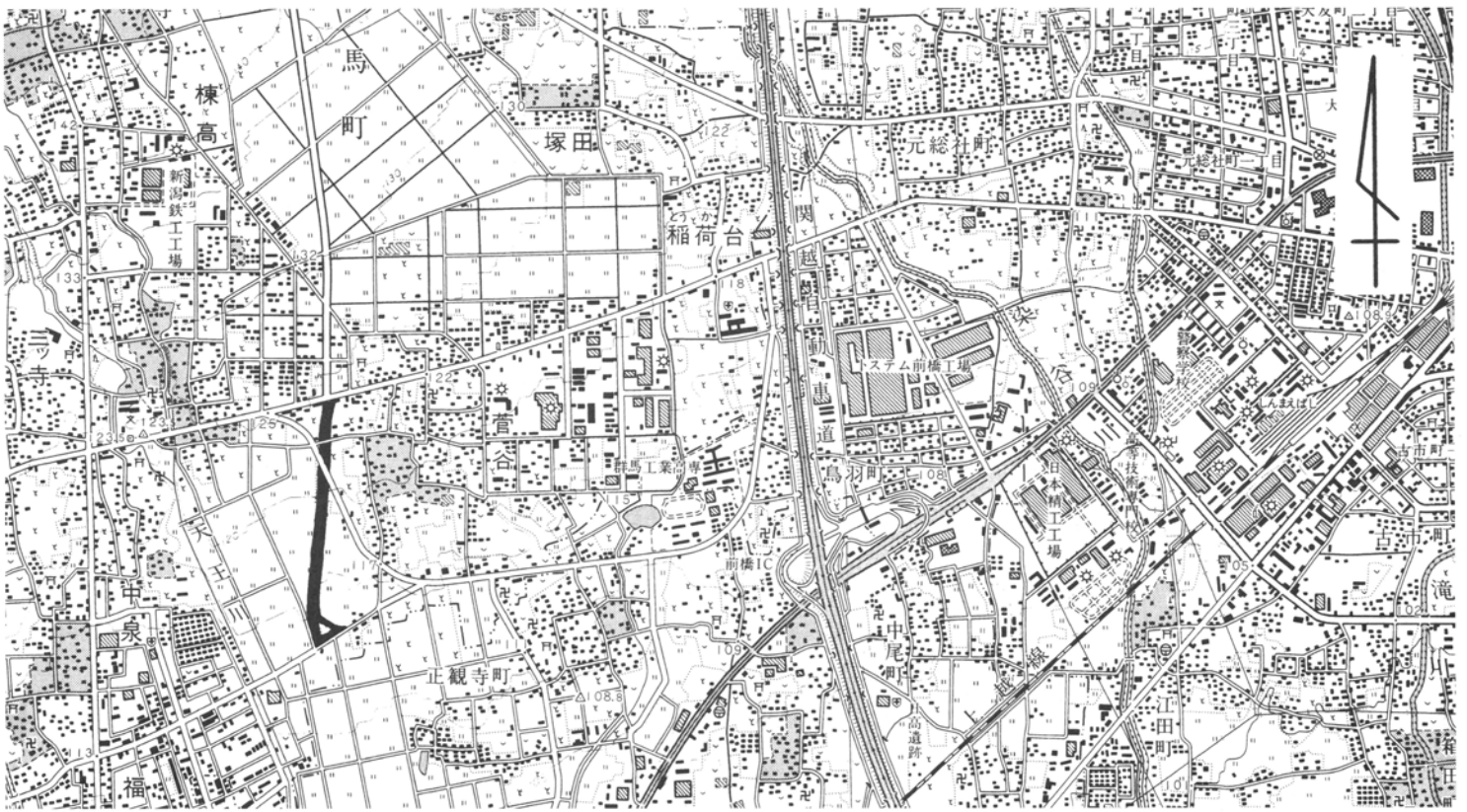
建設に先立ち県教育委員会文化財保護課は埋蔵文化財の有無について協議を行ったところ高崎市浜尻町・小八木町・正観寺町、群馬町菅谷・棟高・引間・冷水・西国分・金古、前橋市青梨子町で埋蔵文化財の存在が確認され、記録保存のための発掘調査を行う必要が認められた。埋蔵文化財の発掘調査は当初、群馬町教育委員会が担当して実施したが、平成6年以降は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が担当して実施した。

本事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は昭和63年度に群馬町棟高の西三免社遺跡より実施され平成12年度に群馬町菅谷の菅谷石塚遺跡、前橋市青梨子町の青梨子上屋敷遺跡で高崎市浜尻町(区画整理とともに発掘調査を実施の予定)、群馬町棟高の付随する工事カ所(県道前橋・安中・富岡線、町道の拡幅)を除いて終了した。

(主) 地方道高崎渋川線改築(改良)工事に伴って実施された埋蔵文化財の発掘調査は以下の通りである。

第1表 (主)高崎・渋川バイパス発掘調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	調査主体	調査期間(年度)	報告書
小八木井野川	高崎市小八木町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成10~11	2001
小八木志志貝戸	高崎市小八木町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成9~11	1999~2002
正観寺西原	高崎市正観寺町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成9~10	1999 2001
菅谷石塚	群馬郡群馬町菅谷	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成8~9 平成11~12	1999 2001 2003
西三免社	群馬郡群馬町棟高	群馬町教育委員会	昭和63	1990
小池	群馬郡群馬町引間	群馬町教育委員会	平成2	1992
諏訪西	群馬郡群馬町引間	群馬町教育委員会	平成5	1995
冷水村東	群馬郡群馬町冷水	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成6	1998
西国分新田	群馬郡群馬町西国分	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成6	1998
金古北十三町	群馬郡群馬町金古 前橋市青梨子町	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成7~9 平成12	1998 2003
青梨子上屋敷	前橋市青梨子町 群馬郡群馬町金古	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	平成12	2003



第2図 遺跡調査区位置図 (1/250,000)

2. 調査の経過

菅谷石塚遺跡は、群馬郡群馬町の南部、高崎市との境界に近い大字菅谷字石塚・村西に所在する。発掘調査は、道路建設用地センター杭No90～No138までの幅25m前後で全長約950m、面積22.860㎡が対象であった。調査対象は道路予定地であるため南北方向に線状に細長いことから路線を横断する形で1回の調査区を設定した。その結果1区から8区までの8区画の調査区を設定した。なお、5区と6区の区分けは町道で区分する予定であったが6区南端部の畑地に耕作物が残っていたため筆境に設定した。

1区の発掘調査は平成8年度に本線部分336㎡について発掘調査を行い、1999年刊行の「小八木志志貝戸遺跡群1」、2001年刊行の「小八木志志貝戸遺跡群2」中で報告を行った。ただし1区と2区を分ける町道部分の拡幅カ所については用地買収が平成11年度までずれ込んだため発掘調査を平成12年に実施した。

1区以北（センター杭96以北）の発掘調査は平成10年度11月より準備に着手し、同事業の小八木志志貝戸遺跡発掘調査が終了した後、平成11年1月より開始した。遺跡は県教育委員会試掘調査の結果などから水田遺構が中心になるので立地する低地部分を現在の水田耕作が行われる期間を避けて計画した。平成10年度は5区、4区の順で調査を実施し、その間に遺跡範囲確定のための試掘調査が未了であった6区と7区の試掘調査を実施した。平成12年度当初4月から5月にかけては周囲の水田ではまだ麦作が行われていることから3区の調査を行った。その後周辺の水田に水が取り入れられ始めた6月からは北側の微高地へと調査を移した。北側の8区は968㎡と対象面積が狭いことから7区と平行して実施した。7月下旬より6区の調査を開始した。6区の北西カ所には調査開始当初に移転が未了の民家が存在したためその部分だけ調査最終段階で着手した。そして周囲の水田に水が引き込まれなくなる9月末より2区の調査を開始した。高崎渋川線のバイパス工事は当初予定では平成12年度から開始されるとのことであったが工事開始予定が半年早まり11年度下半期から開始されることになり発掘調査も工事との調整を行いつつ実施した。発掘調査は平成12年3月5日に6区人家移転後の用地を最後に終了した。その後3月20日まで出土遺物、記録類の基礎整理を行い主要地方道高崎渋川線改築（改良）工事に伴う菅谷石塚遺跡の埋蔵文化財発掘調査を終了した。

I 調査の経過

発掘調査日誌抜粋

平成11年度

1999年

12月6日 菅谷石塚遺跡発掘調査のため高崎土木事務所との事前打ち合わせ

13日 発掘調査事務所設営

20日 小八木志志貝戸遺跡より移動

2000年

1月6日 5区第1面(Ⅲ層上面)までの重機による表土掘削開始

7日 5区第1面遺構確認開始

12日 調査区方眼杭の設置

13日 菅谷石塚古墳群、桜山古墳の現況図作成

18日 5区遺構掘削

27日 5区第1面(Ⅲ層下面)空撮・空測

31日 5区第2面(Ⅵ層上面)までの重機による掘削開始

2月1日 5区第2面遺構確認開始

3日 遺構掘削開始

7日 6区・7区試掘調査(～14日)

21日 4区第1面(Ⅲ層上面)までの重機による掘削開始

23日 5区第2面(Ⅵ層上面)空撮・空測

24日 4区第1面遺構確認

28日 5区調査終了

3月1日 4区第1面溝・畝跡掘削開始

17日 4区第1面(Ⅲ層下面)空撮・空測

21日 4区第2面(Ⅵ層上面)試掘坑設定

22日 4区第2面試掘開始

24日 平成11年度発掘調査最終日

27日～31日 図面点検、機材点検

平成12年度

4月6日 平成12年度発掘調査準備

7日 4区第2面試掘継続再開

13日 3区第1面(Ⅲ層上面)までの重機による掘削開始

14日 3区第1面遺構確認

17日 3区第1面遺構掘削

24日 調査区方眼杭設置

5月1日 3区第1面空撮・空測

2日 3区第1面Ⅲ(As-B)層下水田耕作土調査

17日 3区第2面(Ⅴ層上面)までの重機による掘削開始

22日 3区第2面遺構確認

26日 3区第2面空撮・空測

29日 3区Ⅵ層下試掘調査

31日 3区As-Cで埋没した溝調査

6月6日 8区重機による表土掘削、8区は上部層位は最近の掘削によって調査をすることができないため第2面まで掘削

7日 7区第1面(Ⅳ層上面)までの重機による掘削開始

8区遺構確認

12日 7区遺構確認

19日 8区全景写真撮影

20日 7区全景写真撮影

8区全体図測量

22日 8区Ⅵ層下試掘調査

26日 7区全体図測量

7月4日 7区第2面(Ⅵ層上面)までの重機による掘削開始

7日 7区第2面遺構確認

10日 7区第2面遺構掘削

25日 6区-S第1面(Ⅳ層上面)までの重機による掘削開始

27日 7区第2面空撮・空測

31日 7区Ⅵ層下試掘調査

8月2日 6区遺構確認

6区-N第1面までの重機による掘削

3日 6区-N遺構確認

4日 6区-S全景写真撮影

7日 6区-S全体図測量

8月11日 6区-N遺構掘削

29日 6区-N空撮・空測

31日 6区-N第2面(Ⅵ層上面)までの重機による掘削開始、一部幅の狭いカ所は人力による

9月6日 6区第2面遺構確認

22日 6区全景写真撮影

25日 6区全体図測量

27日 6区Ⅵ層下試掘調査(～10/3)

28日 2区第1面までの重機による掘削開始

10月4日 6区第3面遺構掘削

5日 2区安全対策工事開始

11日 2区遺構確認、Ⅲ(As-B)層下水田は確認作業と平行し田面まで検出

12日 高崎土木事務所、高崎渋川線バイパス建設業者との打ち合わせ

19日 2区遺構掘削開始

11月10日 2区第1面空撮・空測

13日 2区Ⅲ(As-B)層水田耕作土調査、Ⅵ層上面遺構確認試掘調査

14日 1区-E第1面までの重機による掘削開始

15日 1区遺構確認

16日 2区Ⅳ層を重機で掘削

20日 2区Ⅴ(Hr-FP)層下水田検出開始

1区第1面全景写真撮影

21日 2区東側部分で確認したⅣ層上の洪水層で埋没した水田検出

24日 2区西側第2面・東側洪水層下水田確認状況全景写真撮影

27日 1区第2面遺構確認

12月1日 須田正久主任調査研究員中組遺跡整理担当として移動、松島久仁治主任調査研究員が交替の担当として赴任

5日 2区西側第2面・東側部分洪水層下水田を中心に空撮・空測

7日 2区第3面(Ⅵ層)下水田調査

20日 2区第3面空撮・空測

22日 2区西側部分Ⅶ層下試掘調査

2001年

1月10日 2区東側Ⅳ層下(Ⅴ層上面確認)水田調査開始

12日 2区東側第2面調査開始

16日 6区住宅移転未了で発掘調査未了カ所の第1面まで重機による掘削開始

17日 1区-E洪水層下面までの掘削・6区遺構確認

19日 6区遺構掘削開始

23日 6区全体図測量

24日 6区第1面全景写真撮影

25日 6区Ⅳ層を重機で掘削開始

31日 1区-E、2区東側Ⅴ層上面水田空撮・空測

2月1日 1区-E、2区東側Ⅴ層掘削、水田遺構検出

5日 1区-E、2区東側Ⅴ層下全景写真撮影、全体図実測、6区遺構確認、遺構掘削開始

6日 1区-E、2区東側Ⅵ層掘削、遺構確認

14日 6区全景写真撮影、全体図実測

15日 1区-E、2区東側第3面(Ⅵ層下)空撮・空測

16日 1区-E、2区東側Ⅶ層下試掘調査

20日 2区・6区プラント・オパール、花粉分析等の自然科学分析実施

21日 6区Ⅵ層を重機によって掘削

22日 6区第3面遺構確認

27日 6区全景写真撮影、全体図測量

3月5日 6区発掘調査終了

6日 出土遺物洗浄・注記、遺構図点検、写真整理など基礎整理

14日 器材撤収

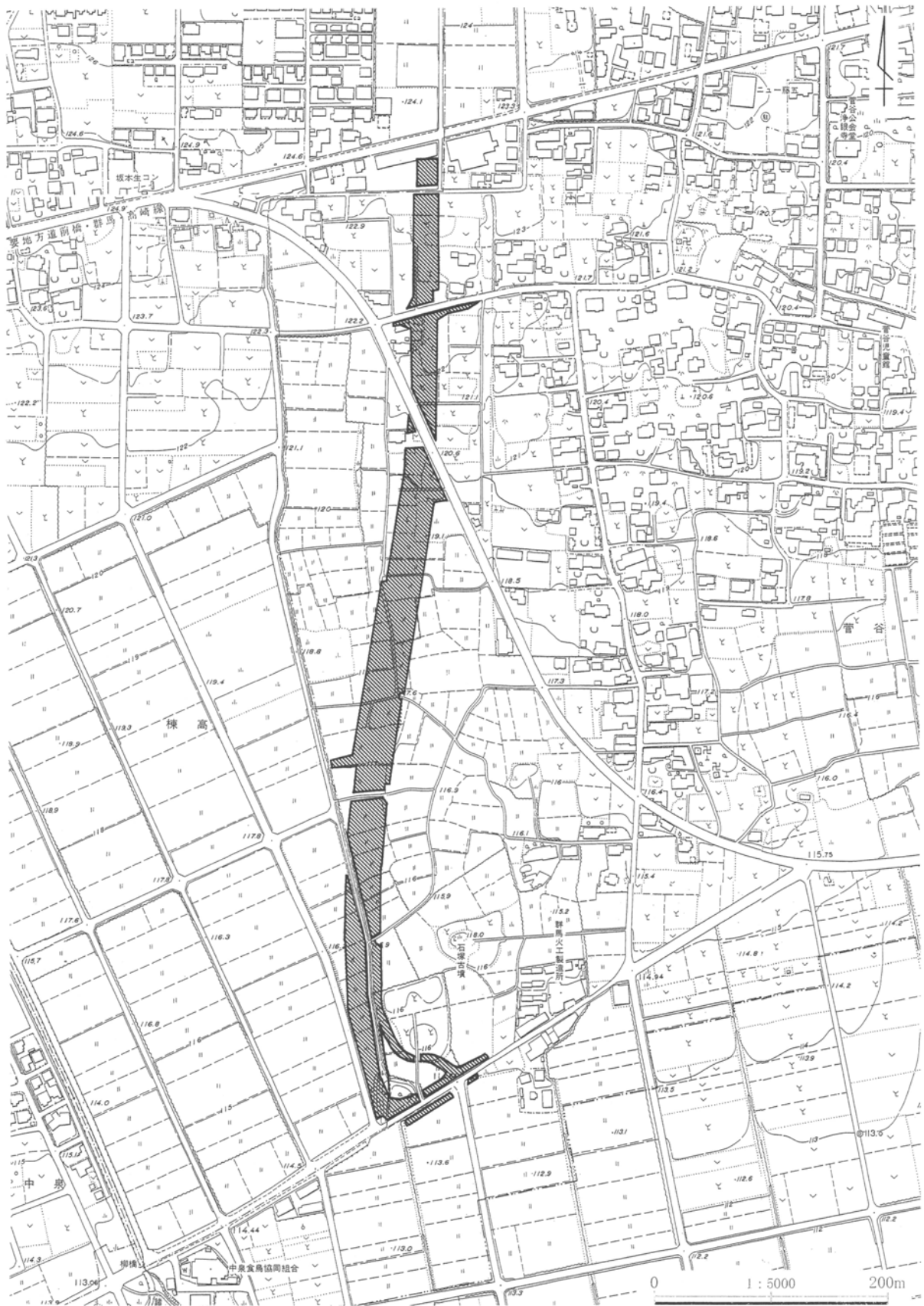
15日 遺物・遺構図・写真類を本部へ搬入

19日 発掘調査作業終了

21日 発掘調査事務所撤去開始

26日 事務所用地として借地した土地の復旧工事

31日 菅谷石塚遺跡の発掘調査業務終了



第3図 遺跡調査範囲図 (1/5,000)

II 調査の方法

1. 調査区の設定

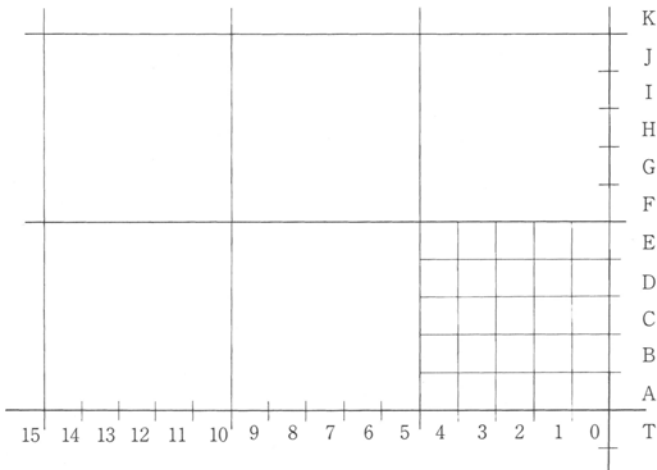
調査区の設定にあたっては周辺や隣接地の調査と遺構を照合しやすいように国家座標を基準に設定した。遺跡が存在する群馬県は国家座標第IX系にあたることから調査区の設定にあたっては調査区グリッドを国家座標値に換算しやすいように遺跡調査範囲の東南を基点に設定することにした。

基点は国家座標旧日本測地系IX系値 $X = 41,200$ 、 $Y = -73,400$ に設定した。各グリッドは5m四方を1単位とした。グリッドは北方向へはアルファベットを用い、西方向へは算用数字を1から無限大まで用いた。また、北方向のアルファベットはAからTまで100のため100m北に移動したところでまたAに戻ることにし、100mを1単位としてアルファベットの前に算用数字を付けて各グリッドの認知を明確にした。

なお、調査区の区割りは現存する道路および路線の買収状況を考慮して設定したが、調査区は南から1区から順次8区まで設定した。1区については1996年度に本線部分を調査したが、東側の町道拡幅部分は用地買収が2000年度に終了したため1区E-1、E-2とした。なお、2区については調査範囲が広い便宜上にEなどの枝番を付与している。5区は私道や耕作物の関係、6区についても民家移転未了地や町道部分の拡幅部分が存在したことから2区と同様に枝番を付与している。



第4図 調査区設定図



2. 基本的土層

遺跡地内の基本的土層堆積状態は地形的条件などで異なるが、原則的には遺跡内・周辺地域と同様である。基本土層での違いは6区などの微高地では火山噴出物の堆積層が薄いため後世の耕作などで残存が見られない点と2区東部や7区・8区で確認された洪水堆積層の存在する点である。

基本的な層序は次のとおりである。

I層は現在の耕作土である。色調は地点によって多少異なるが概ね灰色や黄色を帯びた褐色を呈している。層位中には多量の浅間山B軽石（以後As-Bと略す）を多く含んでいるため比較的粘質のないサラサラした土質である。

II層はAs-B降下後の中世から近世にかけての耕作土である。色調はI層と同様であるが層位中にAs-Bを30～50%と多く含んでいる。

III層は1108年（天仁元年）に浅間山が噴火した時の火山噴出物であるAs-Bである。低地では軽石が10～20cmほど堆積しておりさらにその上位に灰褐色を呈する火山灰が確認できる。なお、微高地では後世の耕作によって鋤き込まれてほとんど層位としては確認できなかった。

IV層は6世紀初頭に榛名二ツ岳が噴火した時の火山噴出物である榛名二ツ岳火山灰（以後Hr-FAと略す）が多量に鋤き込まれている土層である。色調はHr-FAを多量に含むため灰色に近い。また、層位中には5mm程度の白色軽石を含んでいる。この軽石は6世紀前半に起きた二度目の榛名二ツ岳が噴火したときの火山噴出物である榛名二ツ岳軽石（以後Hr-FPと略す）や4世紀代に浅間山が噴火した時の火山噴出物である浅間山C軽石（以後As-Cと略す）である。

V層は6世紀初頭に榛名二ツ岳が噴火した時の火山噴出物であるHr-FAである。低地では5～10cmほど堆積している。微高地では部分的に2～5cm程度の堆積が確認されたが大部分は後世の耕作などによって鋤き込まれほとんど層位としては確認できなかった。

た。

VI層は4世紀に起きた浅間山の噴火した時の火山噴出物であるAs-Cが混入・鋤き込まれている黒色土である。この層位は概ね20cmほどの堆積が確認できる。また、2区ではAs-Cの含有量が50～70%と非常に多い箇所が確認された。

VII層はやや粘土質の黒色土である。層位内には含有物がほとんど確認されない。層位下位では上位に比較してやや淡い色調を呈している。

VIII層は総社砂層と呼称されている灰白色のシルト土である。この層位の堆積は非常に厚く下層のローム土を確認できない。

IX層はローム土である。IX層は「菅谷泥流丘」の周囲でのみ確認できる。

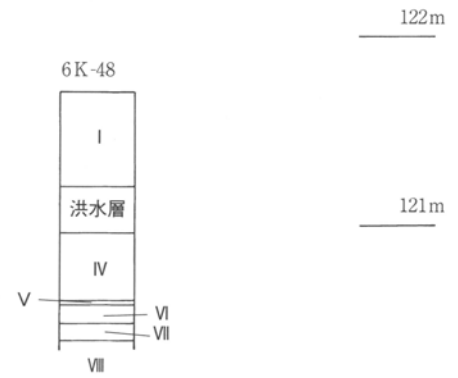
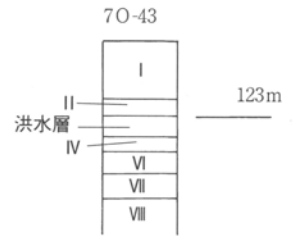
洪水層はIII層とIV層の間で確認された。色調は褐色を呈し、最下位や中間に薄く粗い砂層が確認されたため洪水による堆積層と判断した。この洪水の発生した時期については上限が7区や8区の洪水層下部で出土した土器群から8世紀後半以降、下限が洪水層上位に位置するIII層であるAs-Bの堆積が1108年の浅間山の噴火が起きる前までの11世紀後半までの間に起きたと想定した。その後平成13年度に県教育委員会文化財保護課が7区調査区の西300m地点隣接地（遺跡名称は棟高東与三郎街道遺跡、高崎洪川線バイパスに関連する工事で次年度以降発掘予定地）を試掘調査した時、この洪水層上面で竪穴住居を確認した。この竪穴住居確認時には第7図に示した須恵器杯・椀、羽釜、甕などの土器群が出土している。この土器群は10世紀前半代に比定され、9世紀末から10世紀初頭には比較的安定していたと見られる。こうした成果から洪水の起きた年代は8世紀後半から9世紀後半までの約100年間に想定される。

II 調査の方法



柱状図位置

0 1 : 10,000 200m



120m

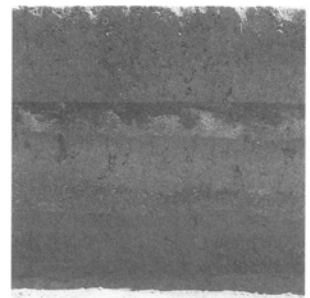
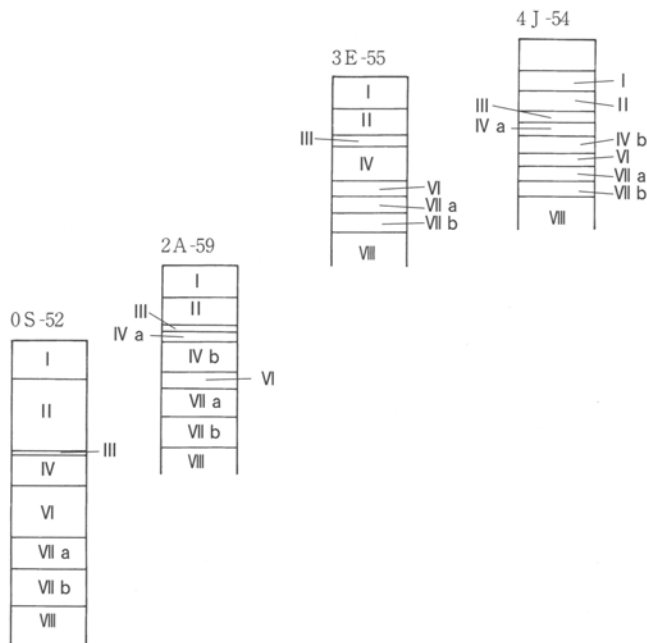
119m

118m

117m

116m

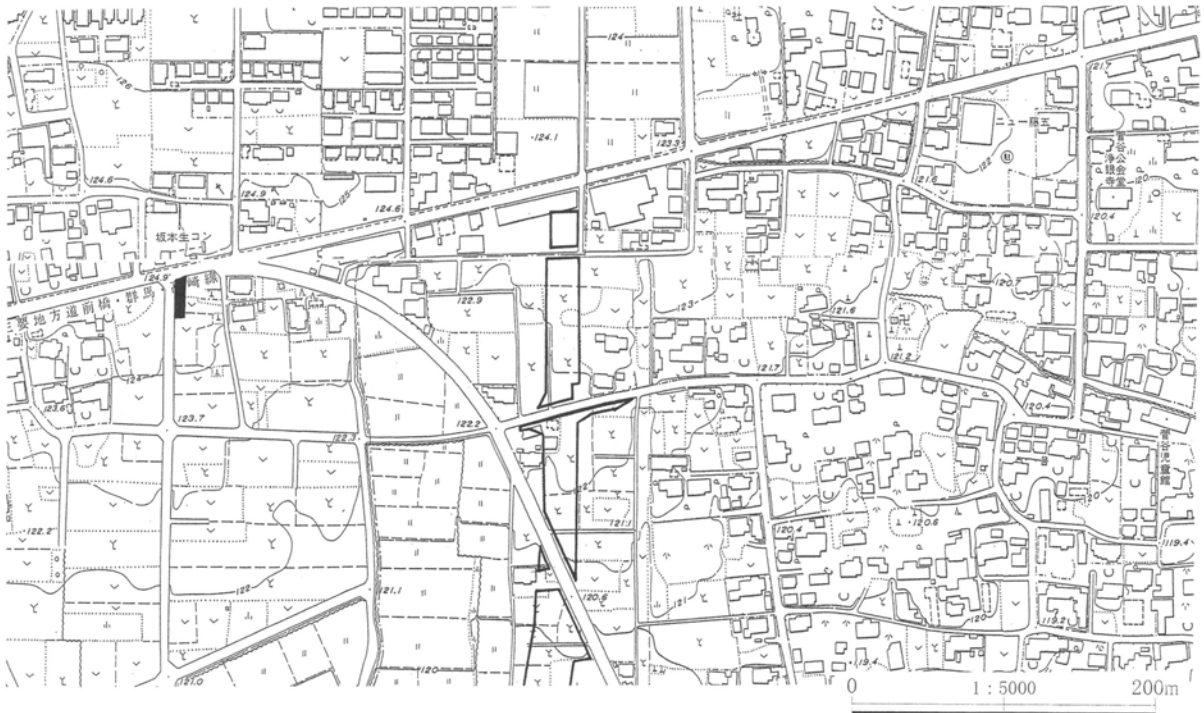
115m



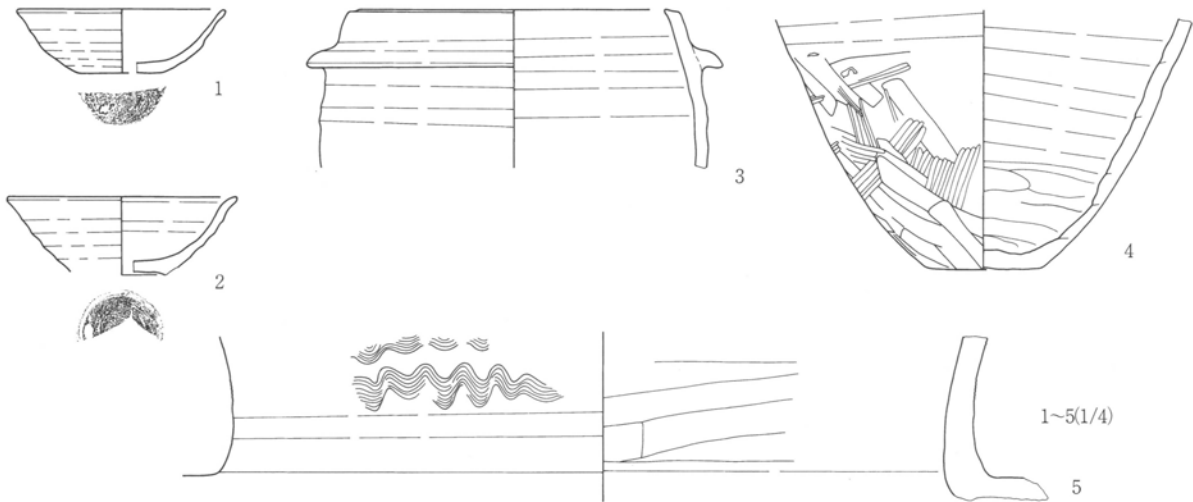
洪水層

2区0G-54グリッド土層推積状態

第5図 遺跡地土層柱状図



第6図 棟高東弥三郎遺跡住居確認地点位置図



第7図 棟高東弥三郎遺跡試掘調査出土遺物図

棟高東弥三郎遺跡 P L 57

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	遺構確認面 1/4	口径10.8 底径 4.6 器高 3.3	粗砂粒/酸化焰/ 橙色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	内面口唇部に煤 付着。
2	須恵器 椀	遺構確認面 1/3	口径12.0 底径 5.0 器高(4.3)	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。高台は貼 付であるが剥落。	
3	須恵器 羽釜	遺構確認面 口縁部片	口径16.0	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向不明。罫は貼付。	内外面に煮こぼ れ痕が見られる。
4	須恵器 羽釜	遺構確認面 胴~底部片	底径 6.0	粗砂粒/酸化焰/ にぶい褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部ヘラ削り。胴部下位は 斜め方向のヘラ削りと部分的なヘラ磨き。内面胴部下 位は横方向の強いナデ。	
5	須恵器 甕	遺構確認面 口縁部片	頸径40.6	粗砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形。口縁部には数段の波状文。	

Ⅲ 遺跡地の環境

1. 地理的環境

遺跡地は、群馬県の中央部に位置する群馬郡群馬町に所在する。群馬町のなかではもっとも東南部の高崎市正観寺町と隣接する位置関係である大字菅谷に所在する。遺跡は関東平野の西北端部、赤城山、妙義山と上毛三山の一つである榛名山の東南麓の末端、井野川の支流天王川左岸に立地する。標高は114～123.5mである。

榛名山東南麓は、その地形を見ると扇状地が発達していることが解る。遺跡地はこの扇状地の扇端に立地している。この扇状地は「相馬ヶ原扇状地」と呼ばれている。相馬ヶ原扇状地は火山山麓に形成された裾野扇状地で形成に関わった河川は榛名山麓に源流を発する白川と午王頭川である。相馬ヶ原扇状地の範囲は明確ではないが次のような範囲が示されている。

扇頂は標高600m付近の白川と午王頭川で挟まれた榛東村上野原の山麓付近である。

扇端は標高110mの等高線。この付近は高崎市日高遺跡で見られるような微高地をはじめとする自然堤防状微高地が張り出しておりこの微高地を連ねたのが標高110m付近である。

扇側は南限が白川上流部から井野川のラインで井野川の右岸は白川扇状地である。北限は午王頭川から駒寄川のラインである。駒寄川の東側は前橋台地である。相馬ヶ原扇状地の形成は比較的短時間でほぼ終了し板鼻黄色軽石降下時（1.3～1.4万年前）にはすでに大部分が離水していたとされている。扇状地内は多くの河川により浸食され扇状地面と河床面では4～5mの比高差をもつ。こうした河川は約1km前後の間隔で存在しており、これらの河川には扇側にあたる井野川、午王頭川や八幡川、牛池川、染谷川がある。菅谷石塚遺跡の西側を流れる井野川の支流である天王川も河川の規模のわりには比高差が

ある。しかし、天王川左岸、遺跡地の東側は染谷川までの約2kmには浸食の進んだ河川が存在していない。この状況については菅谷石塚遺跡3区調査区で埋没河川が見つかり、7区・8区調査区では洪水による堆積層が確認されている。3区調査区の埋没河川は榛名二ツ岳火山灰（Hr-FA）降下によって起きた土石流で埋没している。洪水層は層の上面、及び下面から出土した遺物から奈良時代後半代から平安時代初期と推定される。このような状況が見られることから本来は扇状地内で見られるような浸食の進んだ河川が複数存在していたと推定される。

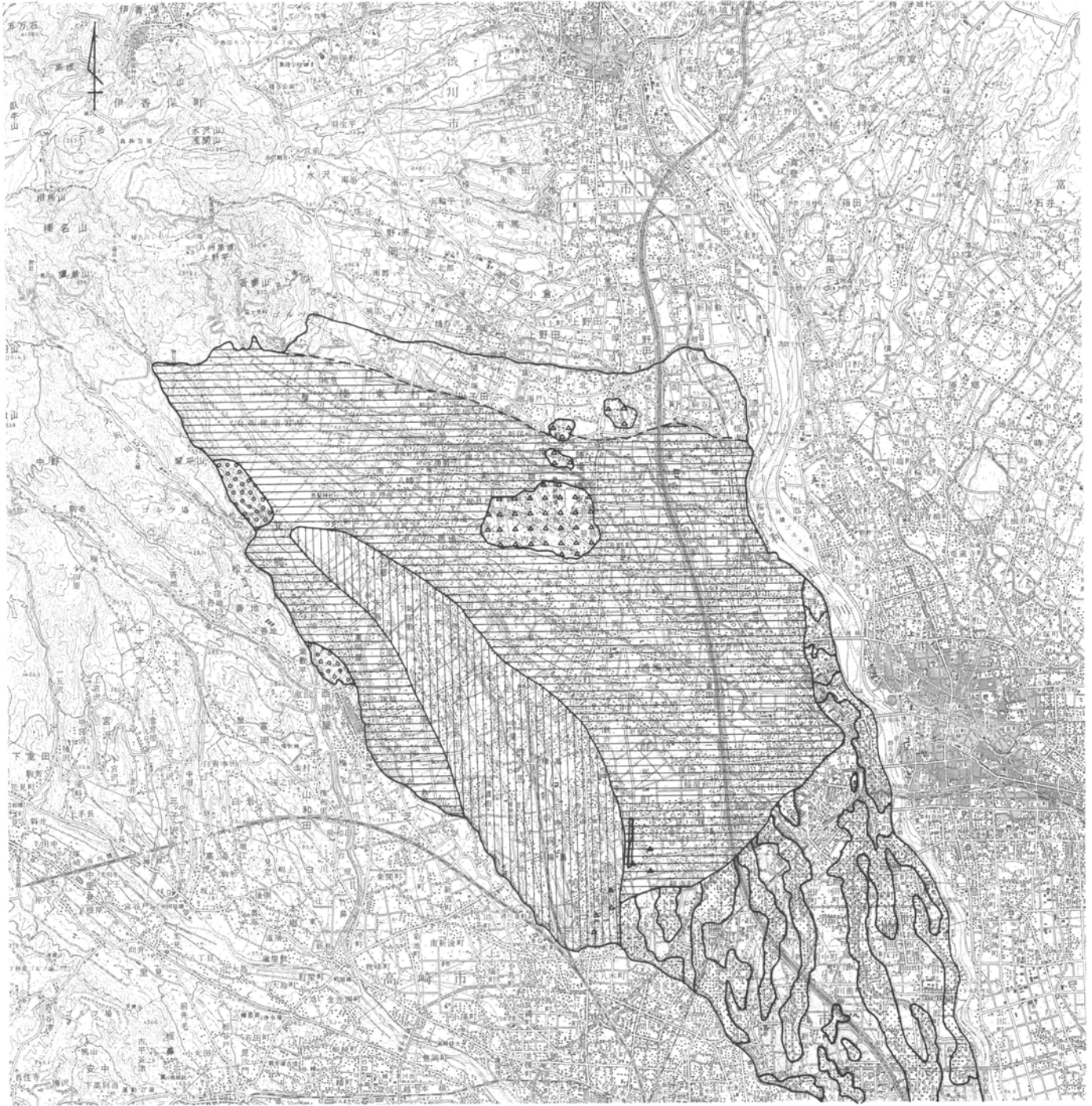
相馬ヶ原扇状地の形成後に扇状地からは前橋台地にかけて存在していた谷を洪水堆積物が埋戻し始めている。この洪水堆積物は概ね灰色砂層で「総社砂層」と呼ばれているものである。この砂層は板鼻黄色軽石と浅間C軽石との間で確認され、砂層の上位では縄文時代後期中期の称名寺式土器が出土している。こうしたことからこの砂層の形成は縄文早期頃から始まり前期から中期には部分的に自然堤防が形成されている。砂層の形成は、縄文前期から後期まで続いたとされている。





総社砂層の上位は基本土層で見られるように4世紀代の浅間C軽石（As-C）、6世紀初頭の榛名二ツ岳火山灰（Hr-FA）、6世紀前半代の榛名二ツ岳軽石（Hr-FP）、1108年（天仁元年）の浅間B軽石（As-B）などが見られる。

遺跡地の南部や天王側の左岸では小規模な古墳に見える泥流丘が存在している。これらの泥流丘では沢口宏氏によると「陣馬泥流丘」とは区別され「菅谷泥流丘」とされ相馬ヶ原扇状地の古期扇状地形成期の堆積物と考えられている。

参考文献

- 早田 勉「第1章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1 原始古代1』群馬県史編さん委員会 1990
沢口 宏「第1章 地形・地質」『群馬町誌 資料編4 自然』群馬町誌編纂委員会 1995



-  陣馬泥流丘
-  相馬ヶ原古期扇状地面
-  相馬ヶ原新期扇状地面
-  ニッ丘第二軽石流推積物
-  自然堤防および微高地
-  後背低地

0 1:100000 5km

第8図 遺跡周辺地形図

2. 歴史的環境

菅谷石塚遺跡周辺は、群馬県を中心都市である高崎市と前橋市に隣接する群馬町に位置している。群馬町は両市の住宅地としてベッドタウン化していることから近年盛んに開発が行われ、開発に伴う発掘調査も多く行われている。こうした発掘調査の成果は多くの報告書によって公表され、群馬町や高崎市では発掘調査の成果をもとに近年町誌、市史が編集・刊行され地域史の解明を行っている。本項ではこれらの資料をもとに周辺の遺跡について時代ごとに記載する。

縄文時代 遺跡地周辺地域では前項の地理的環境で記載したように縄文時代前期以前は度重なる洪水により居住するには不向きな環境であったため遺構・遺物は検出・出土は確認されていない。この地域の縄文時代の遺跡は、他の時代に比べると数少ない。そうしてなかでもっとも古い時期の遺跡は西浦北Ⅱ遺跡で検出された前期の竪穴住居1軒、上野国分僧寺・尼寺中間地域で検出された前期諸磯C期の埋甕がある。中期になると自然堤防による微高地が発達し遺構、遺物が検出、出土する遺跡がやや多くなる。遺構が検出されている遺跡は、西浦北遺跡から柄鏡式住居、権現原遺跡から住居、大八木箱田池遺跡から住居、上野国分僧寺・尼寺中間地域から住居、小八木志志貝戸遺跡から埋甕、土坑などがある。後期ではまた減少する傾向がみられ最近まで福島遺跡や西浦南遺跡で土器片が出土しているだけであった。こうした中において小八木志志貝戸遺跡では後期称名寺期の敷石住居、掘立柱建物、配石、円形柱列等が検出されている。また、遺構は検出されていないが後期堀之内式期の土器も多く出土している。

弥生時代 遺跡地周辺は水田耕作に適した小谷地が存在していることから集落遺跡が急激に増加している。集落の増加は弥生時代でも後期後半からで中期の集落は東の染谷川流域に位置する西三社免遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、新保遺跡などだけでまだ少ない。また、後期前半の集落は熊野堂遺跡、

浜尻遺跡、新保遺跡などで検出されているだけで前段階と同様である。この様相は後期後半では一変している。小八木志志貝戸遺跡でも調査区北側の0区から2区にかけて集落、墓域などを検出した。正観寺遺跡群では環濠集落や方形周溝墓が検出され、小八木1遺跡でも集落を検出している。遺跡地西側の井野川左岸に位置する井出村東遺跡、西浦北遺跡、西浦南遺跡、熊野堂遺跡、雨壺遺跡などで多くの住居が検出されている。これらの集落遺跡では数軒単位のみとまりがみられる。こうした傾向は天王川の西側の諸口遺跡でもみることができることからこの地域では後期後半には広範囲に小規模な集落が多く存在していたようである。

古墳時代 集落は弥生時代以上に増加の傾向が見られる。特に5世紀から6世紀にかけての集落の増加には顕著なものがみられる。こうした遺跡には中林遺跡、井出村東遺跡、三ッ寺Ⅱ遺跡、三ッ寺Ⅲ遺跡がある。また、弥生時代から継続する熊野堂遺跡などでもこの時期に住居件数が飛躍的に増加している。こうした背景には三ッ寺Ⅰ遺跡の豪族居館に代表される豪族層の存在がある。そして2000年には新たに北谷遺跡においても三ッ寺Ⅰ遺跡と同様の堀をもち堀内側を高く盛り土した豪族居館が検出されている。この地域はこうした居館の豪族層に支配され農地拡大のために大規模な開発が行われた地域であると考えられる。この豪族層を経済的に支えた水田や畠は周辺地域で検出されている。水田は古墳時代初頭の浅間山C軽石(As-C)、6世紀初頭の榛名二ッ岳火山灰(Hr-FA)、榛名二ッ岳軽石(Hr-FP)などで埋没したものが御布呂遺跡、芦田貝戸遺跡、大八木屋敷遺跡、熊野堂遺跡、小八木遺跡、菅谷石塚遺跡など多くの遺跡から検出されている。このほか祭祀遺構には正観寺遺跡で巨石を利用した盤座祭祀跡や井野川遺跡では河川流路内から石製模造品などがまとまって出土しており河川に対する祭祀場の可能性が指摘されている。

しかし、三ッ寺Ⅰ遺跡や北谷遺跡でみられる繁栄も榛名山二ッ岳の二度の噴火やこれに伴う土石流に

よる農地の埋没によって経済的基盤を失いその後の覇権は他地域へ移行し同様な繁栄はみられない。

遺跡地周辺の古墳は現在ほとんど開発によって削平されているが石塚古墳、権現塚古墳、オトウカ山古墳、三本山古墳、トミヅカ山古墳などが存在した菅谷古墳群がある。この菅谷古墳群では正観寺遺跡群の発掘調査で墳丘がすでに削平されている円墳が調査されている。1935年に刊行された「群馬県古墳総覧」では旧中川村所在の古墳は現浜尻町の天王山古墳と小八木町のトミヅカ古墳が掲載されているだけであるが1957（昭和32年）に刊行された中川村誌では12基の古墳が確認されており実際はこの数以上に存在していたと想定される。このうち三本山古墳と権現塚古墳は発掘調査が行われ直刀、刀子、鉄鎌、銅鏡などが出土している。こうした様相から菅谷古墳群は大部分が後期、終末期の円墳を中心とした古墳群と考えられる。天王川右岸では諸口古墳群がある。諸口古墳群は現在までに円墳3基が確認され発掘調査が行われている。この3基の古墳は1号、3号が埴輪を有し6世紀代と考えられている。また、埴輪棺が1基検出されており、使用されている埴輪は5世紀中葉のものである。

飛鳥・奈良・平安時代 遺跡地は隣接する高崎市の町名に「小八木」・「大八木」の地名が残っていることなどから律令制による評里制では上毛野国車評八木里（車評については藤原京出土木簡、郷名の漢字は和名類聚抄による）に相当すると推定されている。奈良時代には八木郷は推定上野国府や上野国分寺などの古代の中核施設が存在して地域の西に隣接して位置する。古代八木郷は地名や地形から推定すると旧中川村の範囲とその周囲に郷域の範囲を設定することができる。

遺跡地の周辺では古代八木郷の西部に当たる井野川両岸に位置する大八木屋敷遺跡、融通寺遺跡、熊野堂遺跡では律令制を象徴するような遺構・遺物が検出、出土している。大八木屋敷遺跡では八脚門をもつ柵列と溝で区画された内部に掘立柱建物群が存在する施設が検出され「上野国交代実録帳」に見ら

れる「八木院」と想定されている。大八木屋敷遺跡の東側に隣接する融通寺遺跡では300軒近い堅穴住居が検出され大規模な集落遺跡である。融通寺遺跡ではその他に瓦、瓦塔、銅鏡、緑釉陶器唾壺が出土しており寺院が存在した可能性が指摘されている。熊野堂遺跡では200軒以上の堅穴住居と金銅製の装飾金具が出土している。こうした3遺跡は井野川を挟んではいるが至近距離にあり古代八木郷の中心的な存在を示している。

これに対して遺跡地近隣では正観寺遺跡群や小八木遺跡などでこの時代の集落が検出されているが堅穴住居が中心で農村的様相がみられた。こうした中で小八木志志貝戸遺跡では方1町以上の規模をもつ区画の中に規則的に配置された掘立柱建物で構成された8世紀中葉の居宅が検出されている。また、中川遺跡でも9世紀代の大型掘立柱建物が検出されている。こうした状況から古代八木郷内では東西に二大富裕・富豪層の存在が想定される。

遺跡地の南側（菅谷石塚遺跡1区）では東山道と想定される古道が検出されている。この古道は両側に側溝を持ち心々間距離が6m前後の道路遺構である。この道路遺構は同様な規模のものが高崎市寺ノ内遺跡、御布呂遺跡、熊野堂I遺跡、群馬町西浦南遺跡、福島飛地遺跡、高貝戸遺跡、正観寺菅谷遺跡で検出されている。これらの遺構を地図上に落とすとほぼ一直線上に列ぶことから同一の道路遺構と考えられ、その中でも古代「東山道」駅路と推定されている。

上野での東山道は金坂清則氏によって提唱されたルート（国府ルート）とこれらの遺跡で発見された遺構とが一致することや推定国府の南側を通ることなどの条件からこのルートが東山道であると想定されていた。しかし、高貝戸遺跡では道路側溝と重複した側溝より古い段階の住居が9世紀後半代であることから律令制当初からの東山道としては疑問視されていた。近年の発掘調査の成果では高崎市情報団地遺跡や玉村町砂町遺跡、境町牛堀遺跡、矢ノ原遺跡、十三宝塚遺跡で7世紀から8世紀にかけて心々

Ⅲ 遺跡地の環境

間距離12m前後の直線的な道路跡が発見されている。こうしたことから坂爪久純氏によって菅谷石塚遺跡1区で検出されている東山道に先行するものと想定されている(牛堀・矢ノ原ルート)。また、牛堀・矢ノ原ルートは十三宝塚遺跡で重複する住居との関係から8世紀末には廃絶されたと考えられている。こうした状況から国府ルートが開設されるまでには半世紀近い間隔があることから新田町下新田遺跡で検出されている道路跡のような第3のルートが存在する可能性が考えられている。

中世遺跡地の近隣では外郭の堀が本調査で一部を検出した箕輪長野氏関係の平城である菅谷城が存

在する。こうした城館跡には南に位置する小八木志志貝戸遺跡や小八木井野川遺跡、正観寺遺跡群で館の堀が検出されている。このほか高崎市小八木町や浜尻町では小八木環濠遺跡、小八木新井屋敷跡、妙典寺、浜尻八幡屋敷跡などが存在している。

墓坑は小八木志志貝戸遺跡の2区・4区で100基以上が見つかり中世の墓坑群としては県内でも最大規模の墓域を形成している。なお、ここでは火葬跡も3基検出されている。

道路跡は小八木志志貝戸遺跡6区で南北走行のものが検出されており調査担当の坂井隆氏は「東道」と想定している。

参考文献

[全般]

高崎市史編さん委員会「新編 高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ」高崎市 2000

中川村誌編纂委員会「中川村誌」1957

群馬町誌編纂委員会「群馬町誌 資料編 原始古代中世」群馬町誌刊行委員会 1999

群馬町誌編纂委員会「群馬町誌 通史編上 原始古代中世・近世」群馬町誌刊行委員会 2001

[個々の遺跡]

「小八木志志貝戸遺跡群1 小八木志志貝戸遺跡・正観寺西原遺跡・菅谷石塚遺跡 弥生時代編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999

「小八木志志貝戸遺跡群2 小八木志志貝戸遺跡・正観寺西原遺跡・菅谷石塚遺跡 古墳時代編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001

「小八木志志貝戸遺跡群3 小八木志志貝戸遺跡・小八木井野川遺跡 中世編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001

「小八木志志貝戸遺跡4 2区 縄文時代・4～6区 縄文時代～平安時代編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002

「菅谷遺跡」群馬町教育委員会 1980

「小八木遺跡調査報告書(Ⅰ)」高崎市教育委員会 1979

「小八木遺跡(Ⅱ)」高崎市教育委員会 1980

「正観寺遺跡群(Ⅰ)」高崎市教育委員会 1979

「正観寺遺跡群(Ⅱ)」高崎市教育委員会 1980

「正観寺遺跡群(Ⅲ)」高崎市教育委員会 1981

「正観寺遺跡群(Ⅳ)」高崎市教育委員会 1982

「高崎市井野川遺跡」群馬県教育委員会 1970

「諸口古墳」群馬町教育委員会 1984

「諸口Ⅲ遺跡」群馬町教育委員会 1985

「大八木箱田池遺跡」高崎市教育委員会 1983

「大八木箱田池遺跡Ⅱ」高崎市教育委員会 1984

「熊野堂遺跡第Ⅲ地区・雨壺遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984

「西浦南遺跡」群馬町教育委員会 1988

「西浦北遺跡」群馬町教育委員会 1989

「矢鳥遺跡・御布呂遺跡」高崎市教育委員会 1979

「芦田貝戸Ⅱ遺跡」高崎市教育委員会 1980

「大八木屋敷遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995

「融通寺遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991

「熊野堂遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984

「熊野堂遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990

「井出村東遺跡」群馬町教育委員会 1983

「三ッ寺Ⅰ遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981

「三ッ寺Ⅱ遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991

「中林遺跡」群馬町教育委員会 1983

「西三免社遺跡」群馬町教育委員会 1990

「諏訪西遺跡」群馬町教育委員会 1995

「小池遺跡」群馬町教育委員会 1992

「冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998

「日高遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982

「中尾遺跡 遺構編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983

「中尾遺跡 遺物編」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984

「鳥羽遺跡」(1)～(6)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986～1992

「上野国分僧寺・尼寺中間地域」(1)～(8)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986～1992

「史跡 上野国分寺跡」群馬県教育委員会 1989

「上野国分尼寺跡・上野国分二寺中間地域」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993

「現地説明会資料 菅谷地区遺跡群 東久保遺跡・塚田中原遺跡」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002

田辺 芳昭「北谷遺跡 群馬町大字冷水・大字引間」『平成13年度調査遺跡発表会要旨』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001

群馬町・群馬町教育委員会「群馬町北谷遺跡(きたやつ・いせき)現地説明会資料」2002

[東山道関係]

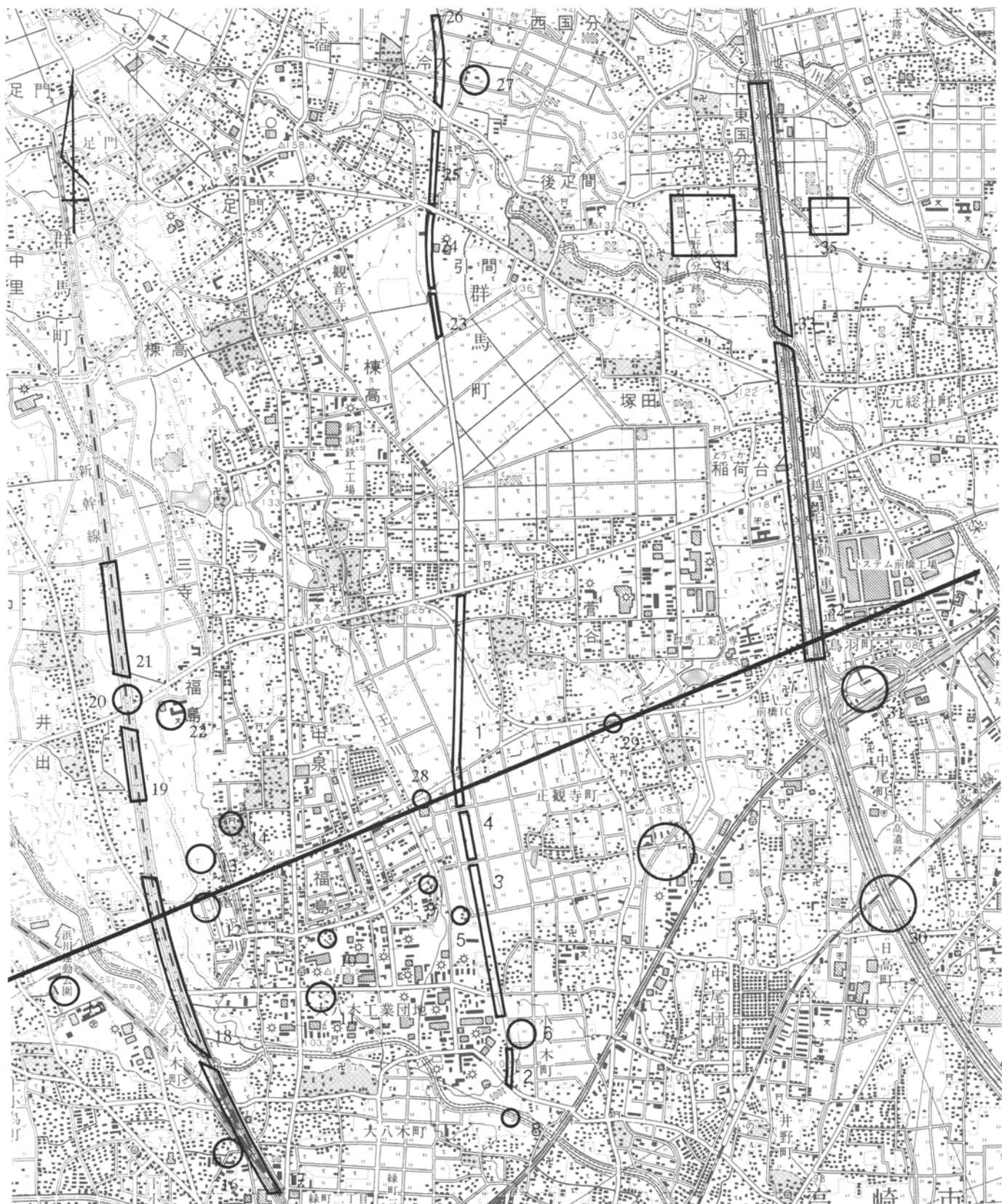
金坂清則「上野国府とその付近の東山道、および群馬、佐位駅家について」『歴史地理学紀要』16 歴史地理学会 1974

金坂清則「上野国」『古代日本の交通路Ⅱ 東山道』大明堂 1987

坂爪久純・小宮俊久「上野国の古代交通路」『古代交通研究』創刊号 1992

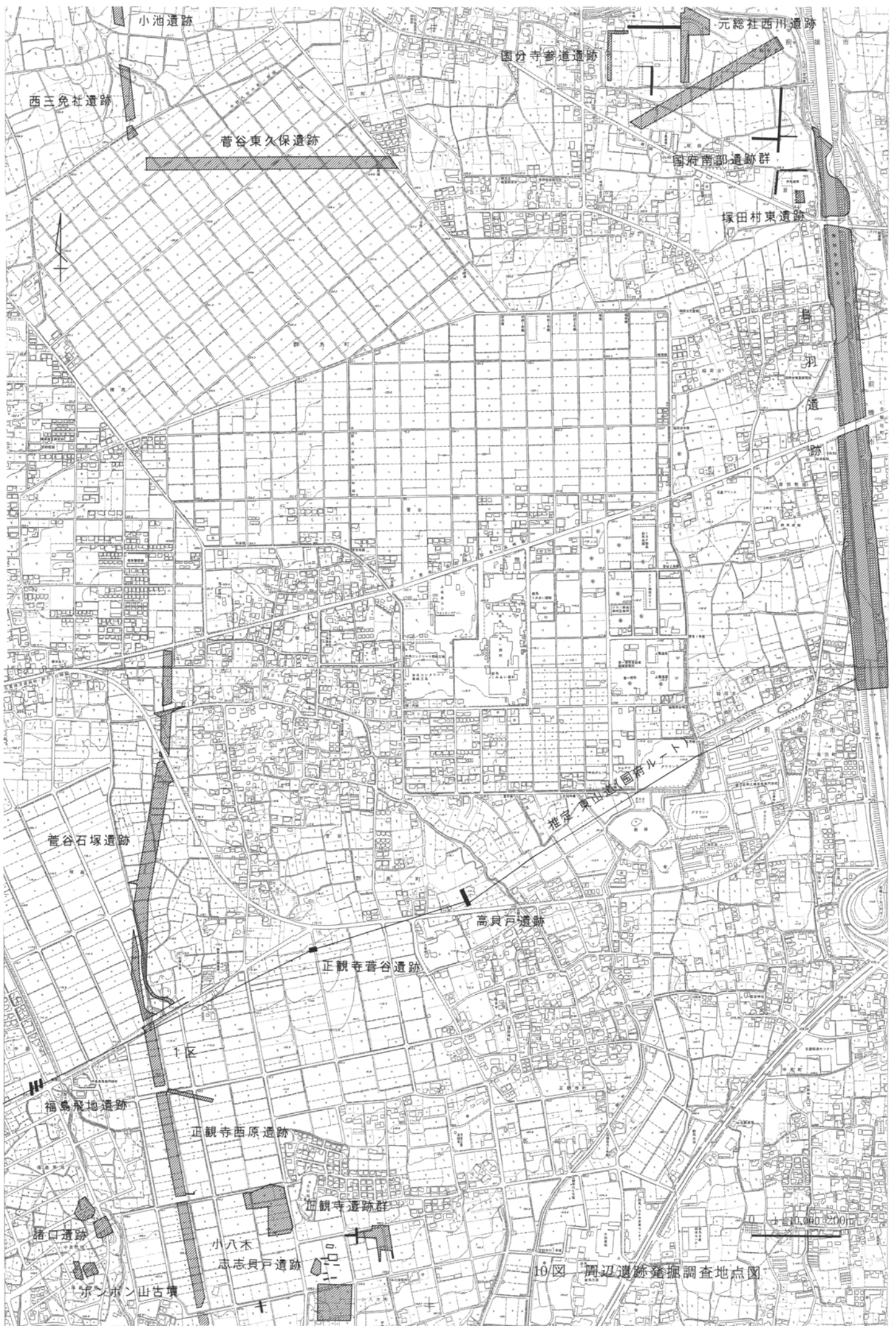
坂爪久純「上野国の古代道路」『古代文化』第47巻第4号 1995

「推定東山道―群馬町中泉・福島・菅谷地区を中心とする遺構確認調査」群馬町教育委員会 1987



- 1小八木志志貝戸 2小八木井野川 3正観寺西原 4菅谷石塚 5オトウカ山古墳 6小八木 7正観寺遺跡群 8井野川 9諸口 10大八木箱田池
 11雨壺 12西浦南 13西浦北 14権現原 15芦田貝戸 16大八木屋敷 17融通寺 18熊野堂 19井出村東 20三ッ寺Ⅰ 21三ッ寺Ⅱ 22中林
 23西三社免 24小池 25諏訪西 26冷水村東 27北谷 28福鳥飛地 29高貝戸 30日高 31中尾 32鳥羽 33上野国分僧寺・尼寺中間地城
 34上野国分僧寺 35上野国分尼寺

第9図 周辺遺跡図 (1/25,000)



10 図 周辺遺跡発掘調査地点図

IV 遺構と遺物

1. 調査の概要

菅谷石塚遺跡の発掘調査は幅25m前後で全長950mに及び、この地域に長大なトレンチを入れた状態である。遺跡地は相馬ヶ原扇状地に立地しており、北から南へかけてごく緩やかな傾斜地である。この付近は現在、相馬ヶ原扇状地の中では解析谷間が比較的間隔の広いあまり起伏の見られない平坦地である。土地利用も圃場整備が行われるまでは水利が悪いためか大部分は畑作として利用されていた。

発掘調査では現状の土地利用や周辺遺跡の状況、試掘調査の結果をふまえて埋蔵されている遺構の想定を行った。遺跡地の南に隣接する正観寺遺跡群（正観寺遺跡群は高崎市教育委員会による呼称。（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団による高崎渋川バイパスの発掘調査では「小八木遺跡群正観寺西原遺跡」）では水田跡が見つまっている。菅谷石塚遺跡南部は事前の試掘調査で水田跡が検出されている。この状況から南側では水田跡、北側は南側より標高差が7m近くある微高地のため集落跡が想定された。

発掘調査は、火山噴出堆積物が比較的厚く層状に堆積している地点とこれらの火山噴出堆積物が後の耕作などによって攪拌されている地点があった。攪拌を受けている地点でも攪拌が及ぶ深さが下層全体までは及んでいないことから火山噴出堆積物の残存している地点と同様な層位的調査が可能であった。この層位的調査により上部より第1面が中世を中心とする平安時代末以降（11C. 後半以降）、第2面が古墳時代後期～奈良・平安時代後期（6C. 初頭～11C. 前半代）、第3面が縄文時代～古墳時代中期以前（6C. 初頭以前）に区分が可能であった。なお、旧石器時代の層位であるローム層は3面縄文時代～古墳時代中期の層位であるⅦ層下に存在するⅧ層以下の総社砂層と呼ばれる層位が厚く堆積しており調査することはできない。しかし、2区調査区、

その周囲に残存する泥流丘周囲では泥流丘によってローム層が上昇している。この箇所では試掘調査を行ったが旧石器時代の遺構・遺物の検出・出土は確認されなかった。

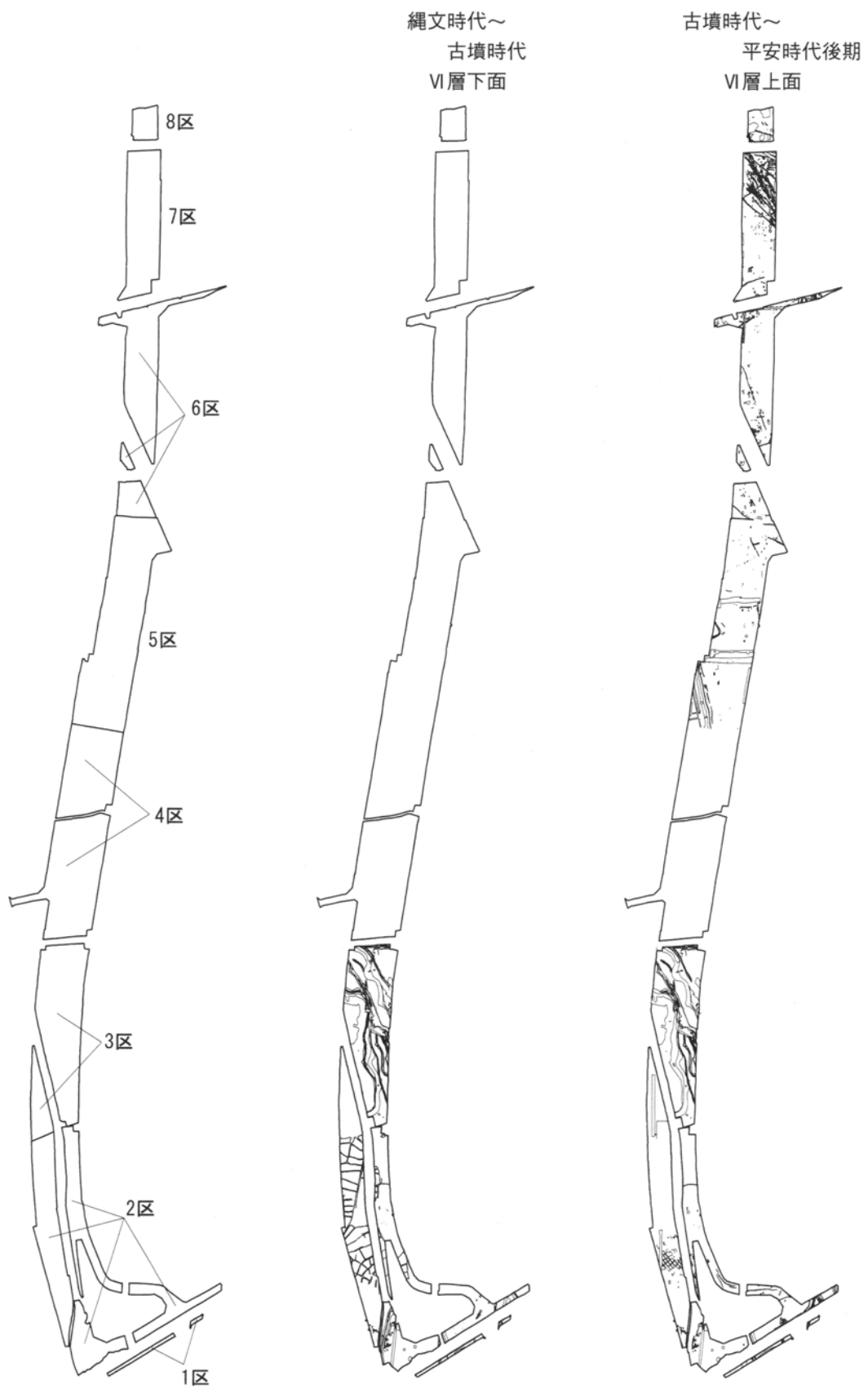
検出・出土した遺構・遺物を各調査面毎に概観すると以下のとおりである。

第1面平安時代末以降では1区から5区にかけてⅢ層As-Bで埋没した平安時代末の水田が大半を占めていた。水田跡を検出した地点では後世の水田耕作のための水路の溝、溜池なども検出した。そうした中で4区では僅かに比高差がある微高地が確認されこの地点では中世～近世の畠跡が検出された。この他では4区から5区にかけて鍵の手状に交差する南北・東西方向の道跡を検出した。6区以北では畠跡が主体であった。また、6区では「菅谷城」の外郭堀の一部と想定される堀と堀の外側に当たる地点からは墓坑を検出した。遺物は全体的に出土量は少ないが第1面では軟質陶器甕、鉢、石製品石臼、砥石などが出土した。

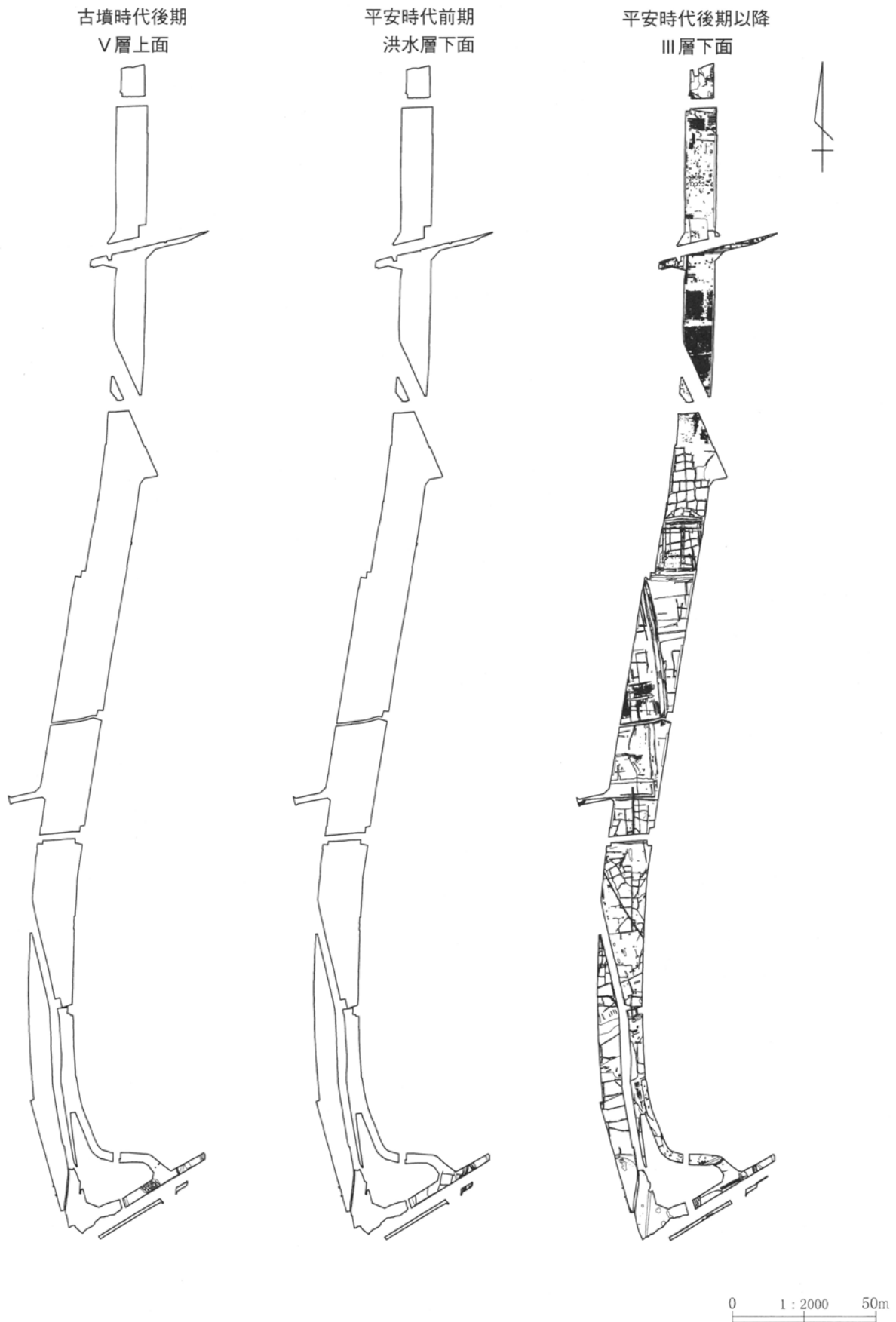
第2面古墳時代後期～奈良・平安時代後期では2区の一部で9C.代に起きた洪水で埋没した水田跡、その下部のⅤ層Hr-FA上面とHr-FP層下水田跡で見られる小区画水田の耕作痕を検出した。また、同地点下と2区本線部分ではⅤ層Hr-FA下面でも水田を検出した。この他では2区の「桜山」と呼称されている出泥流丘端部で石棺墓を検出した他は溝や土坑が大部分である。遺物は7区で洪水によって埋没した溝底面から7C.～8C.の土師器・須恵器が多く出土している。この出土状況から調査地点の西に当たる地域には同時代の集落が想定される。

第3面縄文時代～古墳時代中期では2区・3区でⅥ層As-C混黒色土層下水田・水路を検出した。

遺物は僅かであったがその中では5区で甕・壺が3点まとまって出土し住居の存在が窺えたが検出には至らなかった。



第11図 層位別全体図（1）



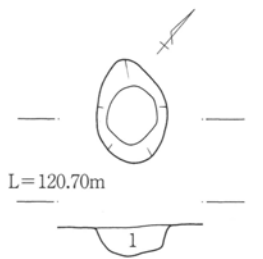
第12図 層位別全体図(2)

2. 縄文時代～古墳時代中期の遺構と遺物

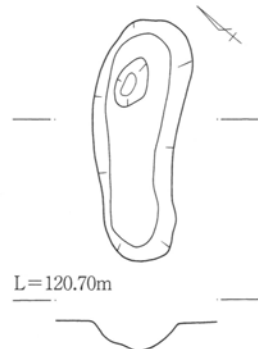
(1) 土坑

土坑は6区から8基を検出した。検出した土坑は6F～6K-46・47グリッドに集中しているがその配置に規則性などは見られなかった。形状は円形、楕円形、不整形などを呈し、規模はみな小規模なものである。埋没土はVI層に類似した黒褐色土でAs-Cの含有量に違いが見られた。遺物は出土していない。

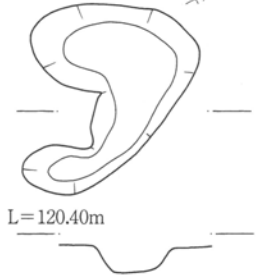
6区43号土坑



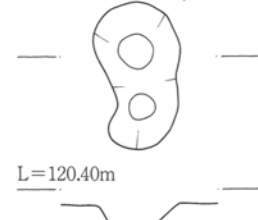
6区44号土坑



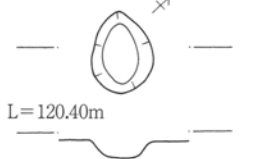
6区45号土坑



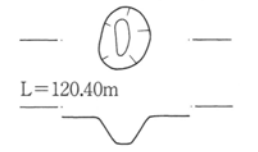
6区46号土坑



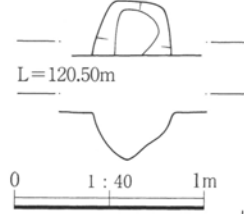
6区47号土坑



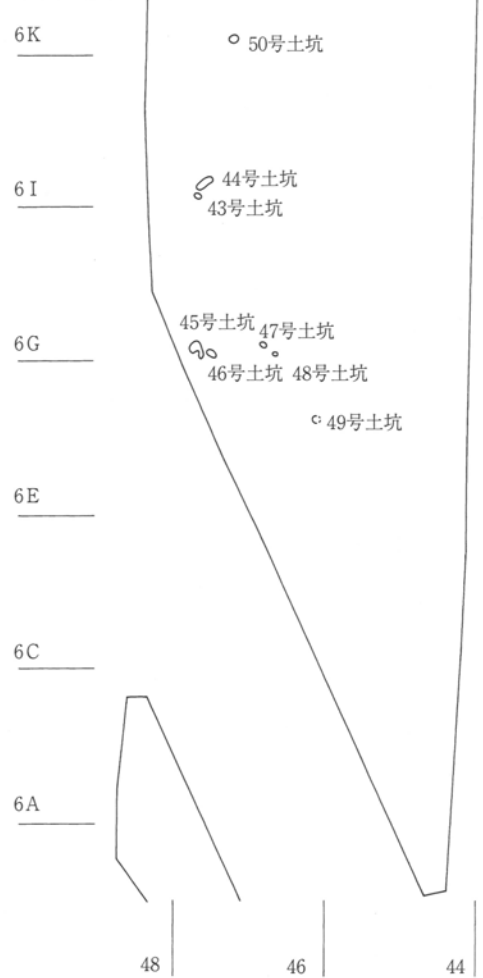
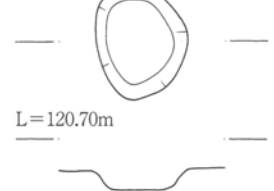
6区48号土坑



6区49号土坑



6区50号土坑



第13図 6区土坑遺構図・全体図

第2表 縄文時代～古墳時代中期 土坑表

区	No	位置	重複		形態	規模(単位cm)			時期	摘要
			新	旧		長径	短径	深度		
6	43	6I-47			楕円形	55	38	15	縄文～弥生	
6	44	6I-47			楕円形	129	47	15	縄文～弥生	
6	45	6G-47			不定形	95	87	14	縄文～弥生	
6	46	6G-47			不定形	78	46	15	縄文～弥生	
6	47	6G-46			楕円形	43	33	9	縄文～弥生	
6	48	6G-46			楕円形	32	26	15	縄文～弥生	
6	49	6F-46			半円形	42	29	26	縄文～弥生	
6	50	6K-47			楕円形	59	48	10	縄文～弥生	

(2) 列石

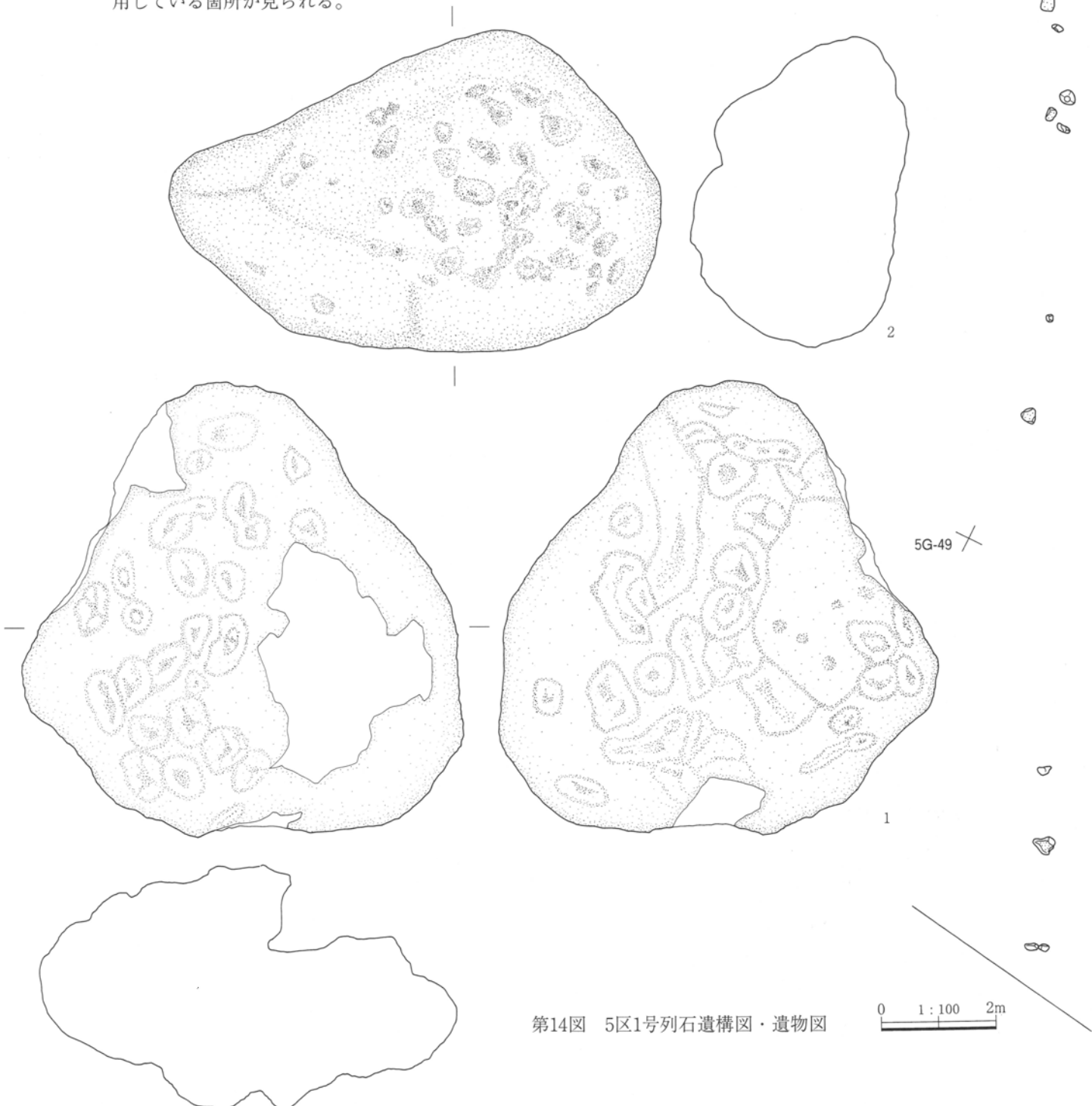
5区1号列石

5区北側、5F-49・50、5G-46~48、5H-46グリッドに位置する。他遺構との重複は確認されなかった。残存状態は礫の並び状態からすると多少変化した箇所が見られる。

遺構はⅥ層上面で礫上部で列んだ状態で検出した。礫下面はⅦ層に一部入り込んでいるが明確な掘り込みは確認されなかった。

形態は南西から北東にかけて多少のズレは見られるがほぼ直線状に配置されている。規模は全長23m、礫の間隔は0.5~6mと差があるが本来は0.5~1mほどで列んでいたようである。

配置されていた礫は径20~40cm大の円礫を使用しているが一部に第14図1、2の多孔石を使用している箇所が見られる。



第14図 5区1号列石遺構図・遺物図

IV 遺構と遺物

5区1号列石 P L53

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
1	石製品 多孔石	完形	長23.7幅22.9 厚11.7重4.9kg	粗粒輝石安山岩	小孔が両面に見られる。	
2	石製品 多孔石	完形	長26.0幅16.7 厚10.6重3.2kg	粗粒輝石安山岩	小孔は片面のみである。	

(3) 溝

2区12号溝

本溝は2区調査区南端、通称「桜山」泥流丘の西側に縁辺に沿った0C～0J-53・54グリッドに位置する。他遺構との重複は近世土坑等と重複している。新旧関係は本溝の方が古い。残存状態は比較的良好であるが南北の延長が調査区外へ延びるため全貌は不明である。

形態は泥流丘の周囲を緩い弧を描くように存在している。断面は側面が大きく開くVの字状を呈している。規模は調査区内の全長が37.8m、確認面での上幅が2.22～3.74m、底面幅は0.28～0.58m、深度0.44～0.69mを測る。

底面は一部土坑状の落ち込みが見られるがほぼ平坦面で北から南への緩やかな傾斜が見られる。

埋没状態は断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。

遺物は縄文土器、土師器の杯・甕などの小片が10点ほど出土しているが本溝に伴うか否かは明確ではない。また、図化可能な遺物はなかった。

本溝の時期は埋没土から弥生時代以前に比定される。なお、泥流丘東側で本溝と同様な埋没土をもつ1区7号溝と2区22号溝が検出されているが同一であるか否かは不明である。

1区7号溝

1区町道拡幅部分の西より、0C・0D-46・47グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は上部を圃場整備によって削平されているが下半部は良好である。溝は一部しか検出されていないため全貌は不明である。

形状は断面が逆台形状を呈す。規模は上幅1.20m前後、底面幅0.50m、深度0.55mを測る。底面はほ

ぼ平坦である。埋没状態は短期間に同一の土砂により埋没した様相が窺えることから自然埋没と考えられる。

遺物は出土していない。本溝の時期は埋没土の様相から2区12号溝と同様であると比定される。

本溝の町道を挟んだ北側には2区22号溝が検出された。2区22号溝は側壁の一部しか確認されていないがその走行や埋没土の状態から同一の溝と考えられる。

3区11号溝

本溝は3区中程に位置している。その走行は2K-59から東へ向かい、2K-56で南へ向きを変え、そして1P-55でまた西へ向かい1P-56で調査区外へ延びる。他遺構との重複は確認されなかった。残存状態は比較的良好であるが両端が調査区外に延びるため全貌は不明である。

断面形態は弧状を呈している。規模は調査区内の全長96mで確認面での上幅0.60～2.50m、底面幅0.20～0.90m、深度0.15～0.90mを測る。

底面は緩い湾曲を呈しており、北から南へ傾斜が見られる。

埋没状態は断面でレンズ状の堆積が観察できることから自然埋没である。なお、本溝の底面付近にはAs-Cの2次堆積が確認された。

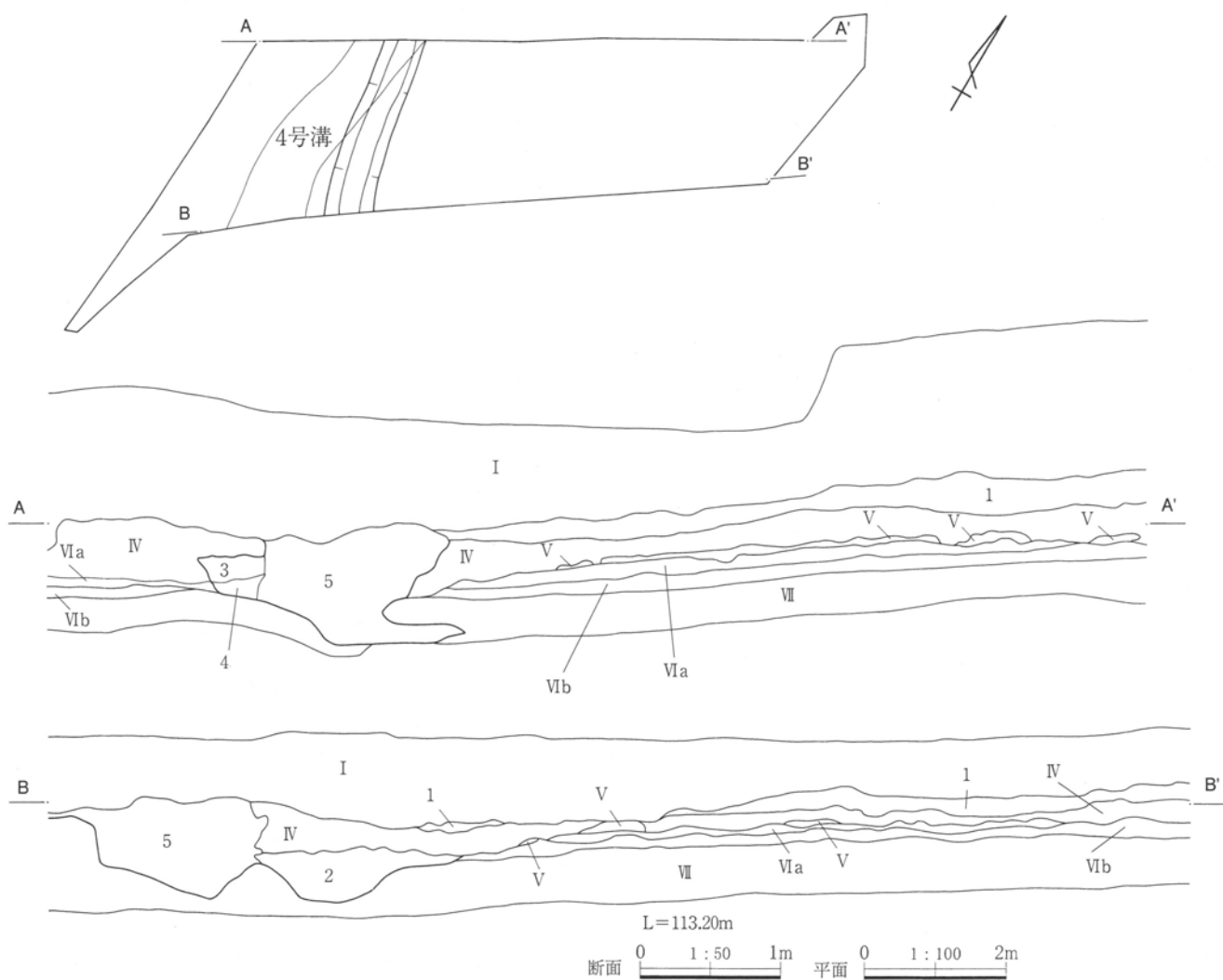
遺物は弥生時代後期の土器片が出土しており、図化可能な1点を掲載した。

本溝は3区北半で北西から南東へ向けて流れていた埋没河川の落ち込み際に沿って掘削されており本溝の南側には同時期の水田が検出されていることから水田への水路と考えられる。なお、本溝の時期は弥生時代後期から古墳時代前期初頭に比定される。

第3表 縄文時代～古墳時代中期 溝

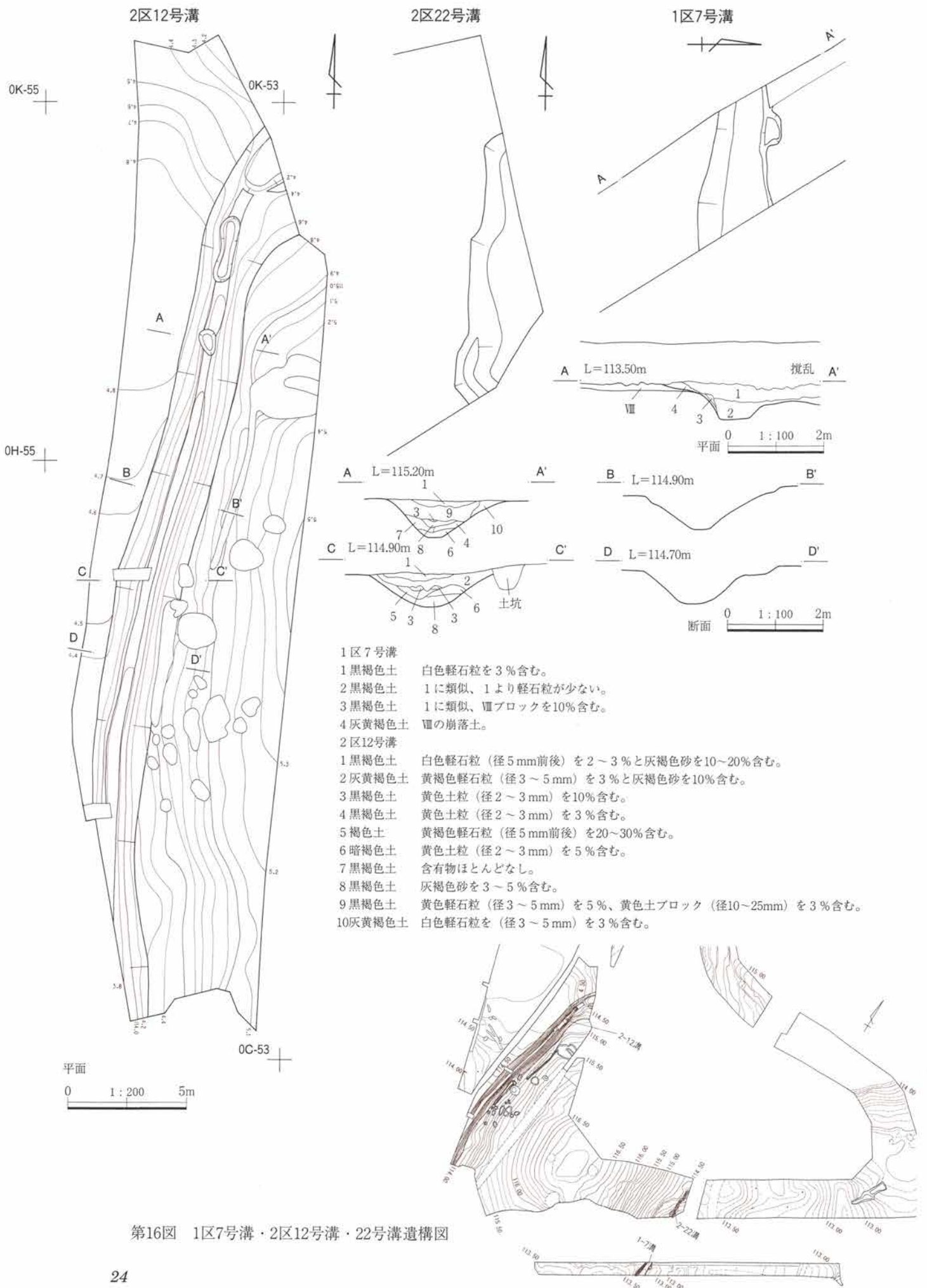
区	No	位置			重複		形態	規模(単位cm)			摘要
		東・南端	屈折	西・北端	新	旧		上幅	底面幅	深度	
1	5	0H-38		0I-38	1区4号溝		逆台形	70	30	75	埋没河川か
1	7	0C-47		0D-46			逆台形	100~155	55~85	55	
2	12	0C-54		0J-52	土坑		V字型	222~374	28~60	56~66	弥生時代
2	20	0L-36		0L-37			半円形	96~128	24~36	24~30	
2	21	0J-39		0K-39	溝		逆台形	36~40	13~16	20~26	
2	22	0E-46									側壁部分のみ
3	11	1P-56	2K-56	2L-59				60~250	20~90	15~70	VI層下水田水路
3	12	2L-53		2Q-56		13号溝	V字型	80~130	25~60	26~33	
3	13	2P-56			12号溝		逆台形	85~115	40~60	22~31	
6	20	6S-41		7A-41			逆台形	70~96	36~37	8~9	

1区5号溝



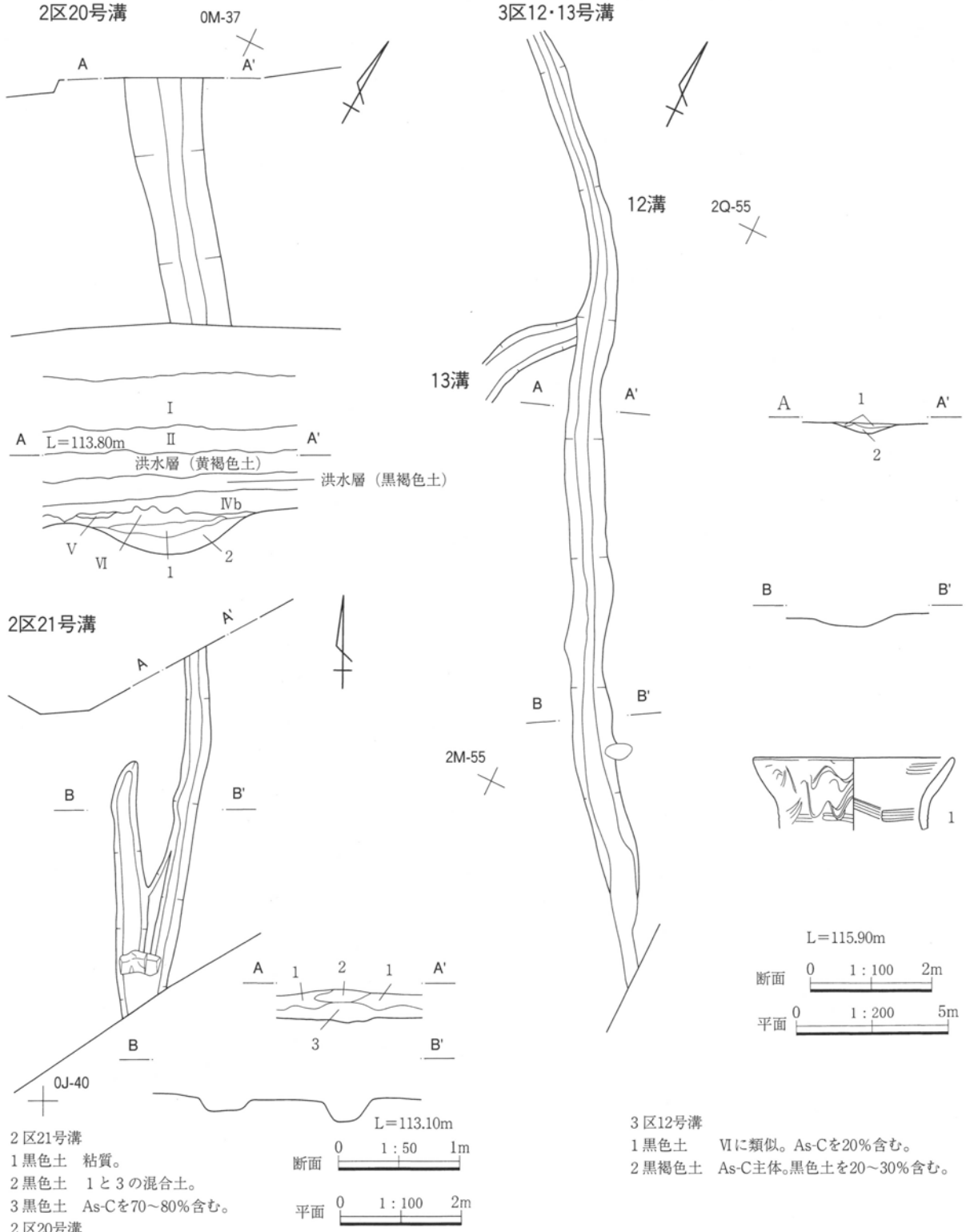
- 1区5号溝
- 1 黄褐色土 洪水層。
- 2 黄褐色土 黄褐色砂粒(径2~5mm)含む。暗灰黄色土シルトブロック(径5~10cm)を20%含む。
- 3 灰褐色土 IV主体、灰色砂を含む。
- 4 灰色砂
- 5 暗灰黄色土 シルト質と黄褐色砂(径2~5mm)が互層に堆積。

第15図 1区5号溝遺構図



第16図 1区7号溝・2区12号溝・22号溝遺構図

2. 縄文時代～古墳時代中期の遺構と遺物



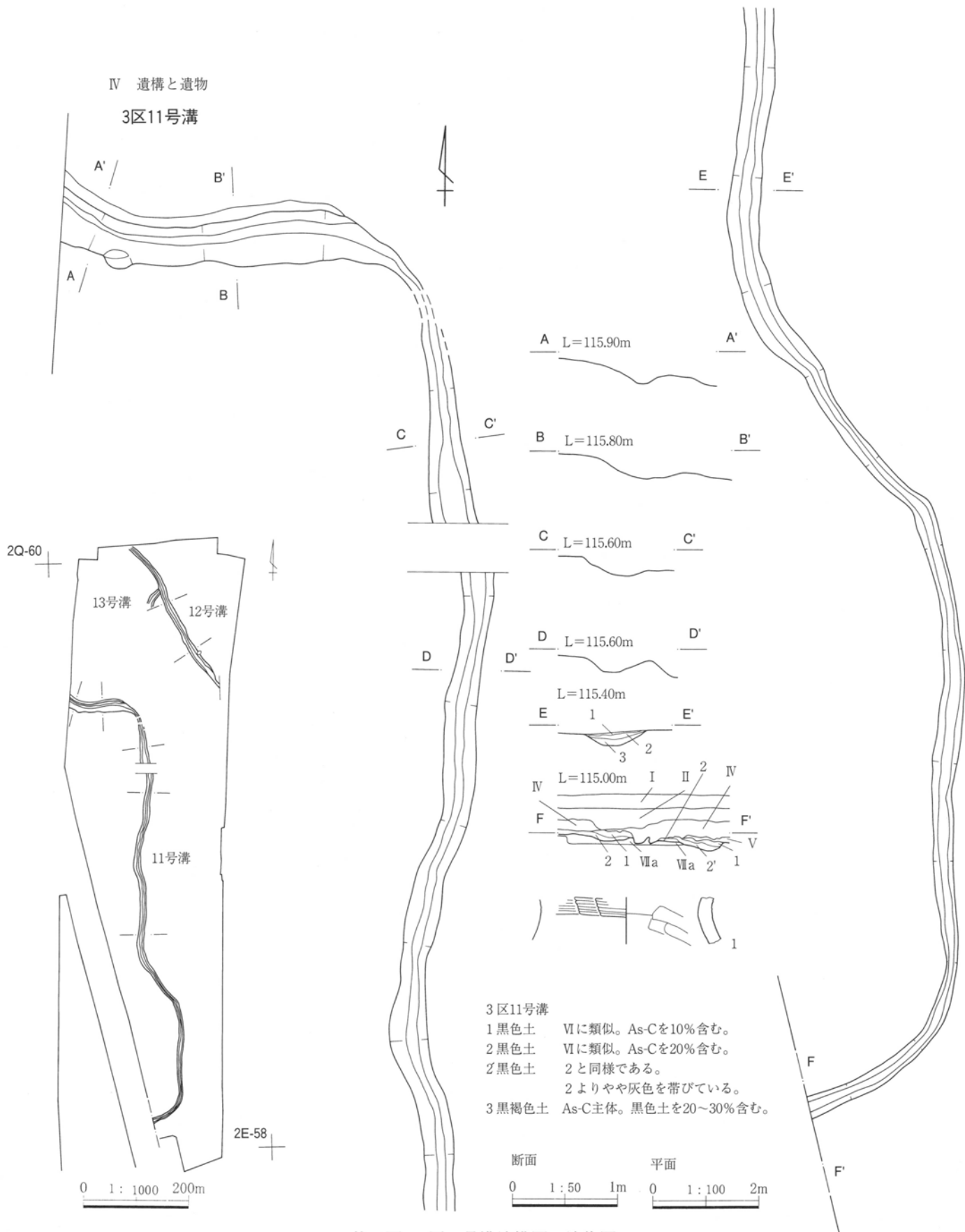
- 2区21号溝
 1 黒色土 粘質。
 2 黒色土 1と3の混合土。
 3 黒色土 As-Cを70～80%含む。
- 2区20号溝
 1 黒褐色土 As-Cを30%含む。
 2 黒褐色土 As-Cを40～50%含む。

- 3区12号溝
 1 黒色土 VIに類似。As-Cを20%含む。
 2 黒褐色土 As-C主体。黒色土を20～30%含む。

第17図 2区20号溝・21号溝・3区12号溝・13号溝遺構図・遺物図

3区13号溝

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成形の特徴	摘要
1	弥生土器 壺	底面 口縁部片	口径9.8	細砂粒/良好/ 淡黄色	口縁部は雑な波状文、頸部は糜状文。内面は横方向のヘラ磨き。	



第18図 3区11号溝遺構図・遺物図

3区11号溝

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
1	弥生土器 壺	埋没土中 頸部片		細砂粒/良好/ 浅黄色	頸部に廉状文。内面はヘラナデ。	

(4) 水田

2区VI (As-C混黒色土) 層下水田

①位置・重複

本水田は2区調査区西側を中心とした0M～1M-50～59グリッドに位置する。この調査面で直接重複する遺構は確認されなかった。

②被覆土層・残存状態

水田はVI層で覆われている。VI層はAs-Cを含む黒色土であるが、2区調査区では層位上部はAs-Cの含有率が10～20%であるのに対して下部では30～50%以上と多量である。但しVI層下部でも軽石だけの堆積は認められず黒色土との攪拌が見られる。こうした状態はAs-Cが降灰した直後に耕作地の復旧を試みたと想定される。

水田を検出した調査区は道路建設用地であるため東西方向は調査範囲に限界がある。そして調査区中程を農道と用水路が存在している。そのため全貌は不明である。水田耕作範囲は東側、南側は調査区内での水田東土端、南端である。北側は3区調査区では検出できなかったが1から2区画分は北に延びる可能性はある。但しその以北については取水の面から考えにくい。西側についてはどの程度広がりが見られるかは想定できないが取水が3区11溝からだけであればそれほど大きな広がりはない。なお、本水田面は被覆土層である火山噴出物が復旧のための攪拌を受けているため当時のそのままの状態ではなく、水田面、アゼとも水田の痕跡と考える。

③水田域の地形

水田域の地形は東側と南側に泥流丘が存在するためこの地域の地形とは異なり南南西へ向けて傾斜が見られる谷地に営まれている。この谷地の傾斜は調査区内では17/1,000の傾斜角にして1°に満たない。谷地の規模は現地地形では西側が圃場整備が行われており明らかにすることはできないがそれほど広範囲のものではないと想定される。

④区画

水田の区画はほぼ傾斜に沿った形で設定されている。調査区西側の1A以北では南南西への緩い傾斜

に合わせてあり、東西に細長い長方形を呈す区画を設定している。1A以南では東側と南側に存在する泥流丘の傾斜に影響されるため区画が小規模でやや不整形になる。

区画の面積は区画全体が調査区内に存在する区画が7と少ないため不的確な点もあるが小規模なもので20㎡前後、大規模な物では70～80㎡になる。

⑤アゼ

アゼは調査区内では作業道的な大アゼは区画48と50の間で確認された幅2m前後で全長4mほどの短いものだけであった。その他では区画35～区画44の東側で検出したアゼが下幅80cm前後である。この他の区画のアゼは下幅30～60cmとクロ的なやや幅の狭い設定である。

アゼの高さは最大6cm、最低1cm、平均3cmとあまり残存状態は良好ではない。

⑥取配水の方法

2区調査区で水田域の取配水にかかわる水路、溝は検出されなかったが、3区11号溝は本水田に水を供給した用水の水である。3区11号溝は3区調査区で検出した埋没河川の落ち際にそって北西から2区の水田域へ向けて掘削されている溝である。

水口は区画は区画32と31の間と区画10と9の間で検出されただけであるが本来は標高の高位の区画から低位の区画へ水利のためのアゼが設けられていたと想定される。

⑦耕作土

水田耕作土はⅦ層上部が相当する。耕作土とされる土層はAs-B層下水田耕作土のように基本的土層より腐植土化が進み黒色化したような様子は観察できなかった。

⑧その他付随する遺構

本水田に伴うような遺構は検出されていない。

⑨遺物

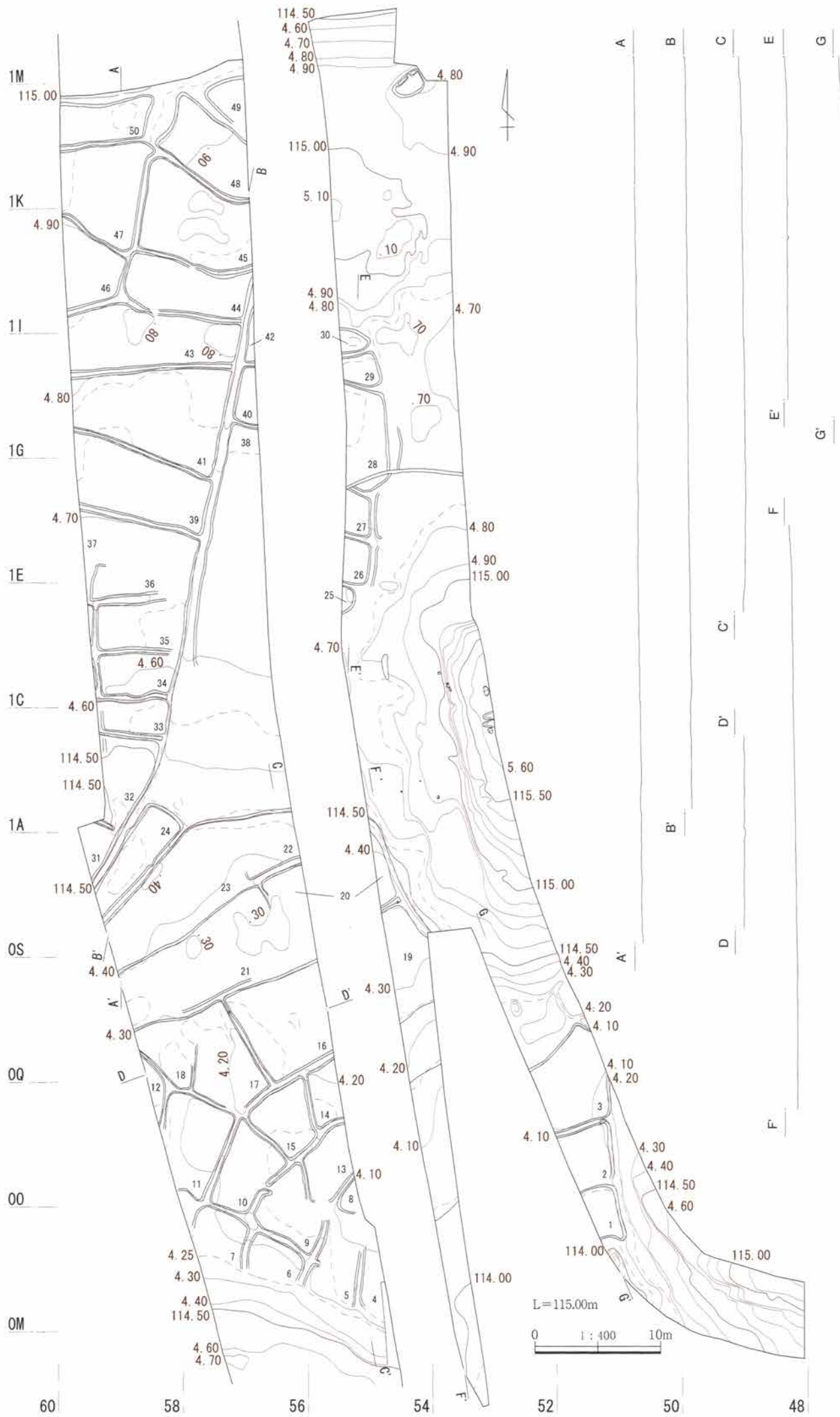
本水田耕作土からは僅かに縄文土器などの小破片が出土しているが共伴するような遺物の出土は見られない。

IV 遺構と遺物

第4表 2区 VI (As-C混黒色土) 層下水田

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
001	ON-50	長方形		4.20	2.40	114.05	114.01	4	6	8.80		
002	OO-51	長方形		4.40	4.20	114.12	114.05	7	5	16.00		
003	OP-51	不定形		7.60	5.60	114.14	114.05	9	4	33.47		
004	OM-54	?		5.80	2.10	114.13	114.10	3	2	9.60		
005	OM-55	長方形	○	6.30	3.60	114.21	114.11	10	3	21.60		
006	OM-56	?	○	4.40	2.50	114.23	114.17	6	2	10.70		
007	ON-57	?	○	4.10	3.70	114.23	114.17	6	3	12.90		
008	ON-55	?		2.40	1.90	114.09	114.08	1	6	2.40		
009	ON-55	不定形	○	5.70	5.30	114.18	114.11	7	4	20.50	西中 10→	
010	OO-56	矩 形	○	6.90	4.50	114.20	114.13	7	2	22.93		東中 →9
011	OO-57	長方形		7.20	5.40	114.25	114.16	9	2	31.50		
012	OP-58	矩 形		3.70	2.20	114.29	114.23	6	3	3.70		
013	OO-55	矩 形		4.30	3.80	114.15	114.11	4	2	15.30		
014	OP-55	長方形		4.20	2.40	114.23	114.13	10	2	10.00		
015	OP-55	矩 形	○	4.90	5.10	114.19	114.12	7	3	18.53		
016	OQ-55	長方形		7.90	7.40	114.29	114.22	7	2	49.49		
017	OP-56	不定形	○	8.10	5.20	114.27	114.15	12	4	31.60		
018	OQ-57	三角形		5.50	4.50	114.28	114.23	5	3	17.20		
019	OR-54	不定形		8.30	3.40	114.36	114.25	11	2	25.06		
020	OS-54	長方形		6.40	3.90	114.42	114.36	6	2	22.50		
021	OS-56	長方形		13.50	6.40	114.37	114.26	11	6	73.60		
022	OT-56	長方形		5.20	4.90	114.48	114.40	8	4	20.90		
023	OT-57	不定形		12.10	5.80	114.47	114.36	11	4	62.10		
024	OT-58	長方形		9.30	2.80	114.50	114.44	6	4	22.10		
025	1D-55	不定形		2.10	0.90	114.72	114.70	2	1	1.40		
026	1E-55	長方形		3.40	2.00	114.73	114.72	1	1	6.67		
027	1E-55	長方形		3.30	1.90	114.73	114.63	10	5	6.00		
028	1F-54	長方形		7.90	3.10	114.76	114.71	5	2	23.73		
029	1H-54	長方形		2.70	2.50	114.75	114.72	3	2	5.73		
030	1G-55	不定形		2.10	1.70	114.79	114.75	4	1	3.07		
031	1T-59	矩 形		4.20	3.10	114.48	114.46	2	5	9.33	北東 32→	
032	1A-58	矩 形		7.20	4.80	114.54	114.41	13	4	24.53		南東 →31
033	1B-58	長方形	○	5.20	2.80	114.59	114.51	8	3	12.67		
034	1C-58	長方形	○	6.30	3.10	114.64	114.57	7	3	18.80		
035	1C-58	長方形	○	6.80	3.60	114.70	114.63	7	2	24.13		
036	1D-58	長方形	○	7.80	2.50	114.69	114.67	2	2	16.80		
037	1E-57	長方形		9.70	3.50	114.71	114.67	4	3	26.93		
038	1C-57	長方形		19.00	5.80	114.75	114.70	5	3	81.07		
039	1E-57	?		11.60	5.10	114.76	114.70	6	2	51.60		
040	1G-56	?		4.20	1.80	114.79	114.76	3	3	6.67		
041	1F-57	矩 形		12.90	8.50	114.81	114.71	10	4	76.00		
042	1H-56	?		3.80	0.70	114.81	114.80	1	5	1.73		
043	1H-57	不定形		13.90	5.00	114.85	114.77	8	3	54.27		
044	1I-57	長方形	○	9.70	4.20	114.84	114.81	3	3	34.40		
045	1J-56	不定形		8.60	7.20	114.90	114.82	8	4	53.33		
046	1I-59	?		7.20	5.00	114.90	114.85	5	4	23.33		
047	1J-58	矩 形		8.50	7.60	114.97	114.90	7	3	44.80		
048	1K-57	矩 形		8.30	4.30	114.94	114.88	6	3	34.27		
049	1L-57	?		4.40	3.20	114.93	114.90	3	2	7.33		
050	1L-59	長方形		7.30	3.10	114.98	114.94	4	2	20.67		

範囲は○は区画全域、ほぼ全域が調査区内で検出したもの、区画全域が調査できないものは調査区内の規模(斜文字で表示)。
単位は長軸・短軸がm、高位・低位が標高、比高差・アゼ高がcm、面積が m^2 。



第19図 2区VI (A s-C) 層下水田遺構図

IV 遺構と遺物

(5) 遺構外出土遺物

縄文時代から古墳時代中期の遺物は遺構確認面であるⅦ層上面やⅦ層中をはじめとしてⅣ層、Ⅵ層中から縄文土器、石器、弥生土器、土師器など遺物が多少出土している。

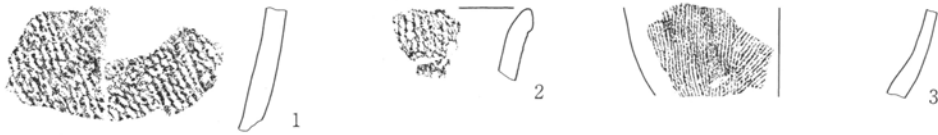
縄文土器・石器は調査範囲全体から散漫な状態ではあるが出土している。出土している遺物のうち土器は中期から後期にかけてであるが、ほとんどが小

破片で図化可能なものも僅かであった。

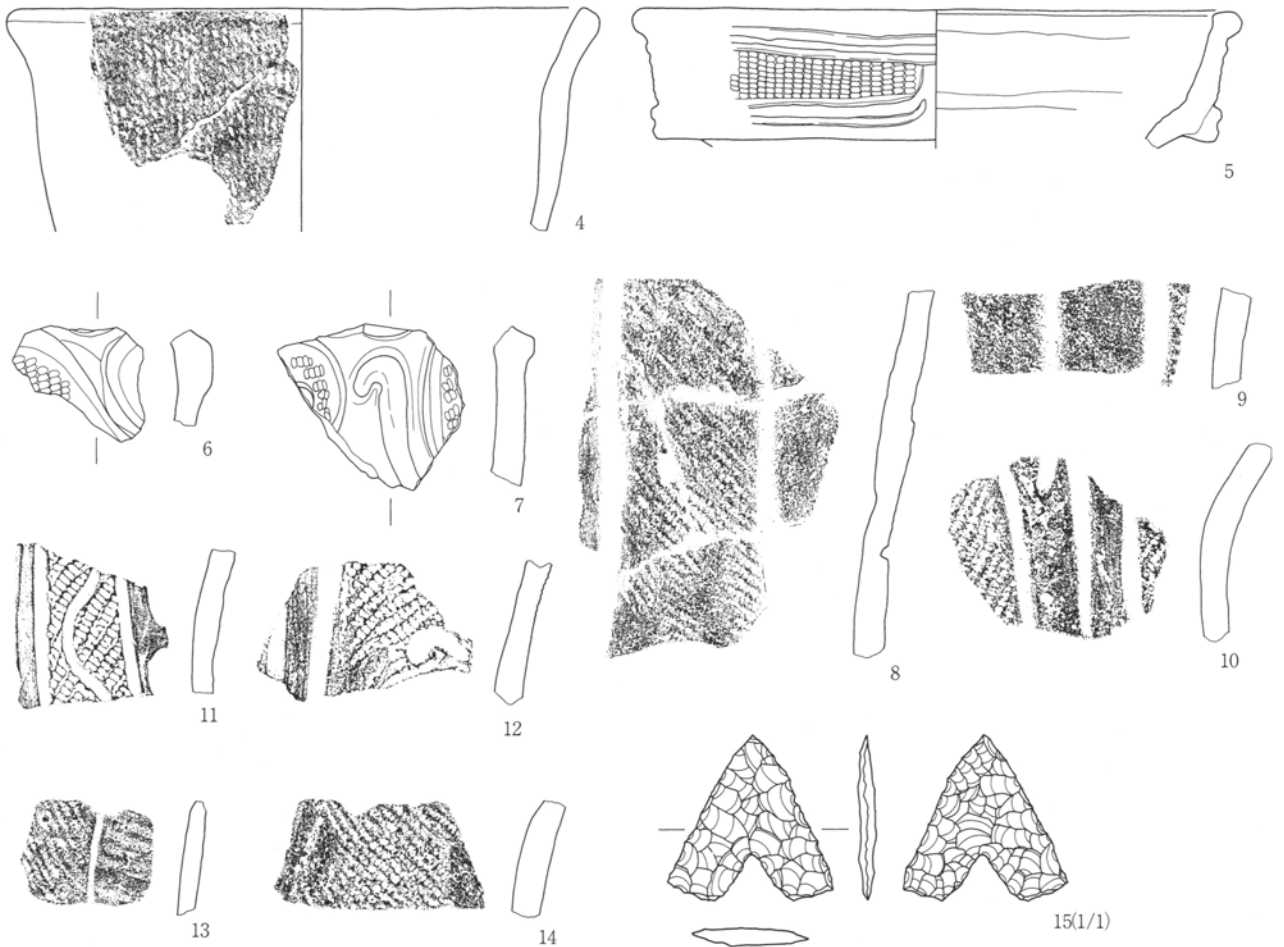
弥生土器は2区から6区にかけて出土しているが7区、8区では見られなかった。

古墳時代前期・中期の土器は5区4S-46グリッドで土師器台付甕2点と土師器壺1点が接近して出土した。出土状態も据えられたような状態であったことから遺構の存在が窺えたため精査を行ったが確認できなかった。

1区遺構外出土遺物

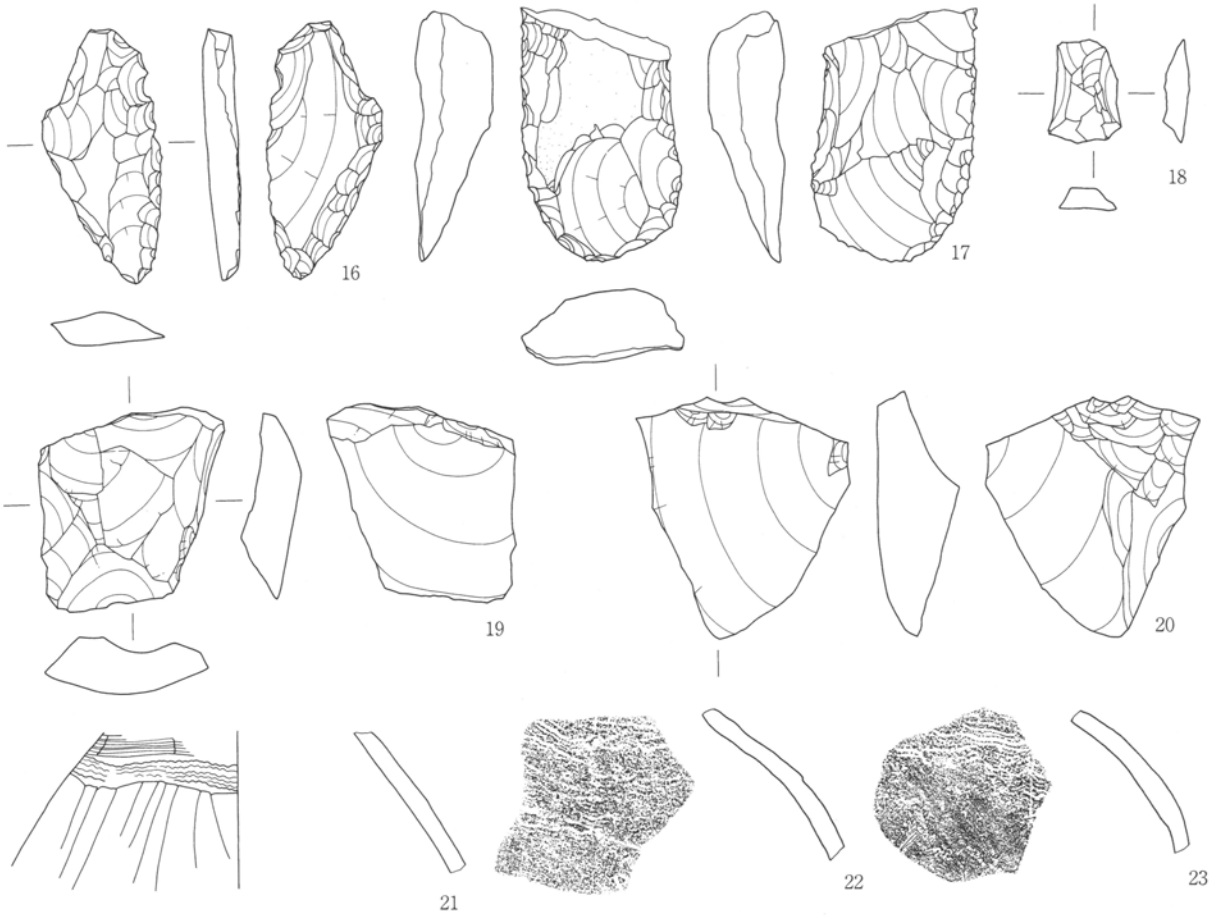


2区遺構外出土遺物

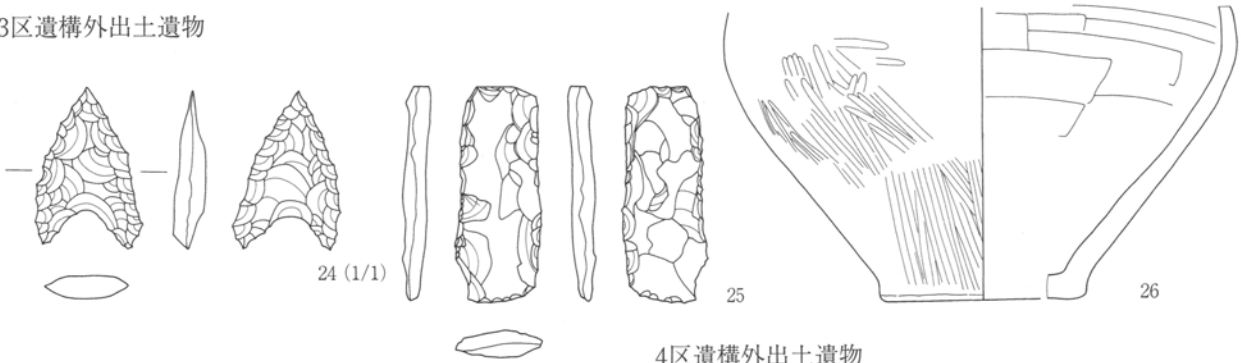


第20図 縄文時代～古墳時代中期遺構外出土遺物遺物図(1)

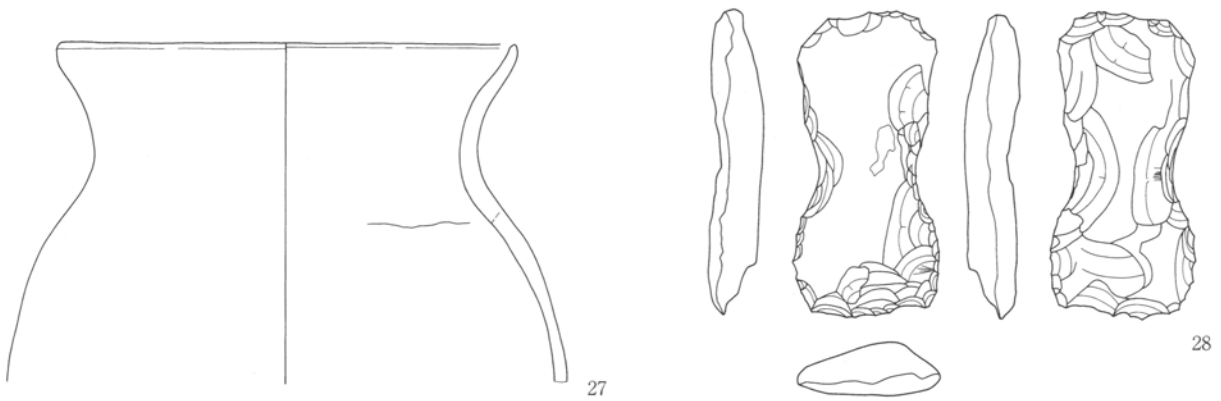
2. 縄文時代～古墳時代中期の遺構と遺物



3区遺構外出土遺物

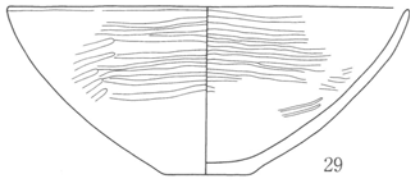


4区遺構外出土遺物

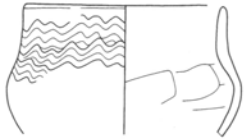


第21図 縄文時代～古墳時代中期遺構外出土遺物遺物図(2)

IV 遺構と遺物

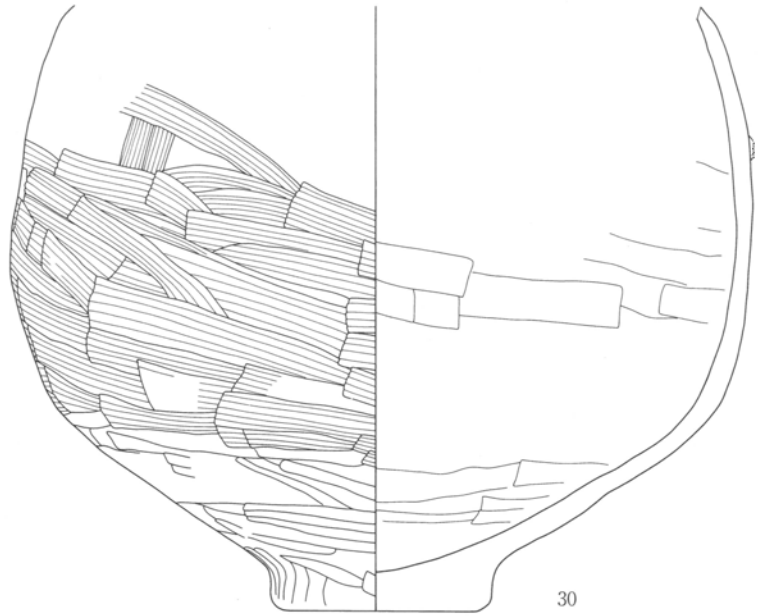


29

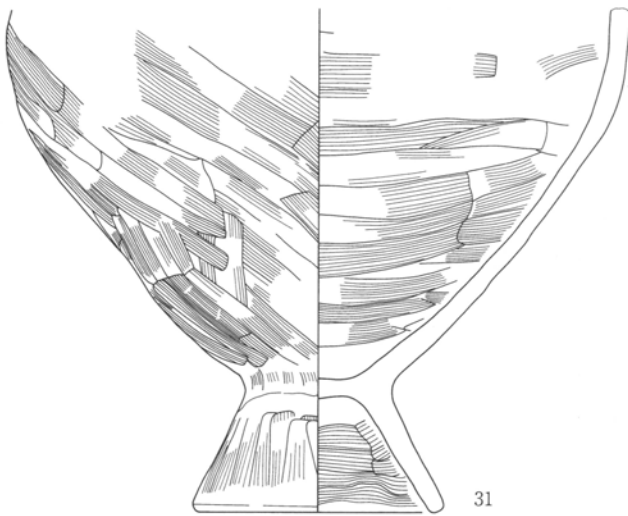


33

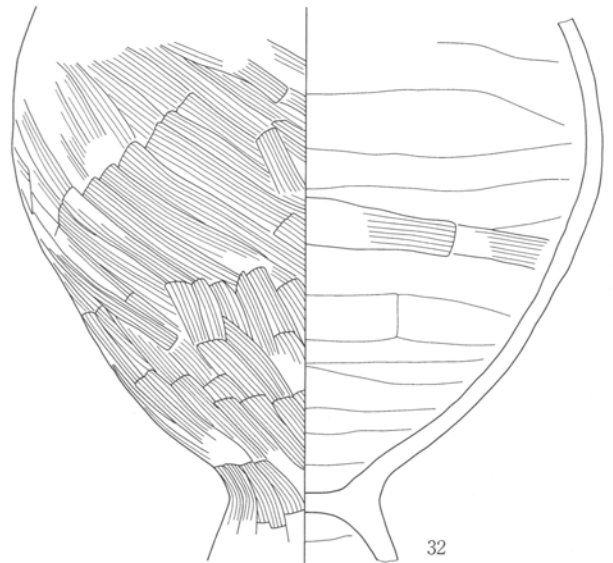
5区遺構外出土遺物



30

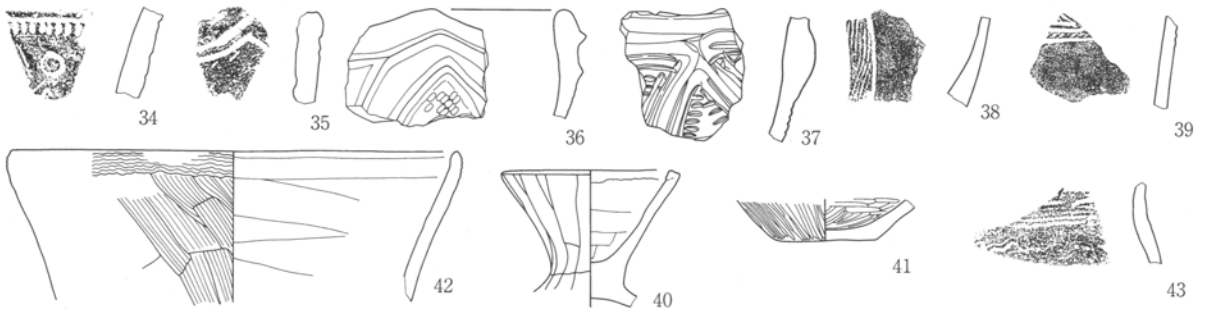


31



32

6区遺構外出土遺物



第22図 縄文時代～古墳時代中期遺構外出土遺物遺物図 (3)

2. 縄文時代～古墳時代中期の遺構と遺物

7区遺構外出土遺物



第23図 縄文時代～古墳時代中期遺構外出土遺物遺物図 (4)

1区遺構外出土遺物 P L 53

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	縄文土器 深鉢	胴部小片		細砂粒/良好/ にぶい赤褐色	胴部は縄文R Lが施文。	
2	縄文土器 深鉢	胴部小片		粗砂粒/良好/ にぶい赤褐色	胴部は縄文R Lが施文。	
3	土師器 甕	胴部小片		細砂粒/良好/ 赤褐色	胴部は縦方向の刷毛目。	

2区遺構外出土遺物 P L 53

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
4	縄文土器 深鉢	0M-43Ⅶ層 口縁部片	口径22.2	粗砂粒/良好/ にぶい褐色	前期。口縁部から胴部にかけて縄文R Lが施文。	
5	縄文土器 深鉢	18号土坑 口縁部片	口径23.6	粗砂粒/良好/ にぶい黄褐色	中期前半。下位の凸帯は貼付。口縁部区画線内に縄文R L施文。	
6	縄文土器 深鉢	0T-52Ⅶ層 口縁部片		細砂粒/良好/ 橙色	中期後半。凸帯は貼付。凸帯区画内に縄文R L施文。	
7	縄文土器 深鉢	10-54Ⅶ層 口縁部片		細砂粒/良好/ にぶい橙色	後期前半。沈線と凸帯で区画、凸帯は貼付。区画内は縄文R L施文。	
8	縄文土器 深鉢	0S-52Ⅶ層 胴部片		粗砂粒/良好/ にぶい黄褐色	後期前半。沈線区画内に縄文R L施文。	
9	縄文土器 深鉢	0R-55Ⅶ層 胴部片		粗砂粒/良好/ にぶい黄褐色	後期前半。沈線区画内に縄文R L施文。	
10	縄文土器 深鉢	0T-52Ⅶ層 胴部片		粗砂粒/良好/ にぶい橙色	後期前半。沈線区画内に縄文R L施文。	
11	縄文土器 深鉢	1A-53Ⅶ層 胴部片		細砂粒/良好/ 橙色	後期前半。沈線区画内に縄文R L施文後沈線を施文。	
12	縄文土器 深鉢	0T-52Ⅶ層 胴部片		粗砂粒/良好/ 橙色	後期前半。沈線区画内に縄文R L施文後沈線を施文。	
13	縄文土器 深鉢	0M-43Ⅶ層 胴部片		細砂粒/良好/ 橙色	後期前半。沈線区画内に縄文R L施文。	
14	縄文土器 深鉢	9号土坑 胴部片		粗砂粒/良好/ にぶい橙色	後期前半。縄文R L施文。	
15	石器 打製石鏃	0R-52Ⅶ層 完形	長2.2幅2.2厚0.2 重0.68	黒曜石		
16	石器 削器	0M-43Ⅶ層 完形	長6.8幅3.0厚0.9 重21.76	黒色安山岩		
17	石器 打製石斧	1C-59Ⅶ層 1/2	長10.1幅6.4厚2.8 重200.0	黒色頁岩	表面使用時の剥離が見られる。	
18	石器 剥片	2区14土坑	長4.1幅3.0厚1.0 重5.0	珪質頁岩		
19	石器 剥片	0L-43Ⅶ層	長5.3幅4.9厚1.1 重42.0	黒色頁岩		
20	石器 剥片	1A-53Ⅶ層	長1.6幅1.4厚0.5 重1.28	黒曜石		
21	弥生土器 甕	0K-42Ⅶ層 胴部片		細砂粒/軟質/ にぶい橙色	胴部上位は1段の廉状文、波状文。その下位は縦方向のヘラ削り。	
22	弥生土器 甕	0L-37Ⅶ層 胴部片		細砂粒/良好/明 赤褐色	胴部上位は3段の波状文。	
23	弥生土器 甕	0L-37Ⅶ層 胴部片		細砂粒/良好/明 赤褐色	胴部上位は3段の波状文。	

IV 遺構と遺物

3区遺構外出土遺物 P L 53

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
24	石器 打製石鏃	10-55 完形	長2.1幅1.4厚0.3 重0.82	黒曜石		
25	石器 打製石斧	2G-58VI層 完形	長8.5幅3.3厚1.1 重37.78	黒色頁岩		
26	弥生土器 壺	2C-56VII層 胴部下半片	底径8.2胴径20.6	細砂粒/良好/ にぶい黄橙色	胴部はヘラ削り後ヘラ磨き。内面はヘラナデ。	
27	弥生土器 甕	2P-56VII層 口縁~胴部	口径18.2	粗砂粒/良好/ 橙色	内面胴部に輪積痕が残る。外面の整形は摩耗のため不明。	

4区遺構外出土遺物 P L 53

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
28	石器 打製石斧	4区II層 完形	長12.0幅5.7厚2.1 重180.0	黒色頁岩		
29	弥生土器 鉢	3Q-51VI層 1/3	口径15.8底径3.4 器高6.6	細砂粒/良好/ にぶい黄橙色	外面の底部以外は赤色塗彩。内外面とも横方向のヘラ磨き。	

5区遺構外出土遺物 P L 53・54

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
30	土師器 壺	4S-47 胴部下半	底径8.8最大径30.0	細砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい黄橙	胴部は横方向の刷毛目。内面はヘラナデ。	
31	土師器 台付甕	5A-47 胴部下半	底径6.0脚径9.4	細砂粒/良好/ にぶい黄橙色	脚部は貼付。胴部は斜め方向、脚部は縦方向の刷毛目。内面は横方向の刷毛目。	
32	土師器 台付甕	4S-47 胴部	底径6.0最大径23.6	細砂粒/良好/ にぶい黄橙色	脚部は貼付。胴部は斜め方向、脚部は縦方向の刷毛目。内面は横方向の刷毛目。	
33	弥生土器 台付甕	4P-48IV層 口縁~胴部	口径7.6最大径9.2	細砂粒/良好/ 明褐色	口縁部から頸部にかけては波状文。内面はヘラナデ。	

6区遺構外出土遺物 P L 54

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
34	縄文土器 深鉢	6E-45VI層 胴部片		粗砂粒/良好/ にぶい橙色	沈線区画内に指突文と竹管文。	
35	縄文土器 深鉢	6E-06VI層 胴部片		粗砂粒/良好/ 橙色	二重沈線区画内に縄文を施文。	
36	縄文土器 深鉢	1号溝埋没 土口縁部片		粗砂粒/やや軟質/ にぶい黄橙色	隆帯は貼付。内部にRL縄文施文。	
37	縄文土器 深鉢	6E-64VI層 口縁部片		細砂粒/良好/ 明褐色	隆帯は貼付。隆帯きわに沈線、沈線内部に指突文を施文。	
38	縄文土器 深鉢	7B-38IV層 胴部片		細砂粒/良好/ 橙色	器面ヘラ磨き、沈線区画内にRL縄文施文。	
39	縄文土器 深鉢	7A-39IV層 胴部片		細砂粒/良好/ 暗オリーブ褐色	沈線区画内にRL縄文施文。	
40	弥生土器 壺蓋	1号畠 摘部分	摘径6.2	細砂粒/良好/ 赤褐色	摘は貼付、外面は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
41	弥生土器 壺	5M-45VI層 底部	底径4.0	微砂粒/良好/ にぶい黄橙色	内外面ともヘラ磨き。	
42	弥生土器 甕	6区南 口縁部片	口径17.6	細砂粒/良好/ にぶい黄褐色	口唇部は波状文、口縁部は縦方向の刷毛目。内面はヘラナデ。	
43	弥生土器 甕	6区南IV層 胴部片		細砂粒/良好/ にぶい橙色	頸部は廉状文、胴部上位は1段の波状文。	
44	土師器 杯	6R-48IV層 口縁部片	口径13.0	細砂粒/良好/ 明赤褐色	口縁部上半は横ナデ、下半はヘラ削り。内面は斜放射状のヘラ磨き。	
45	土師器 甕	6R-49VII層 底部片	底径9.6	粗砂粒/良好/ にぶい橙色	外面はヘラ削り。内面はヘラ磨き。	

7区遺構外出土遺物 P L 54

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
46	石器 打製石斧	7K-43IV層 上下欠損	長(6.6)幅5.8 厚0.9重65.39	珪質頁岩		

3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物

(1) 墓坑

2区1号墓坑

本墓坑は2区調査区の南より0E・0F-47グリッドに位置する。この地点は通称「桜山」と呼ばれる泥流丘東麓端部である。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は蓋石も残存しており良好な状態であった。墓坑は側面・天井部を扁平な礫を使用した石槨墓である。

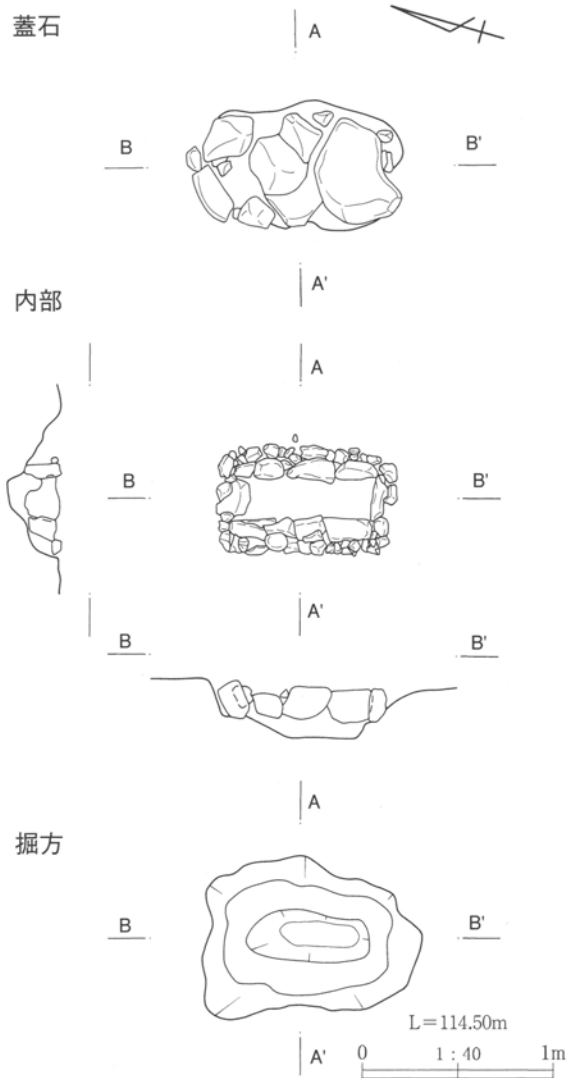
形態は石槨部分は箱状を呈し、掘方平面はやや歪みが大いなが長径を呈している。規模は石槨部分内部が長軸64cm、短軸20cm、深度20cm、掘方は長軸113cm、短軸80cm、深度30cmを測る。

石槨は側面に径20cm前後、厚さ10cm前後の扁平な礫を使用し掘方と側面に使用した礫の間に径5～10cm大の垂角礫を充填している。天井蓋石には側面より大きな径40～50cm大の扁平な礫を使用している。使用している礫は輝石安山岩である。

埋没状態は泥流丘と同様な黄褐色土で埋没しているのが観察された。断面では層位的な堆積は観察できないが自然埋没と見られる。

本墓坑から遺物や人骨・歯などは全く出土しなかった。

本墓坑と同様な遺構は周辺遺跡の中では正観寺遺跡群G区で検出されている。



第24図 2区1号墓坑遺構図

(2) 土坑

土坑は1区と2区で各1基、3区3基、5区4基、6区49基、7区32基の計90基を検出した。4区調査区は1面であるⅢ層下の調査終了後Ⅳ層下、Ⅵ層下での遺構の有無を確認するため試掘調査を行ったが遺構を確認できなかったためⅣ層、Ⅵ層の掘削を行っていない。

6区・7区など比較的多くの土坑を検出した規格や配置などに規則性などは見られなかった。

形状は円形、楕円形、矩形、溝状、不整形などさ

まざまな形態を呈している。規模も大小さまざまである。

埋没土はⅣ層に類似した黒褐色土が主でHr-FPやAs-Cの含有量に違いが見られた。

遺物を出土した土坑は僅かで5区4号土坑、8号土坑、6区54号土坑、7区100号土坑、8区1号土坑から土師器、須恵器、礫などが各1点ずつ出土しただけである。

IV 遺構と遺物

1区1号土坑

本土坑は1区0D-45グリッドに位置している。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は比較的良好である。

形態は平面が楕円形に近く、断面は逆台形状を呈す。底面は東から西へ緩い傾斜が見られる。規模は径85×83cm、深度26cmを測る。

埋没状態はIV層に近い灰褐色土で短時間に埋没している。断面では単一の土層しか確認できなかったため埋没状態については明確にすることはできなかった。

遺物は底面から径10cm、厚さ10cmほどの垂角礫が1点出土している。

5区3号土坑

本土坑は5区中程、4Q-47グリッドに位置する。他遺構との重複は確認されなかった。残存状態は比較的良好である。

形態は平面が隅円方形、断面は逆台形状を呈す。底面はほぼ平坦である。規模は径105×100cm、深度25cmを測る。

埋没状態は北西側から土砂が流入した様子が観察され自然埋没である。

遺物は土師器杯が出土しているが小片のため図化するものではない。

5区8号土坑

本土坑は5区南部、4I-52グリッドに位置する。他遺構との重複はこの面では確認されなかったが上面の遺構である4区4号道西側溝（本道は4区から5区にかけて位置する）が土坑上部で重複する。新旧関係は本土坑の方が古い。残存状態は上部を道側溝で削平されているが比較的良好な状態である。

平面形態は長方形、断面は上半がやや開き下半は箱形を呈す。底面は平坦である。規模は長径96cm、短径68cmを測る。

埋没状態は残存部分ではレンズ状に近い様相が観察できることから自然埋没とみられる。

遺物は須恵器長頸壺の胴部片と見られる小片が出土しているが図化できるものではない。

6区8号土坑

6区調査区南部、5M-47グリッドに位置する。他遺構との重複は確認されなかった。残存状態は比較的良好である。

形態は平面がほぼ円形、断面は上下の差があまりない逆台形状を呈す。底面は平坦である。規模は径160×143cm、深度25cmを測る。

6区54号土坑

本土坑は6区北西部6S-46グリッドに位置する。他遺構との重複は6区23号溝と重複する。新旧関係は遺構確認時では本土坑の方が新しいと判断したが掘削後の状態では同時期の可能性も考えられた。残存状態は良好である。

形態は平面が南・西辺は直線的であるが北辺から東辺は丸みを帯びている。断面は側面が大きく開く逆台形を呈す。底面は若干凹凸が見られる。規模は長径155cm、短径141cm、深度39cmを測る。

埋没状態はIV層に近い灰褐色土で短時間に埋没している。断面では単一の土層しか確認できなかったため埋没状態については明確にすることはできなかった。

遺物は図化した土師器杯が底面から出土している。この出土遺物から本土坑は8世紀前半代に比定される。

3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物

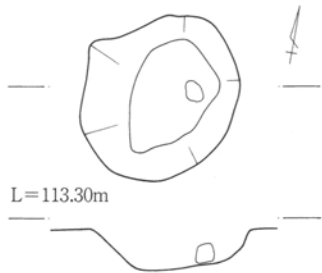
第5表 古墳時代後期～平安時代後期 土坑表

No 1

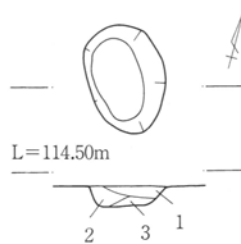
区	No	位置	重複		形態	規模(単位cm)			時期	摘要
			新	旧		長径	短径	深度		
1	1	0D-45			楕円形	85	83	26	古墳時代後期	土師器杯出土
2	17	0G-54			楕円形	50	40	10	古墳後期～平安	
3	22	1O-54			矩形	146	87	19	古墳後期～平安	
3	23	2P-54			楕円形	53	45	10	古墳後期～平安	
3	24	2P-54			矩形	65	43	7	古墳後期～平安	
5	3	4Q-47			隅円方形	105	100	25	古墳後期～平安	
5	4	5A-47			不定形	117	95	10	古墳後期～平安	
5	5	4G-50			楕円形	55	45	13	古墳後期～平安	
5	6	4N-50			楕円形	55	46	43	古墳後期～平安	
5	7	4K-50			楕円形	50	43	36	古墳後期～平安	
5	8	4I-52	4号道西側溝		長方形	96	68	52	古墳後期～平安	
6	5	5P・O-47			楕円形	48	40	7	古墳後期～平安	
6	6	5P-47			矩形	45	40	6	古墳後期～平安	
6	7	5P-47・48			楕円形	76	59	6	古墳後期～平安	
6	8	5N-46			円形	160	143	25	古墳後期～平安	
6	9	5O・P-47			不定形	265	82	6	古墳後期～平安	
6	10	5N-47			楕円形	275	92	5	古墳後期～平安	
6	11	5M-47			楕円形	155	110	8	古墳後期～平安	
6	12	5M-46・47			不定形	350	115	8	古墳後期～平安	
6	13	5O-46			楕円形	53	43	8	古墳後期～平安	
6	14	5P-48			円形	55	55	7	古墳後期～平安	
6	15	6F-45			不定形	444	99	25	古墳後期～平安	
6	16	6F-45			楕円形	97	62	6	古墳後期～平安	
6	17	7A-41			楕円形	51	32	3	古墳後期～平安	
6	18	7A-41			矩形	51	43	6	古墳後期～平安	
6	19	6T-41			楕円形	95	33	4	古墳後期～平安	
6	20	6T-42			楕円形	67	35	3	古墳後期～平安	
6	21	6C・D-44			不定形	231	79	8	古墳後期～平安	
6	22	6T-42			楕円形	34	27	21	古墳後期～平安	
6	23	6T-42			矩形	48	43	8	古墳後期～平安	
6	24	6T-43			楕円形	38	36	9	古墳後期～平安	
6	25	6T-43			楕円形	37	30	17	古墳後期～平安	
6	26	6T-44			矩形	35	27	18	古墳後期～平安	
6	27	6T-43			円形	34	30	30	古墳後期～平安	
6	28	6T-43			楕円形	35	29	23	古墳後期～平安	
6	29	6T-44			円形	37	33	21	古墳後期～平安	
6	30	6T-43			楕円形	34	29	24	古墳後期～平安	
6	31	6T-43			円形	29	27	9	古墳後期～平安	
6	32	6S-43			楕円形	36	25	15	古墳後期～平安	
6	33	6I-46			不定形	86	70	?	古墳後期～平安	
6	34	6J-46			矩形	90	87	10	古墳後期～平安	
6	35	6I-45			矩形	29	21	5	古墳後期～平安	
6	36	6I-46			矩形	45	31	17	古墳後期～平安	
6	37	6L-47			矩形	113	87	8	古墳後期～平安	
6	38	6H-46			長方形	235	83	14	古墳後期～平安	
6	39	6L-41			楕円形	41	27	5	古墳後期～平安	
6	40	6M-46			楕円形	33	27	2	古墳後期～平安	
6	41	6J-48			不定形	483	36	17	古墳後期～平安	
6	42	6I-48			不定形	260	43	30	古墳後期～平安	
6	51	6S-46			楕円形	135	59	31	古墳後期～平安	
6	54	6S-46		溝	矩形	155	141	39	8世紀前半代	
7	93	7S-45	No無土坑		楕円形	115	80	8	古墳後期～平安	
7	94	7S-44			楕円形	74	56	7	古墳後期～平安	
7	95	7S-44			円形	45	39	8	古墳後期～平安	

区	No	位置	重複		形態	規模(単位cm)			時期	摘要
			新	旧		長径	短径	深度		
7	96	7R-44			楕円形	102	68	5	古墳後期～平安	
7	97	7R-44			楕円形	70	46	6	古墳後期～平安	
7	98	7R-44			楕円形	104	43	5	古墳後期～平安	
7	99	7S-43			楕円形	83	36	21	古墳後期～平安	
7	100	7R-43			楕円形	93	43	14	古墳後期～平安	
7	101	7R-45			楕円形	110	76	10	古墳後期～平安	
7	102	7Q-44		11溝	楕円形	74	58	23	古墳後期～平安	
7	103	7P-45			楕円形	52	38	10	古墳後期～平安	
7	104	7P-44			楕円形	150	63	7	古墳後期～平安	
7	105	7P-44		13溝	楕円形	40	26	11	古墳後期～平安	
7	106	7P-47		18溝&?溝	円形	60	60	15	古墳後期～平安	
7	107	7N-46			楕円形	80	36	14	古墳後期～平安	
7	108	7L-45			楕円形	44	33	12	7世紀前半代	
7	109	7L-44			楕円形	58	25	25	古墳後期～平安	
7	110	7L-45		溝、Noなし	楕円形	257	139	7	古墳後期～平安	
7	111	7J-44			楕円形	242	166	11	古墳後期～平安	
7	112	7J-44			楕円形	207	158	10	古墳後期～平安	
7	113	7H-44			不整形	36	35	11	古墳後期～平安	
7	114	7H-44			円形	44	43	23	古墳後期～平安	
7	115	7F-45			不整形	48	32	14	古墳後期～平安	
7	116	7E-46			矩形	290	210	10	古墳後期～平安	
7	117	7C-45			円形	80	80	23	古墳後期～平安	
7	118	7C-45			矩形	100	84	15	古墳後期～平安	
7	119	7C-45			矩形	104	75	13	古墳後期～平安	
7	120	7B-45			矩形	85	65	9	古墳後期～平安	
7	121	7B-46			楕円形	140	109	6	古墳後期～平安	
7	122	7B-45			不整形	282	139	9	古墳後期～平安	
7	123	7L-47			楕円形	75	44	17	古墳後期～平安	
7	124	7L-45			円形	20	19		古墳後期～平安	

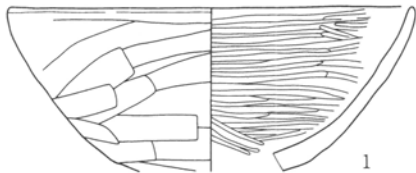
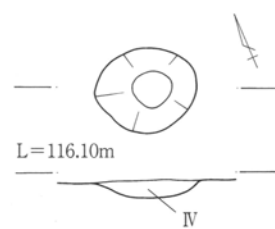
1区1号土坑



2区17号土坑

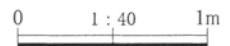


3区23号土坑



2区17号土坑

- 1 黒褐色土 VIIに近似。白色軽石粒2～3%含む。
- 2 黒褐色土 VIIに近似。白色軽石粒1%含む。
- 3 におい黄褐色土 VIIに近似。

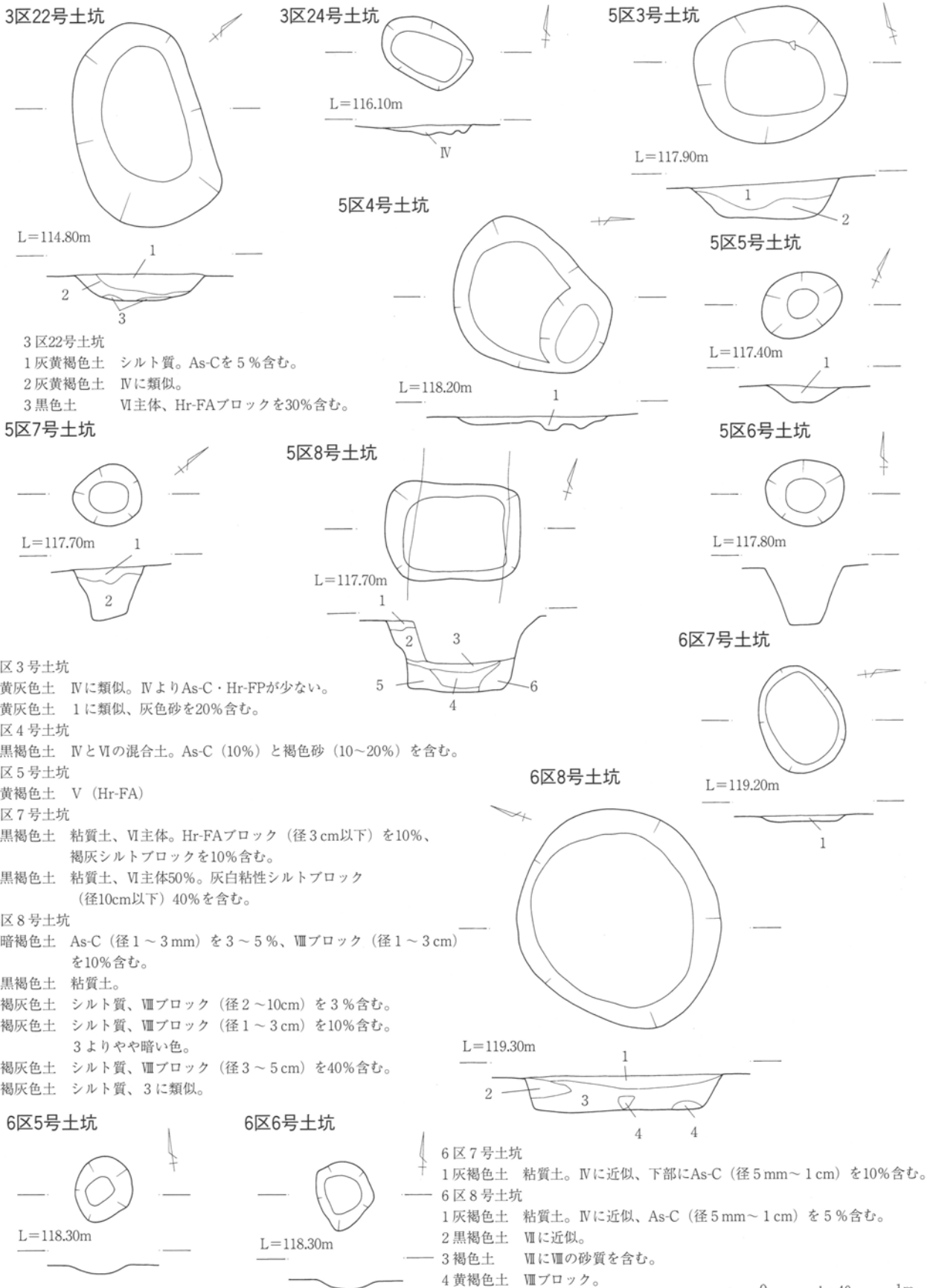


第25図 古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図(1)・遺物図

1区1号土坑 PL54

遺物No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	+10 1/5	口径15.8底径7.6 器高(7.6)	細砂粒/良好/ 赤褐色	口唇部横ナデ、口縁部から底部はヘラ削り。内面はヘラ磨き。	

3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物

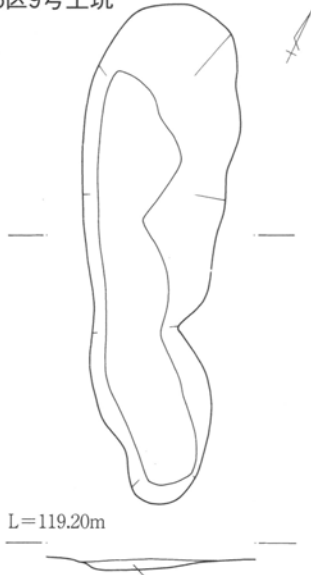


第26図 古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図(2)

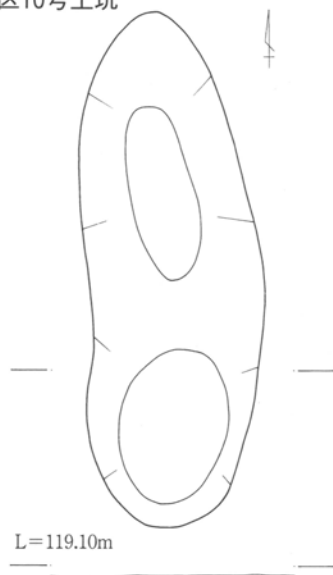
0 1:40 1m

IV 遺構と遺物

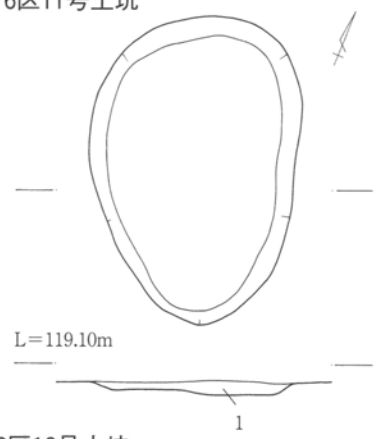
6区9号土坑



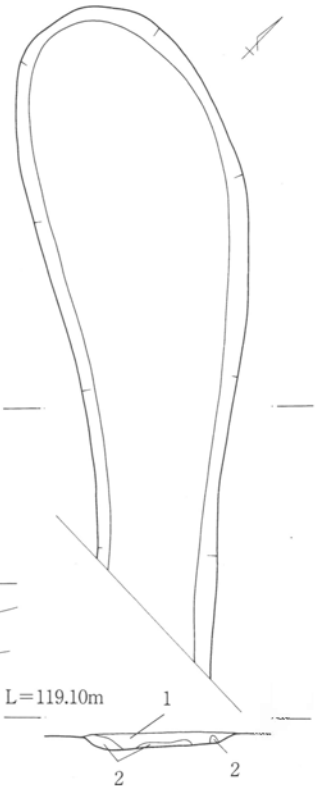
6区10号土坑



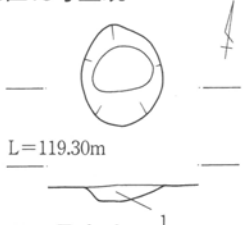
6区11号土坑



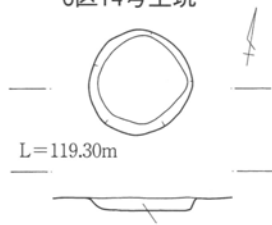
6区12号土坑



6区13号土坑



6区14号土坑



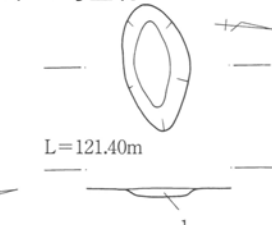
6区15号土坑



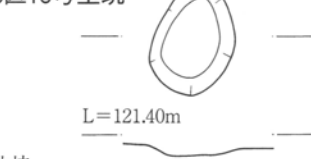
6区17号土坑



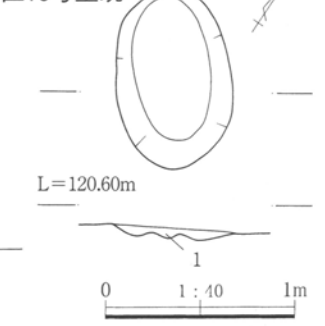
6区20号土坑



6区18号土坑



6区16号土坑



- 6区9号土坑
1 灰褐色土 粘質土。IVに近似、As-C（径5mm～1cm）を5%含む。
- 6区10号土坑
1 灰褐色土 粘質土。IVに近似、V（Hr-FA）ブロックを5%含む。
- 6区11・12号土坑
1 灰褐色土 粘質土。IVに近似、V（Hr-FA）ブロックを2～3%含む。
2 灰褐色土 IVに類似。As-Cを若干含む。
- 6区13号土坑
1 灰褐色土 粘質土。As-C（径5mm～1cm）を10～20%含む。
- 6区14号土坑
1 灰褐色土 粘質土。IVに近似、下部にAs-C（径5mm～1cm）を10%含む。
- 6区15号土坑
1 褐色土 As-Cを5～10%含む。
2 黒色土 As-C主体。
3 明褐色土 As-Cを2～3%含む。
- 6区17・20号土坑
1 褐色土 As-Cを5～10%含む。
- 6区16号土坑
1 褐色土 砂質土。

第27図 古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図(3)

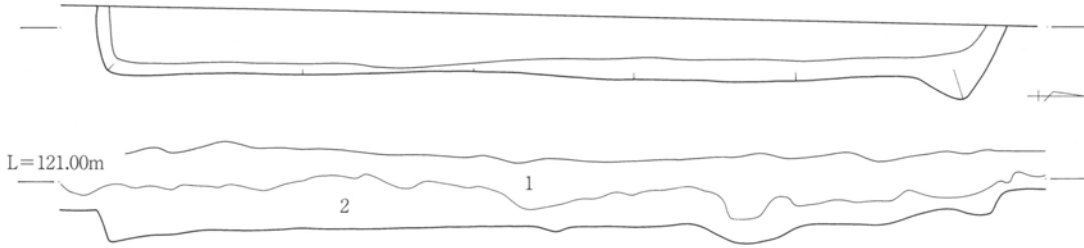
3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物



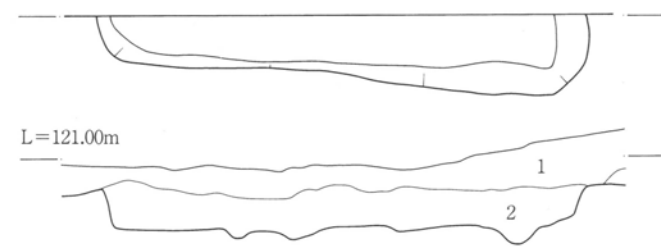
第28図 古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図(4)

IV 遺構と遺物

6区41号土坑

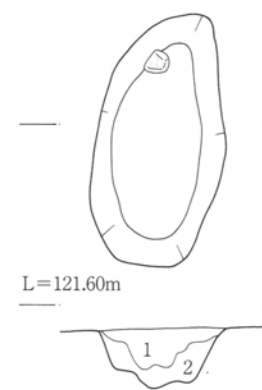


6区42号土坑

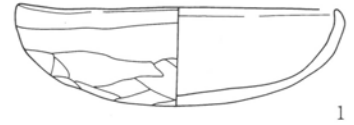
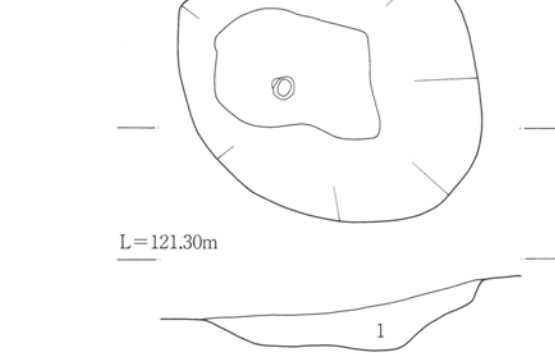


6区41号土坑
 1 褐色土 IIに類似。
 2 褐色土 IIに類似、1よりAs-Bを多く含む。
 6区42号土坑
 1 褐色土 IIに類似。
 2 褐色土 IIに類似、1よりAs-Bを多く含む。

6区51号土坑

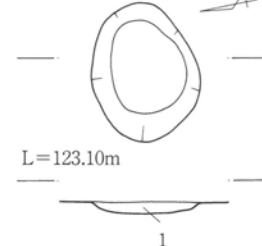


6区54号土坑

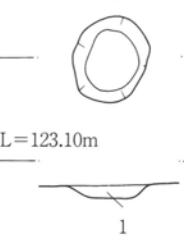


6区51号土坑
 1 黒褐色土 IIに類似、焼土ブロック、炭化物を10%含む。
 2 黒色土 IIに類似、土坑壁面、底面は焼土化。内部は炭化物が大部分を占めている。
 6区54号土坑
 1 灰褐色土 IV主体、As-C粒を含む。

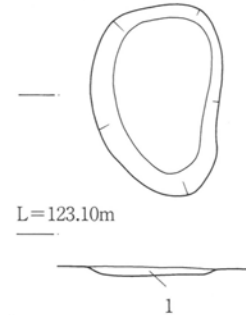
7区94号土坑



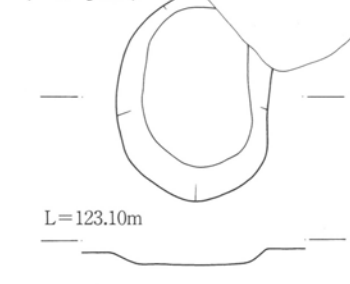
7区95号土坑



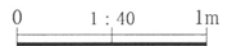
7区96号土坑



7区93号土坑



7区94号土坑
 1 暗褐色土 II・Hr-FAを混入、As-C(径2~4mm)を15%含む。
 7区95号土坑
 1 暗褐色土 褐色土・Hr-FAを混入、As-C(径2~4mm)を15%含む。
 7区96号土坑
 1 暗褐色土 褐色土・Hr-FAを混入、As-C(径2~4mm)を15%含む。

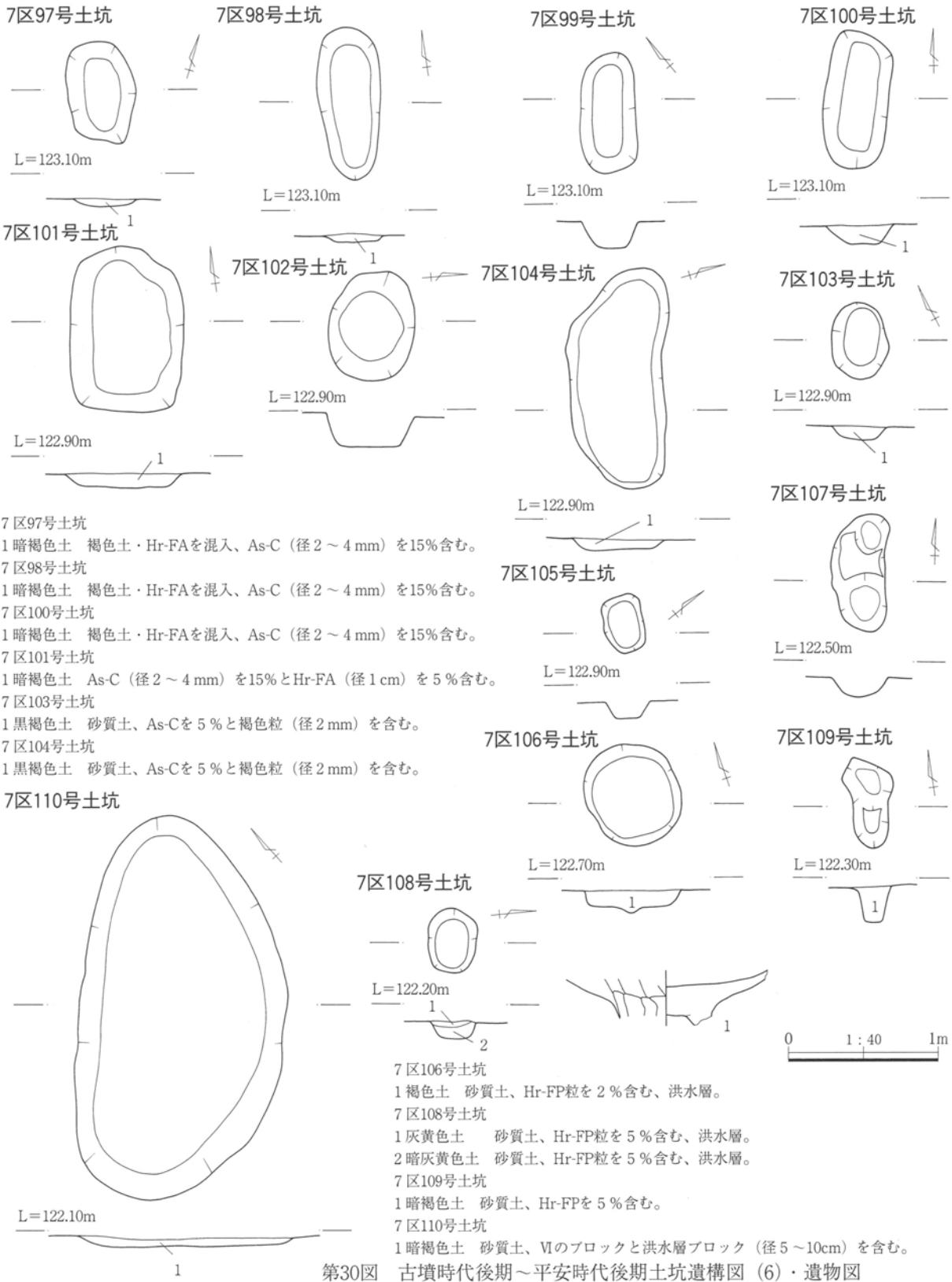


第29図 古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図(5)・遺物図

6区54号土坑 P L54

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没土中 完形	口径12.6器高4.0	細砂粒/良好/ 橙色	口縁部上位は横ナア、中位はナア、下位から底部はハラ削り。	

3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物

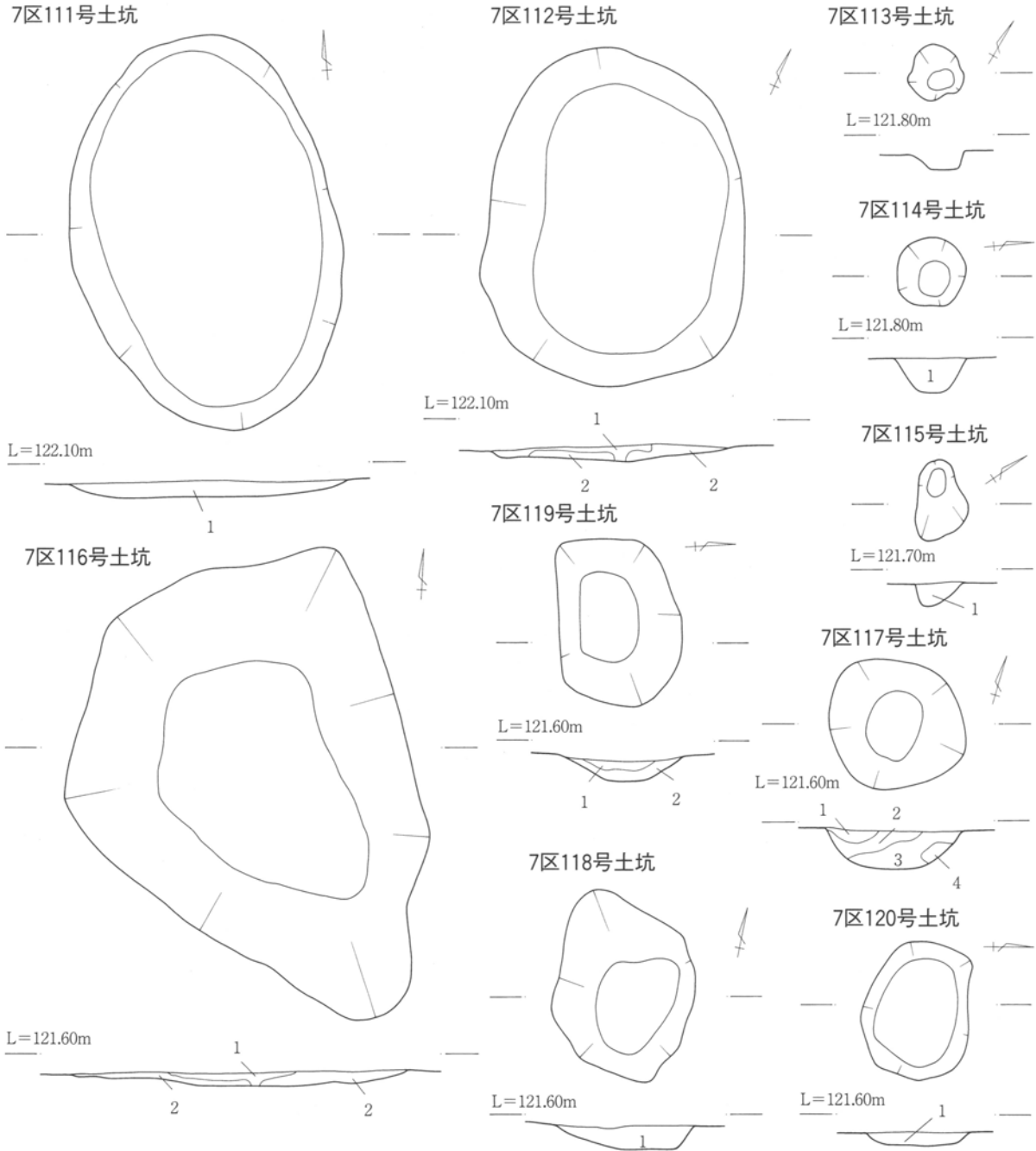


第30図 古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図(6)・遺物図

7区108号土坑 P L 54

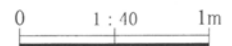
遺物 No	種類	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成整形の特徴	摘要
1	土師器 高坏	埋没土中 杯部底部片		細砂粒/良好/ にぶい橙色	脚部は貼付。杯部はヘラ削り。	

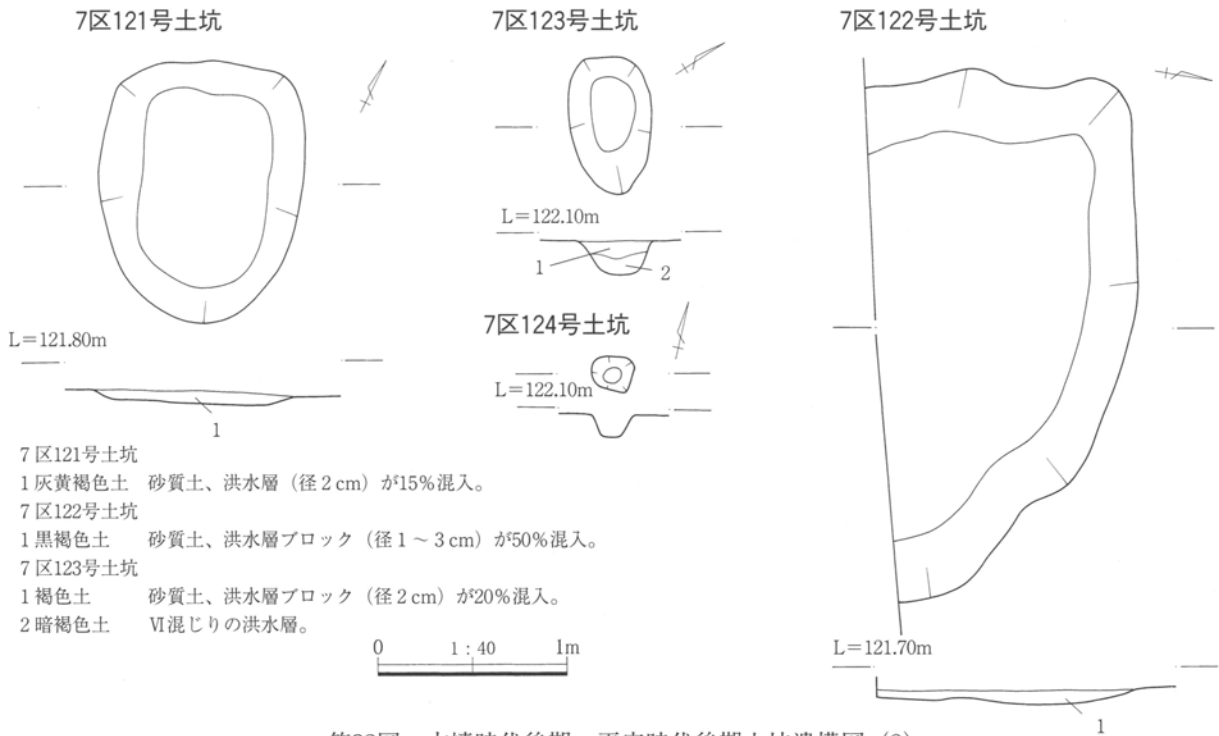
IV 遺構と遺物



- | | |
|---|--|
| <p>7区111号土坑
1 暗褐色土 シルト質、Hr-FPを15%含む。</p> <p>7区112号土坑
1 暗褐色土 砂質土、Hr-FPを5%含む、洪水層。
2 黒褐色土 砂質土、VIのブロック(径5cm)50%混入。</p> <p>7区114号土坑
1 暗褐色土 砂質土、Hr-FPを5%混入。</p> <p>7区115号土坑
1 暗褐色土 砂質土、Hr-FAを5%含む。</p> <p>7区116号土坑
1 暗褐色土 砂質土、Hr-FPを5%含む。
2 明褐色土 1に類似、洪水層ブロック(径5~10cm)混入。</p> | <p>7区117号土坑
1 暗褐色土 砂質土、洪水層にVIが少量混入。
2 黒褐色土 砂質土、As-B多く含む。
3 暗褐色土 砂質土、洪水層にVIが少量混入。
4 黒褐色土 砂質土、VIが多く混入。</p> <p>7区118号土坑
1 暗褐色土 洪水層、Hr-FAブロック(径5mm~1cm)を15%混入。</p> <p>7区119号土坑
1 黒褐色土 砂質土、VIが混入。
2 暗褐色土 砂質土、洪水層ブロック(径2~3cm)を30%含む。</p> <p>7区120号土坑
1 黒褐色土 砂質土、VIのブロック(径2~3mm)を15%混入。</p> |
|---|--|

第31図 古墳時代後期~平安時代後期土坑遺構図(7)





第32図 古墳時代後期～平安時代後期土坑遺構図 (8)

(3) 溝

古墳時代後期から平安時代にかけての溝（埋没河川を含む）は1区から8区にかけて40条を検出した。この時代の遺構確認面では2区で3面に及ぶ水田を検出しているように生産域としての土地利用が主であったようである。農地としての土地利用には水利を得るための水路としての溝は必要不可欠な施設である。この面では下層で検出したVI (As-C) 層下水田に配水する水路3区11号溝のようなものは見られない。これに対して1区4号溝、3区谷地、7区の多くの溝に見られるような自然河川跡が多く確認された。7区の溝は2区洪水層下水田を埋没させた洪水層と同様な土質が観察され平安時代前期に大規模な洪水による被災を受けたことが窺える。

2区の溝や3区谷地では水田への取水施設検出を試みたがこれらの施設はもう少し上流部に設置されたのか確認されなかった。

遺物は土師器、須恵器を中心に出土しているが器面の摩耗が見られ上流部に存在した集落より流されてきたものと推察される。

6区23号溝

本溝は6区北西部、6R・6S-46～48グリッドに位置する。他遺構との新旧関係は54号土坑と重複する。新旧関係は遺構確認時では本溝の方が古いと判断したが掘削時は同時期に存在した可能性も見られた。残存状態は西側が調査区外に延びるため全貌は不明である。

形状は平面がほぼ直線的、断面は逆台形に近い。底面は緩い弧状を呈する。規模は調査区内の全長12m、幅で0.63～0.75m、深度0.21～0.30mを測る。

埋没状態は断面では洪水層しか観察できないことから短期間に埋没している。

遺物は出土していない。

本溝の確認面はVI層上面であるがこの調査区ではVI層上部を洪水層が覆っていることから比較的当時の地表面に近い状態であると見られる。23号溝はVI層上面での段に近い地形に沿うように設けられている。こうした状況から54号土坑付近での湧水を西側の低地に存在するであろう水田への水路と想定される。

IV 遺構と遺物

3区1号埋没河川

埋没河川は3区調査区の北西から東南にかけて位置する。遺構との重複は確認されなかった。残存状態は良好な状態である。

形状は調査区内だけでも蛇行が見られる。規模は幅12~16m、深度は1.5~2mである。

埋没状態は最下層にV(Hr-FA)層の堆積が残存し、その上部を洪水堆積土が覆っている。本埋没河川が河川としての機能を失ったのはHr-FAが降下す

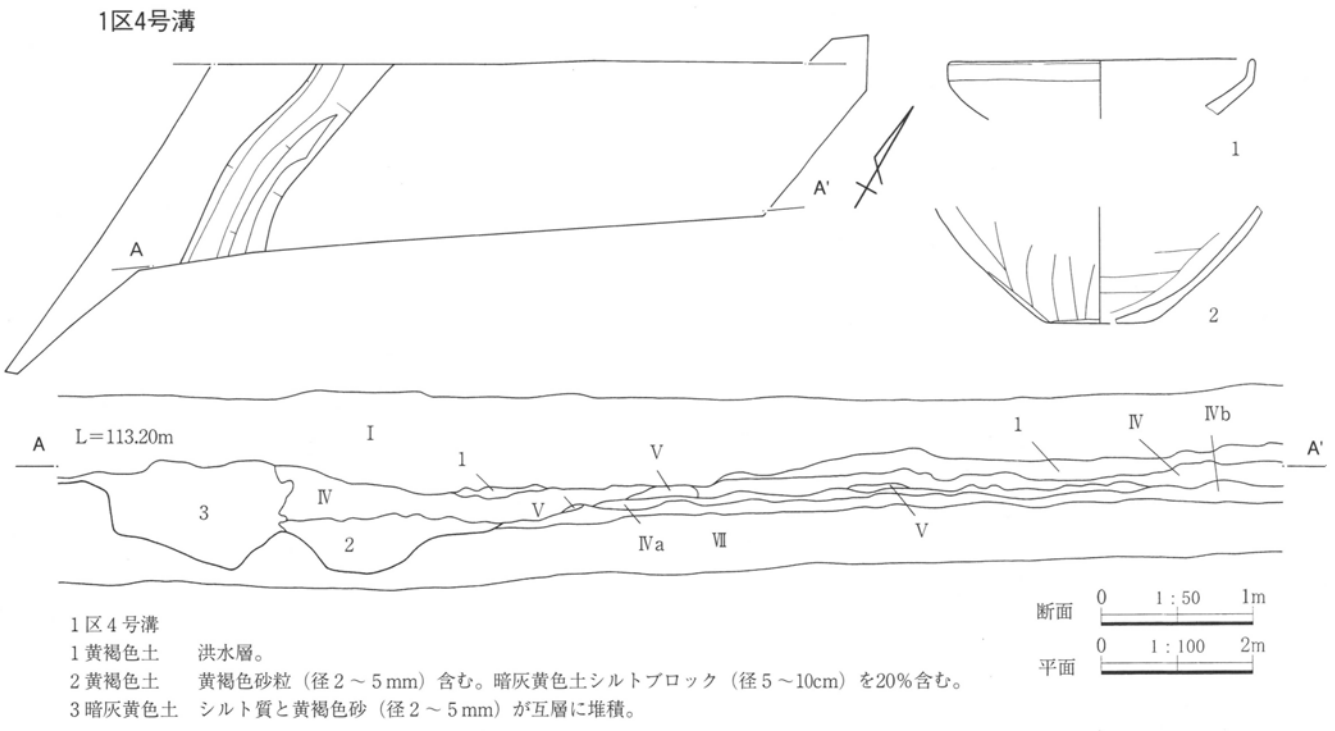
る6C。初頭と考えられるが、その後も低地として痕跡が残っていたようである。このことは11C。後半代に開田されたⅢ(As-B)層水田の水田区画で本埋没河川の部分だけ周囲の区画と方位が異なることから見ることができる。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器などが出土しているが、多くは土師器杯、甕でそれに若干の須恵器杯、弥生土器甕が出土している。

第6表 古墳時代後期~平安時代後期 溝

区	No	位置			重複		形態	規模(単位cm)			摘要
		東・南端	屈折	西・北端	新	旧		上幅	底面幅	深度	
1	6	0F-41		0G-41				42		34	
1	4	0H-38		0I-38	5溝		逆台形	70~100	20~30	14~24	奈良時代河川
2	14	0J-39		0K-38			逆台形	34~52	16~21	19~31	
2	15	0J-38		0L-38			逆台形	132~172	34~38	45~52	奈良時代河川
2	16	0K-37		0L-37			逆台形	362~376	21~58	57~61	
2	17	0G-54		0G-55			半円形	26~42	12~24	12~27	
2	18	1F-53		1F-55			逆台形	32~41	16~19	42~47	
5	16	4E-52		4M-53	5井戸		逆台形	150~172	43~84	38~82	
6	6	6B-45		6C-44			逆台形	35~60	8~25	11~17	
6	7	6B-44					逆台形	46~53	22~43	31~33	
6	8	6L-48		6D-44	15土坑		逆台形	24~43	10~24	8~60	
6	9	5N-49		5M-47			逆台形	31~44	22~25	6	
6	11	7B-38		7A-38			逆台形	110~120	24~36	3~28	
6	12	7B-39		7A-38			逆台形	140~152	70~116	17~26	
6	13	7A-39					逆台形	32~85	15~66	10~16	
6	14	7A-39					逆台形	24~35	10~11	10	
6	15	7A-40					逆台形	115~125	46~61	47	
6	16	7A-40					逆台形	42~48	15~17	30~32	
6	23	6S-46		6Q-48	54土坑		逆台形	63~75	17~30	22~23	
7	7	7T-45		7S-43			逆台形	340~510	110~190	110~118	奈良時代河川
7	8	7T-47		7M-43			逆台形	313~164	53~14	94~96	奈良時代河川
7	9	7T-47		7S-46			逆台形	80~130	25~56	27~50	
7	10	7Q-45		7O-43			逆台形	80~115	18~53	24~39	
7	11	7S-46		7Q-43	102土坑		逆台形	29~74	10~24	1~24	
7	12	7R-47		7O-45	17溝		半円形	23~50	10~30	5~32	
7	13	7P-44		7O-43			V字型	24~47	10~30	6~12	
7	14	7O-44		7N-43			逆台形	60~64	35~41	6~13	
7	15	7P-44		7O-44			半円形	14~30	7~10	3~9	
7	16	7L-43	7N-45	7O-45		21溝	V字型	35~68	12~20	13~42	
7	17	7P-45		7N-47	8・20溝	12・18・21溝	V字型	26~37	10~15	10~24	
7	18	7N-45		7O-47			逆台形	40~105	8~52	3~4	
7	19	7K-43		7N-46	新旧不明22		逆台形	28~62	10~48	11~15	
7	20	7J-43		7N-47	110土坑	17溝	逆台形	30~90	14~50	4~10	
7	21	7L-43		7P-47	16溝		逆台形	30~110	20~55	2~8	
7	22	7K-44		7K-44	新旧不明19		逆台形	58	38	14	
7	23	7C-48		7D-45			V字型	37~76	10~15	2~27	奈良時代
8	6	8C-47		8B-46	7溝		逆台形	92~143	40~100	30~33	奈良時代
8	7	8B-47		8B-46		6溝	V字型	95	55	35	奈良時代
8	8	8B-44		8C-46			V字型	54~62	12~18	29~46	奈良時代

0J-38

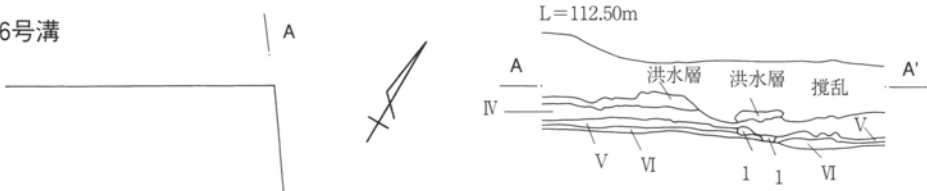


第33図 1区4号溝遺構図・遺物図

1区4号溝

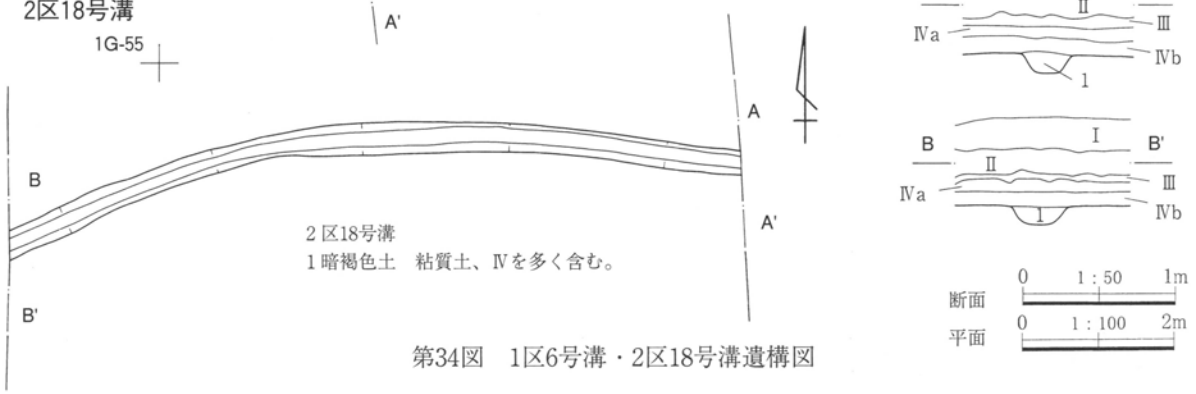
遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口径12.0	細砂粒/良好/ にぶい赤褐色	口縁部上半横ナデ、下半ヘラ削りであるが単位不明。	
2	土師器 甕	埋没土中 底部片	底径4.0	細砂粒/良好/ 橙色	胴部下位から底部はヘラ削り、内面はヘラナデ。	

1区6号溝



1区6号溝
1 黒褐色土 粘質土、As-Cを2%含む。

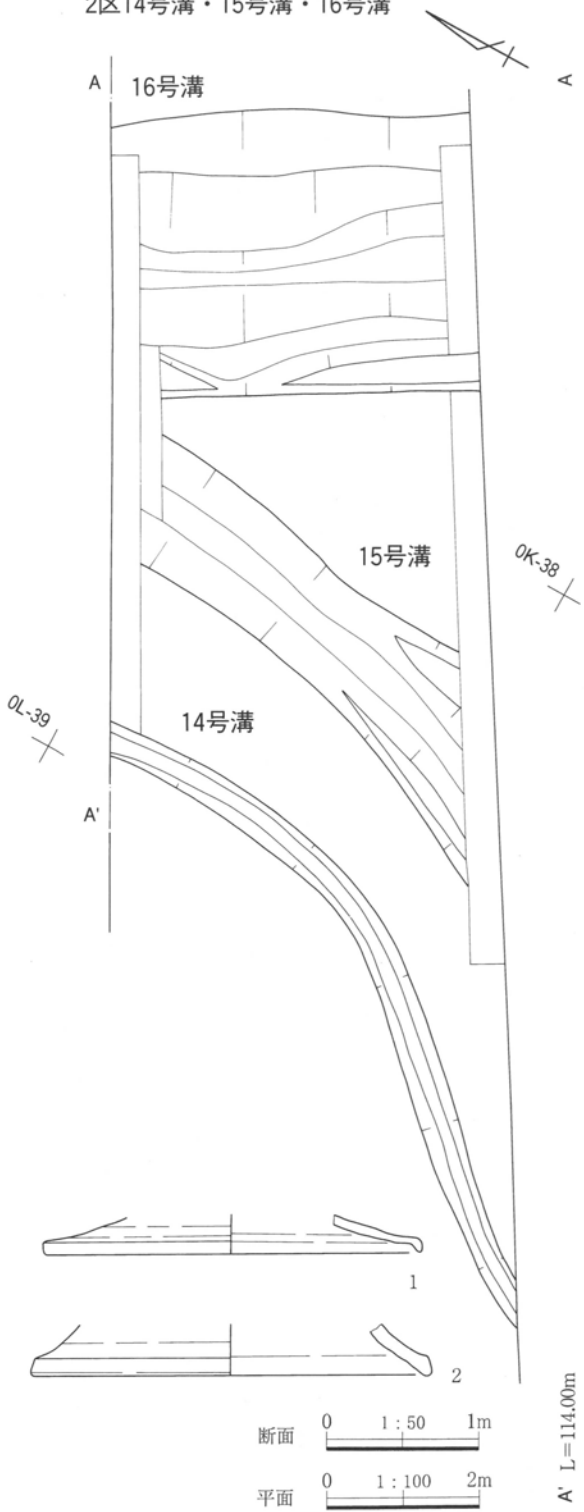
2区18号溝



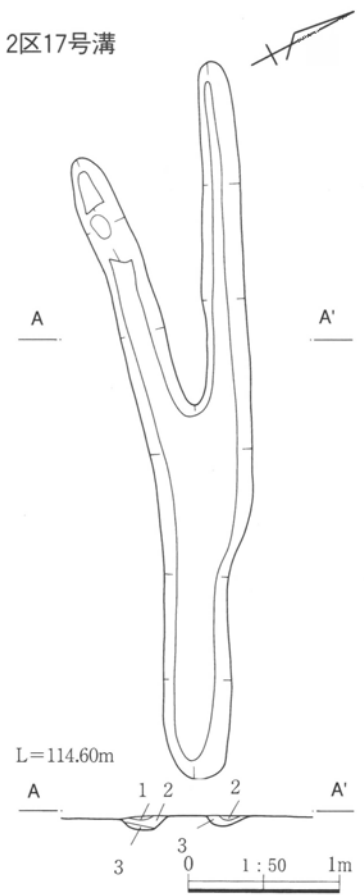
第34図 1区6号溝・2区18号溝遺構図

IV 遺構と遺物

2区14号溝・15号溝・16号溝



2区17号溝



2区14・15・16号溝

- 1 褐灰色土 シルト質、白色軽石(径2~5mm)を含む。
- 2 褐灰色土 シルト質。
- 3 灰黄褐色土 シルト質。
- 4 明黄褐色土 シルト質。
- 5 灰黄褐色土 砂質土。
- 6 灰黄褐色土 砂質土。
- 7 灰黄褐色土 シルト質。
- 8 灰黄褐色土 砂質土。
- 9 灰黄褐色土 シルト質。
- 10 灰黄褐色土 砂質土。
- 11 黒褐色土
- 12 灰黄色土 砂質土。
- 13 褐灰色土 粘質土。白色軽石(径5mm)を5%含む。
- 14 灰黄色土 砂質土。
- 15 灰黄色土 シルト質、5に類似。

2区17号溝

- 1 におい黄褐色土 VIIとロ-ムの混合土。白色軽石粒1%含む。
- 2 褐色土 VIIとロ-ムの混合土。白色軽石粒1%含む。
1より黄色味が強い。
- 3 褐色土 VIIとロ-ムの混合土。17土坑の3と類似。

第35図 2区14号溝・15号溝・16号溝・17号溝遺構図・遺物図

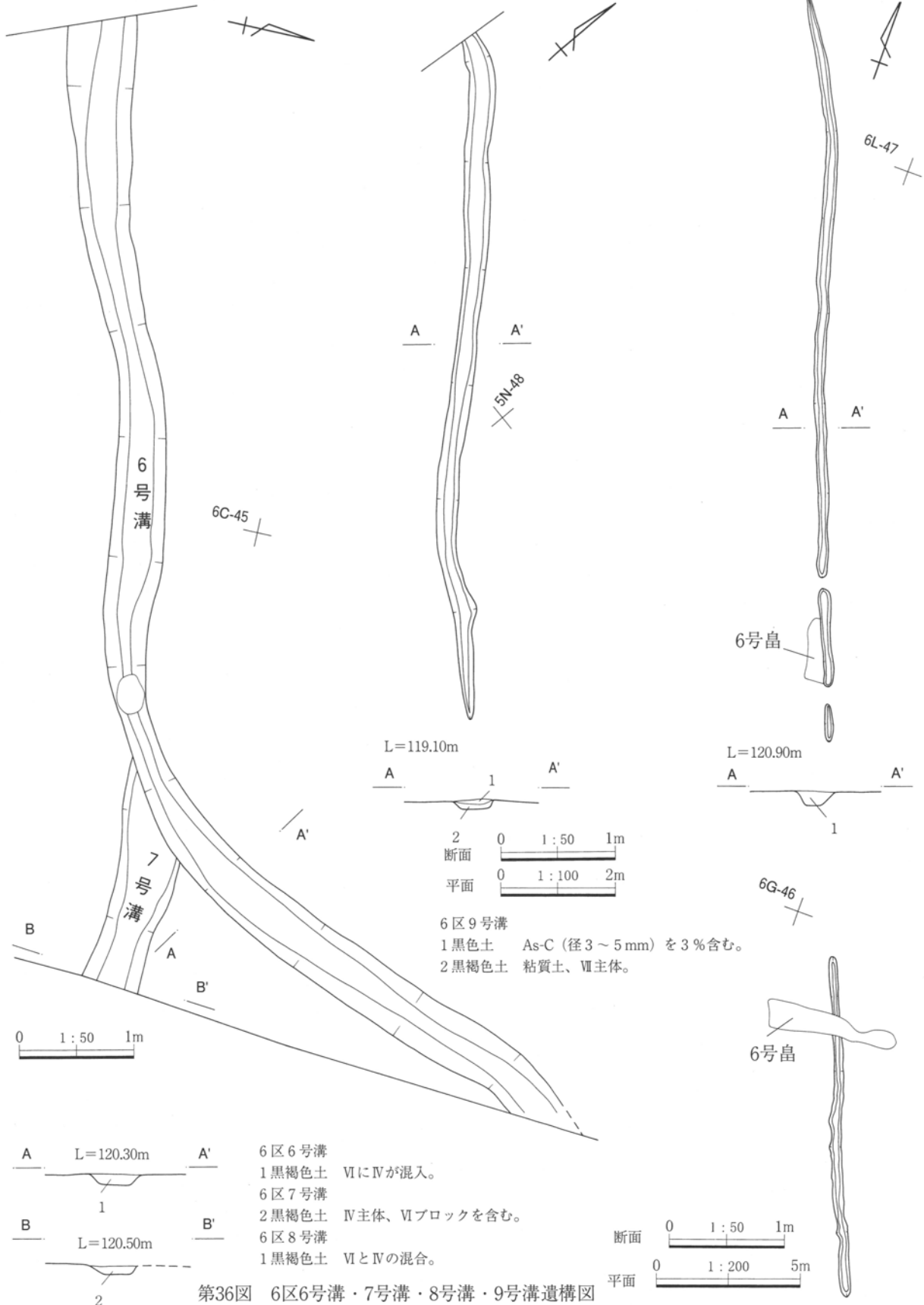
2区15号溝

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯蓋	埋没土中 口縁部片	口径14.8	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回りか。	
2	須恵器 器種不明	埋没土中 脚部片	脚径15.8	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回りか。	

6区6号溝・7号溝

6区9号溝

6区8号溝

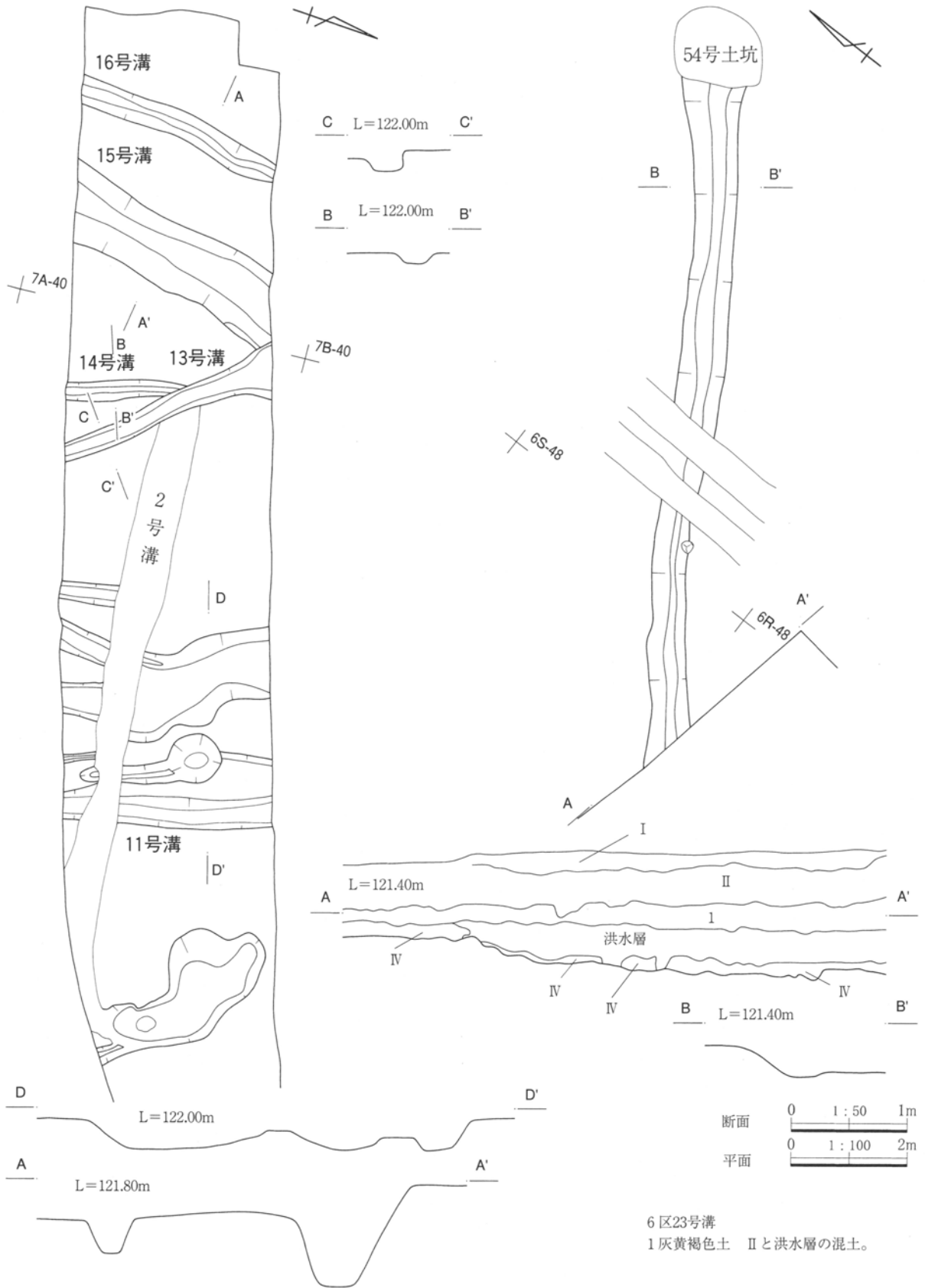


第36図 6区6号溝・7号溝・8号溝・9号溝遺構図

IV 遺構と遺物

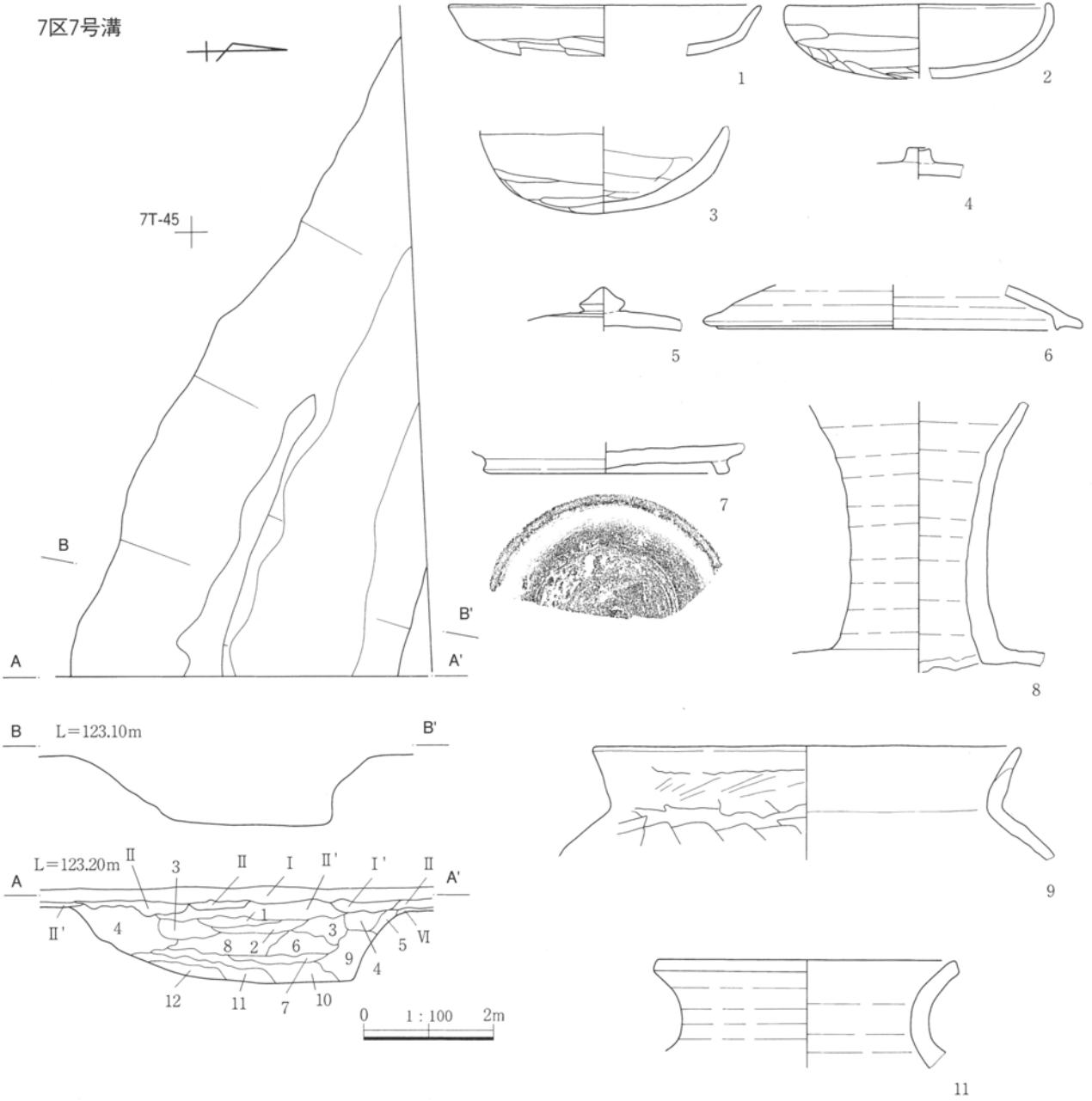
6区11号溝・13号溝・14号溝・15号溝・16号溝

6区23号溝



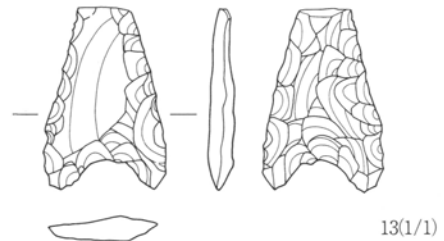
第37図 6区11号溝・13号溝・14号溝・15号溝・16号溝・23号溝遺構図

3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物

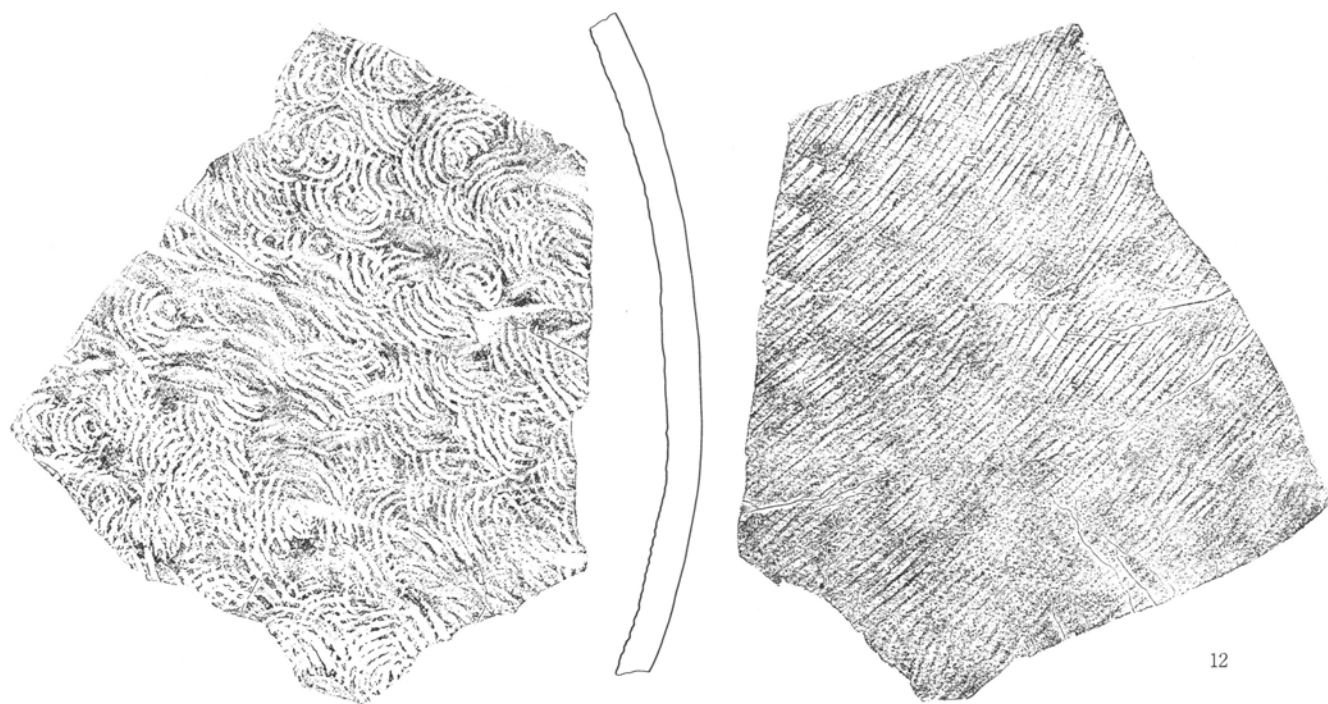


7区7号溝

- | | |
|-----------|----------------------------|
| 1 黄褐色土 | シルト質、挟雑物なし。 |
| 2 暗灰黄色土 | シルト質、円礫（径3～10mm）を5%含む。 |
| 3 暗灰黄色土 | 2に類似、1のブロックを20%含む。 |
| 4 黄灰色砂 | 黄色砂と円礫（径5～20mm）の混合土。 |
| 5 暗灰黄色土 | 3と同様。円礫を含まない。 |
| 6 暗褐色土 | 円礫（径3～10mm）を5%含む。 |
| 7 暗褐色土 | 6と同様、1のブロックを10%含む。 |
| 8 暗オリーブ色土 | シルト質、1のブロックを30%含む。 |
| 9 暗オリーブ色土 | 8に類似、円礫（径5～20mm）を30～40%含む。 |
| 10 黒褐色土 | シルト質、Ⅶのブロックを20%含む。 |
| 11 灰色砂礫土 | 砂礫（径10～30mm）主体。 |
| 12 Ⅶの崩落土。 | |



第38図 7区7号溝遺構図・遺物図（1）



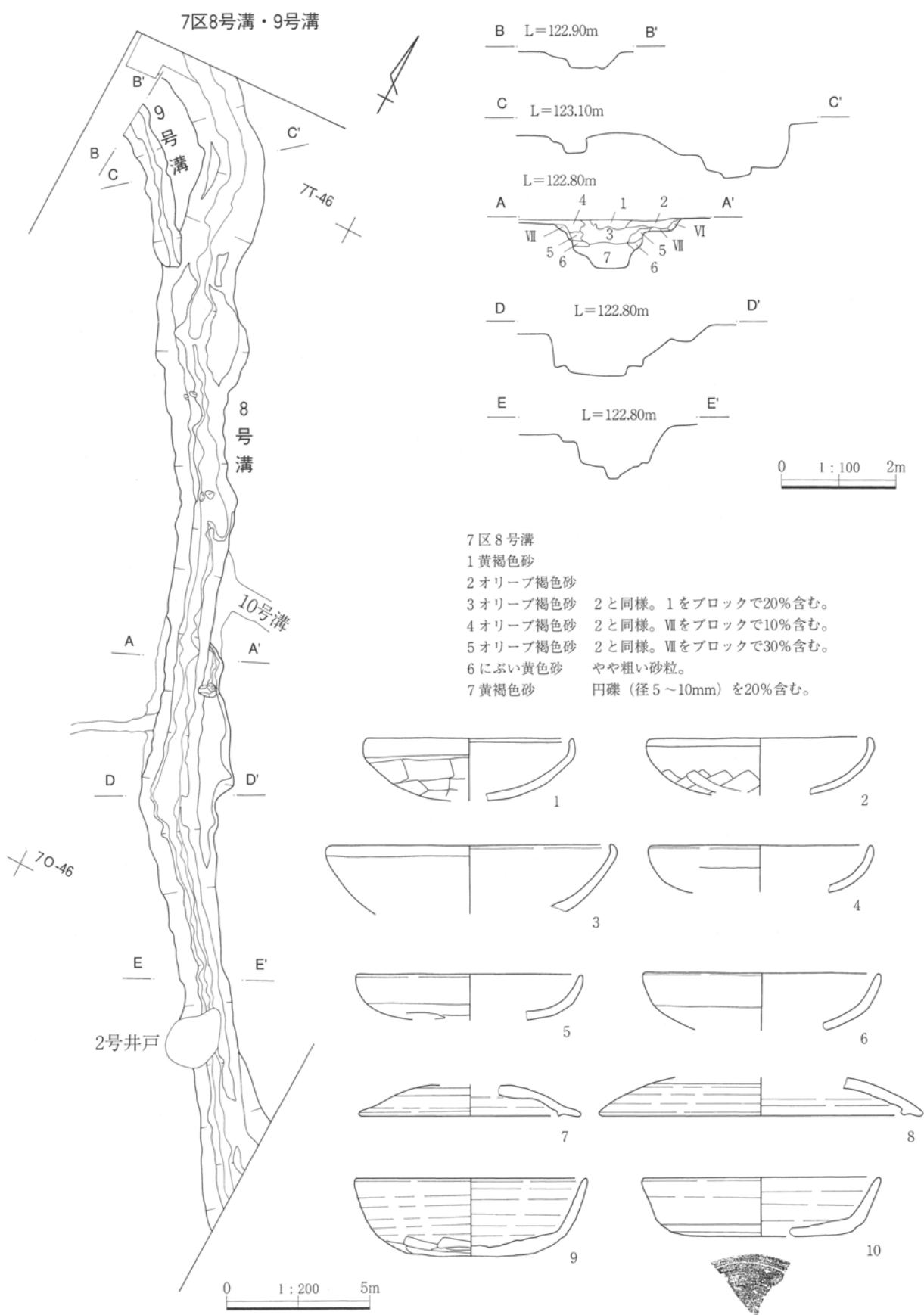
第39図 7区7号溝・遺物図(2)

12

7区7号溝 P L 54・55

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没土中 1/8	口径14.4稜径13.0	細砂粒/良好/ にぶい橙色	口縁部横ナデ、稜下から底部にかけてはヘラ削り。	
2	土師器 杯	埋没土中 1/4	口径12.0最大径 12.4	細砂粒/良好/ にぶい橙色	口縁部上半横ナデ、下半から底部にかけてはヘラ削り。	
3	土師器 杯	埋没土中 口唇部を欠く		粗砂粒/良好/ 明赤褐色	口唇部横ナデ、口縁部上半ナデ、下半から底部にかけてはヘラ削り。	
4	須恵器 杯蓋	埋没土中 天井部片	摘径1.0	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転方向不明。摘貼付。	
5	須恵器 杯蓋	埋没土中 天井部片	摘径2.1	粗砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。摘は貼付。天井部中程は回転ヘラ削り。	
6	須恵器 杯蓋	埋没土中 口縁部片	口径19.2	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回りか。器面は摩耗が激しい。	
7	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底径12.0台径10.6	粗砂粒・白色粒/ 還元焰/灰白色	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。底部は回転ヘラ削り。器面の摩耗が激しい。	
8	須恵器 長頸壺	埋没土中 頸部	頸径8.0	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。内面の頸部と胴部の接合付近に指押さえ痕が残る。	
9	土師器 甕	埋没土中 口縁~胴部	口径19.6	細砂粒/良好/ 橙色	口縁部に輪積痕が残る。胴部ヘラ削りで頸部にヘラが当たった痕が見られる。	
10	土師器 甕	埋没土中 胴部片		細砂粒/良好/ にぶい褐色	胴部内面に漆が厚く付着。	漆入れとして使用か。
11	須恵器 甕	埋没土中 口縁部片	口径13.6	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回りか。	
12	須恵器 甕	埋没土中 胴部片		粗砂粒/還元焰/ 灰黄褐色	外面平行叩き、内面同心円状アテ具痕が残る。	
13	石器 打製石鏃	埋没土中 先端部欠損	長(2.4)幅1.6 厚0.3重1.45	黑色頁岩		

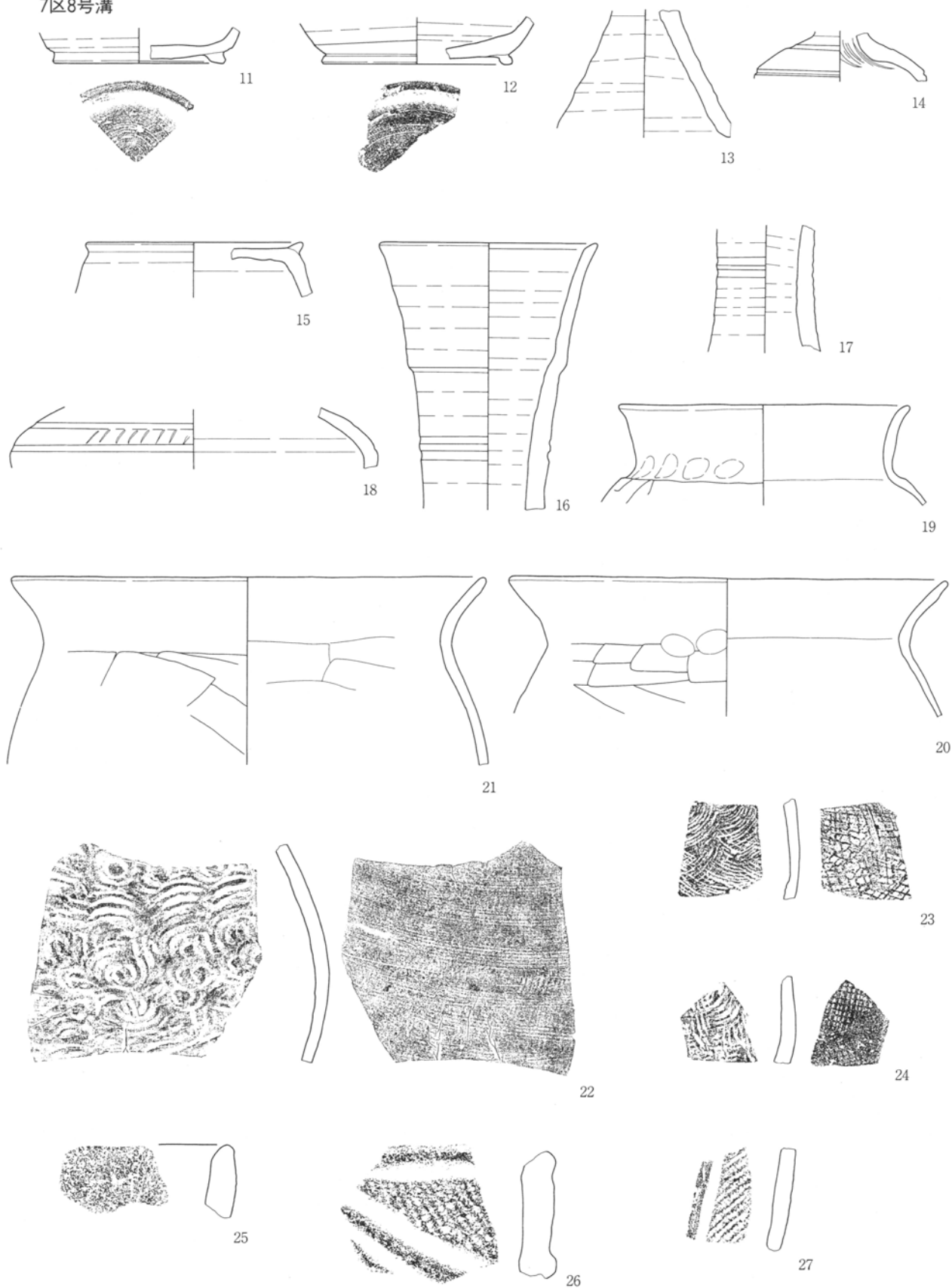
3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物



第40図 7区8号溝・9号溝遺構図・遺物図(1)

IV 遺構と遺物

7区8号溝



第41図 7区8号溝遺物図(2)

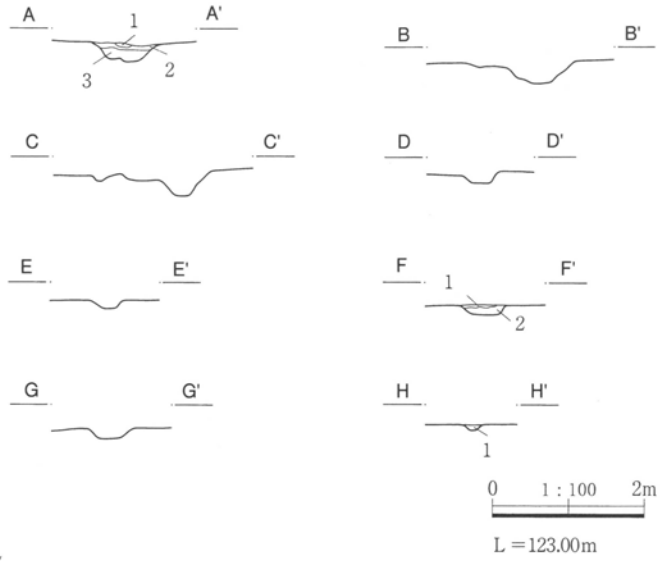
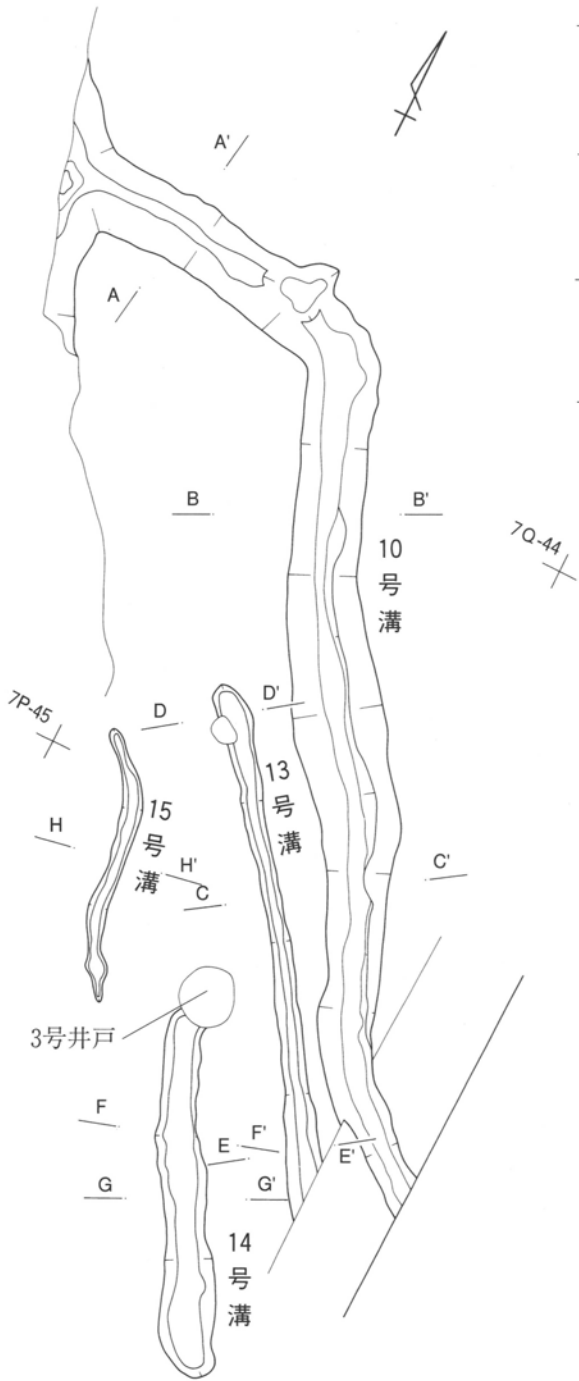
3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物

7区8号溝 P L55

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没土中 1/4	口径10.8器高3.3	細砂粒/良好/ にぶい橙色	口縁部上位は横ナデ、下位から底部はヘラ削り。	
2	土師器 杯	埋没土中 1/4	口径11.2	細砂粒/良好/ 橙色	口唇部は横ナデ、口縁部上半はナデ、下半から底部にかけてはヘラ削り。	
3	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口径14.8	微砂粒/軟質/ 橙色	口唇部は横ナデ、口縁部はヘラ削りだが摩耗のため単位不明。	
4	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口径11.4	細砂粒/良好/ 橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部にかけてはヘラ削り。	内面に煤付着。
5	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口径11.8	細砂粒/良好/ 橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半はナデ、底部はヘラ削り。	
6	土師器 杯	埋没土中 口縁部片	口径12.2	細砂粒/良好/ 橙色	口縁部は上半が横ナデ、下半から底部にかけてはヘラ削り。	
7	須恵器 杯蓋	埋没土中 口縁部片	口径11.6	微砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回りか。天井部には厚く自然釉が付着。	
8	須恵器 杯蓋	埋没土中 口縁部片	口径16.8	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回りか。天井部中程は回転ヘラ削り。	
9	須恵器 杯	埋没土中 1/2	口径12.0底径6.7 器高4.1	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削り。	
10	須恵器 杯	埋没土中 1/8	口径12.2底径8.0 器高3.1	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。	
11	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底径9.8	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。底部は回転ヘラ削り。	
12	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底径9.6	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。底部は回転ヘラ削り。口縁部最下部は回転ヘラ削り。	
13	須恵器 高盤	埋没土中 脚部片		粗砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。	
14	須恵器 ハソウ	埋没土中 胴部上半片		細砂粒/還元焰/ 褐灰色	ロクロ整形、胴部に2条の凹線が巡る。内面頸部は絞り込まれている。	
15	須恵器 短頸壺蓋	埋没土中 1/8	鐔径11.4	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回りか。鐔は貼付。	
16	須恵器 長頸壺	埋没土下層 口縁～頸部	口径11.4頸径6.4	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。中程に段をもち、下半中程に凹線が2条巡る。	
17	須恵器 長頸壺	埋没土中 頸部片		細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回りか。中程に凹線が2条巡る。	
18	須恵器 長頸壺	埋没土中 胴部上位片	胴最大径19.4	細砂粒/還元焰/ 褐灰色	ロクロ整形、回転右回りか。肩部分凹線区画内にヘラ先による指突文。	
19	土師器 甕	埋没土中 口縁部片	口径15.2	細砂粒/良好/ にぶい褐色	口縁部横ナデ、頸部に指頭痕が残る、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
20	土師器 甕	埋没土中 口縁～胴部	口径22.8	細砂粒/良好/ にぶい褐色	口縁部横ナデ、頸部に指頭痕が残る、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
21	土師器 甕	埋没土中 口縁～胴部	口径24.6	細砂粒/良好/ にぶい橙色	口縁部横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
22	須恵器 甕	埋没土中 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰色	外面は回転ヘラ削り、僅かに叩き痕が見られる。内面は同心円状アテ具痕が残る。	
23	須恵器 甕	埋没土中 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰色	外面は格子状叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
24	須恵器 甕	埋没土中 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰色	外面は格子状叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
25	縄文土器 深鉢	埋没土中 口縁部片		細砂粒/良好/ にぶい黄橙色	外面ヘラ削りであるが摩耗が激しく単位などは不明。	
26	縄文土器 深鉢	埋没土中 胴部片		粗砂粒/良好/ 黄褐色	隆帯区画内に縄文R L施文。全体的に摩耗が激しい。	
27	縄文土器 深鉢	埋没土中 胴部片		細砂粒/良好/ にぶい黄橙色	沈線区画内に縄文R L施文。	

IV 遺構と遺物

7区10号溝・13号溝・14号溝・15号溝



7区10号溝

- 1 灰黄褐色土 砂質土、Ⅳaのような川砂、褐色土混入。
- 2 黒褐色土 砂質土。
- 3 黒褐色土 砂質土、石混じりの川砂、褐灰色土混入。

7区14号溝

- 1 黒褐色土 砂質土、Ⅵ混入。
- 2 褐色土 Ⅵブロック（径2cm）を15%含む。

7区15号溝

- 1 黒褐色土 砂質土、Ⅵ混入。



第42図 7区10号溝・13号溝・14号溝・15号溝遺構図・遺物図

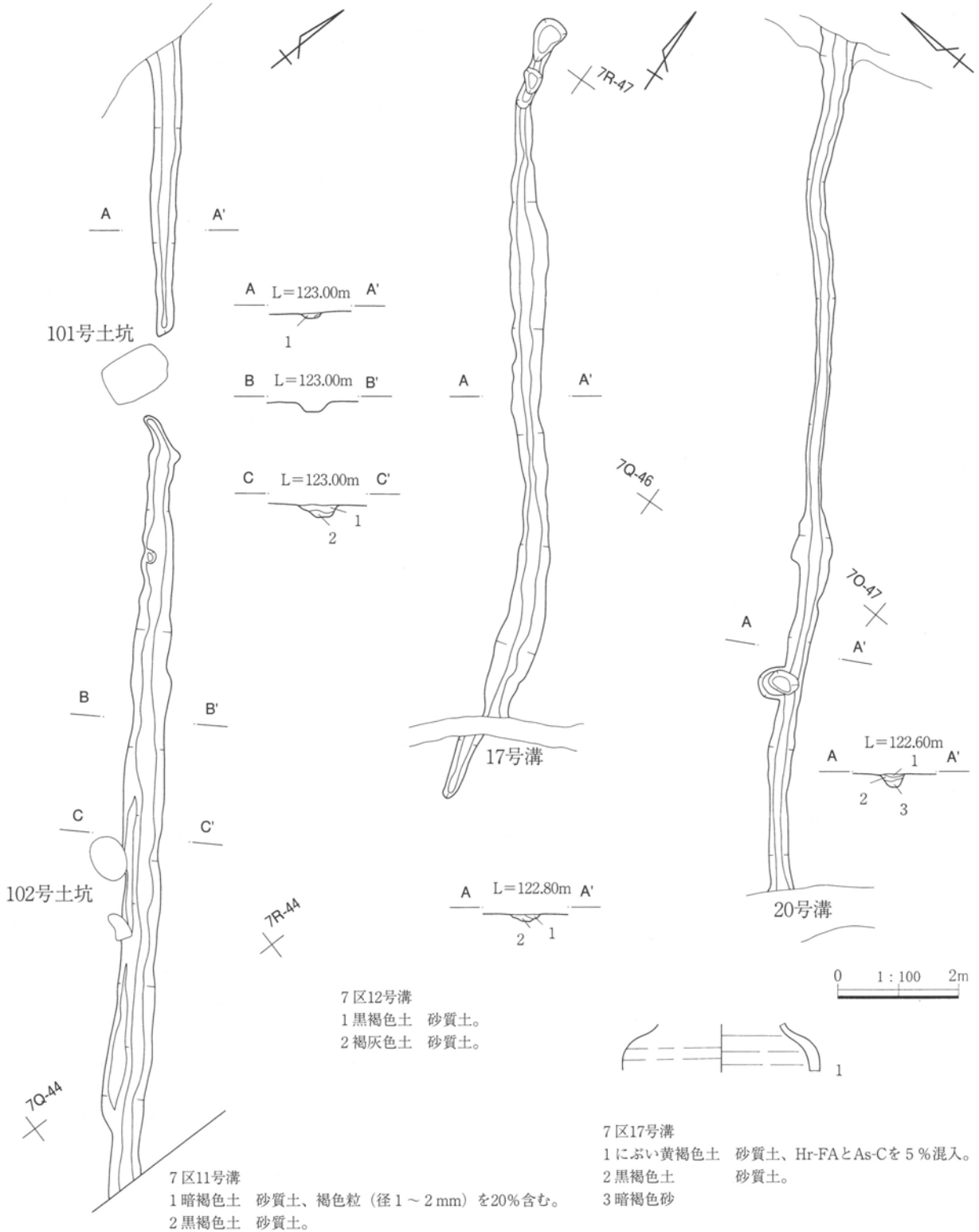
7区10号溝

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底径7.0	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転糸切り。外面に厚く自然釉が付着。	

7区14号溝 P L55

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 甕	埋没土中 口縁部片	口径21.0	粗砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転方向不明。	

7区11号溝・12号溝・17号溝



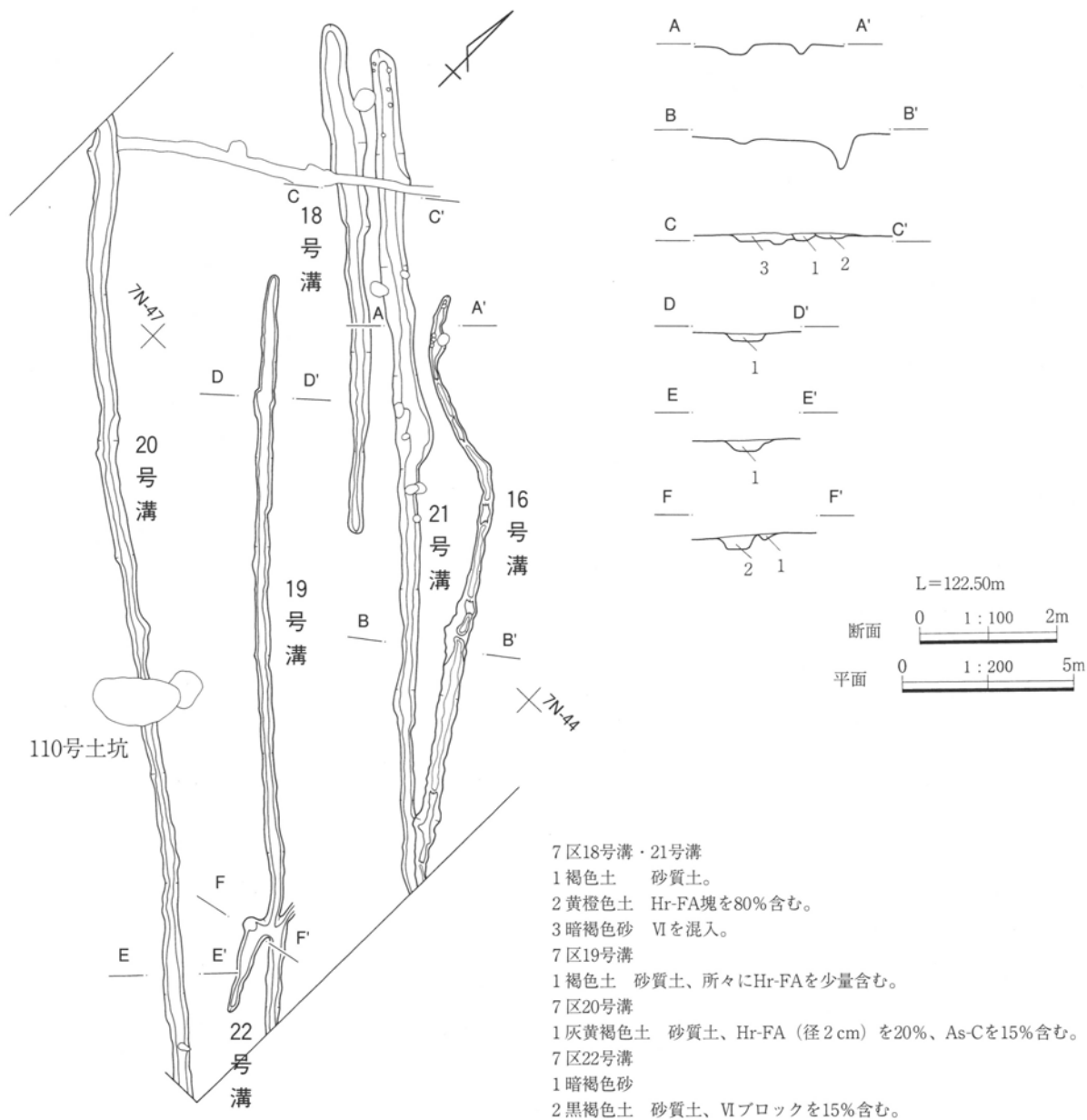
第43図 7区11号溝・12号溝・17号溝遺構図・遺物図

7区17号溝

遺物 No	種類 種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 短頸壺	埋没土中 胴部上半		細砂粒/還元焰/ 灰色	小型薬壺型短頸壺。ロクロ整形、回転右回りか。	

IV 遺構と遺物

7区16号溝・18号溝・19号溝・20号溝・21号溝・22号溝

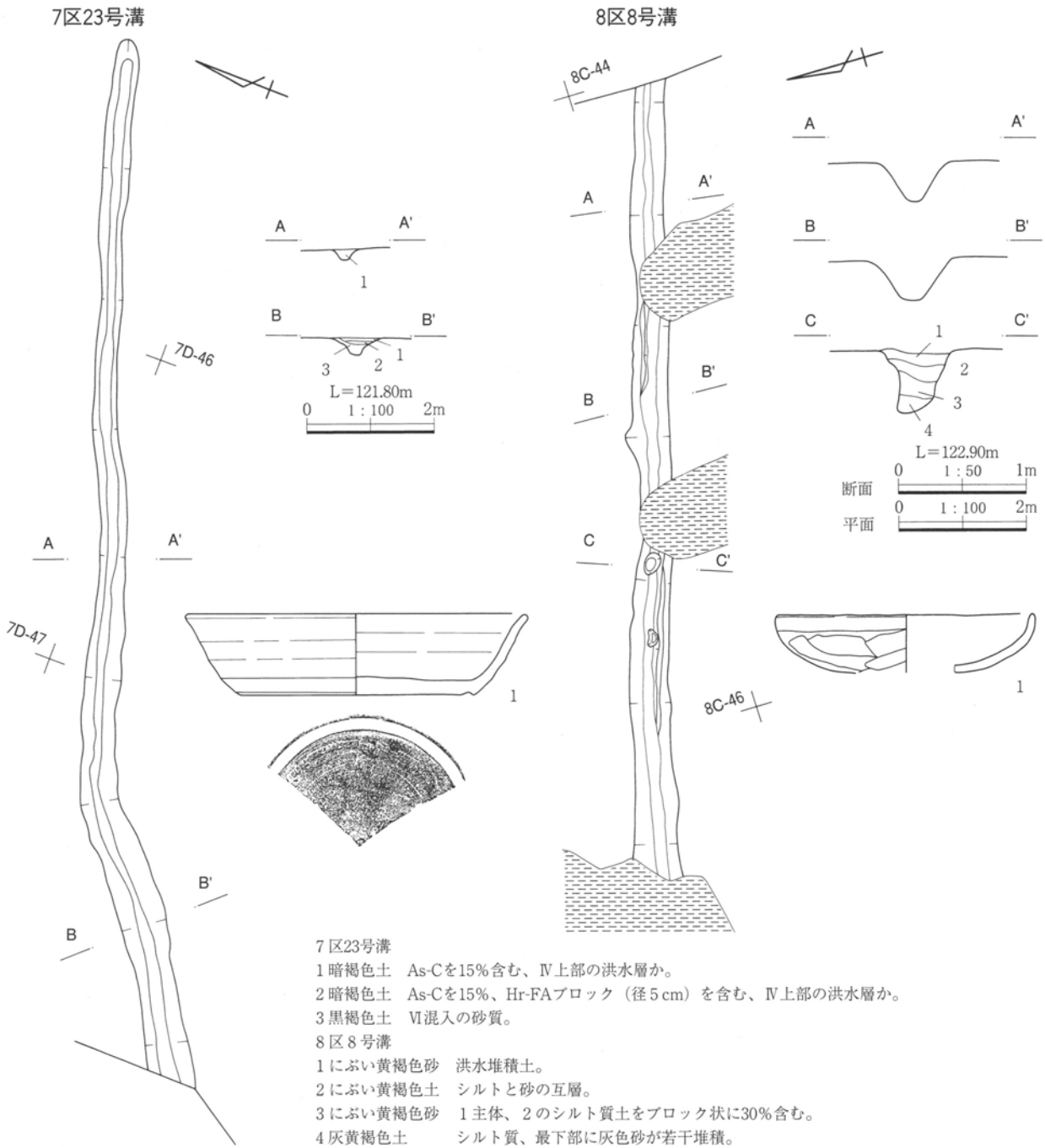


第44図 7区16号溝・18号溝・19号溝・20号溝・21号溝・22号溝遺構図・遺物図

7区16号溝 P L55

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	土師器 甕	埋没土中 口縁~胴部	口径22.0	細砂粒/良好/ 橙色	口縁部横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物



第45図 7区23号溝・8区8号溝遺構図・遺物図

7区23号溝 PL55

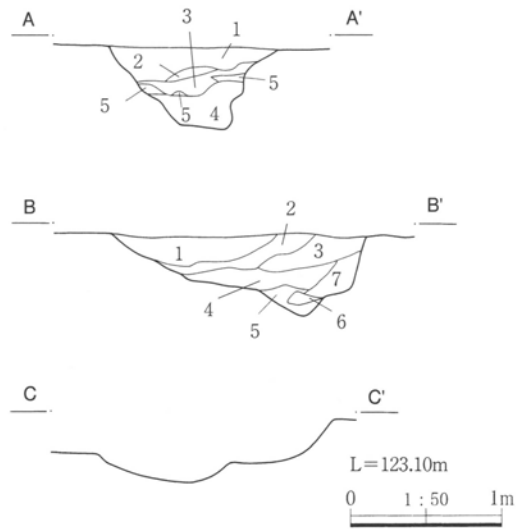
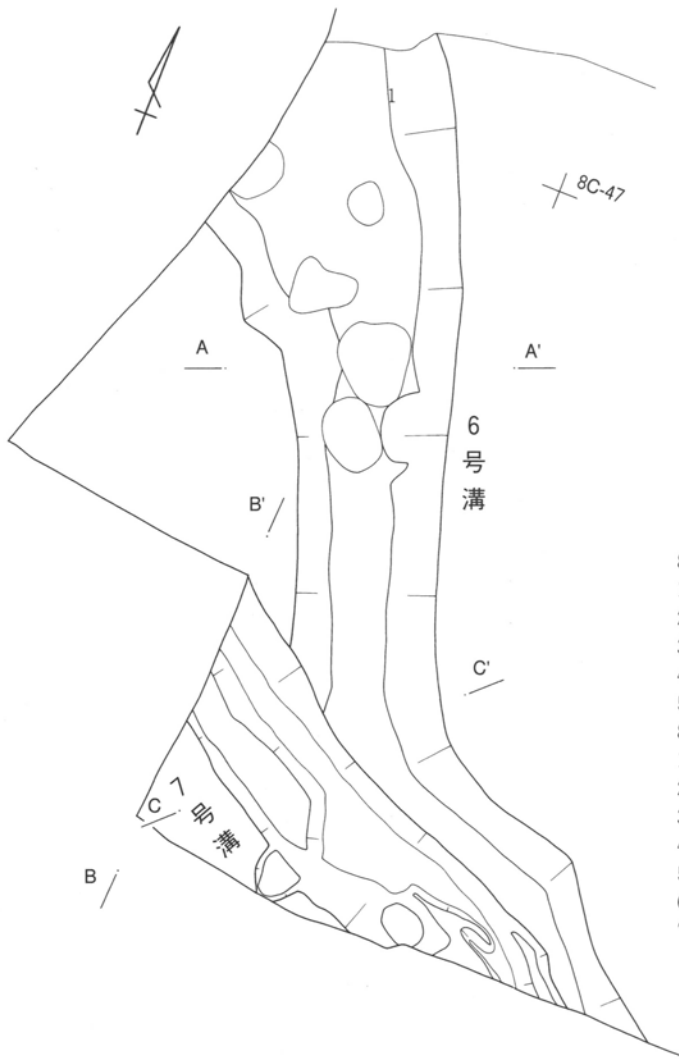
遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	埋没土中 1/7	口径15.8底径11.0 器高3.8	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。高台は削りだし。底部は回転ヘラ削り、口縁部最下位は回転ヘラ削り。	

8区8号溝 PL55

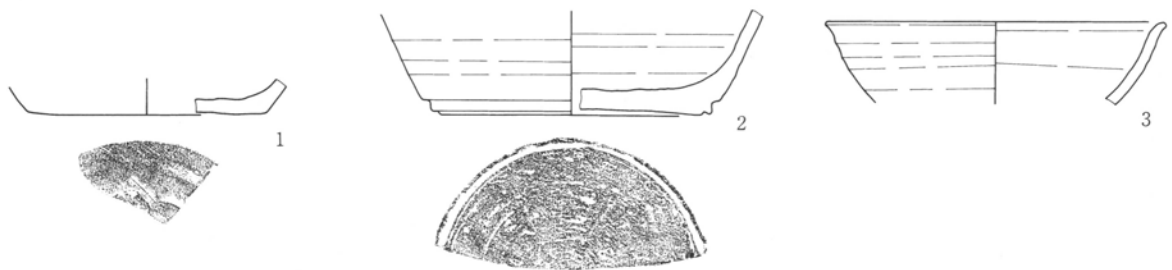
遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	埋没土中 1/6	口径11.8器高2.8	細砂粒/良好/ 橙色	口縁部上半は横ナデ、下半から底部にかけてはヘラ削り。	

IV 遺構と遺物

8区6号溝・7号溝



- 8区6号溝
 1 褐色砂
 2 暗褐色土 砂質土、川砂を3~5%含む。
 3 赤褐色土 砂質土。
 4 灰白色土 川砂主体。円礫(径2~3cm)を30~50%含む。
 5 褐色土 砂質土。
- 8区7号溝
 1 褐色土 砂質土、川砂を多く含む。
 2 暗褐色土 砂質土、川砂を5~7%含む。
 3 赤褐色土 粘質土。
 4 灰白色砂 円礫(径2~5cm)を50%含む。
 5 黒褐色砂 円礫(径1~3mm)を30%含む。
 6 暗褐色土 砂質土。
 7 褐色土 砂質土。



第46図 8区6号溝・7号溝遺構図・遺物図

8区6号溝 PL55

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底径9.4	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ成形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。	
2	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底径11.0	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ成形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。高台は削り出し。	
3	須恵器 椀	埋没土中 口縁部片	口径13.6	細砂粒・黒色粒/ 還元焰/灰色	ロクロ成形、回転右回りか。	

3区1号埋没河川・2号埋没河川

3-23号土坑 3-24号土坑

X=41450
2K

X=41400
2A



3区1号埋没河川

L=116.00m

3区2号埋没河川

L=116.10m

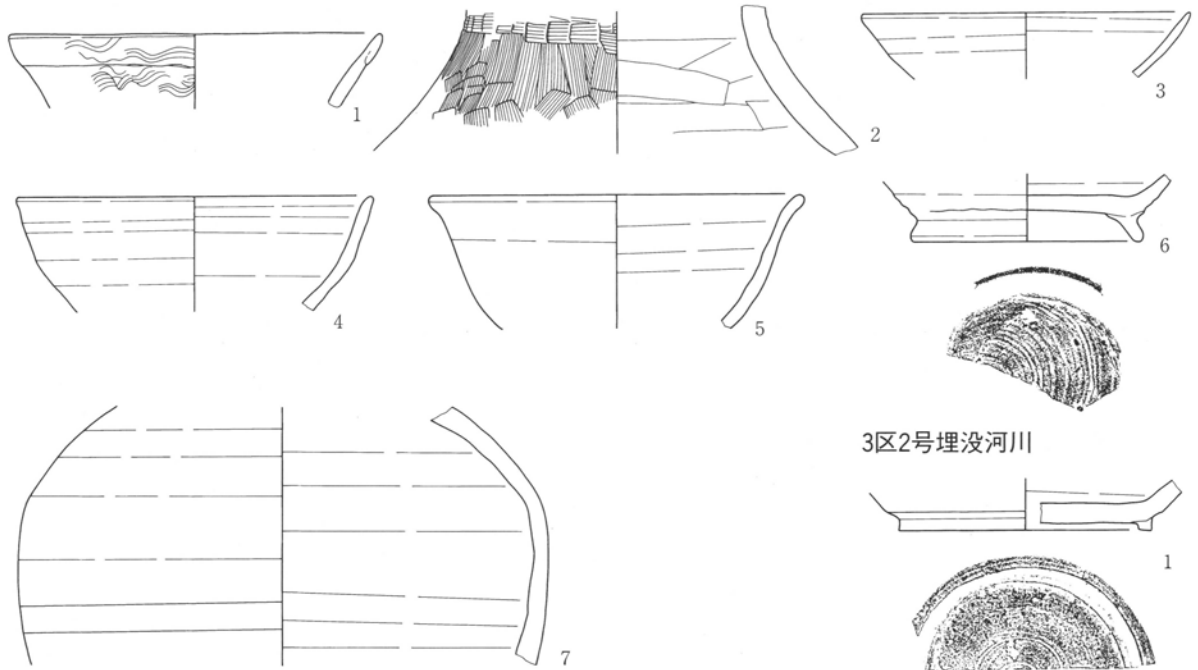
断面 0 1:200 5m
 平面 0 1:400 10m
 断面 0 1:100 2m

第47図 3区1号埋没河川・2号埋没河川遺構図

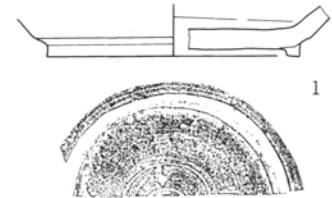
3-22号土坑

IV 遺構と遺物

3区1号埋没河川



3区2号埋没河川



3区1号埋没河川

- 1 黄褐色 砂質土、下部やや灰色を帯びる。
 2 褐灰色土 IVに類似、IVよりやや灰色気味。
 3 褐色砂 褐色砂を帯状に30~50%と白色軽石（径3~5mm）を10%含む。
 4 褐灰色土 1に類似、Hr-FAブロックを1%含む。
 5 におい黄褐色土 砂質土、褐色砂を帯状に30%含む。
 6 黒褐色土 白色軽石粒（径1~3mm）を5%含む。
 7 黄褐色土 砂質土。
 8 におい黄色土 7に類似、7より淡い色調。
 9 におい黄色土 7・8に類似、7よりやや褐色を帯びている。
 10 灰黄褐色土 IV主体、褐色砂を30%と橙色粒を20%含む。
 11 におい黄色砂 非常に良く締まっている。

- 12 黄灰色土
 13 褐灰色土
 14 黒褐色土
 15 褐色砂

- 砂質土、白色軽石粒（径3~7mm）を10%含む。
 砂質土、円礫（径10mm前後）を50%含む。
 砂質土、白色軽石粒（径2~4mm）を3%含む。
 径2~4mmの粗い砂。

3区2号埋没河川

- 1 黄灰色土 砂質土、灰白色砂を50%含む。
 2 灰白色土 砂質土、褐色砂を20%含む。
 3 灰白色土 砂質土、2に類似。灰色砂を50%と小礫（径2~5mm）を10%含む。
 4 黄灰色土 砂質土、白色軽石粒（径2~3mm）を3%含む。

第48図 3区1号埋没河川・2号埋没河川遺物図

3区1号埋没河川 P L54

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
1	弥生土器 甕	埋没土中 口縁部片	口径14.8	細砂粒/良好/ 浅黄色	口唇部折り返し。口唇部から口縁部にかけて雑な波状文。	
2	弥生土器 壺	埋没土中 胴部上位片	頸径11.8	粗砂粒/良好/ におい黄橙色	頸部は廉状文。胴部は縦方向の刷毛目。内面ヘラナデ。	
3	須恵器 杯	埋没土中 口縁部片	口径12.8	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。	
4	須恵器 椀	埋没土中 口縁部片	口径14.0	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。	
5	須恵器 椀	埋没土中 口縁部片	口径14.6	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。	
6	須恵器 椀	埋没土中 底部片	底径9.2	微砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。高台は貼付。	
7	須恵器 長頸壺	埋没土中 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。胴部中位は回転ヘラ削り。	

3区2号埋没河川

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底径10.0	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。高台貼付。	

(4) 水田

水田は2区調査区でHr-FA層下、Hr-FA層上、洪水層下から検出したHr-FA層下水田は2区調査区東の町道拡幅部分と2区調査区本線部分の2箇所から検出した。町道拡幅部分では若干の位置や面積に違いはあるがHr-FA層下、Hr-FA層上、洪水層下の水田が層的に重なり検出している。また、本線部分でもAs-C層下、Hr-FA層下、As-B層下の水田が重なって検出した。

町道拡幅部分では3面の水田を検出しているがHr-FA層下とHr-FA層上では区画の設定などで異なるが基本的には地形に合わせて区画を設けている。これに対して洪水層下では区画方向が下層の水田とは30°ほど東に振れ条里制の意識した可能性が見られる。この傾向は本線部分のHr-FA層下水田とAs-B層水田の様子からも窺える。

2区東V (Hr-FA) 層下水田

①位置と重複

水田は2区調査区東、0H・0I-41・42グリッドに位置する。この水田の確認面で重複する他の遺構は確認されなかった。

②被覆土層と残存状態

水田はV層であるHr-FAで埋没している。Hr-FAは5～10cmほどの厚さで堆積している。

残存状態は水田域のごく一部しか検出されなかったが比較的良好である。

③水田域の地形

水田域は南西に傾斜する谷地に立地している。この谷地は北側、東側、西側を泥流丘に囲まれた中に位置している。

④区画

水田の区画は比較的小規模なものである。水田の区画は南北方向は比較的規則的であるが東西方向には規則性はみられない。区画面積は最小が区画106の0.72m²、最大が区画107の1.86m²、平均1.2m²前後と全体的に小規模である。

⑤アゼ

アゼは傾斜に沿った縦アゼと直交する位置の横アゼが設けられている。縦アゼは多少弧を描くがほぼ直線的である。横アゼは水田域を東西に横断するようなものは存在しない。アゼの下幅は30～60cm、高さ1～4cmである。縦アゼの走行はN-50°前後-Wを指す。

⑥取配水の方法

本水田域へ直接取水する施設は見つからないが区画8の北西部分が谷頭に当たることからこの湧水を引水したと考えられるが水路などに相当する溝は検出されなかった。区画内部の配水は上位の区画から下位の区画へ配水されたと考えられるが水口は確認されなかった。区画内部の高低差を見ると東南隅か南西隅が区画内部でもっとも低いことからこの部分に水口が設けられていたようである。

⑦耕作土

耕作土はVI層上部が相当する。

⑧その他付随する遺構

本水田に伴うような遺構は検出されていない。

⑨遺物

本水田の水田面及び耕作土中からは土師器などの小破片が僅かに出土したが本水田に伴う遺物は出土していない。

2区西V (Hr-FA) 層下水田

①位置・重複

本水田は2区調査区中程、0K～0T-53～58グリッドに位置する。この水田確認面で重複する他の遺構は確認されなかった。

②被覆土層・残存状態

水田はV層のHr-FAで埋没している。この付近ではV層は後世の耕作などによる攪拌を受け層位として堆積している厚さは2～3cmとごく僅かなものである。

残存状態はV層の堆積状態が悪いためアゼの大半は攪拌され、区画が解る程度しか残存していない。

③水田域の地形

IV 遺構と遺物

水田域は緩やかに南へ傾斜する谷地である。この谷地は東側と南側に泥流丘が存在している。そのため全体的には南へ傾斜しているが0 M-54付近がもっとも低位で再び昇る。南傾斜の0 M-54～1 A-58間の傾は11.1/1000、0.6°の傾斜である。北側の傾斜は44.8/1000、4.6°の傾斜である。水田域は泥流丘傾斜に影響を受けている。

④区画

水田の区画は比較的小規模なものである。水田の区画は南北方向は比較的規則的である。東西方向は南北方向に比べて若干の前後は見られるが2区東Hr-FA層下水田の区画よりは規則的である。区画面積は最小が区画128の1.52m²、最大が区画137の4.49m²、平均3.30m²前後と全体的に小規模である。区画面積は2区東Hr-FA層下水田に比べて傾斜が緩やかなためかやや広い傾向が見られる。

区画は北側の南傾斜地では傾斜に沿って設定されているが南側の北傾斜地では傾斜を無視して北側の傾斜に合わせて設定されている。

⑤アゼ

被覆土層が薄いためアゼは水平方向の状態しか不明である。アゼは傾斜に沿った縦アゼと直交する位置の横アゼが設けられている。縦アゼは多少弧を描くがほぼ直線的である。横アゼは水田域を2～5区画は直線的に通るが東西を横断するようなものは存在しない。縦アゼの走行は概ねN-37～39°-Wを指す。アゼ幅は下幅で20～50cmと狭いことから作業道を兼ねる大アゼではなくクロ的なものである。

⑥取配水の方法

調査区内ではこの水田域への取水・配水のための施設、水口は検出されなかった。取水・配水は2区東Hr-FA層水田と同様に調査区外に存在した標高の高い区画から低位の区画へ順次配水したと考えられる。

⑦耕作土

水田耕作土は下位に存在するVI層である。この水田域でのVI層は下半にあまり攪拌を受けていないAs-Cが堆積している。これに対して上半は水田耕

作に寄るためか黒色化が進んだ状態であった。しかし、下層のAs-C層水田耕作土が不透水層的な役割をはたしたであろうが軽石層が存在するため保水性は低かったと想定される。

⑧その他付随する遺構

本水田に伴う遺構は検出されていない。

⑨遺物

本水田の水田面及び耕作土中からは土師器などの小破片が僅かに出土したが本水田に伴う遺物は出土していない。

3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物

第7表 2区東 V (Hr-F A) 層下水田

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
101	0I-41	長方形		1.40	0.66	113.04	113.00	4	0	0.88		
102	0H-41	長方形		1.30	0.80	113.03	112.97	6	3	1.03		
103	0H-42	長方形		1.20	0.90	113.03	113.00	3	2	0.94		
104	0H-42	長方形		2.10	0.86	113.12	113.04	8	2	1.61		
105	0I-41	長方形	○	1.16	0.64	113.09	113.03	6	1	0.73		
106	0I-42	方形	○	0.86	0.82	113.04	113.00	4	4	0.72		
107	0H-42	矩形	○	1.60	1.16	113.05	113.01	4	2	1.86		
108	0I-42	長方形	○	1.60	0.82	113.05	113.03	2	2	1.23		

範囲は○は区画全域、ほぼ全域が調査区内で検出したもの、区画全域が調査できないものは調査区内の規模(斜文字で表示)。
単位は長軸・短軸がm、高位・低位が標高、比高差・アゼ高がcm、面積が㎡。

第8表 2区西 V (Hr-F A) 層下水田

No 1

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
109	0L-53	長方形		1.10	0.78	114.12	114.12	0		0.48		
110	0L-53	長方形		2.30	1.42	114.12	114.09	3		1.77		
111	0L-53	長方形		2.20	0.88	114.12	114.12	0		1.41		
112	0M-53	長方形		2.32	1.04	114.09	114.08	1		2.17		
113	0M-53	長方形		1.46	1.18	114.09	114.09	0		0.86		
114	0M-53	長方形				114.10	114.10	0				
115	0N-53	長方形				114.12	114.11	1				
116	0N-53	長方形		1.20	0.94	114.15	114.15	0		0.79		
117	0N-53	長方形				114.15	114.15	0				
118	0N-53	長方形		1.80	1.48	114.15	114.14	1		1.78		
119	0P-53	矩形				114.23	114.20	3				
120	0P-54	矩形				114.25	114.24	1				
121	0P-54	矩形		2.24	1.38	114.25	114.22	3		1.95		
122	0Q-54	矩形				114.26	114.23	3				
123	0Q-54	矩形				114.30	114.27	3				
124	0Q-54	矩形		1.82	0.96	114.29	114.29	0		0.90		
125	0N-55	矩形				114.24	114.24	0				
126	0P-55	矩形				114.29	114.29	0				
127	0P-55	長方形		3.60	1.40	114.29	114.25	4		3.59		
128	0O-56	矩形	○	1.46	1.08	114.30	114.27	3		1.52		
129	0N-56	矩形				114.27	114.25	2				
130	0P-55	矩形		2.20	1.40	114.32	114.30	2		2.42		
131	0P-55	長方形	○	2.28	1.50	114.30	114.30	0		3.35		
132	0P-55	長方形	○	2.20	1.58	114.30	114.29	1		3.33		
133	0Q-56	矩形				114.31	114.31	0				
134	0P-55	長方形	○	1.52	1.46	114.32	114.32	0		2.23		
135	0P-55	長方形	○	2.00	1.50	114.31	114.31	0		2.77		
136	0P-56	長方形	○	2.50	1.72	114.30	114.30	0		4.27		
137	0P-56	長方形	○	3.00	1.50	114.29	114.29	0		4.48		
138	0O-56	長方形	○	2.60	1.68	114.30	114.29	1		4.18		
139	0O-56	長方形	○	1.60	1.48	114.29	114.29	0		2.26		
140	0P-56	長方形	○	2.50	1.48	114.31	114.31	0		3.24		
141	0P-56	長方形	○	2.30	1.62	114.31	114.31	0		3.63		
142	0P-56	長方形	○	2.36	1.62	114.31	114.30	1		3.75		
143	0P-57	長方形	○	2.50	1.70	114.32	114.30	2		4.15		
144	0P-57	長方形	○	2.50	1.42	114.31	114.30	1		3.56		
145	0O-57	長方形	○	2.36	1.60	114.30	114.30	0		3.53		
146	0Q-57	矩形				114.35	114.35	0				
147	0P-57	方形	○	1.60	1.58	114.35	114.35	0		2.38		
148	0P-57	長方形	○	2.30	1.60	114.34	114.34	0		3.56		
149	0P-57	長方形		2.50	1.32	114.34	114.34	0		3.23		
150	0P-57	矩形		1.30	1.00	114.33	114.33	0		0.88		
151	0R-56	長方形	○	2.20	1.40	114.39	114.39	0		3.08		

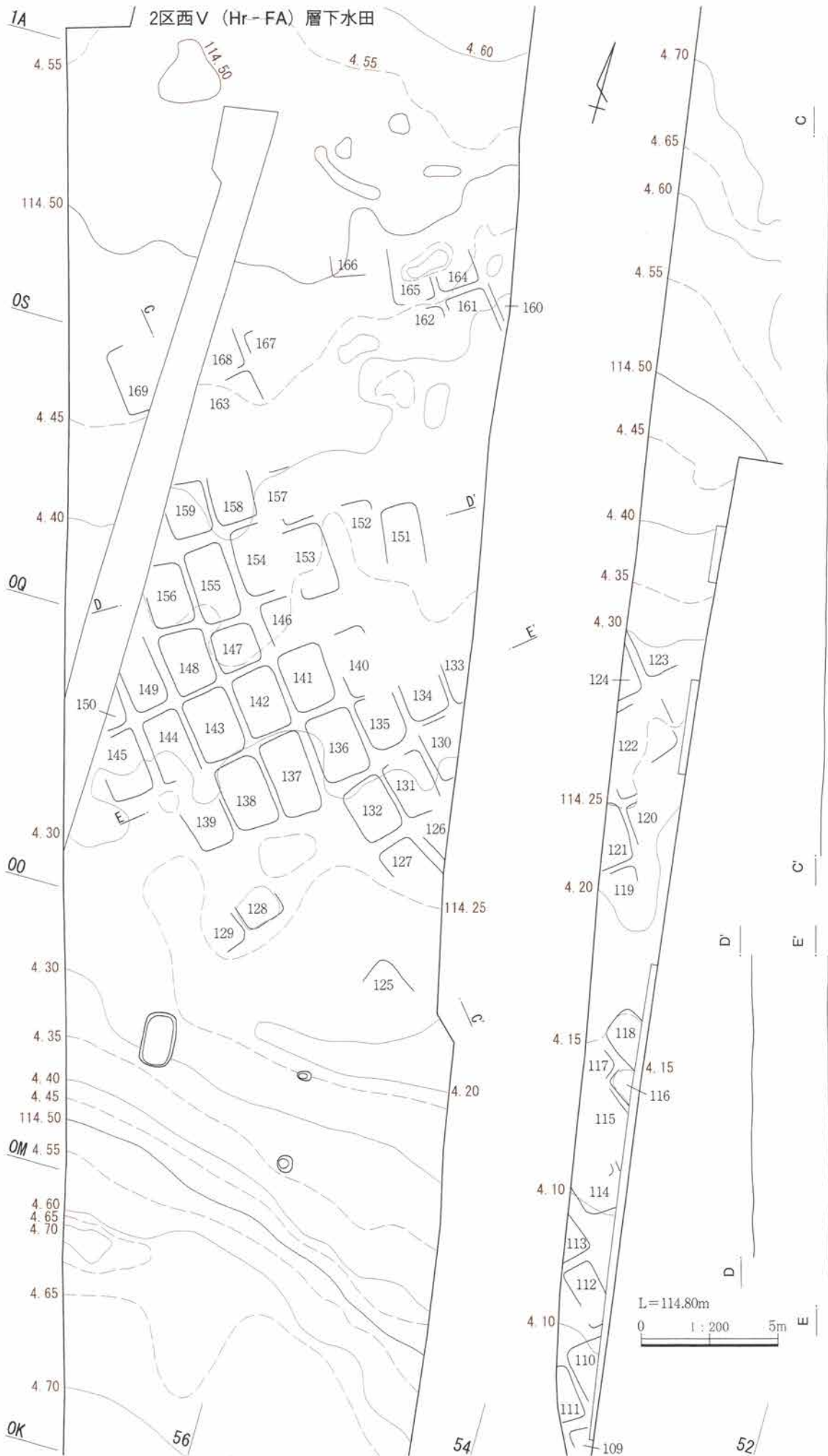
No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
152	OR-56	矩形				114.39	114.35	4				
153	OQ-56	長方形	○	2.66	1.42	114.38	114.35	3		3.75		
154	OQ-57	長方形		2.56		114.39	114.40	1				
155	OQ-57	長方形	○	2.82	1.46	114.38	114.35	3		3.99		
156	OQ-57	長方形	○	2.30	1.50	114.35	114.35	0		3.31		
157	OR-57	長方形				114.40	114.39	1				
158	OR-57	長方形	○	1.82	1.54	114.41	114.40	1		2.69		
159	OQ-57	長方形	○	1.98	1.56	114.40	114.38	2		2.85		
160	OT-56	矩形				114.47	114.40	7				
161	OS-56	矩形			1.48	114.44	114.40	4				
162	OS-56	矩形				114.44	114.44	0				
163	OR-57	矩形				114.49	114.45	4				
164	OT-56	矩形			1.50	114.45	114.40	5				
165	OS-56	長方形			1.48	114.49	114.40	9				
166	OS-57	矩形				114.50	114.49	1				
167	OS-57	矩形				114.49	114.49	0				
168	OS-57	矩形				114.49	114.49	0				
169	OR-58	長方形		2.50		114.49	114.49	0				

範囲は○は区画全域、ほぼ全域が調査区内で検出したもの、区画全域が調査できないものは調査区内の規模（斜文字で表示）。
 単位は長軸・短軸がm、高位・低位が標高、比高差・アゼ高がcm、面積が㎡。

2区東 V (Hr-FA) 層下水田



第49図 2区東V (Hr-FA) 層下水田遺構図



第50図 2区西V (Hr-FA) 層下水田遺構図

Ⅳ 遺構と遺物

2区Ⅴ (Hr-FA) 層上水田

①位置・重複

2区調査区東、0H・0I-41~44グリッドに位置する。この水田確認面で重複する他の遺構は確認されなかった。

②被覆土層と残存状態

水田は水田面としては検出できなくHr-FP層下水田(菅谷石塚遺跡では検出されていない。Hr-FP降下地域で検出されている水田を指す)で確認されている水田耕作時のアゼを作る時にアゼ横に見られる溝状の痕跡を検出したものである。被覆土はⅣ層が相当するがⅣ層は後の耕作などで攪拌されている。

残存状態は前述のように水田面としての検出ではなくアゼ痕だけの検出であるため良好ではない。

③水田域の地形

水田域は下層で検出したHr-FA層下水田と同じ南東に傾斜する谷地に立地している。この谷地は東側、西側、北側を泥流丘に囲まれた中に位置している。この地点は三方を傾斜地に囲まれているため雨水などが集中して谷地化したと想定される。この谷地はHr-FA層下水田を開田したときより西へ4mほど広がっている。これはHr-FA層下水田が被災した後の洪水等によるものか水田復旧に伴い耕地拡大によるものかは不明である。

④区画

水田の区画は堆積で見つかっているHr-FP層下水田で見られる小区画と同様である。本水田でも傾斜方向の縦アゼは幅0.80~1.50mで直線的に設けられている。傾斜に直交する横アゼは区画内の比高差が最大20cm以内に収まるように1.50~3.50mほどの間隔で設けられている。区画面積は最小1.97m²、最大4m²程度、平均2.25m²程度と小規模である。

⑤アゼ

本水田ではアゼは残存していないが、縦アゼの走行はN-50°前後-Wを指す。横アゼは縦アゼに対してほぼ直角に設けられている。

⑥取配水の方法

水田への用水取水は谷地谷頭の湧水を利用したと

考えられる。谷頭は本水田を検出した調査区北側に想定される。水の配水方法は縦アゼで区画された上位区画から下位区画へ水口を利用しておこなわれている。本水田ではアゼ自体が残存していないため水口も不明であるがアゼ痕が確認されない箇所が横アゼ痕で確認されることからこの箇所に水口が設けられたと推定される。水口は区画7・14・18・19列では横アゼの西寄りに設けられているが区画2・9・15列では両方向に設けられており明確な規則性はみられない。

⑦耕作土

本水田はⅤ層のHr-FA上面で確認しており水田耕作土下面に当たる。耕作土はⅤ層上位に堆積していたⅣ層が相当する。

⑧その他付随する遺構

本水田に伴う遺構は検出されていない。

⑨遺物

本水田耕作土からは僅かに土師器などの小破片が出土しているが共伴する遺物の出土は見られない。

第9表 2区 V (H r - F A) 層上水田

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
201	0I-41	長方形		3.28	1.20	113.24	113.10	14		3.62	北東角	
202	0I-41	長方形		1.80	0.94	113.15	113.12	3		1.47	北西角	
203	0H-41	長方形		1.50	0.86	113.06	113.05	1		1.02		
204	0H-42	長方形		1.96	0.80	113.11	113.05	6		1.54	北東角	
205	0H-42	長方形		1.98	0.90	113.20	113.10	10		1.74		
206	0H-42	長方形		2.08	1.22	113.26	113.19	7		2.50	北東角	
207	0H-42	長方形		1.50	1.08	113.36	113.35	1		1.24	北西角	
208	0I-42	長方形		4.18	1.15	113.25	113.22	3		3.74		南東角
209	0I-42	長方形	○	2.10	0.90	113.20	113.11	9		1.94	北東角	南西角
210	0I-42	長方形		5.14	0.64	113.17	113.09	8		4.11		
211	0I-42	長方形		2.30	0.80	113.20	113.15	5		2.34		南西角
212	0H-43	長方形	○	1.90	1.08	113.23	113.20	3		1.97		
213	0H-43	長方形	○	2.31	1.26	113.35	113.25	10		2.77		南東角
214	0H-43	長方形	○	1.96	1.38	113.38	113.35	3		2.76	北西角	南西角
215	0I-43	長方形		2.40	0.90	113.20	113.15	5		2.17		南東角
216	0I-43	長方形		2.50	0.98	113.35	113.28	7		2.18		
217	0H-43	長方形		2.16	1.40	113.40	113.35	5		2.62		
218	0H-43	正方形	○	1.54	1.48	113.42	113.40	2		2.18	北西角	南西角
219	0H-43	長方形		1.30	1.26	113.45	113.40	5		1.48		
220	0I-42	長方形		1.78	1.06	113.25	113.07	18		1.90		

範囲は○は区画全域、ほぼ全域が調査区内で検出したもの、区画全域が調査できないものは調査区内の規模(斜文字で表示)。
 単位は長軸・短軸がm、高位・低位が標高、比高差・アゼ高がcm、面積がm²。



第51図 2区V (H r - F A) 層上水田

IV 遺構と遺物

2区洪水層下水田

①位置・重複

本水田は2区東側0G～0L-38～43グリッドに位置する。この水田を検出した面では直接重複する遺構は確認されなかったが区画1・2で2区14号溝と重複する。新旧関係は本水田の方が古い。

②被覆土層・残存状態

水田はⅢ層下位、Ⅳ層上位で確認した洪水堆積層下で覆われている。この洪水堆積層は黄褐色に近い色調を呈し一見するとⅤ層のHr-FAに誤認するような土層であるが、層中位や最下層に砂粒の堆積が確認できることから洪水堆積層と判断した。この洪水堆積土を運んだ河川は水田域東で検出した2区15号溝である。

残存状態は洪水堆積土が厚いところで30cmほど堆積していたため比較的良好である。なお、洪水堆積土の上部は後世の耕作により上層と攪拌されているため明確な堆積量は明らかではない。

③水田域の地形

水田域は北側、東側、西側を泥流丘に囲まれた狭い谷地に立地している。この谷地は0L以北は泥流丘による傾斜があるが0L以南では12/1,000、傾斜角0.7°とほぼ平坦に近い。この谷地は北側の泥流丘と東側の泥流丘の間を解析した埋没河川である2区15号溝によって形成されたものである。

④区画

水田区画は調査区内で6区画確認された。区画は僅かな歪みが見られるがほぼ方形を呈している。但し、北側と西側の端部に当たる区画5・6の北側、西側は泥流丘の傾斜をそのまま利用しているためこの区画は丸みを帯びた形状を呈している。

区画の面積は区画全体を調査できたものがないため明確ではないが区画4から類推すると概ね50㎡前後になるように設定されているようである。

⑤アゼ

アゼは埋没河川である2区15号溝際アゼと水田域内部の区画アゼとは規模が大きく異なる。2区15号溝際のアゼは調査区北側の断面で下幅150cm、高さ40cmを測り、堤防的な要素が見られる。これに対して区画のアゼは下幅50cm、高さ7～15cmである。アゼはほぼ東西、南北とも直線的に設定されている。その走行は南北方向が方位はN-16°-E前後である。

⑥取配水の方法

水田域へ直接取水する施設は見つからないが埋没河川である2区15号溝の調査区より上流で堰を設けて取水したと考えられる。個々の区画へは区画4のアゼに見られるような水口を設けて取水・排水をおこなっていたようである。

⑦耕作土

水田耕作土は下位に位置するⅣ層である。洪水層下水田域の下部にはアゼの痕跡だけが検出されたHr-FA層上水田が存在しその上部土層はⅣ層である。Ⅳ層を観察するとHr-FA層上水田から洪水層水田面までの間で大きな変化が観察されないことから継続的な水田経営が営まれたと見られる。

⑧その他付随する遺構

本水田に伴う遺構は検出されなかった。

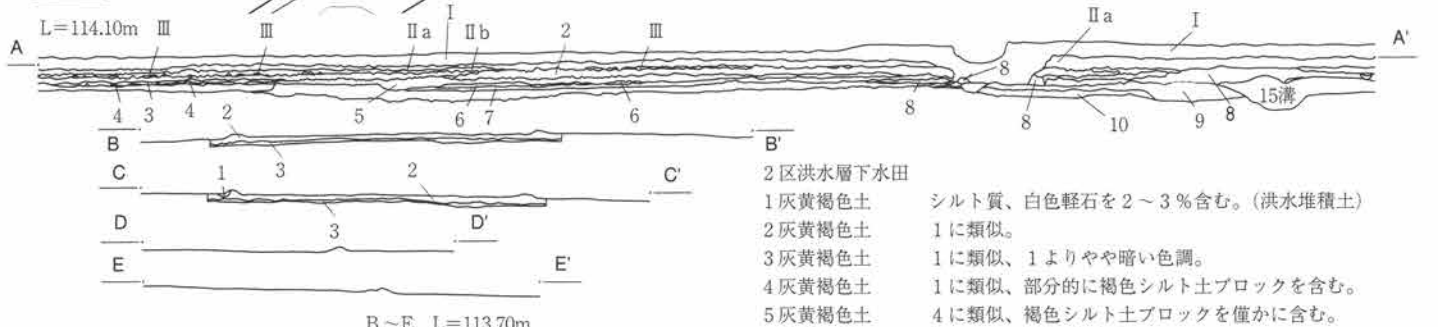
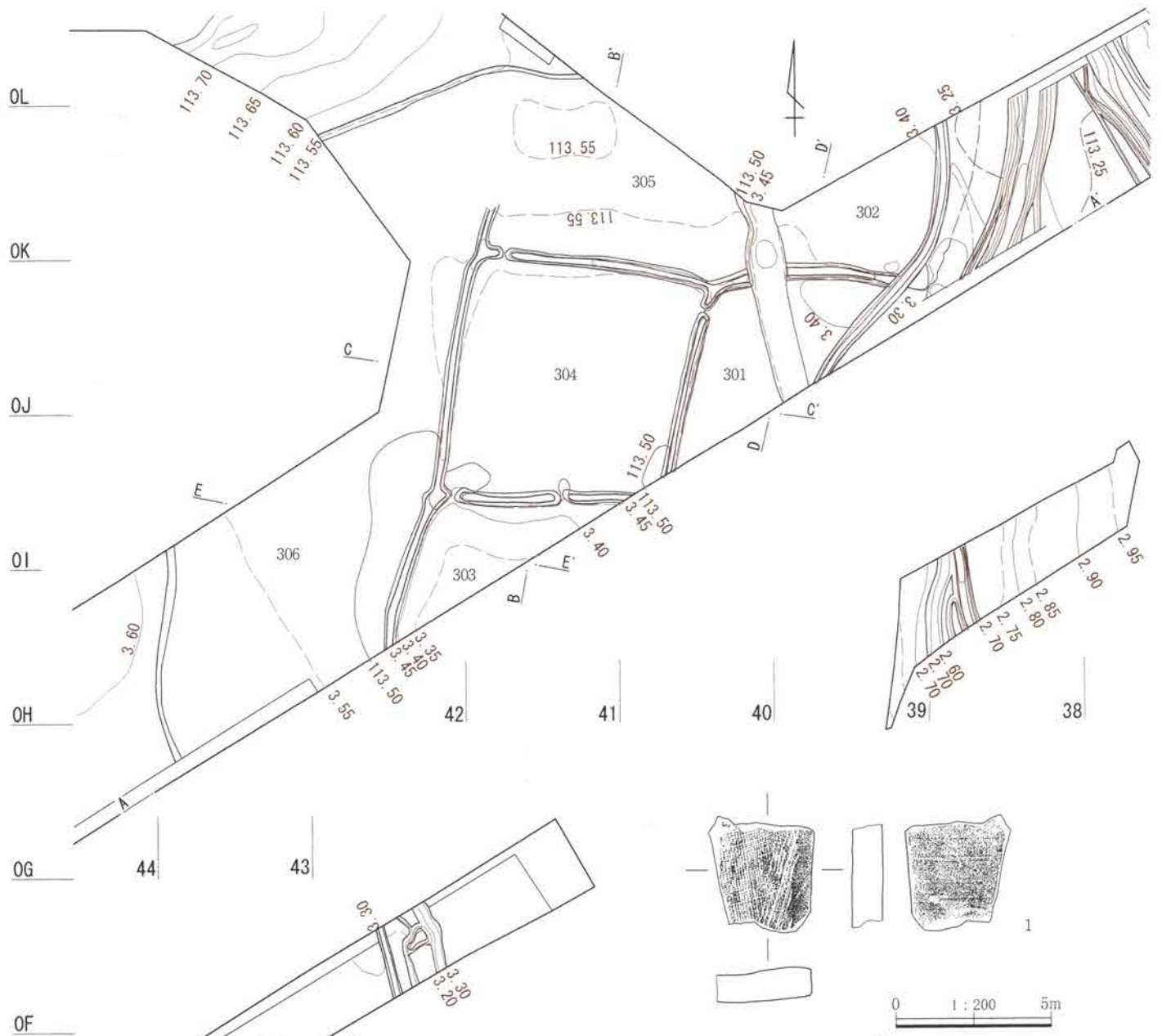
⑨遺物

本水田からは水田面直上より1の瓦小片が出土している。この遺物などから洪水による被害は平安時代前半代に比定される。

第10表 2区 洪水層下水田

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
301	0J-39	矩形か		7.10	6.76	113.49	113.32	17	15	25.21	北西	
302	0K-38	矩形か		6.12	5.80	113.46	113.40	6	8	21.67		
303	0H-41	矩形か		5.84	5.20	113.43	113.31	12	10	13.67	北・北西	
304	0I-40	方形	○	7.30	7.20	113.58	113.47	11	7	51.22	北西	北東・南・南西
305	0K-40	矩形か		8.21	5.80	113.58	113.52	6	9	35.83		南西
306	0H-42	矩形か		-	6.90	113.56	113.47	9				

範囲は○は区画全域、ほぼ全域が調査区内で検出したもの、区画全域が調査できないものは調査区内の規模(斜文字で表示)。
単位は長軸・短軸がm、高位・低位が標高、比高差・アゼ高がcm、面積が㎡。



第52図 2区洪水層下水田遺構図・遺物図

- 2区洪水層下水田
- 1 灰黄褐色土 シルト質、白色軽石を2~3%含む。(洪水堆積土)
 - 2 灰黄褐色土 1に類似。
 - 3 灰黄褐色土 1に類似、1よりやや暗い色調。
 - 4 灰黄褐色土 1に類似、部分的に褐色シルト土ブロックを含む。
 - 5 灰黄褐色土 4に類似、褐色シルト土ブロックを僅かに含む。
 - 6 褐灰色砂 径1mmの砂粒よりなる。
 - 7 にぶい黄橙色土 褐灰色砂を30%含む。
 - 8 にぶい黄橙色土 7に類似、褐灰色砂を20%含む。
 - 9 褐灰色土 シルト質、白色軽石を3%含む。
 - 10 褐色土 シルト質、黄色シルトブロックを10%含む。

2区洪水層下水田 P L 55

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1.	土製品 平瓦	0I-4I水田面 小片		微砂粒/還元焰/ 灰色	表面に布目痕。	

IV 遺構と遺物

(5) 遺構外出土遺物

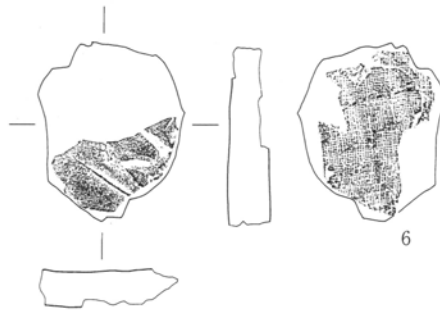
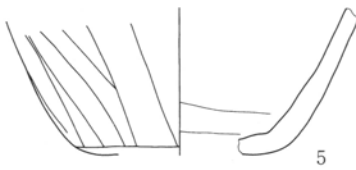
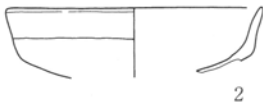
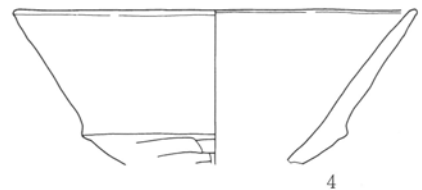
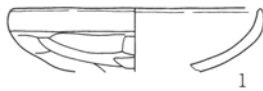
古墳時代後期から平安時代後期の遺物は遺構確認面であるVI層をはじめとして洪水層、IV層、から土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、土製品など遺物が多少出土している。なお、土製品は主に瓦片であるが6区調査区では34のような円面硯の出土も見られた。

出土した遺物のうち古墳時代後期のものは比較的

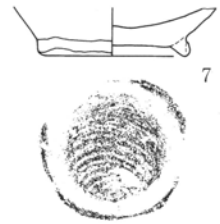
少なく、奈良・平安時代のものが主であった。

各調査区での出土量は6区・7区調査区が比較的多く2区から5区調査区は少ない傾向が見られた。これは7区7号溝・8号溝で見られたように6区・7区調査区に堆積していた洪水層が菅谷石塚遺跡の北西域に存在していた集落域の遺物を運んできたためと見られる。

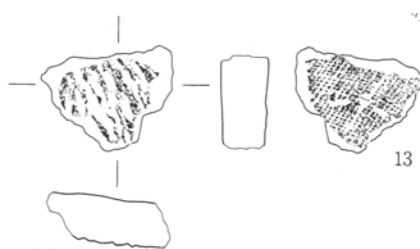
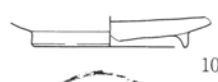
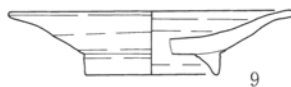
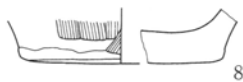
2区遺構外出土遺物



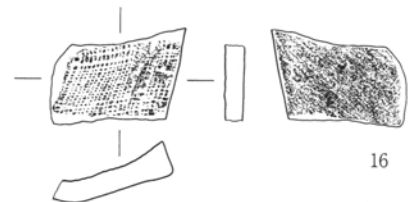
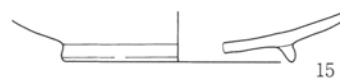
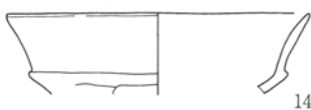
3区遺構外出土遺物



4区遺構外出土遺物

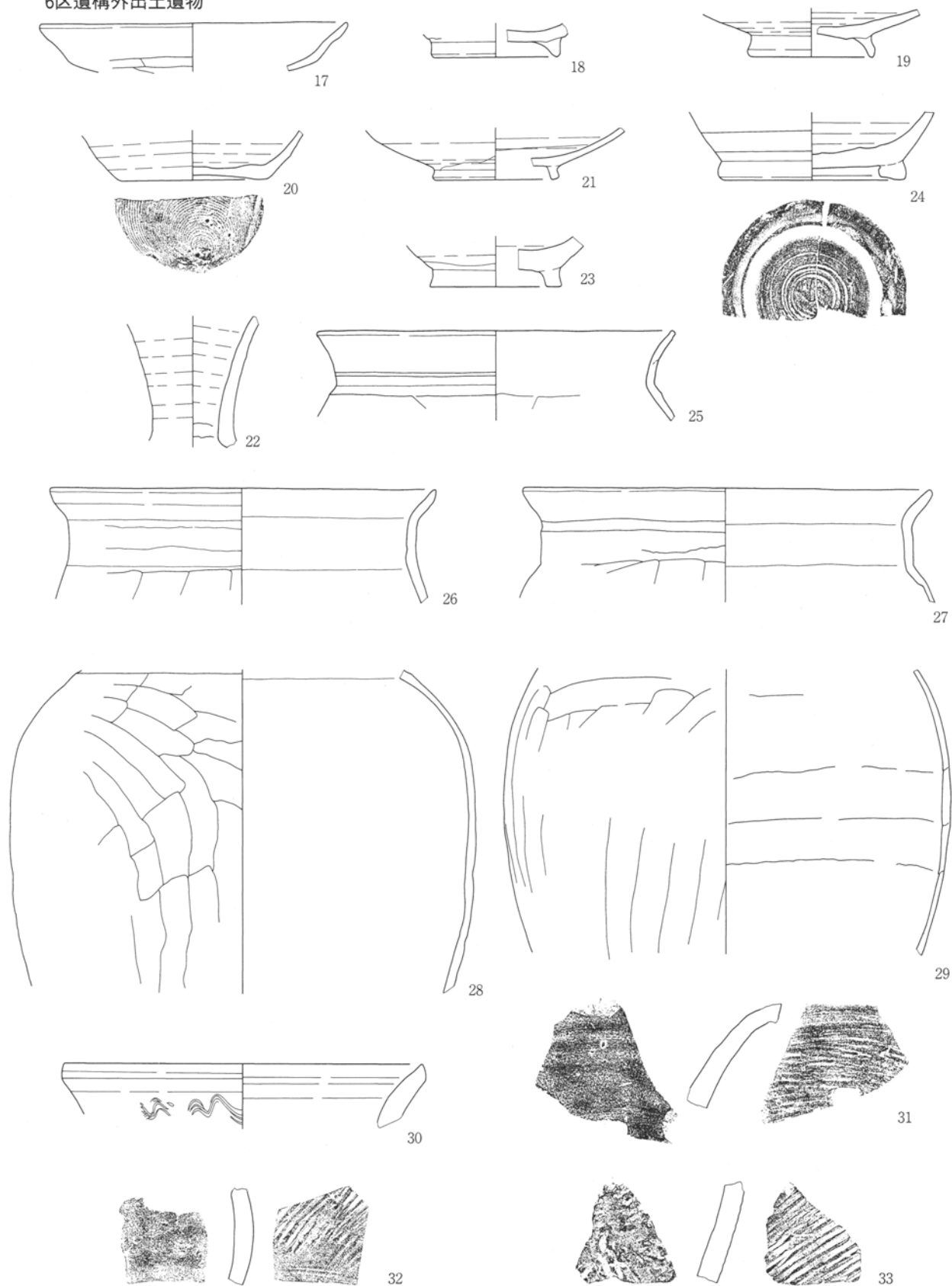


5区遺構外出土遺物

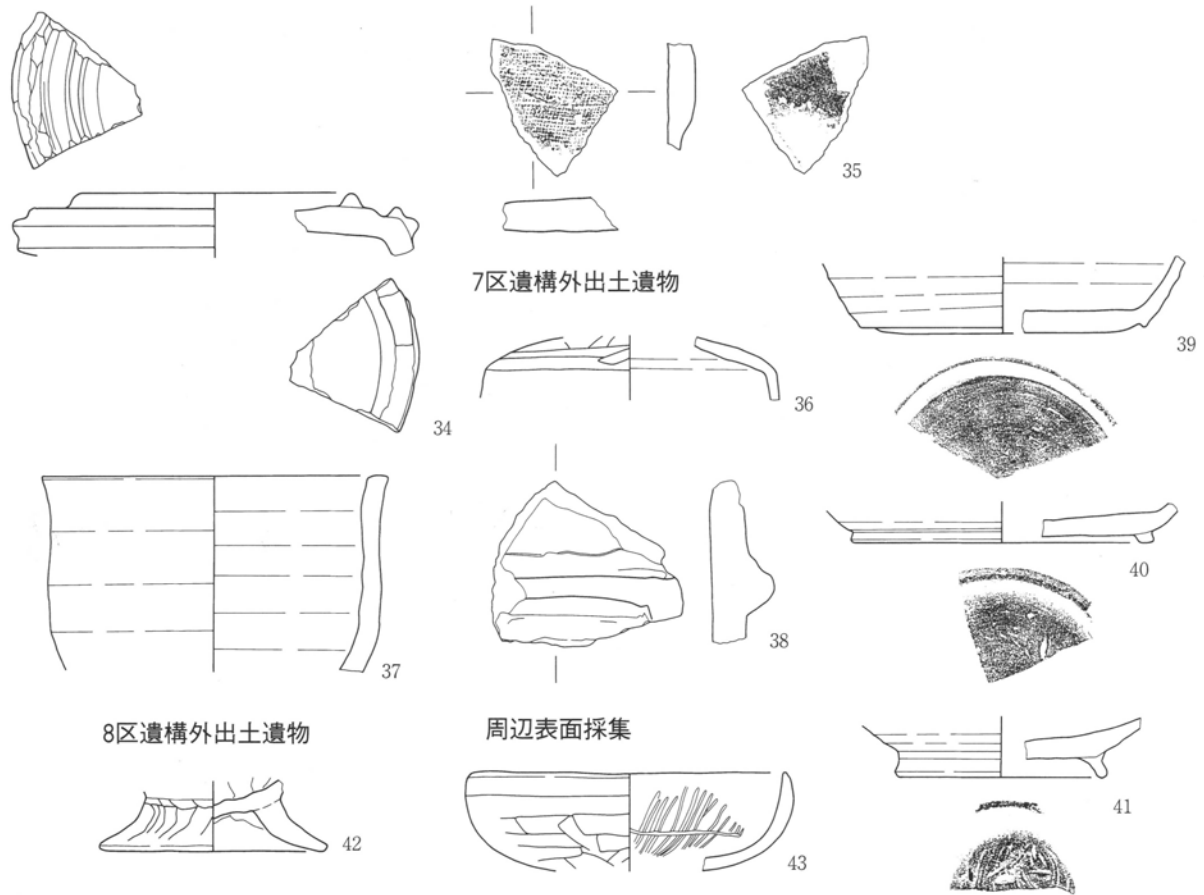


第53図 古墳時代後期～平安時代後期遺構外出土遺物遺物図(1)

6区遺構外出土遺物



第54図 古墳時代後期～平安時代後期遺構外出土遺物遺物図 (2)



第55図 古墳時代後期～平安時代後期遺構外出土遺物遺物図 (3)

2区遺構外出土遺物 P L55

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	土師器 杯	0J-46IV層 1/6	口径9.8	細砂粒/やや軟 質/橙色	口縁部上半横ナデ、下半から底部ヘラ削り。	
2	土師器 杯	0L-43IV層 口縁部片	口径10.0	細砂粒/良好/ 橙色	口縁部横ナデ、稜より下はヘラ削りであるが残存部分の大部分は器面剥離のため単位不明。	
3	須恵器 杯	0Q-51VI層 底部片	底径10.8	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転ヘラ削り。高台は削りだし。	
4	土師器 高坏	2区EIV層 口縁部片	口径15.6	細砂粒/良好/ にぶい橙色	口縁部横ナデ、底部ヘラ削り。	
5	土師器 甕	1K-55VI層 胴部下位片	底径8.2	粗砂粒/良好/ にぶい黄橙色	胴部下位は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
6	土製品 平瓦	0I-41IV層 小片		細砂粒/還元焰/ 灰白色	表面に布目痕。	

3区遺構外出土遺物 P L55

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
7	須恵器 椀	2C-38IV層 底部	底径6.0	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。高台は貼付。	

4区遺構外出土遺物 P L55

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
8	土師器 甕	4A-52VII層 底部片	底径8.0	細砂粒/良好/ 褐色	外面胴部は縦方向の刷毛目。	
9	須恵器 皿	3I-55IV層 1/8	口径11.2底径5.4 器高2.6	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転方向不明。底部切り離し技法不明。高台は貼付。	
10	須恵器 皿	底部片	底径6.2	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り。高台は貼付。	
11	須恵器 椀	4D-50IV層 底部片	底径4.4	粗砂粒/酸化焰/ にぶい橙色	ロクロ整形、回転右回り。底部端部に輪積痕が残る。底部は回転糸切り。	
12	須恵器 椀	4E-51II層 底部片	底径5.4	細砂粒/酸化焰/ 明赤褐色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
13	土製品 平瓦	1号畠内 小片		細砂粒/還元焰/ 灰白色	表面は布目痕、裏面は叩き痕が残る。	

3. 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物

5区遺構外出土遺物 P L55

遺物No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
14	土師器 杯	4Q-51IV層 口縁部片	口径11.8稜径10.2	微砂粒・褐色粒/ 良好/にぶい橙色	口縁部横ナデ、稜より下位はヘラ削り。	
15	灰釉陶器 皿	5B-49 底部片	底径9.0	水箨/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回りか。底部回転ヘラ調整。高台は貼付。	大原2号窯式期
16	土製品 平瓦	埋没土中 小片		細砂粒/還元焰/ 灰色	表面は布目痕が残る。	

6区遺構外出土遺物 P L55・56

遺物No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
17	土師器 杯	6区南 口縁部片	口径16.0	微砂粒/良好/ 橙色	口縁部横ナデ、稜下ヘラ削り。	
18	黒色土器 椀	7A-42IV層 底部片	底径6.6	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄褐色	ロクロ整形、回転方向不明。内面黒色処理。高台は貼付。	
19	須恵器 皿	5号畠 1/6	底径6.2	微砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。底部切り離し技法はナデのため不明。	
20	須恵器 杯	6区II層 1/4	底径7.6	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。	
21	灰釉陶器 椀	6区II層 1/8	底径6.6	水箨/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。底部に重焼き痕が残る。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期
22	須恵器 長頸壺	7A-41IV層 頸部片	頸径4.2	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。	
23	須恵器 長頸壺	6区南IV層 底部片	底径6.6	粗砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。	
24	灰釉陶器 長頸壺	6N-48IV層 底部片	底径9.4	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転方向右回り。高台は貼付。底部はナデ、胴部下位は回転ヘラ削り。	
25	土師器 甕	4号畠 口縁部片	口径18.4	細砂粒/良好/ 橙色	口縁部横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
26	土師器 甕	7A-41IV層 口縁部片	口径20.0	細砂粒/良好/ 明褐色	口縁部横ナデ、頸部にナデ部分が残る。胴部は横方向のヘラ削り。	
27	土師器 甕	6区 口縁部片	口径21.0	細砂粒/良好/ 明褐色	口縁部横ナデ、胴部は横方向のヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
28	土師器 甕	7A-41 胴部片	頸径16.8	細砂粒/良好/ 橙色	胴部上位は斜め方向、中位から下位は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	
29	土師器 甕	7A-41IV層 胴部片		細砂粒/良好/ 明黄褐色	内面に輪積痕が残る。胴部上位は横方向、中位から下位は縦方向のヘラ削り。内面はヘラナデ。	外面に煤付着。
30	須恵器 甕	7A-39IV層 口縁部片	口径18.4	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部に波状文。	
31	須恵器 甕	6区南IV層 口縁部片		細砂粒/還元焰/ 灰褐色	ロクロ整形、回転方向不明。	
32	須恵器 甕	1号溝 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰色	外面に平行叩き痕が残る。	
33	須恵器 甕	2号畠 胴部片		細砂粒/還元焰/ 灰色	外面は平行叩き、内面にアテ具痕が残る。	
34	土製品 円面硯	5号畠 硯面小片	外径16.0	細砂粒/還元焰/ 灰色	硯面の2条の凸帯、端部の銹は貼付。脚部には透かしが見られる。裏面も硯として使用。	
35	土製品 平瓦	4号畠 小片		細砂粒/還元焰/ 灰色	表面に布目痕が残る。	

7区遺構外出土遺物 P L56

遺物No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
36	須恵器 杯蓋	3号畠 天井部片	稜径11.6	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回りか。天井部は手持ちヘラ削り後周囲をナデ。	
37	須恵器 鉢	2号畠 口縁部片	口径13.6	細砂粒/還元焰/ 暗灰黄色	ロクロ整形、回転右回りか。	
38	埴輪 馬形?	70-47VII層 小片		粗砂粒/良好/ 明赤褐色	凸帯は貼付。	
39	須恵器 杯	7C-49IV層 底部片	底径11.2	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。高台は削り出し。底部は回転ヘラ削り。	
40	須恵器 杯	7M-42IV層 底部片	底径12.0	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付。底部切り離し技法などは摩耗のため不明。内面底部はヘラナデ。	
41	須恵器 椀	7区II層 底部片	底径8.0	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。底部は回転糸切り。	

8区遺構外出土遺物 P L56

遺物No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
42	土師器 台付甕	8区II層 台部	底径5.4台径8.8	細砂粒/良好/ にぶい赤褐色	台部は貼付。台部はヘラ削り、内面は胴部・脚部ともナデ。	

周辺表面採集 P L56

遺物No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
43	土師器 杯	1/4	口径12.4器高3.8	細砂粒/良好/ にぶい橙色	口縁部上半横ナデ、中位ナデ、下位～底部はヘラ削り。内面は放射状暗文と口縁部中位に1条のヘラ磨き。	

4. 平安時代末以降の遺構と遺物

(1) 掘立柱建物

5区1号掘立柱建物

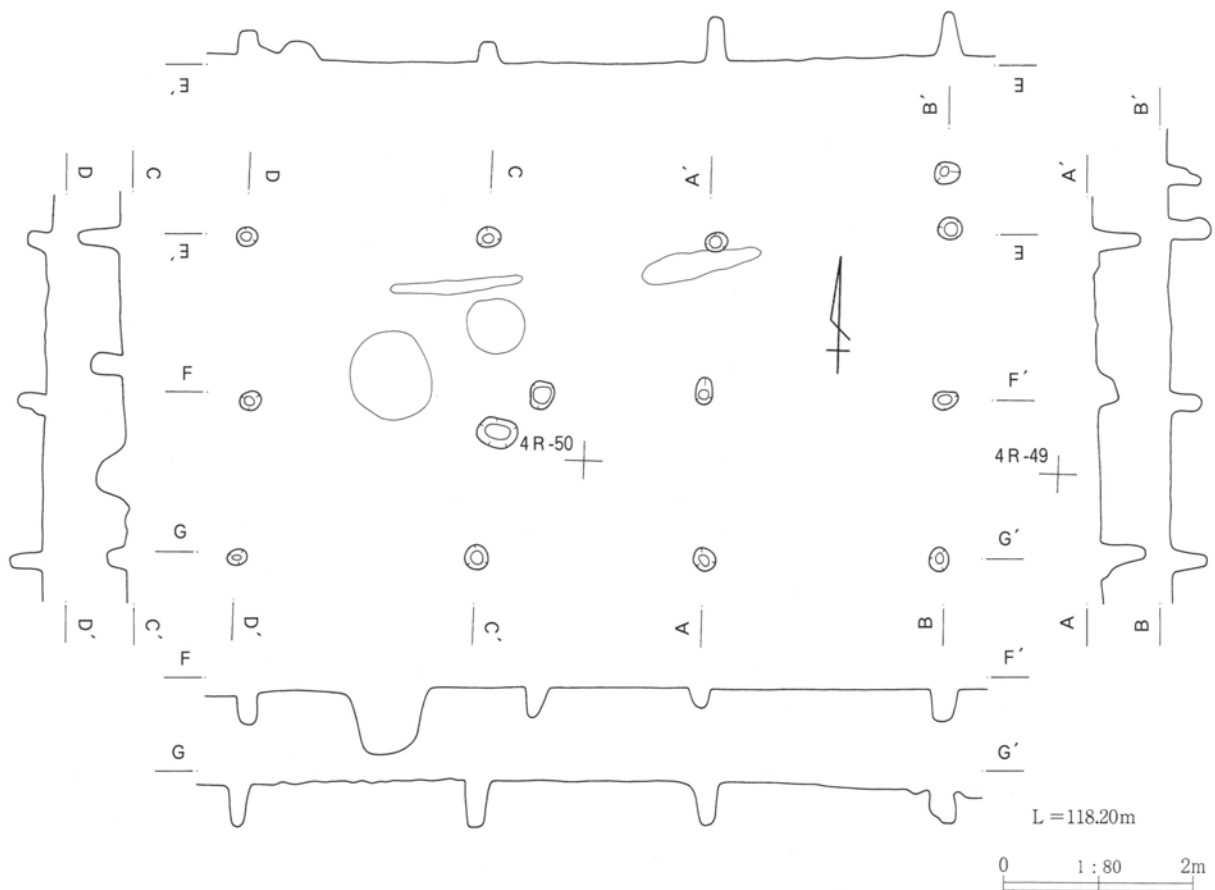
本掘立柱建物は5区調査区中程、4Q・4R-49・50グリッドに位置する。他遺構との重複関係は2号土坑、1号井戸、Ⅲ(As-B)層下水田と重複する。新旧関係はⅢ(As-B)層下水田より新しいが2号土坑、1号井戸との関係は不明である。残存状態は柱穴の深度も深く良好である。

形態は長方形を呈す。規模は梁行2間、桁行3間、

北辺7.39m、東辺3.44m、南辺7.49m、西辺3.38mを測る。主軸方位はN-90°-Eを指す。

柱穴は円形または楕円形を呈し、規模は最小P6の20×15cm、最大P13の41×30cm、深度は21~43cmである。柱間距離は1.32~3.20m、平均2.05mである。柱穴内部はⅡ層近い土砂で埋没しており柱痕は確認されなかった。

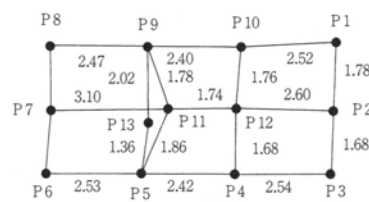
遺物は出土していない。



5区1号掘立柱建物柱穴計測表

PNo	長径	短径	深度	PNo	長径	短径	深度
1	26	24	30	8	20	18	24
2	27	20	37	9	24	22	25
3	24	21	36	10	24	22	48
4	27	22	43	11	32	19	21
5	28	25	38	12	29	26	30
6	20	15	32	13	41	30	39
7	22	20	34				

単位cm



第56図 5区1号掘立柱建物遺構図

4. 平安時代末以降の遺構と遺物

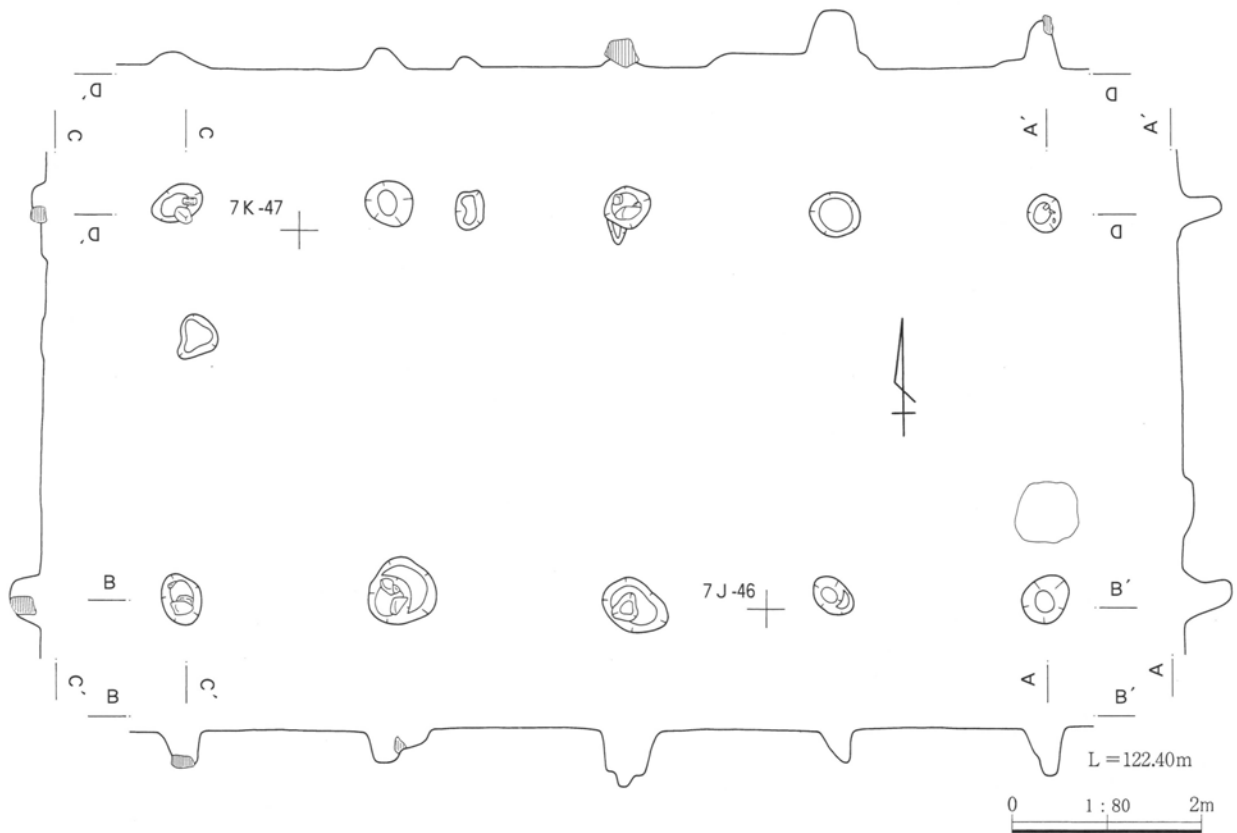
7区1号掘立柱建物

本掘立柱建物は7区調査区中程、7I～7K-45～47グリッドに位置する。他遺構との新旧関係は19号、26号、30号、32号、34号、45号土坑と重複する。新旧関係は19号、30号、32号、34号、45号土坑より新しいが26号土坑との関係は不明である。残存状態は比較的良好である。

形態は東辺が西辺より14cmほど長いがほぼ長方形を呈す。規模は梁行1間、桁行3間、北辺9.14m、東辺4.25m、南辺9.12m、西辺4.11mを測る。東西

辺は1間で4.25m、4.11mと1間のわりには間隔が広すぎる事から間に補助的な柱穴や礎を置いた礎石の存在が窺える。主軸方位はN-90°-Eを指す。

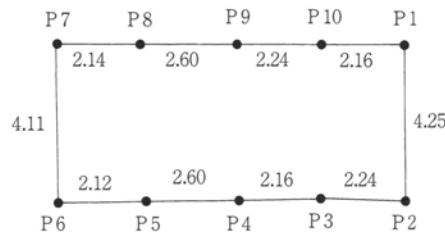
柱穴は円形または楕円形を呈し、規模は最小P1の径38×36cm、最大P5の径58×43cm、深度10～52cmを測る。中間距離は東西辺の間隔は広いが南北辺は2.12～2.47mである。柱穴内部からはP5、P6、P7、P9の底部に礎が置かれていた。柱痕は断面では明確ではなかったがP4の底面で確認された。遺物は出土していない。



7区1号掘立柱建物柱穴計測表

PNo	長径	短径	深度
1	38	36	45
2	56	47	52
3	50	34	34
4	72	56	58
5	78	68	33
6	56	43	27
7	58	36	10
8	52	49	25
9	44	44	32
10	52	49	49

単位cm



第57図 7区1号掘立柱建物遺構図

(2) 墓坑

墓坑は6区東北部、7A・7B-36・37グリッドに4基が集中した状態で位置している。この位置は中世菅谷城大外郭とされている外側にあたる。なお、大外郭に相当する位置では大外郭堀の一部と想定される6区3号溝(125p参照)を検出している。

墓坑の個々の状態はそれぞれの項で記載したとおりであるが全ての墓坑から人骨または歯が出土していることから墓坑と断定した。

この墓坑群からは人骨・歯の他に副葬品として渡来銭が出土している。これらの墓坑からは墓標としての五輪塔などの出土は見られなかったが、この土地所有者が畑として耕作しているときに多くの五輪塔を発見して自宅脇に移設していた。これらの墓標は6個体以上見られていた。こうした状況から推察すると現町道下や墓坑を検出した調査範囲の南側にまだ数基存在する可能性が窺える。

人骨・歯の鑑定は本事業団榑崎修一郎氏にお願いした。詳細はVI章5項を参照していただきたい。

6区1号墓坑

本墓坑は7B-37グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は比較的良好である。

形態は西側が張り出した楕円形を呈す。規模は長軸0.98m、短軸0.65m、深度0.25mを測る。主軸方位はN-110°-Eを指す。

埋没状態はII層と洪水層の混じり合った土砂で埋め戻された状態であった。

墓坑内部には人骨片が僅かに残存していた。その他、副葬品などの出土は見られなかった。

6区2号墓坑

本墓坑は6区1号墓坑の西、7B-37・38グリッドに位置している。他遺構との重複関係は溝状遺構と重複する。新旧関係は本墓坑の方が新しい。残存状態は比較的良好である。

形態は南北に長い楕円形を呈す。規模は長軸1.02m、短軸0.64m、深度0.35mを測る。主軸方位はN-20°-Eを指す。

埋没状態は6区1号墓坑と同様にII層と洪水層の混じり合った土砂で埋め戻された状態であった。

墓坑内部には人骨・歯が比較的良好に残存していた。副葬品としては渡来銭の「永楽通宝」が10枚出土した。

6区3号墓坑

本墓坑は7B-36グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は南辺のごく一部が調査区外へ延びるが良好である。

形態は東西に長い楕円形を呈す。規模は長軸1.20m、短軸0.90m、深度0.50mを測る。主軸方位はN-14°-Wを指す。

埋没状態は6区1号墓坑・2号墓坑と同様にII層と洪水層の混じり合った土砂で埋め戻された状態であった。

墓坑内には大腿骨などが残存していた。副葬品としては渡来銭の「永楽通宝」が1枚が出土している。

6区4号墓坑

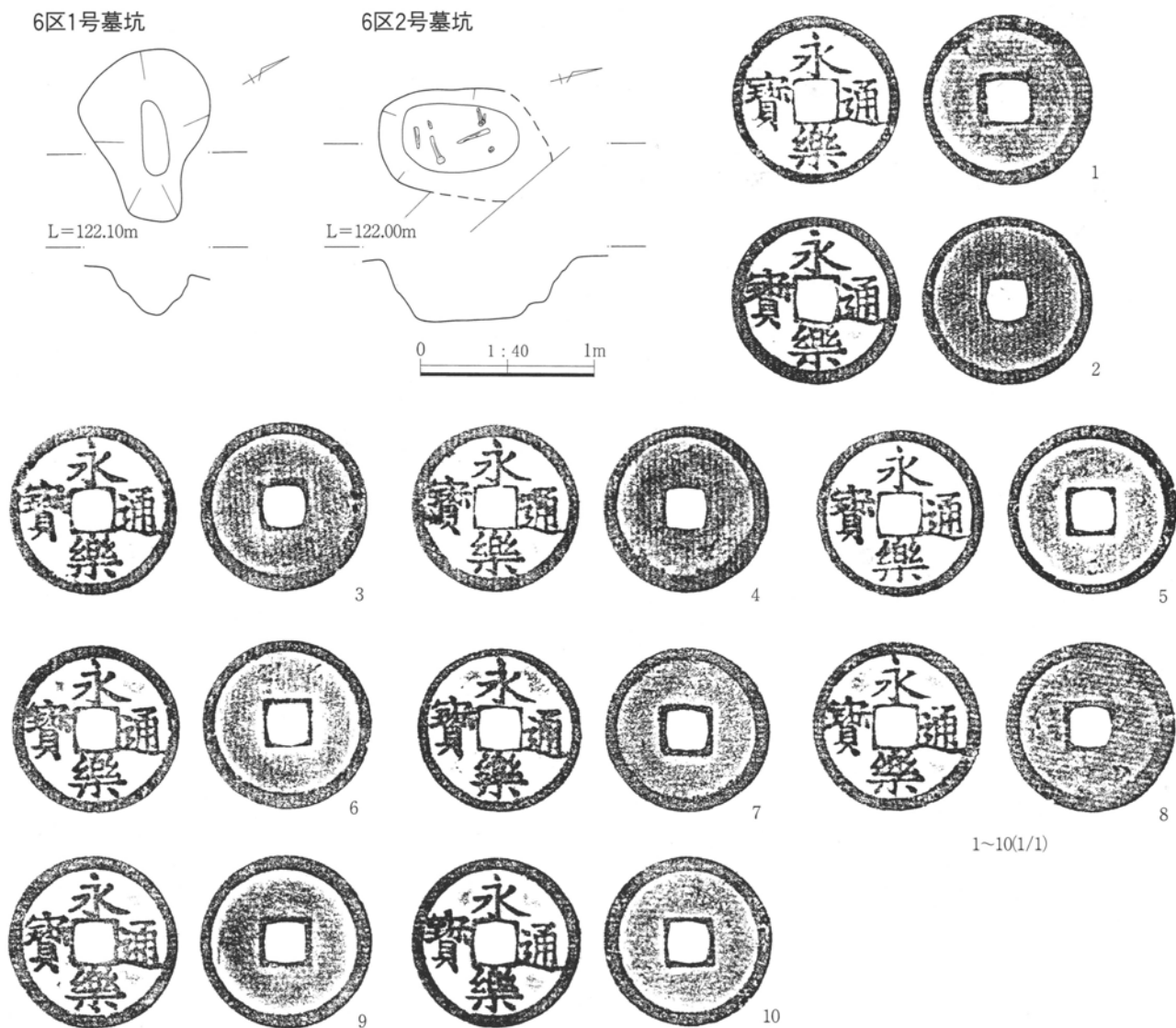
本墓坑は3号墓坑の東、7B-35・36グリッドに位置する。他遺構との重複関係は4号溝と重複する。新旧関係は確認時には明確ではなかったが人骨の出土状況などから本墓坑の方が新しい。残存状態は南側が調査区外へ延びるため全貌は不明であるが比較的良好である。

形態は楕円形を呈す。規模は長軸1.20m+ α 、短軸1.03m、深度0.20mを測る。主軸方位はN-0°-Eを指す。

埋没状態はII層と洪水層の混じり合った土砂で埋め戻された状態であった。この埋没土は6区4号溝でも同様な状態のため溝との区分に困難な点があった。

墓坑内部には人骨が比較的良好な状態で残存していた。副葬品としては渡来銭の「開眼通宝」、「天聖元宝」、「熙寧元宝」、「元豊通宝」、「元祐通宝」など6枚が出土している。

本土坑は副葬品の渡来銭組み合わせから検出した墓坑4基の中でもっとも古い段階に比定される。



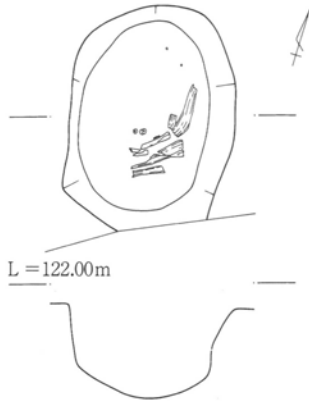
第58図 6区1号墓坑・2号墓坑遺構図・遺物図

6区2号墓坑 P L 56

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.5孔0.6厚0.1 重3.1		銭種「永楽通宝」、明、初鑄1408年	
2	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.5孔0.6厚0.1 重3.0		銭種「永楽通宝」、明、初鑄1408年	
3	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.5孔0.6厚0.1 重2.5		銭種「永楽通宝」、明、初鑄1408年	
4	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.5孔0.6厚0.1 重2.9		銭種「永楽通宝」、明、初鑄1408年	
5	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.5孔0.6厚0.1 重3.2		銭種「永楽通宝」、明、初鑄1408年	
6	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.5孔0.6厚0.1 重3.2		銭種「永楽通宝」、明、初鑄1408年	
7	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.4孔0.6厚0.1 重3.7		銭種「永楽通宝」、明、初鑄1408年	
8	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.5孔0.6厚0.1 重3.9		銭種「永楽通宝」、明、初鑄1408年	
9	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.5孔0.6厚0.1 重3.7		銭種「永楽通宝」、明、初鑄1408年	
10	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.5孔0.6厚0.1 重3.2		銭種「永楽通宝」、明、初鑄1408年	

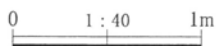
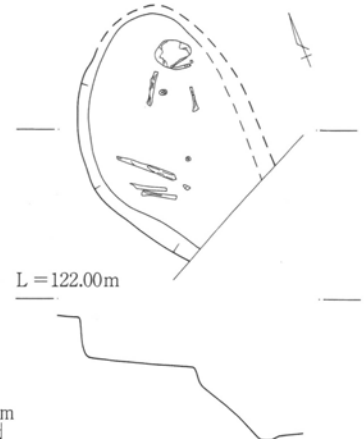
IV 遺構と遺物

6区3号墓坑

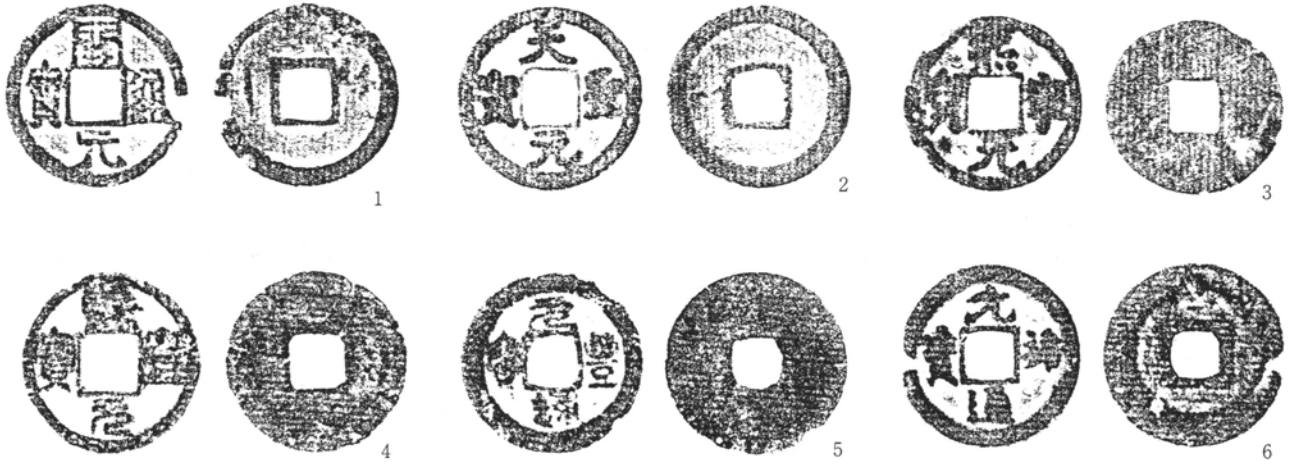


3号墓坑-1 (1/1)

6区4号墓坑



6区4号墓坑



1~6 (1/1)

第59図 6区3号墓坑・4号墓坑遺構図・遺物図

6区3号墓坑 P L 56

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/烧成 色調	成整形の特徴	摘要
1	錢貨 渡来錢	埋没土中 完形	径2.5孔0.6厚0.1 重3.2		錢種「永樂通寶」、明、初鑄1408年	

6区4号墓坑 P L 56

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/烧成 色調	成整形の特徴	摘要
1	錢貨 渡来錢	埋没土中 完形	径2.4孔0.7 厚0.1重2.7		錢種「開元通寶」、唐、初鑄621年	
2	錢貨 渡来錢	埋没土中 完形	径2.4孔0.7 厚0.1重3.5		錢種「天聖元寶」、北宋、初鑄1023年	
3	錢貨 渡来錢	埋没土中 完形	径2.4孔0.7 厚0.1重2.0		錢種「熙寧元寶」、北宋、初鑄1068年、真書	
4	錢貨 渡来錢	埋没土中 完形	径2.4孔0.7 厚0.1重2.4		錢種「熙寧元寶」、北宋、初鑄1068年、篆書	
5	錢貨 渡来錢	埋没土中 完形	径2.5孔0.6 厚0.1重2.7		錢種「元豐通寶」、北宋、初鑄1078年	
6	錢貨 渡来錢	埋没土中 完形	径2.5孔0.6 厚0.1重3.2		錢種「元祐通寶」、北宋、初鑄1086年	

(3) 土坑

第11表 平安時代末以降 土坑表

No 1

区	No	位置	重複		形態	規模(単位cm)			時期	摘要
			新	旧		長径	短径	深度		
2	1	0L-56			長方形	21.5	13	20	中世	
2	2	0M-56			長方形	14	8	32	中世～近世	
2	3	0M-56			長方形	8	5	7	中世～近世	
2	4	0R-58			円形	4.5	4.5	14	中世～近世	
2	5	1E-57			長方形	24.5	8	63	中世～近世	
2	6	1E-59			長方形	36	6	10	中世～近世	
2	7	1E-58			円形	7	6	25	中世～近世	
2	8	1A-53			長方形	11.3	5.8	10	中世～近世	
2	9	1A-52			楕円形	16	6.7	18	中世～近世	
2	10	0N-50			半楕円形	13.5	3.7	19	中世～近世	
2	11	0M-49			楕円形	13	8.3	3.5	中世～近世	
2	12	0M-49			楕円形	10.2	8.2	44	中世～近世	
2	13	0L-44			楕円形	12.5	9	27	中世～近世	
2	14	0L-44			楕円形	12	8.9	35	中世～近世	
2	15	0L-45			矩形	35	10.5	54	中世～近世	
2	16	0L-46			楕円形	10.2	7	44	中世～近世	
3	1	1S-55		1号井戸	長方形	273	87	23	中世～近世	
3	2	1Q-54			長方形	440	99	28	中世～近世	
3	3	2F-58			楕円形	110	89	13	中世～近世	
3	4	2G-58			円形	87	81	28	中世～近世	
3	5	2H-58			楕円形	110	105	16	中世～近世	
3	6	2I-59			不定形	131	85	14	中世～近世	
3	7	2G-56			長方形	126	44	13	中世～近世	
3	8	2H-56			円形	46	40	18	中世～近世	
3	9	2H-57			円形	47	45	25	中世～近世	
3	10	2J-58			楕円形	33	23	15	中世～近世	
3	11	2G-54			不定形	70	62	17	中世～近世	
3	13	2D-53			不定形	143	60	25	中世～近世	
3	14	2E-54			楕円形	42	32	34	中世～近世	
3	17	2I-56			円形	44	42	10	中世～近世	
3	18	2O-58			不定形	247	86	17	中世～近世	
3	20	2P-53			楕円形	65	55	25	中世～近世	
3	21	2O-56			不定形	195	84	27	中世～近世	
4	1	3C-62			矩形	119	56	34	中世	瓦片出土
4	2	3B-62			方形	200	91	45	中世～近世	
4	3	3M-53			長方形	215	170	85	中世～近世	人為的埋め戻し
4	21	3S-55			不定形	657	147	19	中世～近世	
5	1	4Q-50			不定形	70	46	24	中世～近世	
5	2	4R-50			楕円形	63	60	35	中世～近世	
6	1	5N-45			方形	130	64	30	中世～近世	
6	2	6A-48			方形	165	75	18	中世 室町時代	永楽通宝出土
6	3	5T-47			楕円形	74	51	17	中世～近世	
6	52	6P-46			方形	122	90	5	中世～近世	
7	1	7Q-46			四角形	140	138	10	中世～近世	
7	2	7Q-44			長方形	145	73	30	中世～近世	
7	3	7P-45			円形	82	87	10	中世～近世	
7	4	7N-46			矩形	133	123	11	中世～近世	
7	5	7N-46			不定形	162	35	35	中世	元祐通宝出土
7	6	7N-46			円形	65	65	80	中世～近世	
7	7									2号井戸へ変更
7	8	7O-46			長方形	90	48	40	中世～近世	
7	9	7Q-45			長方形	190	62	48	中世～近世	
7	10	7M-45			楕円形	72	68	17	中世～近世	

IV 遺構と遺物

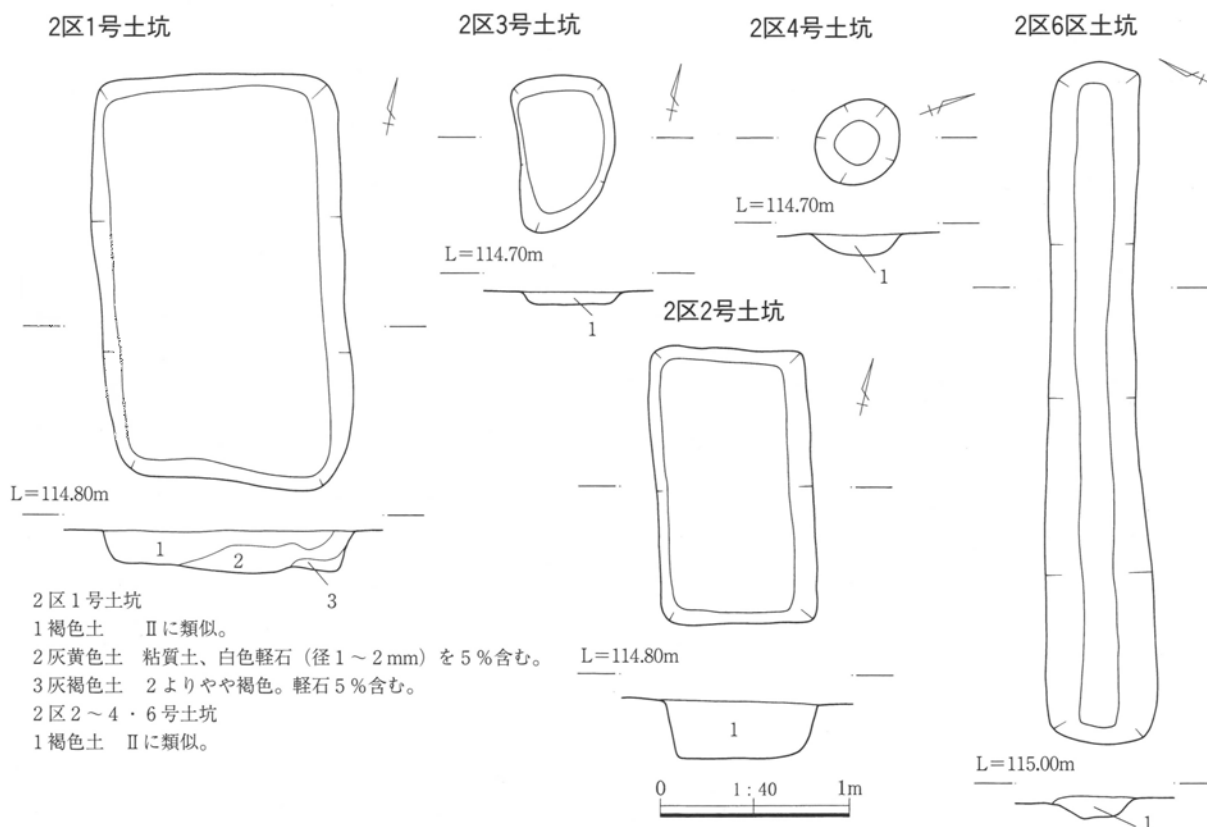
No 2

区	No	位置	重複		形態	規模(単位cm)			時期	摘要
			新	旧		長径	短径	深度		
7	11	7L-46			長方形	257	109	16	中世～近世	
7	12	7L-46			矩形	103	78	10	中世～近世	
7	13	7K-45			長方形	190	102	12	中世～近世	
7	14	7N-45			楕円形	55	46	38	中世～近世	
7	15	7K-45			四角形	115	105	30	中世～近世	
7	16	7K-46			円形	95	92	19	中世～近世	
7	17	7K-46			楕円形	102	64	10	中世	片口鉢出土
7	18	7K-44			矩形	215	168	22	中世～近世	
7	19	7J-45			長方形	185	115	22	中世～近世	
7	20	7J-44			楕円形	102	90	38	中世～近世	
7	21	7J-44			矩形	140	115	23	中世～近世	
7	22	7J-44・45			円形	80	80	25	中世～近世	
7	23	7J-44			楕円形	100	90	30	中世～近世	
7	24	7I-44			楕円形	100	96	30	中世～近世	
7	25	7I-45			矩形	100	88	78	中世～近世	
7	26	7J-45			矩形	67	65	15	中世～近世	
7	27	7J-45			長方形	100	67	17	中世～近世	
7	28									4号井戸に変更
7	29	7J-46			円形	70	70	15	中世～近世	
7	30	7J-46			不定形	55	54	23	中世～近世	
7	31	7J-46			不定形	60	55	16	中世～近世	
7	32	7J-46			不定形	80	60	12	中世～近世	
7	33	7J-46			円形	43	43	16	中世～近世	
7	34	7J-47			不定形	80	60	5	中世～近世	
7	35	7J-46			楕円形	45	40	30	中世～近世	
7	36	7I-46			楕円形	53	35	44	中世～近世	
7	37	7I-46・47			不定形	45	30	45	中世～近世	
7	38	7I・J-47			円形	40	40	35	中世～近世	
7	39	7J-46			楕円形	55	42	23	中世～近世	
7	40	7I-44			楕円形	107	90	35	中世～近世	
7	41	7I・J-46			不定形	65	53	55	中世～近世	
7	42	7T-43			楕円形	47	45	20	中世～近世	
7	43	7T-43			楕円形	34	16	14	中世～近世	
7	44	7S-43			不定形	133	86	30	中世～近世	
7	45	7J-45			楕円形	86	55	45	中世～近世	
7	46	7F-44			四角形	130	123	18	中世～近世	
7	47	7H-45			不定形	100	95	38	中世～近世	
7	48	7H・I-45			不定形	73	63	44	中世～近世	
7	49	7J-45			円形	53	45	46	中世～近世	
7	50	7J-46			不定形	50	30	40	中世～近世	
7	51	7I-47			楕円形	145	80	32	中世 室町	火葬骨墓か
7	52	7I-47			円形	65	60	10	中世～近世	
7	53	7O-44			不定形	45	35	34	中世～近世	
7	54	7B-46・47			不定形	218	60	13	中世～近世	
7	55	7B-47			不定形	80	74	16	中世～近世	
7	56	7G-47			楕円形	316	57	8	中世～近世	
7	57	7J-46			楕円形	50	33	40	中世～近世	
7	58	7J-46			矩形	35	36	53	中世～近世	
7	59	7K-46			不定形	38	30	52	中世～近世	
7	60	7G-45			円形	43	45	8	中世～近世	
7	61	7J-45			円形	52	50	64	中世～近世	
7	62	7J・K-45			円形	40	40	56	中世～近世	
7	63	7I-46			楕円形	52	30	60	中世～近世	
7	64	7J-46			楕円形	33	20	30	中世～近世	

4. 平安時代末以降の遺構と遺物

No 3

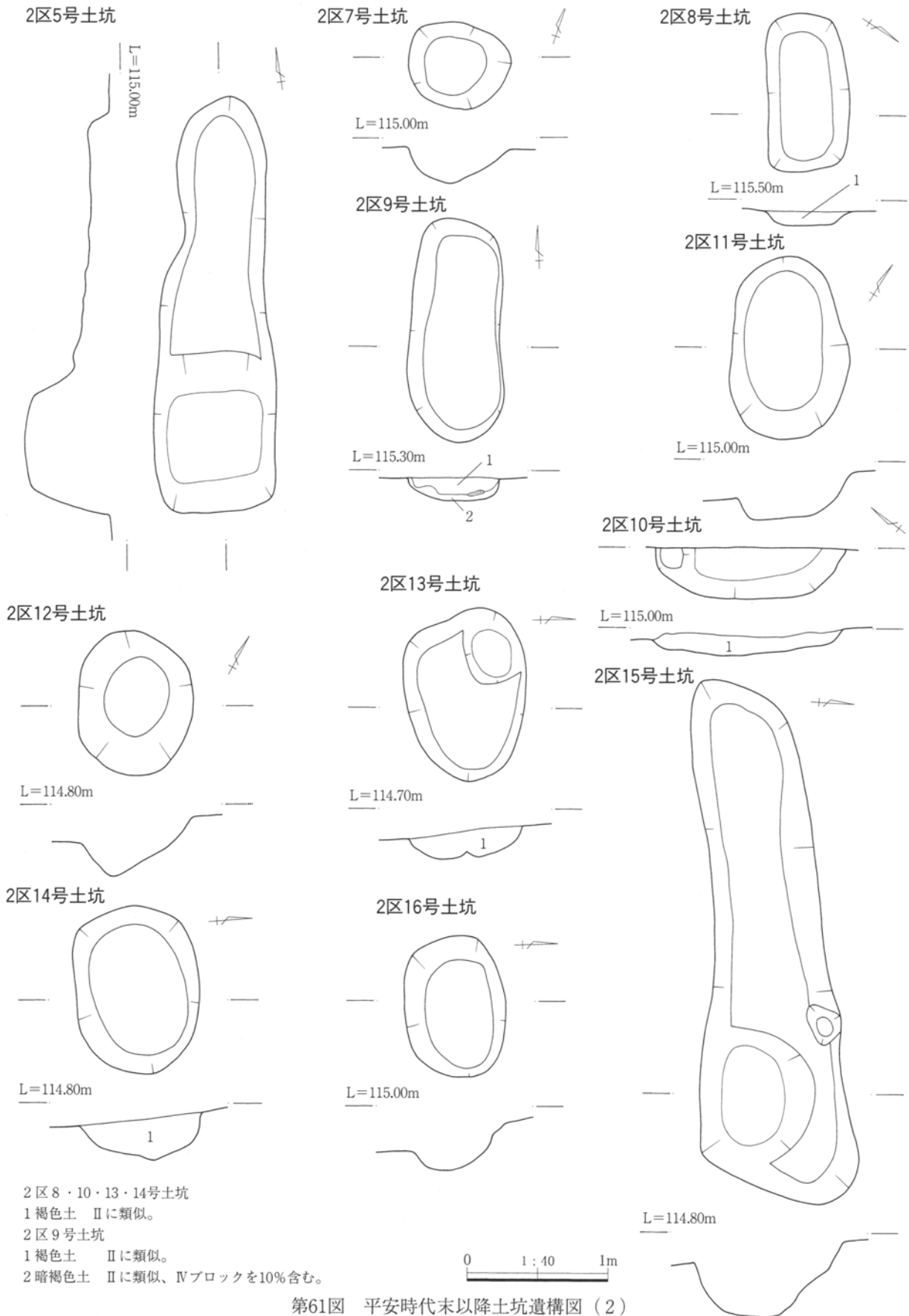
区	No	位置	重複		形態	規模(単位cm)			時期	摘要
			新	旧		長径	短径	深度		
7	65	7K-46			円形	35	35	28	中世～近世	
7	66	7K-46			円形	30	28	20	中世～近世	
7	67	7K-46			不定形	30	25	42	中世～近世	
7	68	7J-46			矩形	29	24	33	中世～近世	
7	69	7J-46			楕円形	33	25	45	中世～近世	
7	70	7J-45			楕円形	30	20	40	中世～近世	
7	71	7I-46			円形	30	26	35	中世～近世	
7	72	7K-46			円形	30	30	6	中世～近世	
7	73									欠番
7	74	7L-47			長方形	160	97	30	中世～近世	
7	75	7L-47			楕円形	52	32	30	中世	石白片出土
7	76	7L-47			不定形	53	45	30	中世～近世	
7	77	7L-47			不定形	190	70	16	中世～近世	
7	78	7K-47			円形	50	50	25	中世～近世	
7	79	7I-47			不定形	59	45	33	中世～近世	
7	80	7I-46			楕円形	45	27	59	中世～近世	
7	81	7I-47			楕円形	37	30	33	中世～近世	
7	82	7I-46			円形	30	30	55	中世～近世	
7	83	7I-45・46			楕円形	48	33	37	中世～近世	
7	84	7I・J-45			楕円形	42	40	45	中世～近世	
7	85	7J-46			不定形	60	55	12	中世～近世	
7	86	7I・J-47			不定形	40	30	25	中世～近世	
7	87	7J-47			楕円形	50	45	30	中世～近世	
7	88	7J-47			楕円形	43	35	23	中世～近世	
7	89	7I-46			楕円形	36	26	35	中世～近世	
7	92	7I-45			円形	28	28	37	中世～近世	
8	1	8B-46			楕円形	69	43	8	中世～近世	
8	2	8D-47			楕円形	56	46	19	中世～近世	



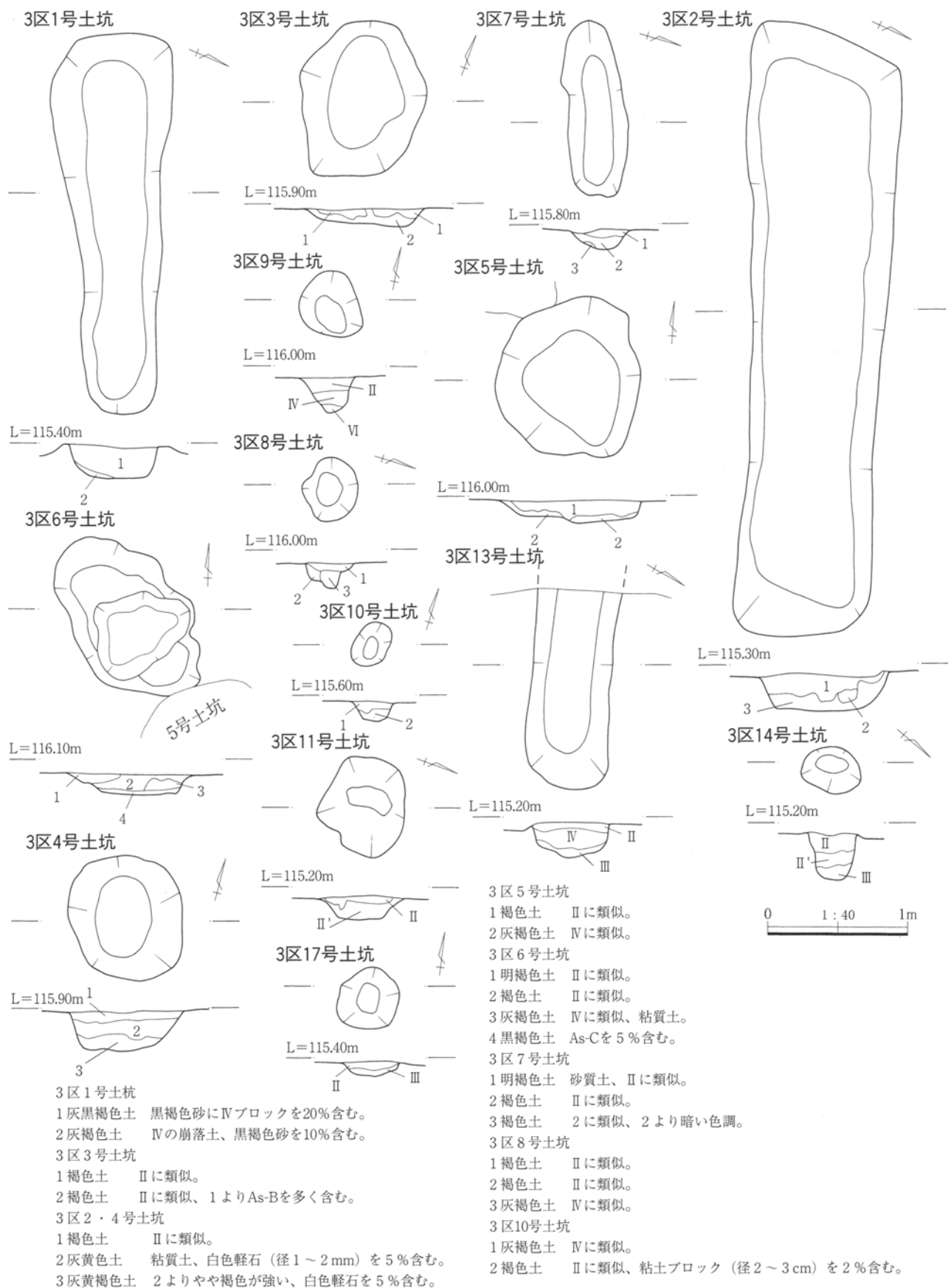
2区1号土坑
 1 褐色土 IIに類似。
 2 灰黄色土 粘質土、白色軽石(径1~2mm)を5%含む。
 3 灰褐色土 2よりやや褐色。軽石5%含む。
 2区2~4・6号土坑
 1 褐色土 IIに類似。

第60図 平安時代末以降土坑遺構図(1)

IV 遺構と遺物

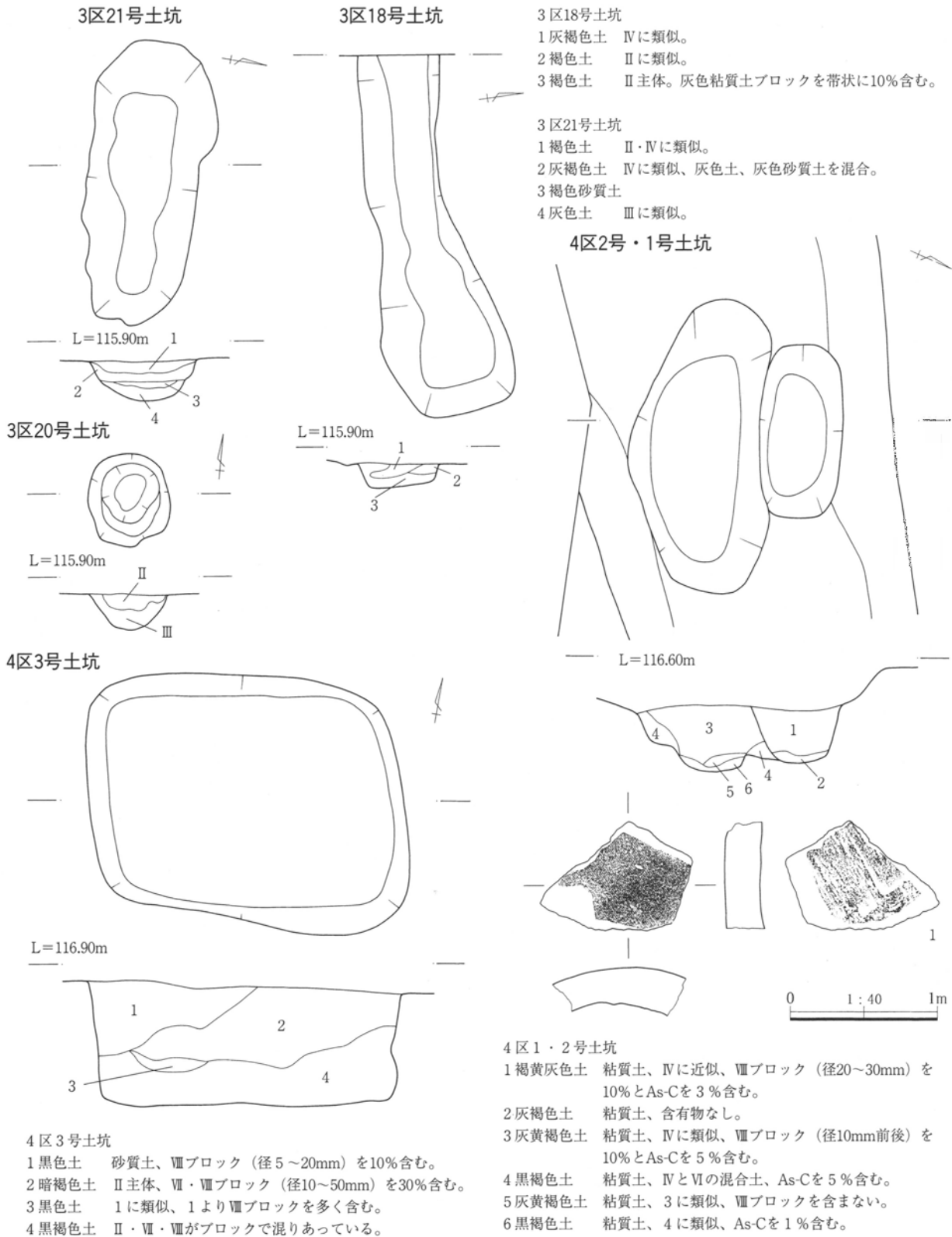


第61図 平安時代末以降土坑遺構図(2)



第62図 平安時代末以降土坑遺構図(3)

IV 遺構と遺物

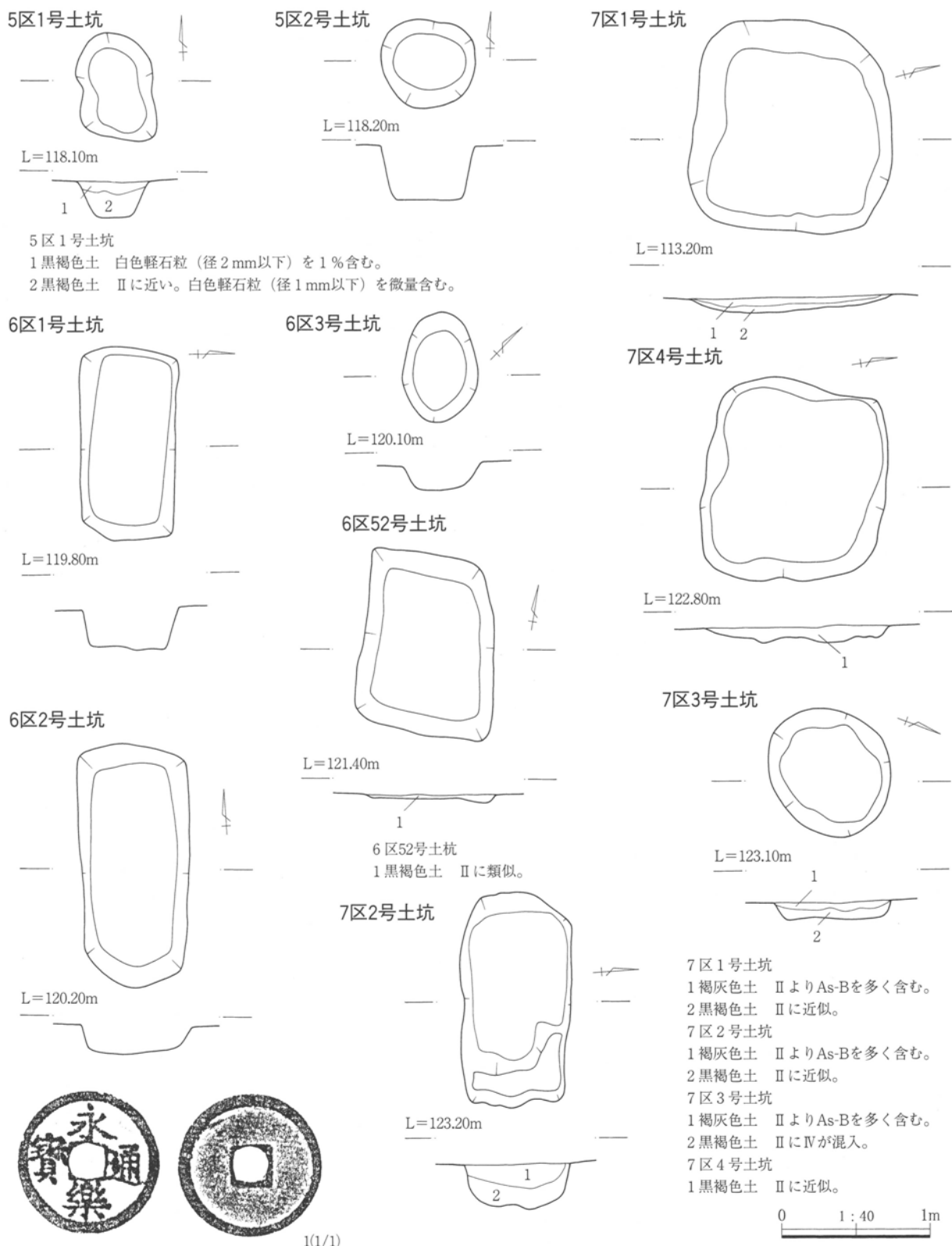


第63図 平安時代末以降土坑遺構図（4）・遺物図

4区1号土坑 P L56

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
1	土製品 丸瓦	埋没土中 小片		粗砂粒/還元焰/ 黄灰色	表面はヘラナデ。内面に型跡が残る。	

4. 平安時代末以降の遺構と遺物

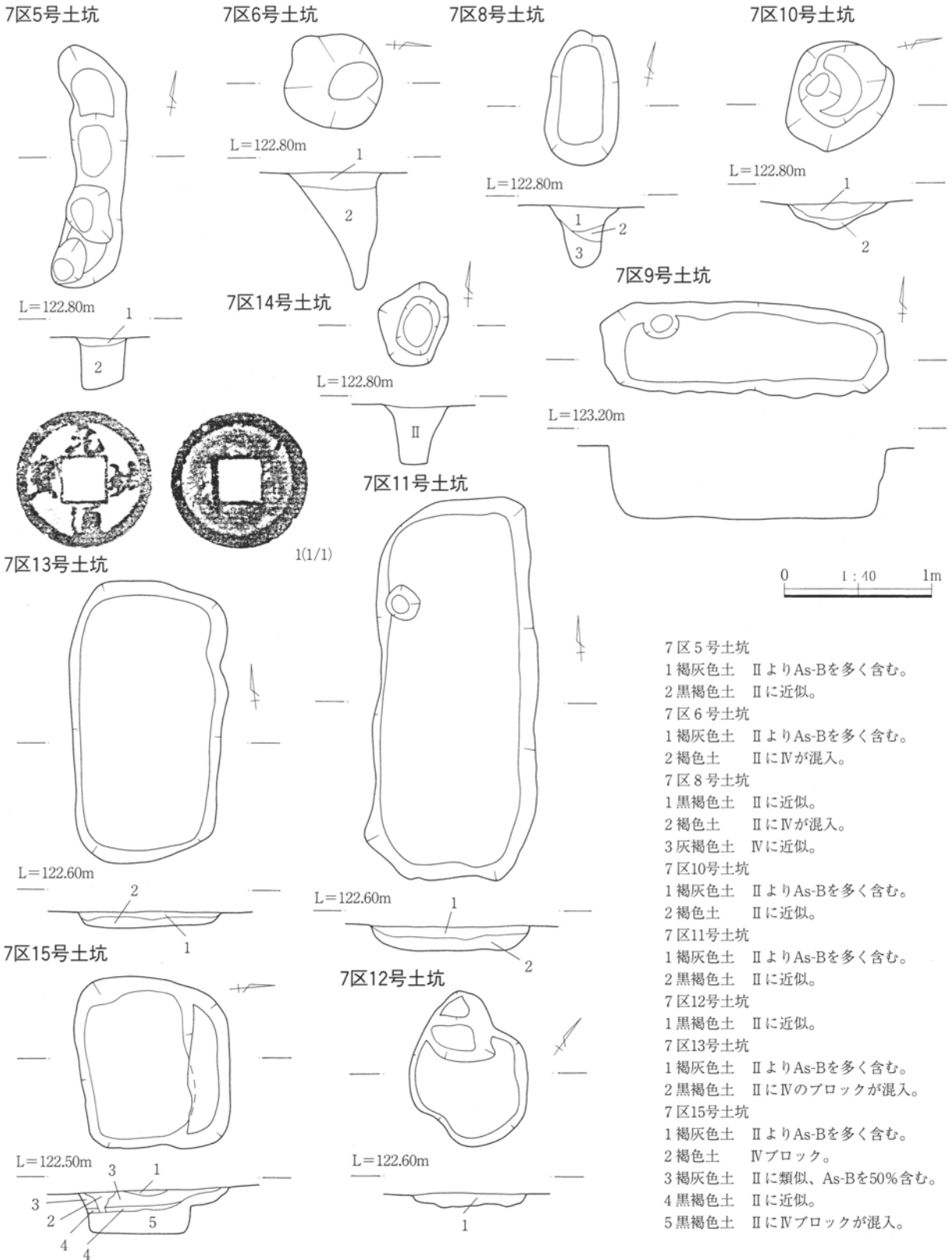


第64図 平安時代末以降土坑位構図(5)・遺物図

6区2号土坑 P L56

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
1	銭貨 渡来銭	埋没土中	径2.4孔0.6 厚0.1重3.0		銭種「永樂通寶」、明、初鑄1408年	

IV 遺構と遺物

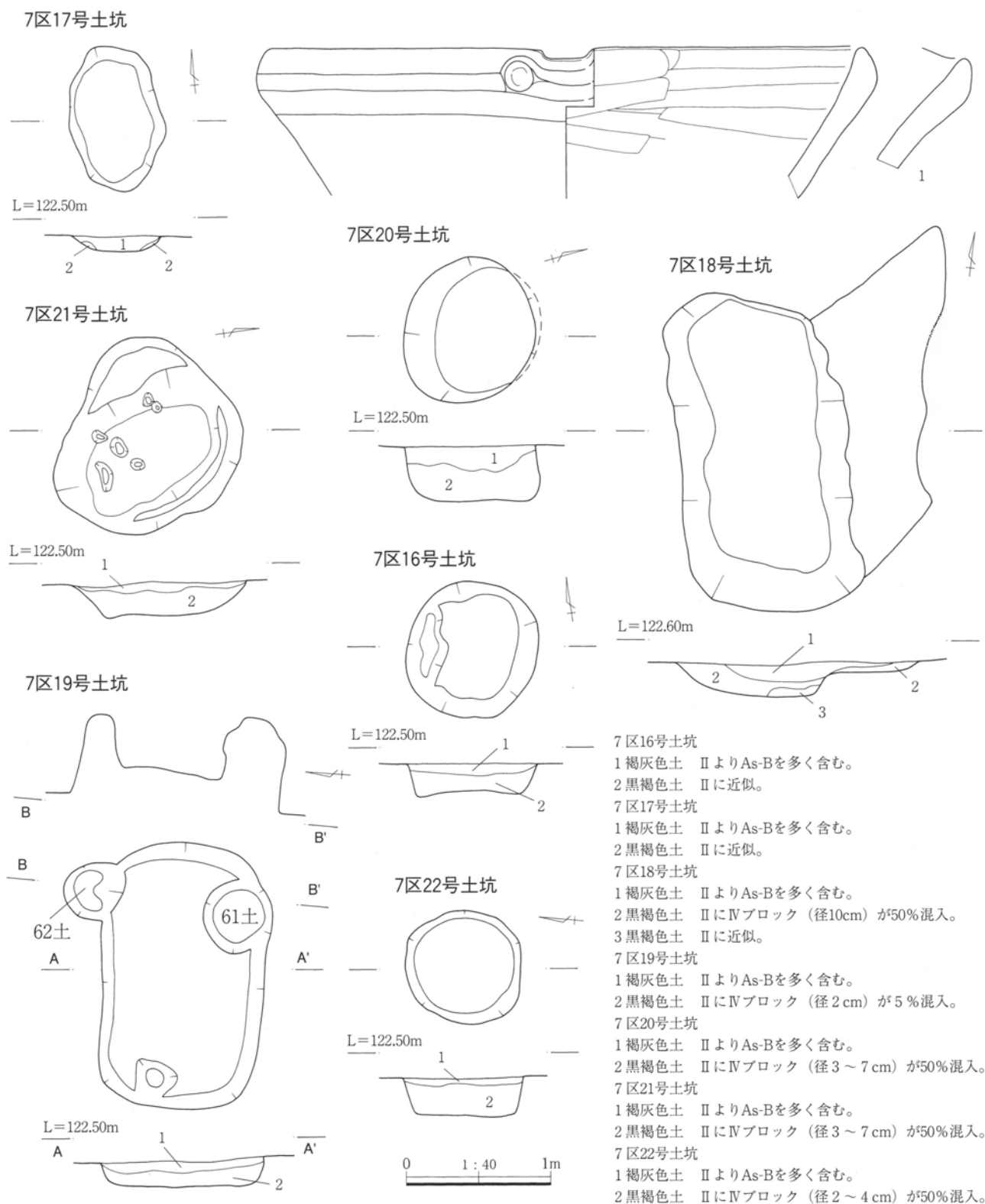


第65図 平安時代末以降土坑遺構図(6)・遺物図

7区5号土坑 P L 56

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴	摘要
1	銭貨 渡来銭	埋没土中	径2.4孔0.7 厚0.1重2.8		銭種「元祐通宝」、北宋、初鑄1086年	

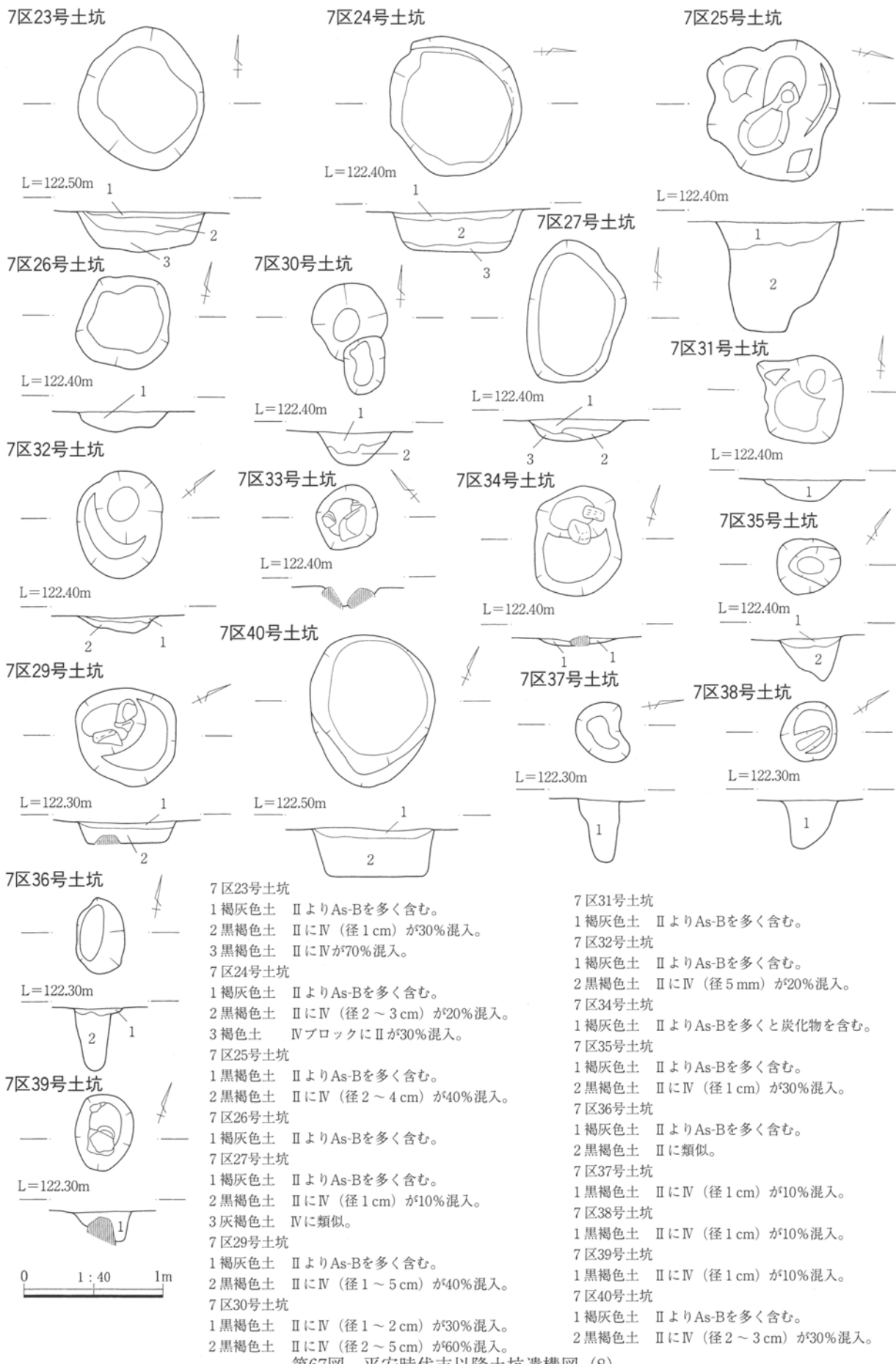
4. 平安時代末以降の遺構と遺物



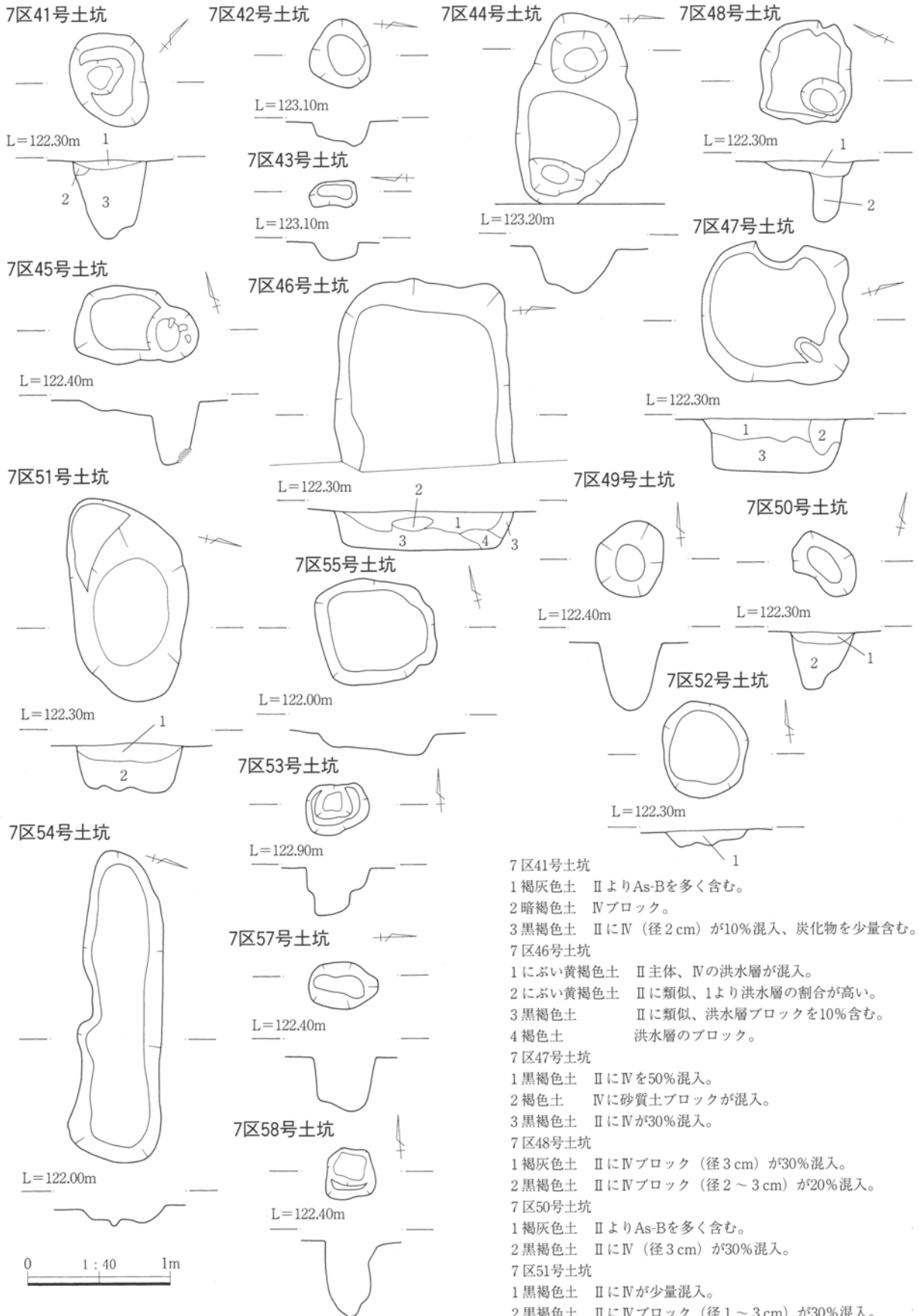
第66図 平安時代末以降土坑遺構図(7)・遺物図

7区17号土坑 P L56

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	軟質陶器 片口鍋	埋没土中 口縁部片	口径30.6	粗砂粒/還元焼/ 灰色	ロクロ整形、回転方向不明。内面はヘラナデ。	



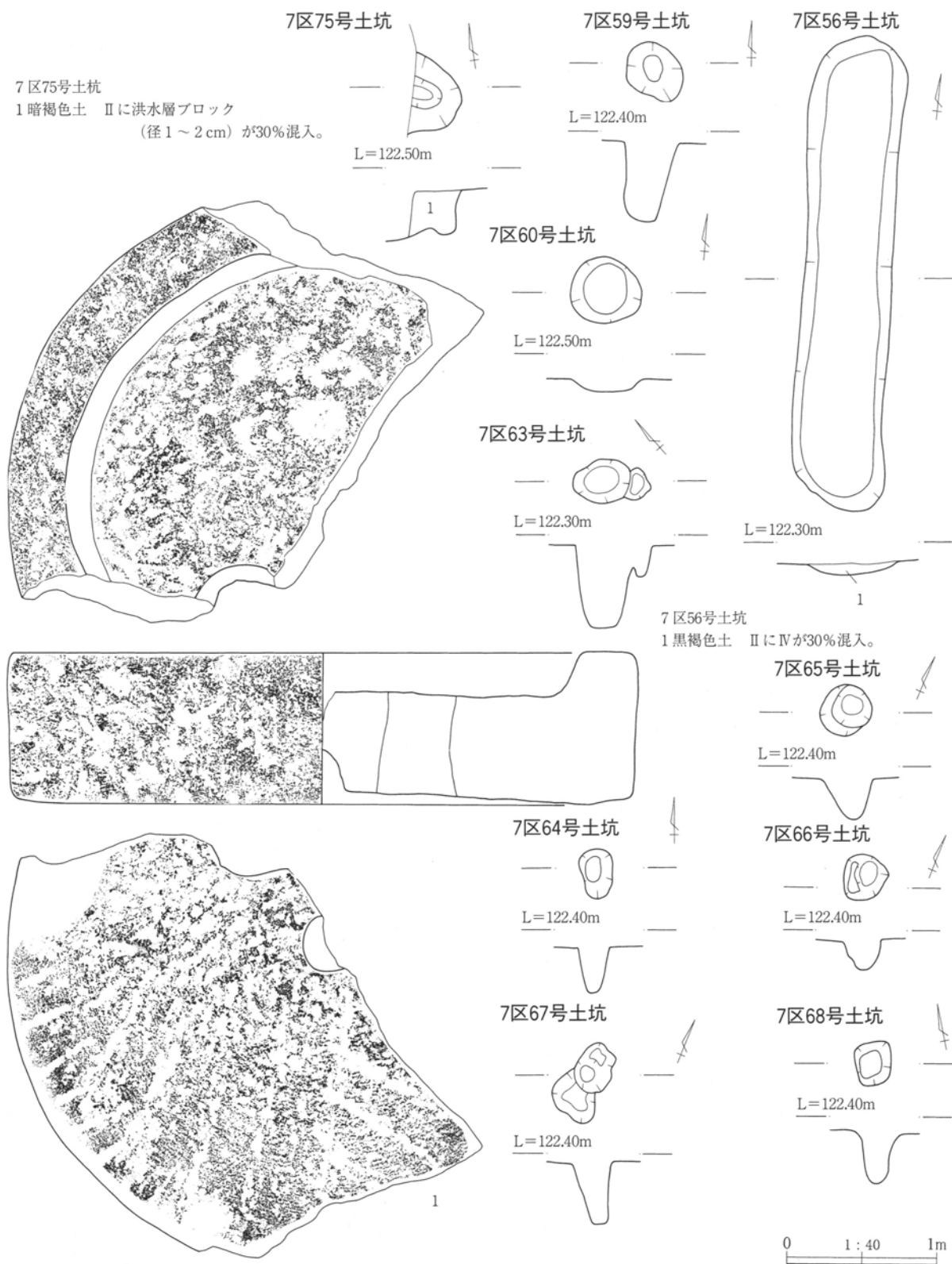
第67図 平安時代末以降土坑遺構図(8)



- 7区41号土坑
 1 褐灰色土 IIよりAs-Bを多く含む。
 2 暗褐色土 IVブロック。
 3 黒褐色土 IIにIV(径2cm)が10%混入、炭化物を少量含む。
- 7区46号土坑
 1 にぶい黄褐色土 II主体、IVの洪水層が混入。
 2 にぶい黄褐色土 IIに類似、1より洪水層の割合が高い。
 3 黒褐色土 IIに類似、洪水層ブロックを10%含む。
 4 褐色土 洪水層のブロック。
- 7区47号土坑
 1 黒褐色土 IIにIVを50%混入。
 2 褐色土 IVに砂質土ブロックが混入。
 3 黒褐色土 IIにIVが30%混入。
- 7区48号土坑
 1 褐灰色土 IIにIVブロック(径3cm)が30%混入。
 2 黒褐色土 IIにIVブロック(径2~3cm)が20%混入。
- 7区50号土坑
 1 褐灰色土 IIよりAs-Bを多く含む。
 2 黒褐色土 IIにIV(径3cm)が30%混入。
- 7区51号土坑
 1 黒褐色土 IIにIVが少量混入。
 2 黒褐色土 IIにIVブロック(径1~3cm)が30%混入。
- 7区52号土坑
 1 黒褐色土 IIにIVブロック(径2~3cm)が50%混入。

第68図 平安時代末以降土坑遺構図(9)

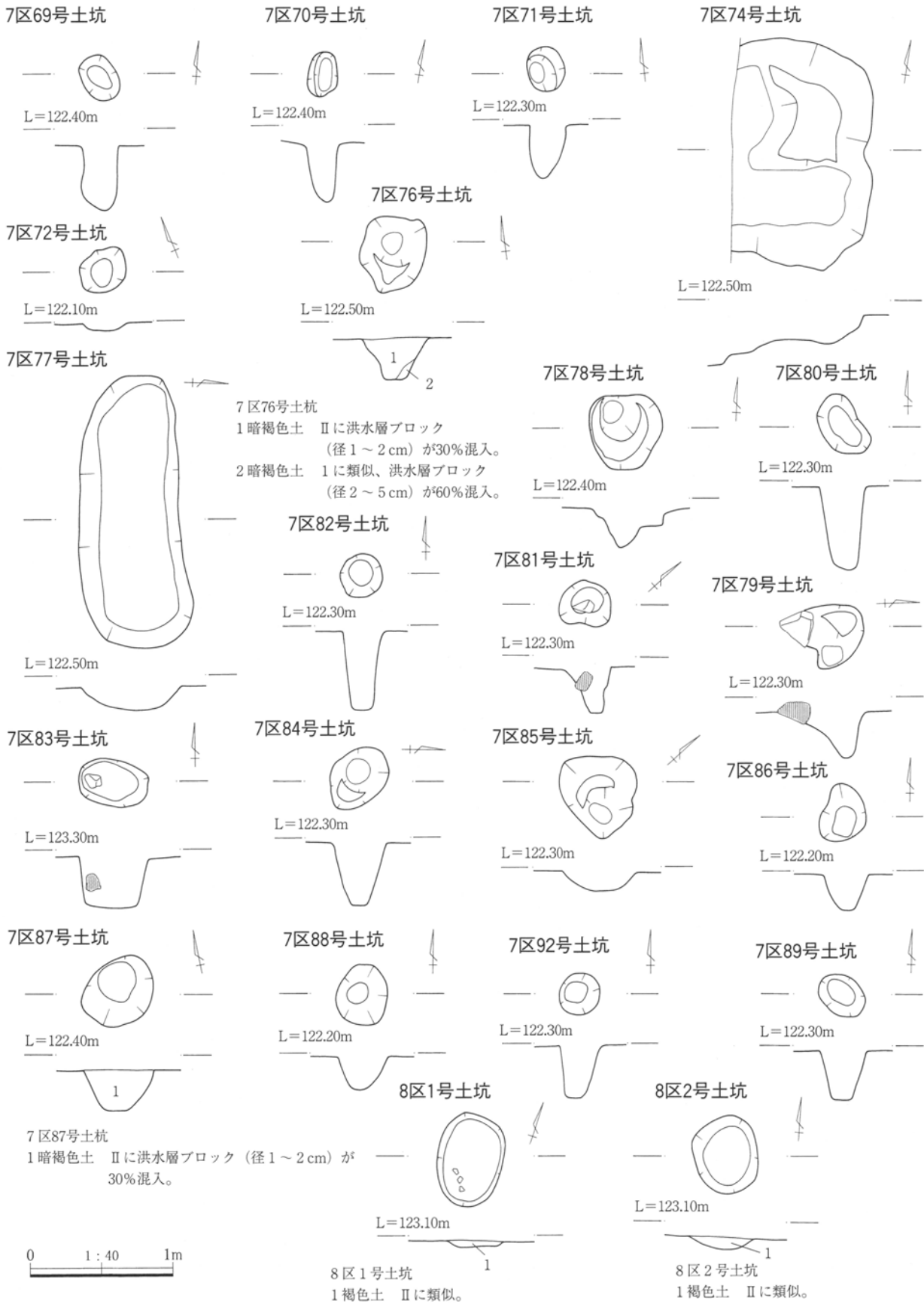
IV 遺構と遺物



第69図 平安時代末以降土坑遺構図(10)・遺物図

7区75号土坑 P L 56

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
1	石製品 石臼	埋没土中 上白片	径31.4高7.5	粗粒輝石安山岩	擦り面は摩耗が激しい。心棒径1.2cm、供給口径4.4cm。	



第70図 平安時代末以降土坑遺構図 (11)

IV 遺構と遺物

(4) 井戸

3区1号井戸

本井戸は3区調査区南部、1S-55グリッドに位置する。他遺構との重複関係は1号土坑、Ⅲ(As-B)層下水田と重複する。新旧関係は本遺構の方が土坑より古く、水田より新しい。残存状態は比較的良好である。

形態は平面が円形、断面が筒状を呈す。底面はほぼ平坦である。規模は径1.13×1.10m、深度0.88mを測る。

内部からは井戸枠などの施設は確認されないことから素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積に近い状態が観察できることから自然埋没の可能性が推察される。

本井戸は断面で湧水によるアグリなどは確認されなかったが調査を行った時期には底面でしみ出る程度の湧水を確認した。

遺物は出土していない。

3区2号井戸

本井戸は3区調査区南部、1T-54グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は良好である。

形態は平面が楕円形、断面が筒状を呈す。底面は緩い丸みをもつ。規模は径0.96×0.80m、深度0.90mを測る。

内部からは井戸枠などの施設は確認されないことから素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積に近い状態が観察できることから自然埋没の可能性が推察される。

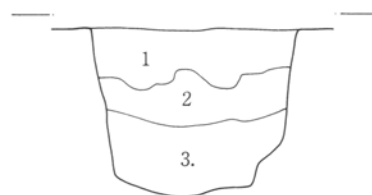
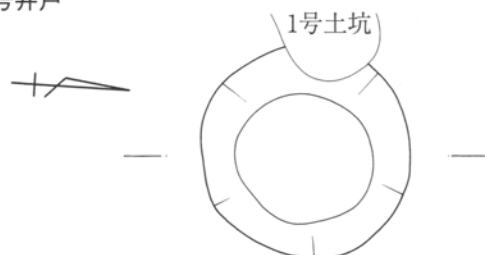
本井戸は断面で湧水によるアグリなどは確認されなかったが調査を行った時期には底面でしみ出る程度の湧水を確認した。

遺物は出土していない。

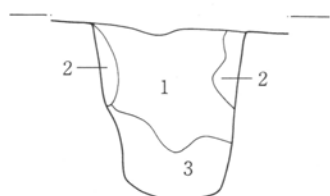
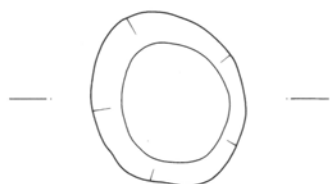
4区1号井戸

本井戸は4区調査区南半、3I・3J-56グリッドに位置する。他遺構との重複関係は1号溝と重複する。新旧関係は本井戸の方が新しい。残存状態は良好であるが、下半は調査時の湧水によって崩落の

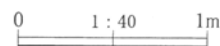
3区1号井戸



3区2号井戸



L=115.40m



3区1号井戸

1 黒褐色土 黒褐色砂とⅣブロック(30%)の混合土。

2 黒褐色土 1と同様、Ⅳを50%含む。

3 黒褐色土 1と同様、Ⅳを20%含む。

3区2号井戸

1 暗褐色土 Ⅱ主体、Ⅳaブロックを30~50%含む。

2 にぶい黄褐色土 Ⅳの崩落土、Ⅱを20%含む。

3 暗褐色土 1に近似、Ⅱを30%含む。

第71図 3区1号井戸・2号井戸遺構図

危険が生じたため調査不可能であった。

形態は平面楕円形、断面は下部がやや細くなる筒状を呈す。規模は径2.33×1.72m、深度1.5m以上を測る。

内部から井戸枠などの施設は確認されなかった。

埋没状態は断面で水平堆積が確認されるが堆積している土砂や下層に存在するシルト質土が確認されることから人為的な埋め戻しによると判断される。

遺物は上部より砥石、竹材が出土している。この竹材は井戸を埋め戻したときに内部のガス抜きに設置された一部と見られる。

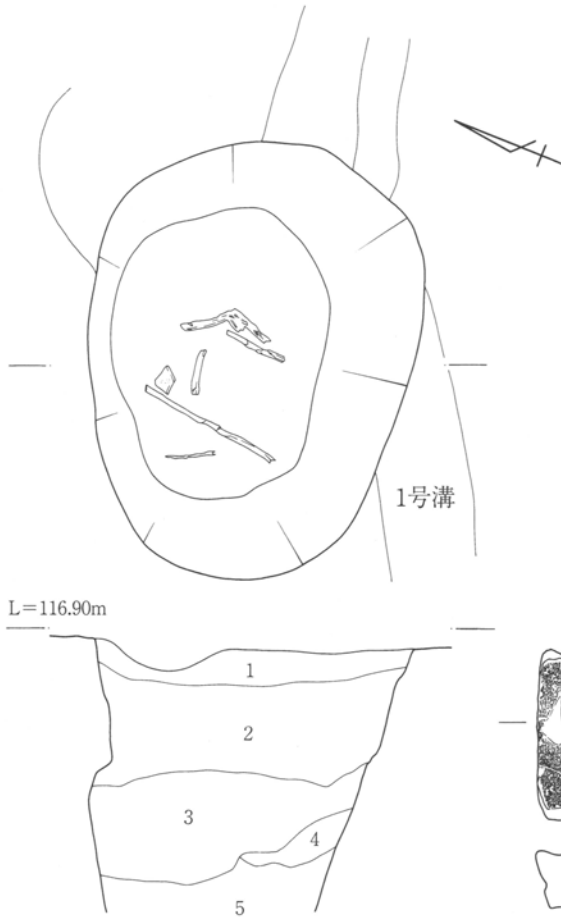
4. 平安時代末以降の遺構と遺物

内部からは井戸枠などの施設は確認されないことから素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積が確認されるが堆積している土砂に下層に存在するシルト質土が確認されることから人為的な埋め戻しによると判断される。

本井戸は断面で湧水によるアグリなどは確認されなかったが調査を行った時期には底面でしみ出る程度の湧水を確認した。

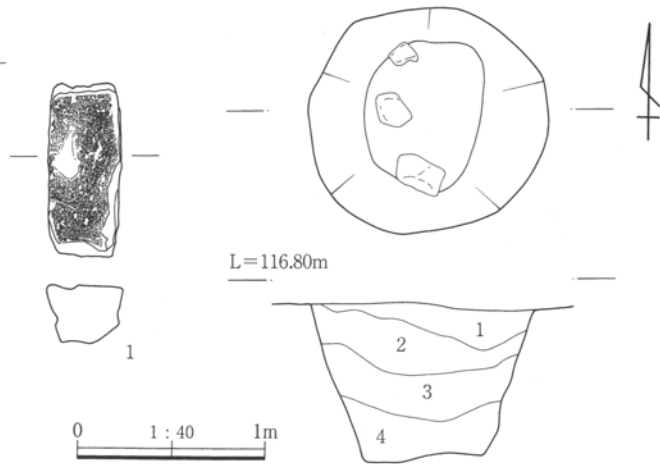
遺物は出土していない。



4区1号井戸

- 1 褐灰色土 IIに類似、灰黄色シルトブロック、炭化物を含む。
- 2 暗褐色土 II主体、灰黄色シルトブロックを含む。
- 3 暗褐色土 2に類似、Ⅶブロックを10%含む。
- 4 黒色土 砂質土。
- 5 黒褐色土 4に類似。

第72図 4区1号井戸遺構図・遺物図



4区2号井戸

- 1 褐灰色土 IIに類似、灰黄色シルトブロックを10%と炭化物も含む。
- 2 暗褐色土 II主体、灰黄色シルトブロックを3%含む。
- 3 暗褐色土 2に類似、Ⅶのブロックを10%含む。
- 4 黒褐色土 砂質土。

第73図 4区2号井戸遺構図

4区2号井戸

本井戸は4区調査区南半、3G・3H-57グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は比較的良好である。

形態は平面がほぼ円形、断面は逆台形状を呈す。底面は平坦である。規模は径1.28×1.20m、深度1.04mを測る。

4区3号井戸

本井戸は4区調査区南半、3H-57・58グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は比較的良好である。

形態は平面が楕円形、断面は筒状を呈す。底面は平坦である。規模は径0.90×0.76m、深度0.80mを測る。

内部からは井戸枠などの施設は確認されないこと

4区1号井戸 P L56

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
1	石製品 砥石	埋没土中 上下欠損	長(6.8)幅2.9 厚2.3重80.0	砥沢石	裏面/両側面は未使用。	

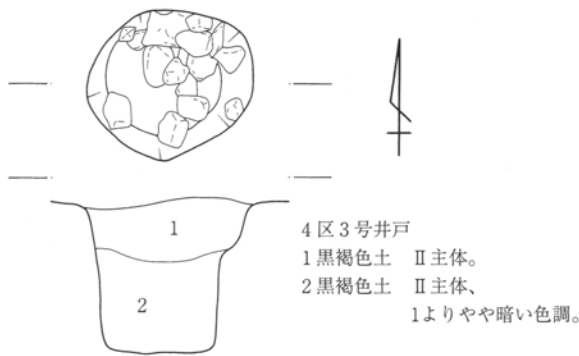
IV 遺構と遺物

から素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積が確認され堆積している土砂はⅡ層に類似したものが観察されることから自然埋没による。

本井戸は断面で湧水によるアグリなどは確認されなかったが調査を行った時期には底面でしみ出る程度の湧水を確認した。

遺物は出土していない。



第74図 4区3号井戸遺構図

4区4号井戸

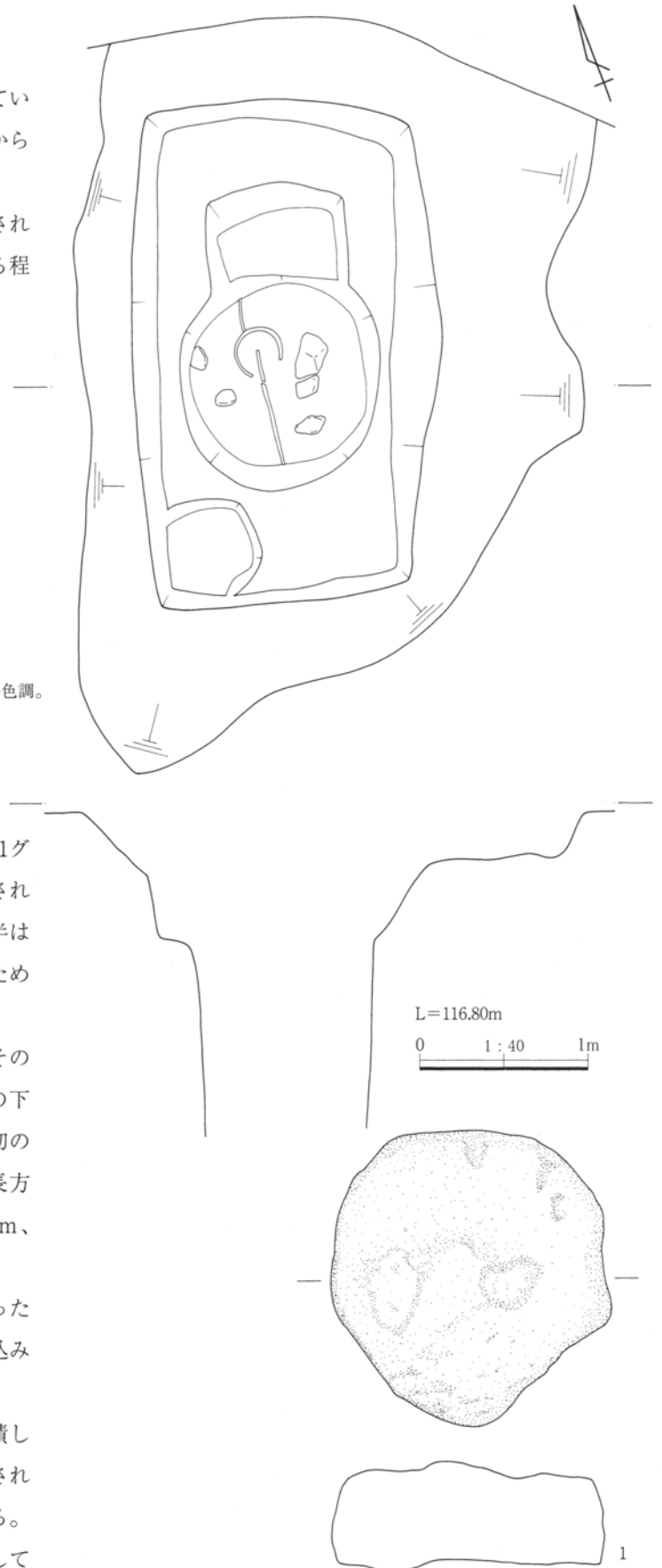
本井戸は4区調査区中程、3M・3N-50・51グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は比較的良好であるが、下半は調査時の湧水によって崩落などの危険が生じたため調査不可能であった。

形態は上部を約0.5mほど不定形に掘削し、その下部を約0.4mほど長方形に掘削し、さらにその下部を筒状に掘削して本体としている。規模は最初の掘方が長軸4.6m + α 、幅約3m、その下部の長方形の掘方が長軸3.00m、短軸1.84m、深度0.40m、本体は径1.20mを測る。

内部からは井戸枠などの施設は確認されなかったが上部の長方形から本体へは1段の階段状掘り込みが見られる。

埋没状態は断面で水平堆積が確認されるが堆積している土砂に下層に存在するシルト質土が確認されることから人為的な埋め戻しによると判断される。

遺物は上部で用途不明石製品、木材片が出土している。



第75図 4区4号井戸遺構図・遺物図

4区4号井戸 P L 56

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
1	石製品 凹石	埋没土中 完形	長13.0幅12.7 厚5.0重950	粗粒輝石安山岩	表面の中よりやや右寄りに径2.5cm、深0.5cmの凹が見られる。	

5区1号井戸

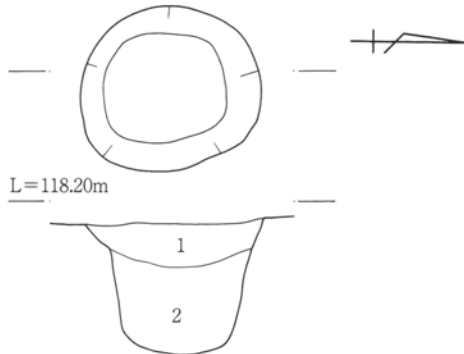
本井戸は5区調査区中程、4R-50グリッドに位置する。他遺構との重複関係はⅢ (As-B) 層下水田と重複する。新旧関係は本井戸の方が新しい。残存状態は比較的良好である。

形態はほぼ円形、断面は筒状を呈す。底面は緩い丸みをもつ。規模は径0.96×0.86m、深度0.74mを測る。

内部からは井戸枠などの施設は確認されないことから素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積が確認されるが堆積している土砂に下層に存在するシルト質土が確認されることから人為的な埋め戻しによると判断される。

遺物は出土していない。



5区1号井戸

- 1 黒褐色土 Ⅱに類似、灰黄褐色シルト質土ブロック (径5~30mm) を3%、白色軽石 (径2mm) を1%含む。
- 2 黒褐色土 Ⅱに類似、灰黄褐色シルト質土ブロック (径5~10mm) を2%、白色軽石 (径2mm) を微量含む。

第76図 5区1号井戸遺構図

5区2号井戸

本井戸は5区調査区中程、4Q・4R-47グリッドに位置する。他遺構との重複関係はⅢ (As-B) 層下水田と重複する。新旧関係は本井戸の方が新しい。残存状態は比較的良好である。

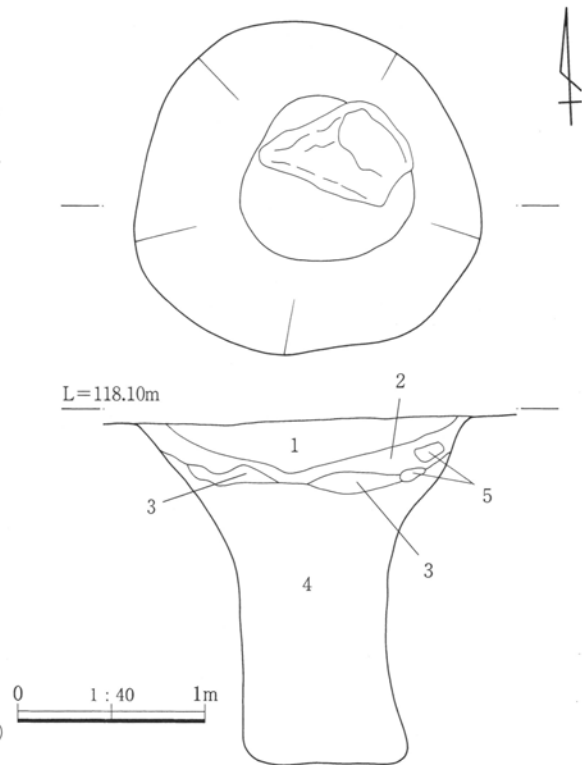
形態はほぼ円形、断面は上半が大きく開き、下半は筒状を呈す。底面は平坦である。規模は径1.80×

1.76m、深度1.82mを測る。

内部からは井戸枠などの施設は確認されないことから素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積が確認されるが堆積している土砂に下層に存在するシルト質土が確認されることから人為的な埋め戻しによると判断される。

遺物は上部から自然礫などが出土しているだけである。



5区2号井戸

- 1 褐色土 Ⅱに類似、白色軽石 (径2mm以下) を2%含む。
- 2 褐色土 Ⅱに類似、白色軽石 (径2mm以下) を1%含む。
- 3 暗褐色土 2と灰黄褐色粘質土の混合層。
- 4 暗褐色土 2に灰褐色粘質土が30%混入。
- 5 黒褐色土 粘質土。

第77図 5区2号井戸遺構図

5区3号井戸

本井戸は5区調査区中程、4O-51グリッドに位置する。他遺構との重複関係は10号溝、1号池と重複する。新旧関係は10号井戸より古く、1号池より新しい。残存状態は上部を10号溝で削平されている

IV 遺構と遺物

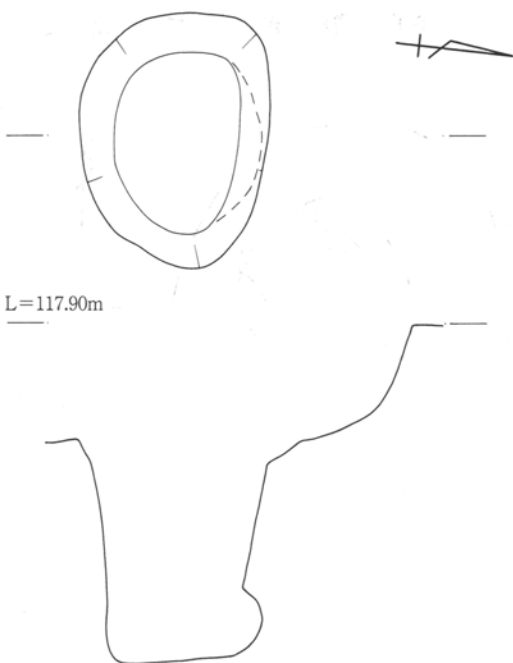
が比較的良好である。

形態は楕円形、断面は筒状を呈し最下層にアグリが見られる。底面は平坦である。規模は径1.34m×1.00m、深度1.80mを測る。

内部からは井戸枠などの施設は確認されないことから素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積が確認されるが堆積している土砂に下層に存在するシルト質土が確認されることから人為的な埋め戻しによると判断される。

遺物は出土していない。



第78図 5区3号井戸遺構図

5区4号井戸

本井戸は5区調査区中程、40-51グリッドに位置する。他遺構との重複関係は1号池と重複する。新旧関係は本井戸の方がより新しい。残存状態は比較的良好である。

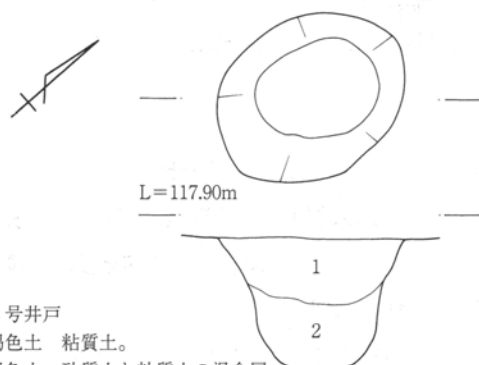
形態はほぼ円形、断面は筒状を呈す。底面は緩い丸みをもつ。規模は径1.07m×0.84m、深度0.68mを測る。

内部からは井戸枠などの施設は確認されないことから素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積が観察されるが堆積している土砂に下層に存在するシルト質土が確認され

ることから人為的な埋め戻しによると判断される。

遺物は出土していない。



5区4号井戸
1 黒褐色土 粘質土。
2 黒褐色土 砂質土と粘質土の混合層。

第79図 5区4号井戸遺構図

7区3号井戸

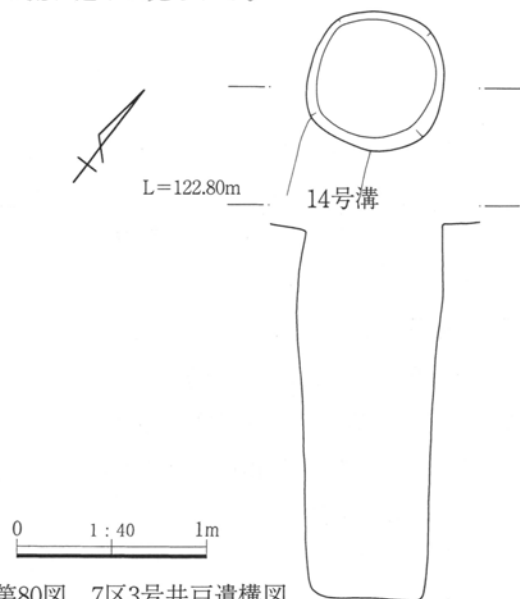
本井戸は7区調査区中程、70-44グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は良好である。

形態は平面がほぼ円形、断面は筒状を呈す。底面は平坦である。規模は径0.75m×0.70m、深度2.00mを測る。

内部からは井戸枠などの施設は確認されないことから素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積が観察されるが埋没土内に多くのブロック状の土を含むことから人為的な埋め戻しによると判断される。

遺物は古代の土師器甕片が出土しているが埋没過程での流れ込みと見られる。



第80図 7区3号井戸遺構図

7区1号井戸

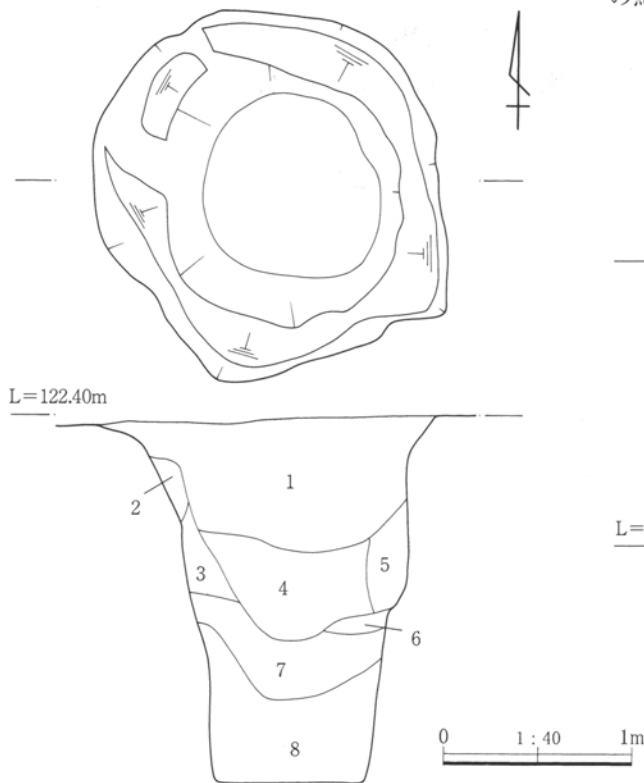
本井戸は7区調査区中程、7I-44グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は良好である。

形態は平面がやや矩形に近く、断面は筒状を呈す。底面はほぼ平坦である。規模は長軸2.12m、短軸1.84m、深度1.96mを測る。

内部からは井戸枠などの施設は確認されないことから素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積が観察されるが埋没土内に多くのブロック状の土を含むことから人為的な埋め戻しによると判断される。

遺物は出土していない。



7区1号井戸

- 1 黒褐色土 砂質土に褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 IVに近似。
- 3 黒褐色土 褐色のブロック（径10~20cm）を70%含む。
- 4 黒褐色土 褐色ブロック（径10~20cm）を40%含む。
- 5 黒褐色土 褐色ブロック（径5cm）を70%含む。
- 6 黒褐色土 褐色ブロック（径20cm）を60%含む。
- 7 黒褐色土 褐色ブロック（径1~5cm）を20%含む。
- 8 黒褐色土 褐色ブロックを少量含む。

第81図 7区1号井戸遺構図

7区2号井戸

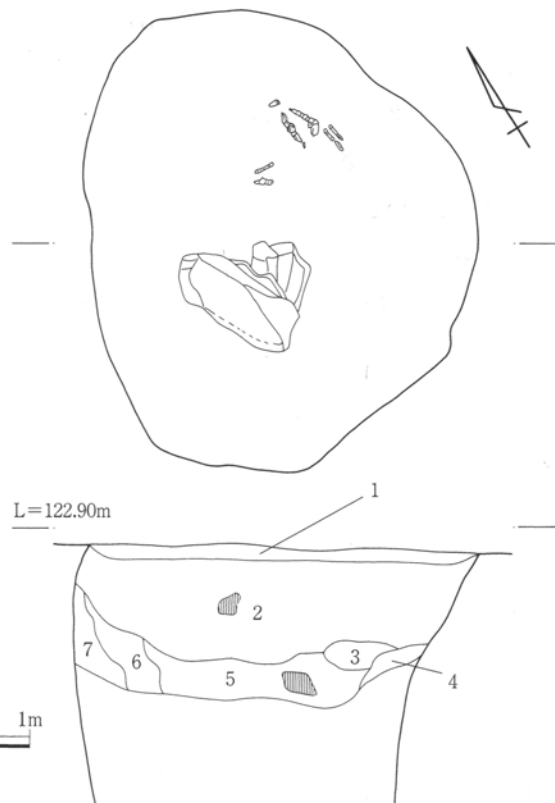
本井戸は7区調査区中程、7N-44グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は良好であるが、下半は調査時の湧水により崩落の危険が生じたため調査不可能であった。

形態は平面が楕円形に近く、断面は筒形を呈すようである。規模は径2.30m×2.05m、深度1.4m以上を測る。

内部からは井戸枠など施設は確認されなかった。

埋没状態は断面で水平堆積が観察されるが埋没土内に多くのブロック状の土を含むことから人為的な埋め戻しによると判断される。

遺物は上部より馬骨・歯が出土している。これらの馬骨・歯は埋め戻し時に廃棄されたものである。



7区2号井戸

- 1 黒褐色土 II類似、IIよりAs-Bが多い。
- 2 黒褐色土 IIに洪水層（径1cm）が少量混入。
- 3 褐色土 IVブロック（径2cm）が70%混入。
- 4 黒褐色土 IIに洪水層が10%混入。
- 5 黒褐色土 IIに洪水層が20%混入。
- 6 黒褐色土 IIに洪水層が50%混入。
- 7 黒褐色土 洪水層主体、IIブロック10%含む。

第82図 7区2号井戸遺構図

IV 遺構と遺物



第83図 7区2号井戸遺物図

7区2号井戸 P L56

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 甕	埋没土中 口縁部片	口径24.6	粗砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転方向不明。内面口縁部に自然袖付着。	

7区4号井戸

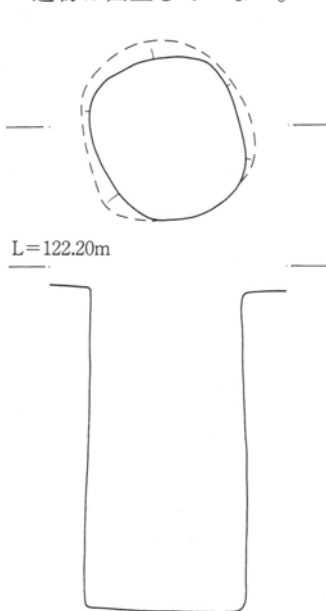
本井戸は7区調査区中程、7K-44グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は良好である。

形態は平面が矩形、断面は底面付近が僅かに広い筒状を呈す。底面は平坦である。規模は径0.86m×0.78m、深度1.70mを測る。

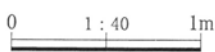
内部からは井戸枠などの施設は確認されないことから素掘の状態で使用されていたようである。

埋没状態は断面で水平堆積が観察されるが埋没土内に多くのブロック状の土を含むことから人為的な埋め戻しによると判断される。

遺物は出土していない。



第84図 7区4号井戸遺構図



5区1号池

1 黒褐色土 シルト質、As-Bを多く含む。

2 黒褐色土 砂質土、褐色粘質土ブロックを30%含む。

3 黒褐色土 砂質土。

4 黒褐色土 砂質土、粘質土が板状(厚さ2~5mm)に混入。

5 黒褐色土 粘質土と砂質土の混合層。

6 黒褐色土 砂質土主体、粘質土若干混合。

7 黒褐色土 5とほぼ同様、やや砂質土が多い。

(5) 池

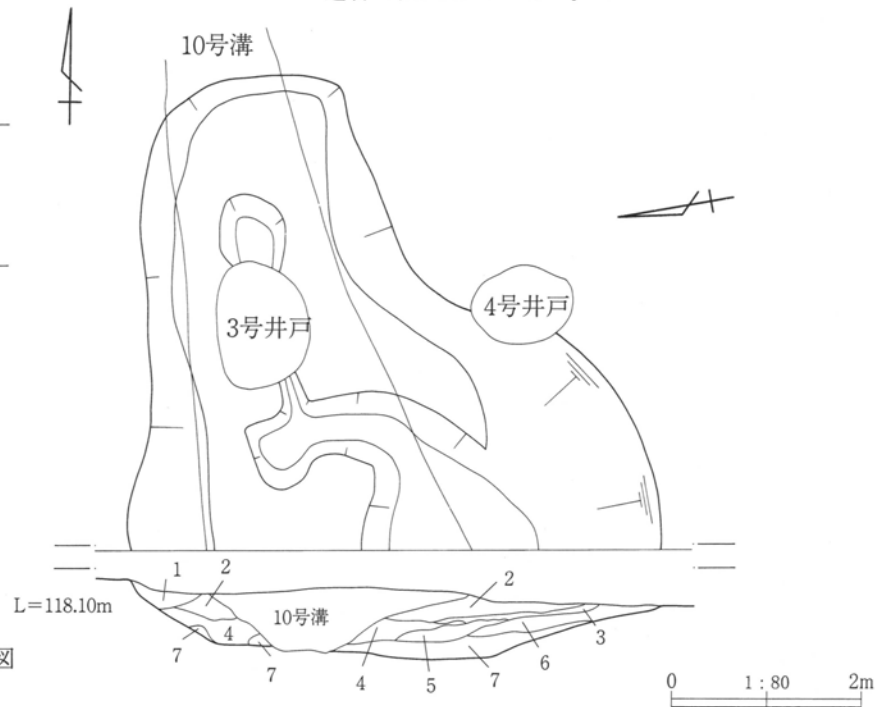
5区1号池

本池は5区調査区中程、4O・4P-50~52グリッドに位置する。他遺構との重複関係は10号溝、3号井戸、4号井戸と重複する。新旧関係は本池の方が古い。残存状態は西半分が調査区外に延び10号溝に一部削平されている状態である。

平面形態は東西に細長い楕円形状を呈すようである。底面は凹凸が見られる。規模は長軸5.70m以上、短軸5.68m、深度0.76mを測る。

埋没状態はII層に近い土砂で短期間に埋没しており自然埋没か人為的な埋没か断定できなかった。

遺物は出土していない。



第85図 5区1号池遺構図

(6) 道

道遺構は2区で1条、4区から5区にかけて5条を検出した。これらの道遺構は路面または側溝間に硬化面が残存していることから道と判断した。

このうち4区から5区にかけての道は2号道と3号道のように近接した位置で存在するものは、その存在時期に前後関係はあると考えられるが、これらの道はその位置関係からほぼ同時期に存在していたと推察される。その時期についてはクランク状の配置から菅谷城に関係すると考えられることから室町時代後期に比定される。その他の道は出土遺物などもないため明確ではない。

1区1号道

本道は2区調査区東、0L・0M-42~45グリッドに位置する。この位置は北側に存在する泥流丘の縁辺に沿うような位置である。他遺構との重複関係は13号土坑、溝（現代）と重複する。新旧関係は本道の方が古い。残存状態は東・西側が調査区外へ延びるため全貌は不明であるが、路面などの残りは比較的良好である。

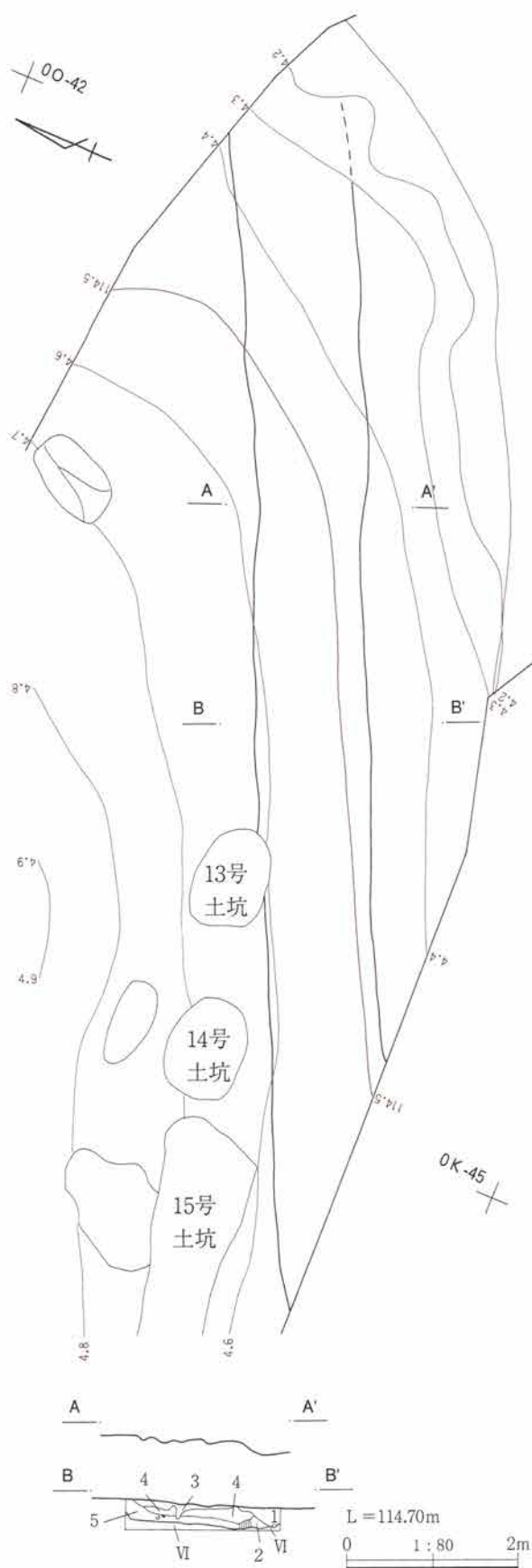
形状は側溝をもたないで路面を硬化させたもので断面は両端部より中央部が低い弧状を呈す。路面はII層に類似した土で硬く踏み固めている。この影響は路面下30cmまで見られる。

規模は調査区内での全長30m、幅1.20~1.45mを測る。走行は南西から東北へ向けて方位 $N-67^{\circ}-E$ を指す。

遺物は出土していない。

2区1号道

- 1 暗褐色土 砂質土。
- 2 黒褐色土 砂質土、VIブロックを含む。
- 3 褐色土 砂質土。
- 4 黒褐色土 VIブロックを含む。踏み固められている（路面土）。
- 5 黒褐色土 砂質土、VIを含む。



第86図 2区1号道遺構図

IV 遺構と遺物

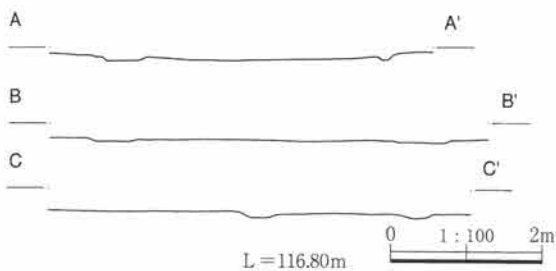
4区1号道

本道は4区調査区南半、3E～3N-51・52グリッドに位置する。他遺構との重複は確認されなかった。残存状態は路面は多少の削平を受けているようであるが比較的良好である。

形状は両側に側溝をもち北側の5号道と南側の3号道とを連絡する位置にある。路面はⅡ層を硬く踏み固めている。側溝は南から2mの位置で2号道と接続する箇所では設けられていない。東側でも同様な位置で側溝が確認されない箇所が確認されたがその東側で道遺構は確認されなかった。

規模は全長50m、両側溝間の芯々間は南へ向けてやや幅広く北端3.30m、南端4.45mを測る。側溝は西側が幅0.55～0.60m、深度0.60～0.72m、東側が幅0.30～0.72m、深度4～9cmである。走行は南から北へ向けて方位N-4°-Wを指す。

遺物は側溝内から須恵器杯小片が1点出土しているが本道に共伴する遺物は見られない。



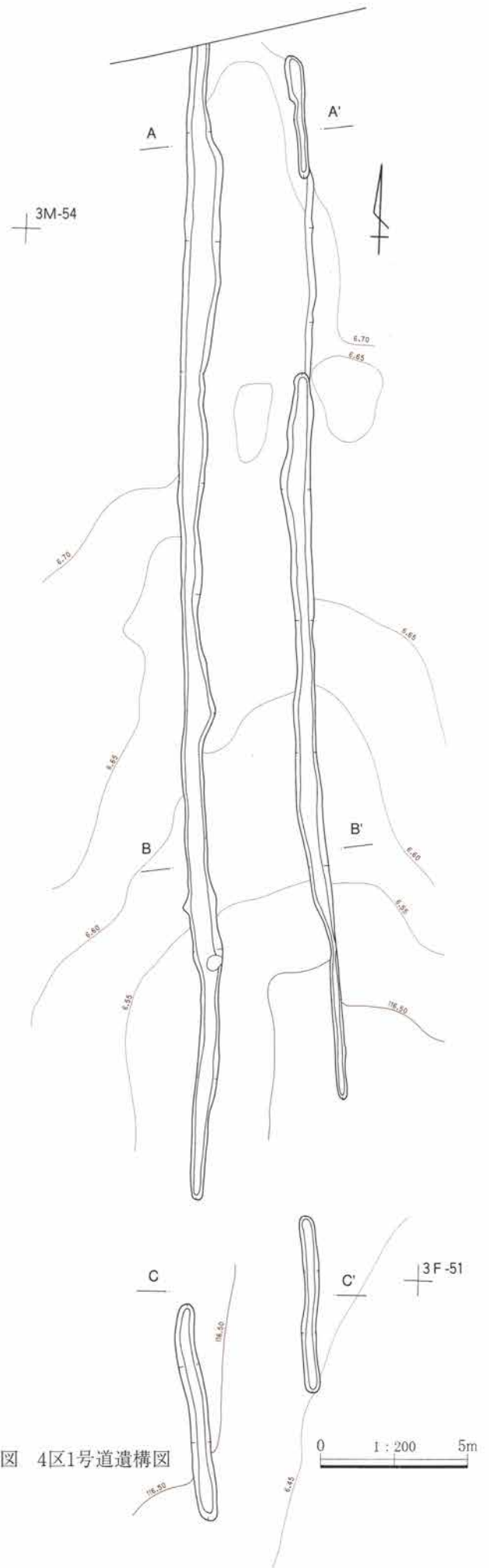
4区2号道

本道は4区調査区南半、3E・3F-52～58グリッドに位置する。他遺構との重複関係は中程で溝と重複する。新旧関係は本道の方が古い。残存状態は路面が残存しており良好である。

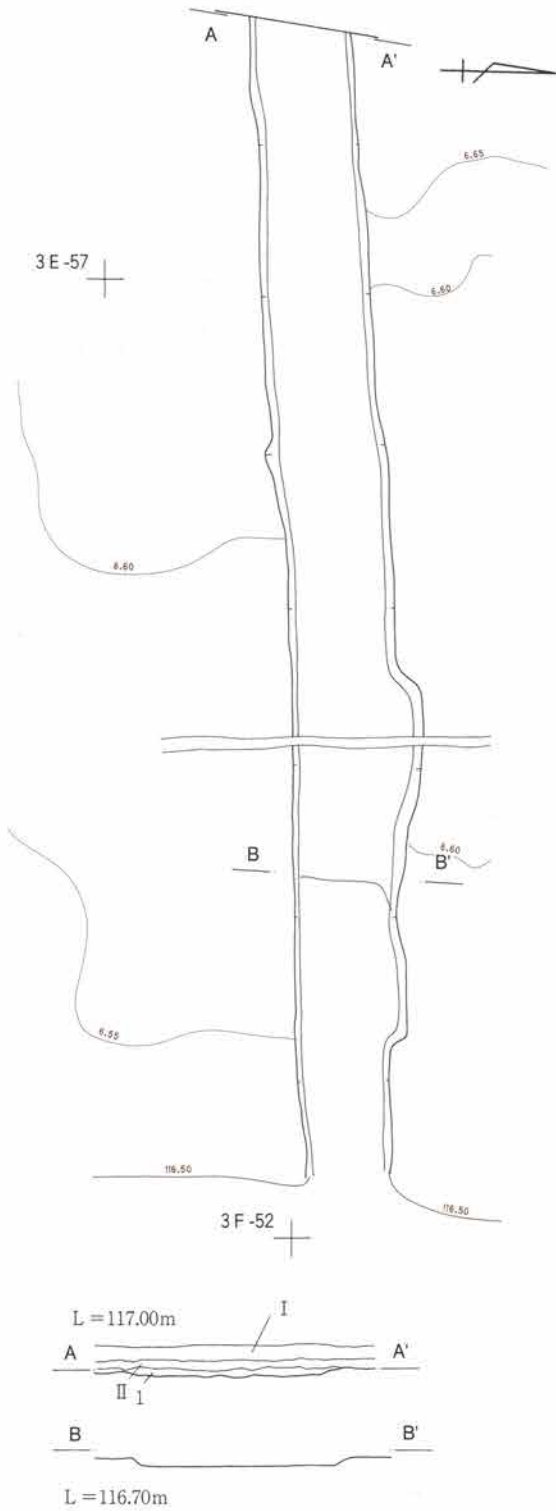
形状は側溝をもたないで路面を硬化させたもので断面は両端より中央部が低い弧状を呈す。路面はⅡ層を硬く踏み固めている。本道は1号道から西へ延びるものであるが3号道と平行な位置にあることから3号道とは存続時期が前後すると見られる。

規模は調査区内全長30m、幅2.90m前後を測る。走行は西から東へ向けて方位N-87°-Eを指す。

遺物は道路内より土師器甕片が1点出土しているが本道に共伴する遺物は見られない。

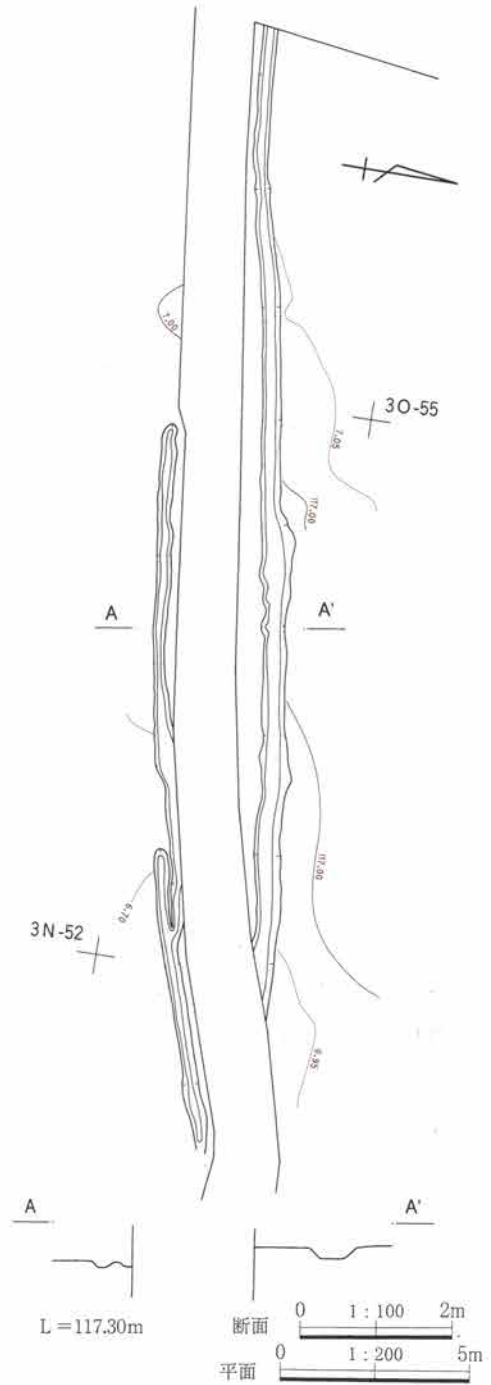


第87図 4区1号道遺構図



4区2号道
1 褐灰色土 IIに類似、灰色砂を30%含む。

第88図 4区2号道遺構図



第89図 4区5号道遺構図

4区5号道

本道は4区調査区中程、3M・3N-51~56グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は路面の大部分を現在の水路で欠き、南側は削平を受けており僅かに側溝が残る程度であった。

IV 遺構と遺物

形状は両側に側溝をもち東側で1号道と4号道に接続する。路面はⅡ層を硬く踏み固めている。

規模は調査区内の全長が15m、両側溝の芯々間が1.30～1.45mを測る。側溝は南側が幅0.15～0.18m、深度5～15cm、北側が幅0.30～0.40m、深度8～15cmである。走行は西から東へ向けて方位N-80°-Eを指す。

遺物は出土していない。

本溝は2号道、3号道と平行する位置関係にあり1号道との接続点では側溝が設けられていることから1号道から2号道または3号道へのルートを変更したルートである可能性も見られる。

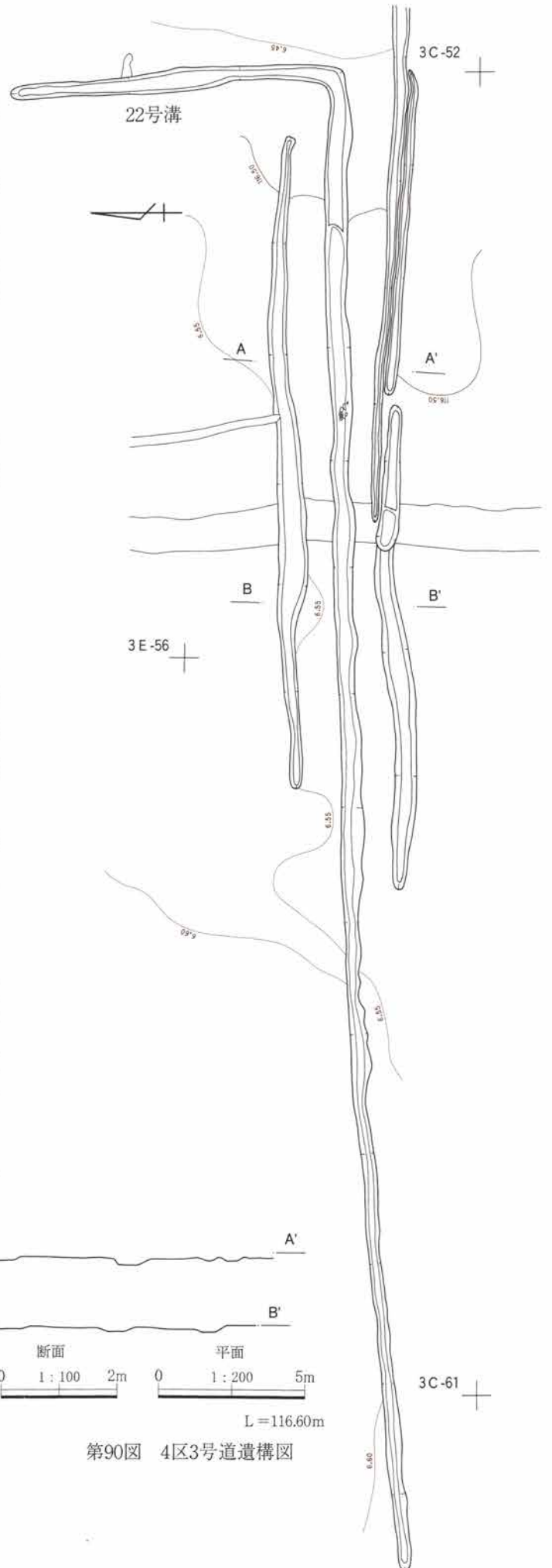
4区3号道

本道は4区調査区南部、3C・3D-51～57グリッドに位置する。他遺構との新旧関係はⅢ(As-B)層下水田水路4区19号溝、22号溝と重複する。新旧関係は19号溝より新しく22号溝より古い。残存状態は西側が不明瞭で路面は削平を受けており側溝の残りもあまり良好ではない。

形状は両側に側溝をもち3C-52で1号道と接続している。その東側は南側溝が延びる様相が窺えるが延びるか否かは明確ではない。路面はⅡ層を硬く踏み固めている。

規模は明確に道路敷と確認された全長が32m、両側溝の芯々間が3.25～3.70mを測る。側溝は南側が幅0.30～0.90m、深度5cm前後、北側が幅0.65～0.90m、深度10cm前後である。走行は西から東へ向けて方位N-88°-Eを指す

遺物は路面下より土師器や須恵器の小片が出土しているが本道に共伴する遺物は見られない。



第90図 4区3号道遺構図

4. 平安時代末以降の遺構と遺物

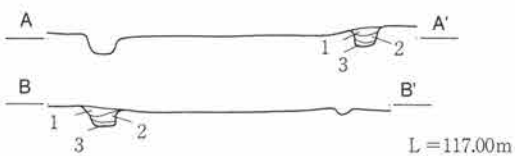
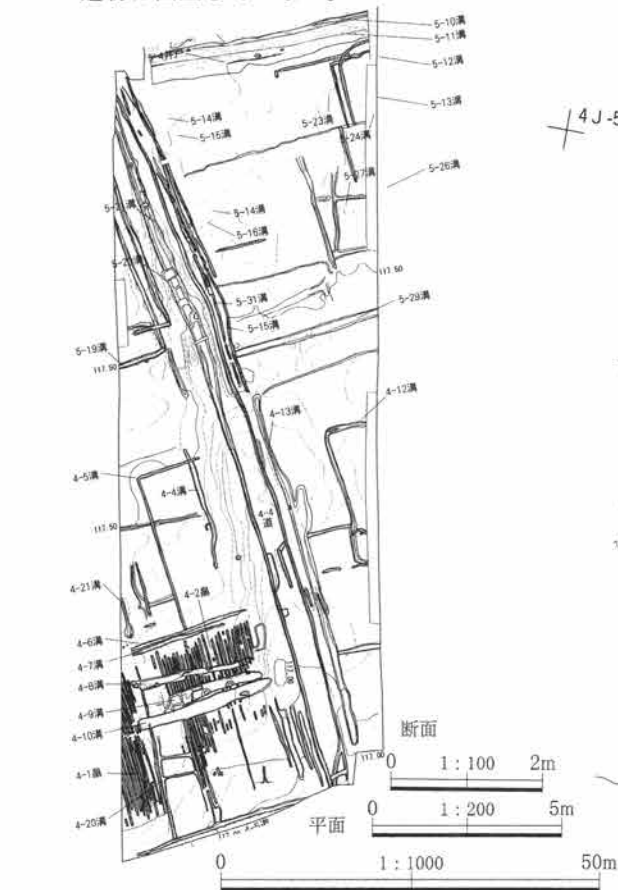
4区4号道

本道は4区北半から5区南部、30~40-50~53グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は路面は削平されているが側溝は比較的良好であった。

形状は両側に側溝をもち5号道から曲がって北へ延びている。路面はII層を硬く踏み固めている。

規模は調査区内の全長が98m、両側溝の芯々間が2.45~3.25mを測る。側溝は西側が幅0.20~0.52m、深度20~80cm、東側が幅0.25~0.55m、深度10~30cmである。走行は南西から東北へ向けて方位N-7°-Wを指す。

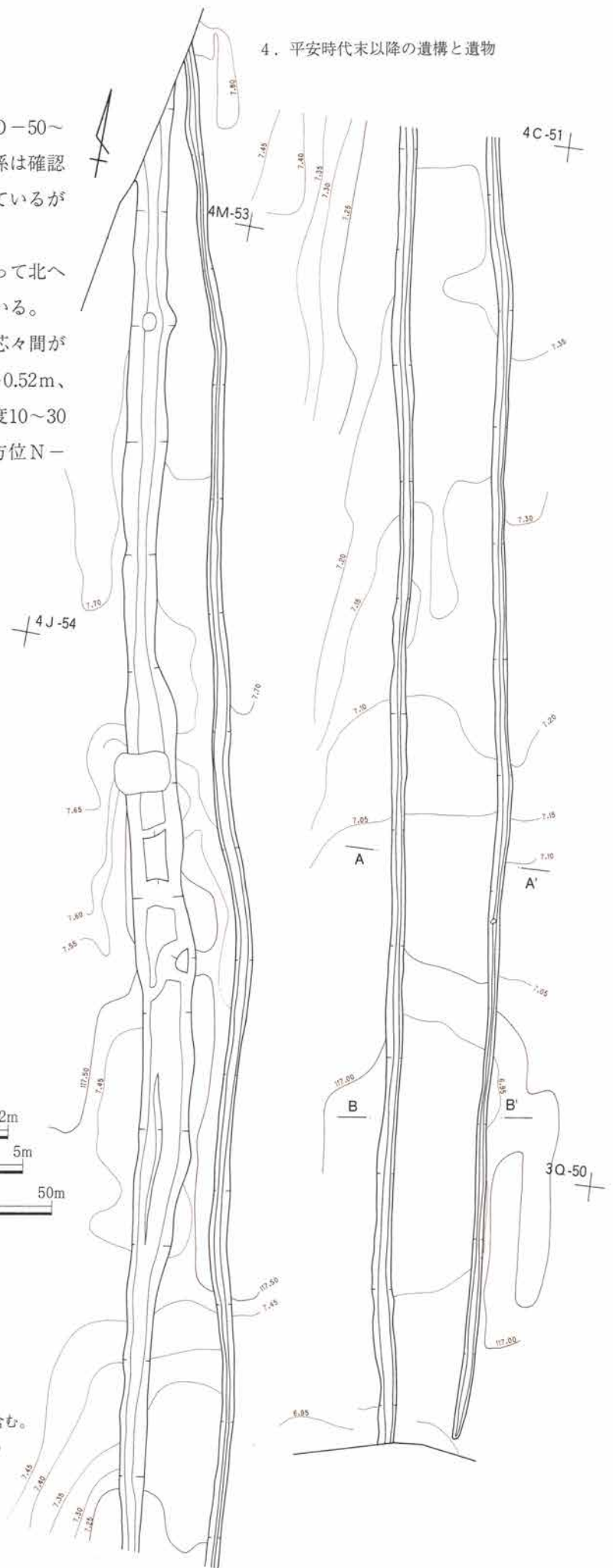
遺物は出土していない。



4区4号道

- 1 黒褐色土 II主体、灰色砂を20~30%含む。
- 2 黒褐色土 II主体、Ⅶブロック（径10~15mm）を20%含む。
- 3 黒褐色土 Ⅶブロック主体、IIをブロック状に30%含む。

第91図 4区4号道遺構図



IV 遺構と遺物

(7) 溝

溝は1区2条、2区5条、3区7条、4区15条、5区27条、6区9条、7区6条、8区5条の76条を検出した。検出した溝は断面形態や規模とも様々である。詳細は第12表を参照していただきたい。

6区1号溝

本溝は6区調査区北側、6T-41~47グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は良好である。

形態は断面が葉研状を呈す。規模は調査区内全長32m、幅3.50m前後、深度0.86~1.08mを測る。底面は幅25cmほどの平坦面をもつ。溝の走行はほぼ東西方向である。

埋没状態は土層断面観察から自然埋没の様相が窺える。

遺物は須恵質甕や渡来銭「天祐通宝」などが出土している。

本溝は断面形態や直線的な走行が見られることから館堀ではないかと考えられるがこの溝に対応する溝は調査範囲では検出されなかった。

6区3号溝

本溝は6区調査区の東北隅、7B-35グリッドに位置する。他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態は比較的良好であるが調査範囲がごく一部であるため詳細は不明である。

形態は断面が緩い傾斜をもつ逆台形状を呈す。規模は幅3m以上、深度1m前後である。溝の走行はほぼ南北方向である。

埋没状態は土層断面観察から自然埋没の様相が窺える。

本溝は「『群馬町誌 資料編1 原始古代・中世』群馬町誌編纂委員会編 1998年発行」によると菅谷城址大外郭の位置に相当する

第12表 平安時代末以降 溝

No 1

区	No	位置			重複		形態	規模(単位cm)			摘要
		東・南端	屈折	西・北端	新	旧		上幅	底面幅	深度	
1	1	0F-42		0F-41			逆台形	30~38	14~20	8~9	
2	1	0T-59	0T-59	1B-56			半円形	20~68	8~35	9~14	
2	2	1H-59		1J-56			逆台形	46~76	26~44	18~19	
2	3	0K-37		0L-37			逆台形	414~698	30~45	72~78	
2	4	0K-38		0L-38			半円形	48~56	16~24	32~41	
2	5	0J-38		0K-39			半円形	28~48	6~24	12~16	
2	6	0K-42		0K-41			半円形	12~24	6~10	3~13	
2	7	0L-43		0M-42			逆台形	80~110	42~62	26~44	
2	8	0R-52		1A-53			半円形	36~192	28~54	35~60	近世江戸時代
2	9	0L-43		0M-42			半円形	34~76	16~52	20~40	
2	10	0F-45		0G-45			半円形	43~52	14~24	27~43	
2	11	0F-45		0G-46			逆台形	120~162	52~108	48~62	
2	13	1F-54		1I-55			半円形	26~52	8~24	2~6	
3	2	1P-55		1R-55			逆台形	19~26	8~13	14~21	
3	3	1P-54		1R-55			逆台形	28~35	11~20	17~23	
3	5	2D-53		2M-59			逆台形	62~90	18~28	22~53	
3	6	2I-59		2K-59			逆台形	110~120	31~50	17~23	
3	7	2Q-53		2Q-58			逆台形	30~80	18~48	20~29	
3	8	1N-57		1O-59			逆台形	19~58	7~23	12~29	
3	9	2N-53		2Q-53			逆台形	40~84	18~24	16~29	
4	1	3I-55		3I-57			逆台形	30~42	9~22	6~7	近世江戸時代
4	4	4A-53		4D-53	5溝		逆台形	45~85	30~50	6~9	
4	5	3S-54	4D-54	4D-53		4・6溝	半円形	35~80	14~30	7~10	
4	6	3T-52		3S-55	5溝		逆台形	38~48	16~32	7~10	
4	7	3S-53		3S-55			逆台形	30~52	14~34	5	
4	8	3R-52		3R-55		1島	逆台形	68~110	50~88	15~16	

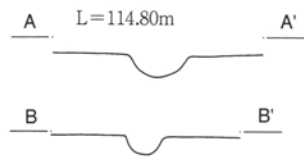
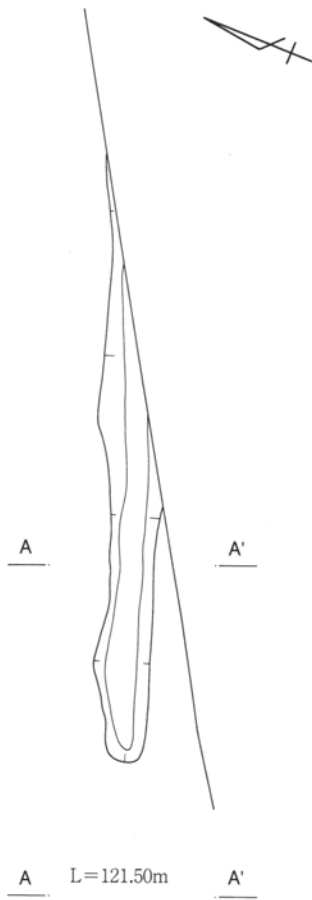
4. 平安時代末以降の遺構と遺物

No 2

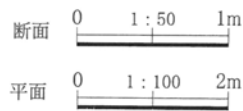
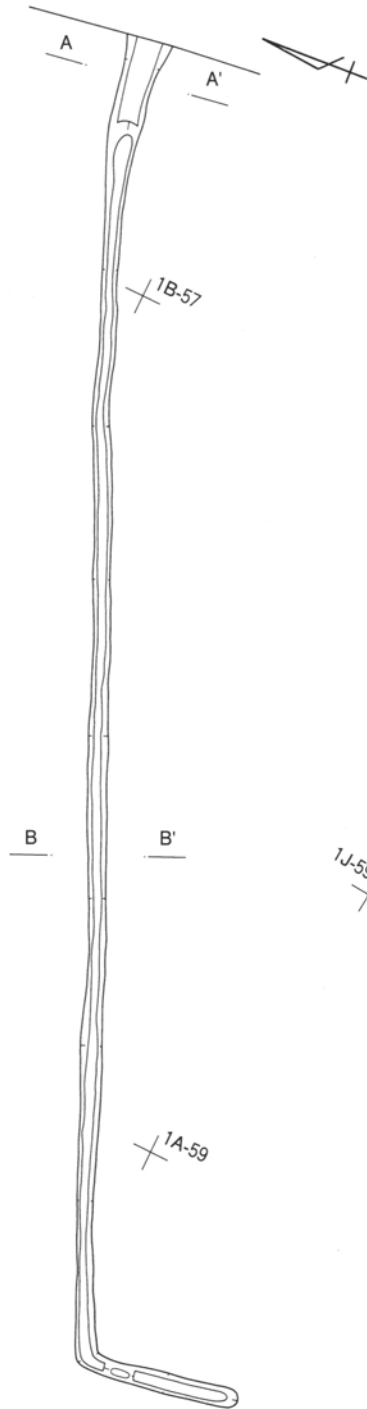
区	No	位置			重複		形態	規模(単位cm)			摘要
		東・南端	屈折	西・北端	新	旧		上幅	底面幅	深度	
4	9	3R-52		3Q-55	10溝		逆台形	135~150	100~115	4~10	
4	10	3R-52		3Q-55	20溝	9溝	逆台形	150~210	130~175	3~5	
4	12	3T-49	4D-49	4D-48			逆台形	60~80	30~50	8~14	
4	13	3P-50		4E-51			逆台形	60~140	20~75	7~12	
4	15	3D-54		3M-54	05道路	03道路	半円形	28~110	10~50	6~7	
4	16	3G-54		3H-55			半円形	20~36	10~18	10~11	
4	17	2S-54		3C-54			半円形	22~32	8~12	10~11	
4	20	3O-55		3S-55	8溝	10溝	逆台形	35~65	12~24	6	
4	21	3S-55		4A-55			逆台形	42~147	14~45	11~18	As-Bで埋没
5	1	5B-45		5B-50	6・9溝		逆台形	285~375	40~60	24~40	
5	3	5C-45		5C-50			逆台形	45~50	20	2~9	
5	4	5A-45		5A-51	6溝	5・7・8・9溝	逆台形	60~110	38~84	14~20	
5	5	4Q-48		5A-47	4溝		逆台形	29~70	12~22	3~19	
5	6	4Q-48		5B-48		4溝	半円形	38~74	10~13	6~25	
5	7	4R-50		5A-40	4溝		逆台形	44~52	20~24	4~25	
5	8	4R-50		5A-50	4溝		逆台形	60~80	24~38	4~13	
5	9	3S-45		3B-45	4溝		逆台形	60~65	30~32	18~50	
5	10	4O-46		4O-50	3号井戸		逆台形	40~80	10~20	18~34	
5	11	4O-47		4O-50			逆台形	40~45	16~22	2~8	
5	12	4O-46		4N-52			逆台形	330~410	120~145	15~28	
5	13	4L-47		4N-46		23・24溝	逆台形	40~50	15~20	4~5	
5	14	4H-51		4N-53		15溝	半円形	30~38	10~14	13~22	
5	15	4E-51		4N-53	14溝		逆台形	33~50	10~30	3~30	
5	16	4H-52		4L-52	31溝		逆台形	45~54	10~15	10~34	
5	17	4E-51		4N-53		16溝	半円形	30~70	10~36	17~36	4区4号道側溝
5	18	4I-53		4M-53			逆台形	100~130	30~35	29~30	4区4号道側溝
5	19	4G-53		4F-54		20溝	逆台形	65~83	30~33	24~33	
5	20	4F-53		4J-54	19溝		逆台形	40~55	10~38	11~17	
5	21	4G-53		4K-54			逆台形	80~115	30~40	23~37	
5	23	4N-47		4N-49	13溝		逆台形	35~45	15~20	1	
5	24	4L-47	4M-47	4N-46	13溝		逆台形	35~70	10~25	4~9	
5	26	4J-47		4L-47			逆台形	40~68	8~12	1~5	
5	27	4H-48		4K-49			逆台形	50~90	15~30	3~8	
5	29	4G-47		4F-51	15溝		逆台形	44~140	26~88	4~7	
5	30	4S-45		5A-46	4溝		逆台形	48~55	10~20	10~13	
5	31	4E-51		4I-52		16溝	逆台形	33~38	10	7~8	
6	1	6T-41		6T-47			V字形	160~360	24~28	79~108	館堀か
6	2	7A-37		7A-42			半円形	80~98	32~66	28~39	
6	3	7B-35		7C-35			不明			110	菅谷城堀
6	4	7B-36		7B-36	4号墓坑		V字形	73~85	38~39	10~12	
6	5	7B-37		7B-37			V字形	143~157	45~48	32	
6	17	6Q-46		6Q-47			逆台形	95~107	55~60	21~22	
6	18	6P-46		6P-47			逆台形	68~85	46~70	3~11	
6	19	6R-46		6R-47			逆台形	77~92	46~50	21~31	
6	22	6S-45		6S-47			逆台形	63~64	34~48	16~21	
7	1	7S-44		7T-47			逆台形	28~76	14~42	8~18	
7	2	7S-46		7T-46			逆台形	30~73	10~54	4~10	
7	3	7Q-43		7Q-44			逆台形	33~52	10~28	5~12	
7	4	7O-43		7P-46			逆台形	60~79	30~55	11~15	
7	5	7A-47		7E-47			逆台形	19~28	7~18	3~5	
7	6	7A-48		7A-49			逆台形	(83~120)	(42~110)	50	
8	1	8E-44		8E-44			逆台形	20~34	8~15	5~8	
8	2	8D-44		8D-44			逆台形	50	29	16	
8	3	8D-44		8E-46			逆台形	19~46	8~32	3~19	
8	4	8C-45		8D-44			逆台形	26~38	13~20	5~8	
8	5	8B-45		8B-47			逆台形	20~40	12~30	3~11	

IV 遺構と遺物

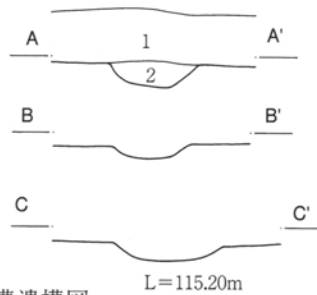
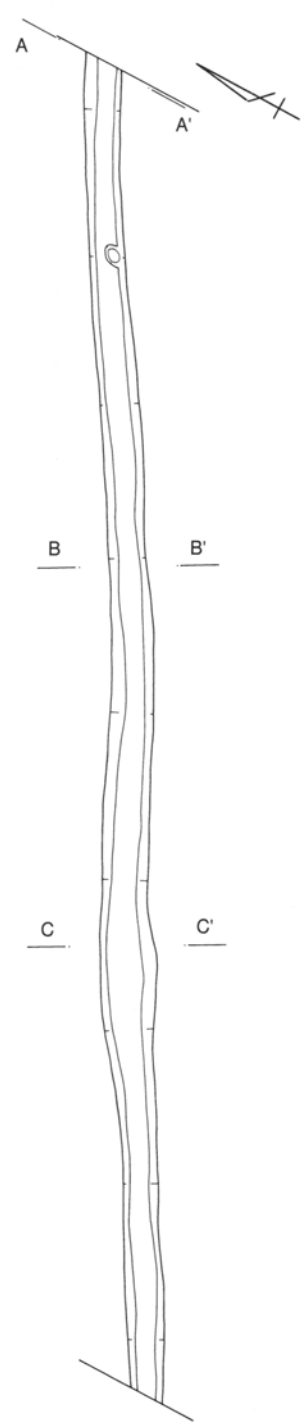
1区1号溝



2区1号溝



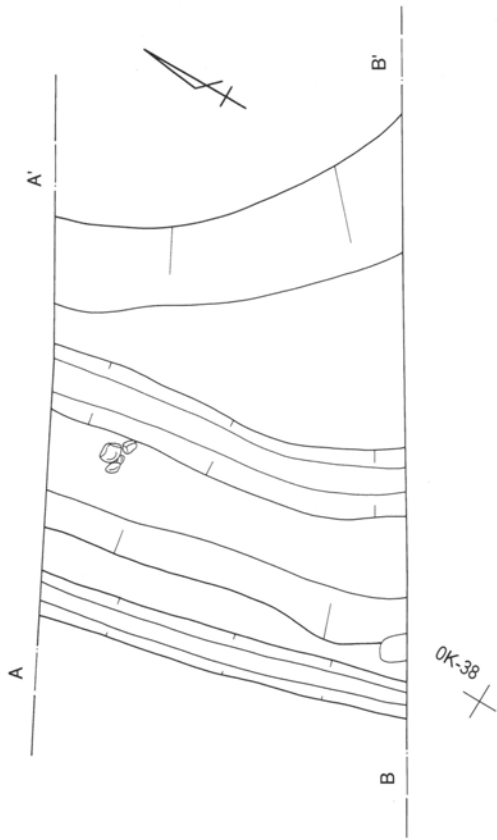
2区2号溝



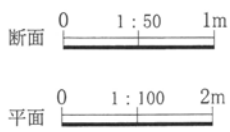
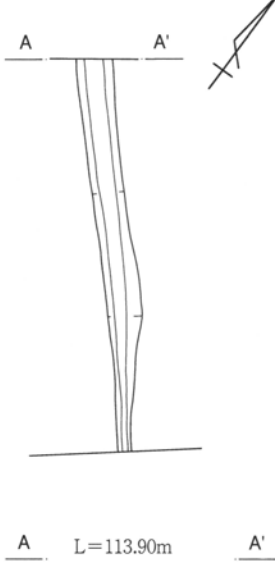
2区2号溝
 1 暗褐色土 白色軽石 (径5cm位) を含む。
 2 黒褐色土 II主体、IVブロック (径1~2cm) を含む。

第92図 1区1号溝・2区1号溝・2号溝遺構図

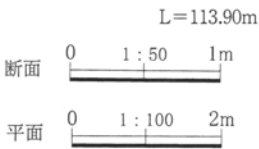
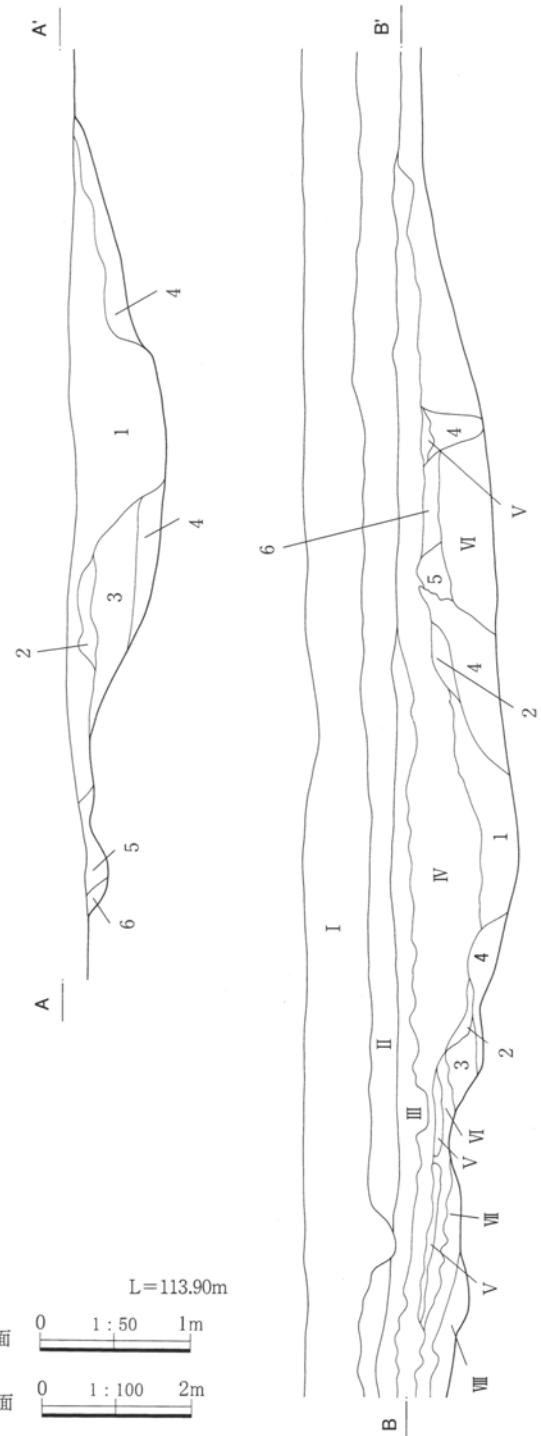
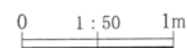
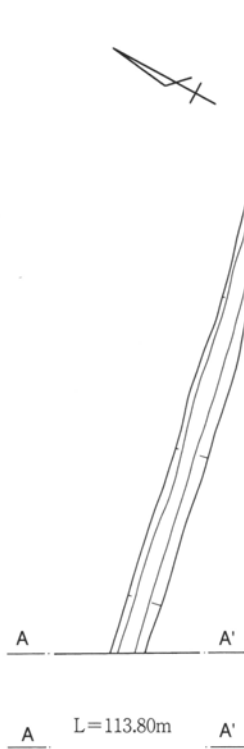
2区3号溝・4号溝



2区5号溝



2区6号溝



2区3・4号溝

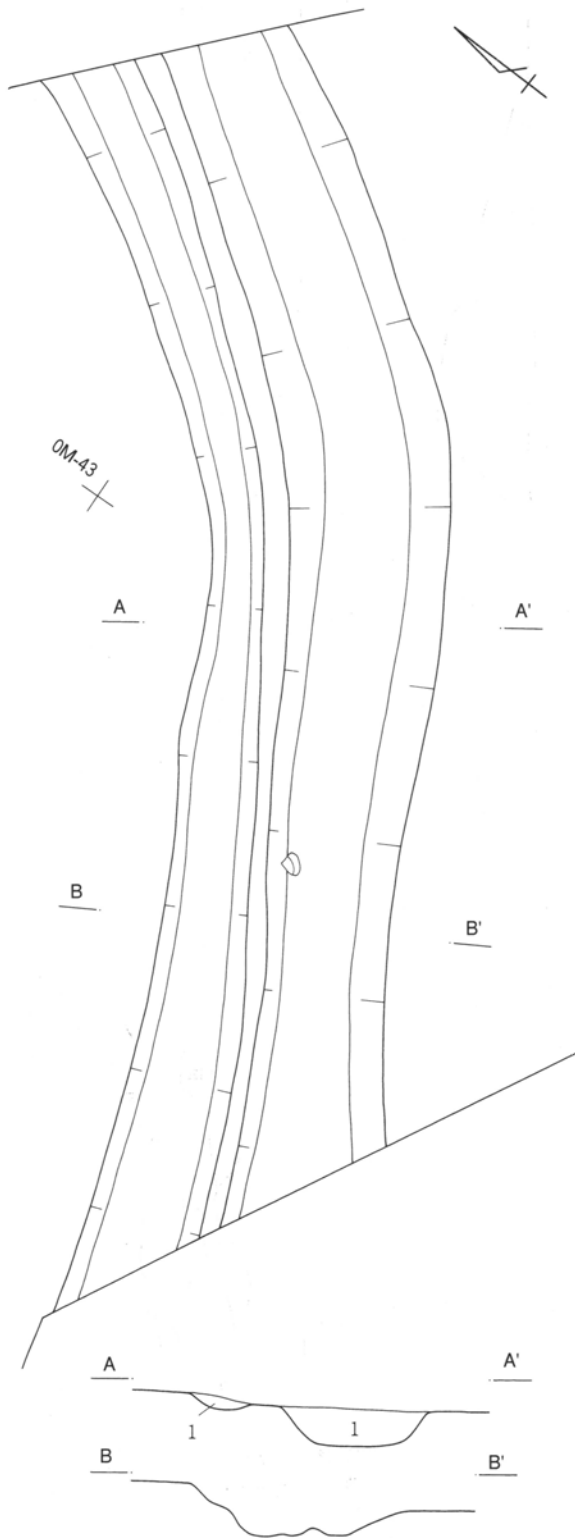
- 1 暗褐色土 砂質土、褐灰色砂（径5mm～1cm）を30%含む。
- 2 灰黄褐色土 砂質土、褐灰色砂（径5mm～1cm）を20%とVIブロック（径10～20mm）を20%含む。
- 3 灰黄褐色土 砂質土、褐灰色砂を10%含む。
- 4 褐灰色砂
- 5 灰黄褐色土 3と同様、褐灰色砂を含まない。
- 6 灰褐色砂

第93図 2区3号溝・4号溝・5号溝・6号溝遺構図

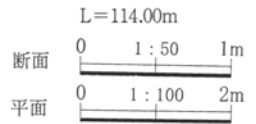
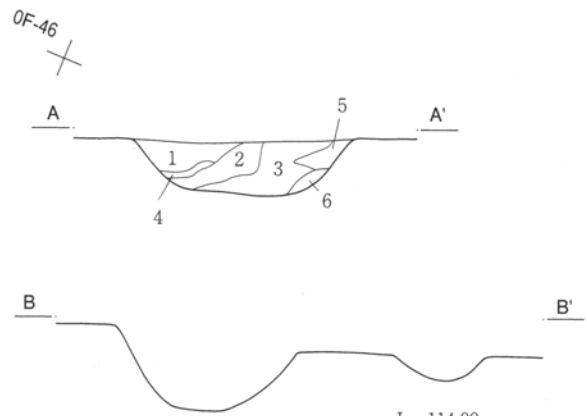
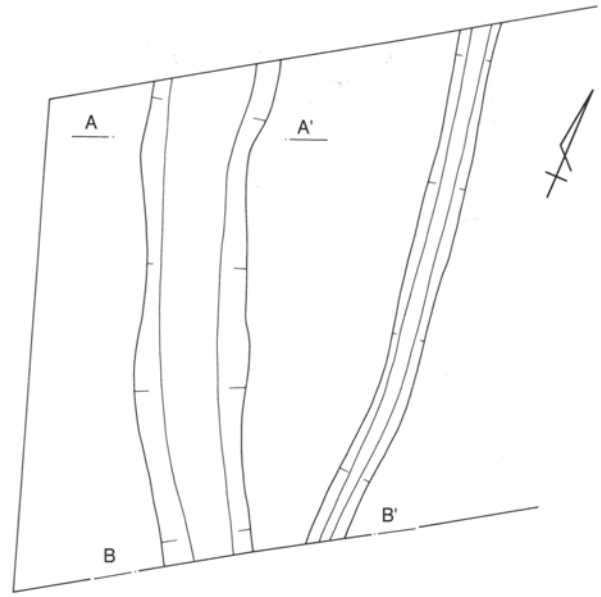
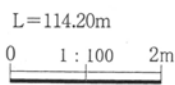
IV 遺構と遺物

2区9号溝・7号溝

2区11号溝・10号溝



2区7・9号溝
1 褐色土 IIに類似。



2区11号溝

1 暗褐色土 砂質土、褐灰色砂（径0.5～1mm）を30%含む。

2 灰黄褐色土 砂質土、褐灰色砂（径0.5～1mm）を20%とVIブロック（径10～20mm）を20%含む。

3 灰黄褐色土 砂質土、褐灰色砂を10%含む。

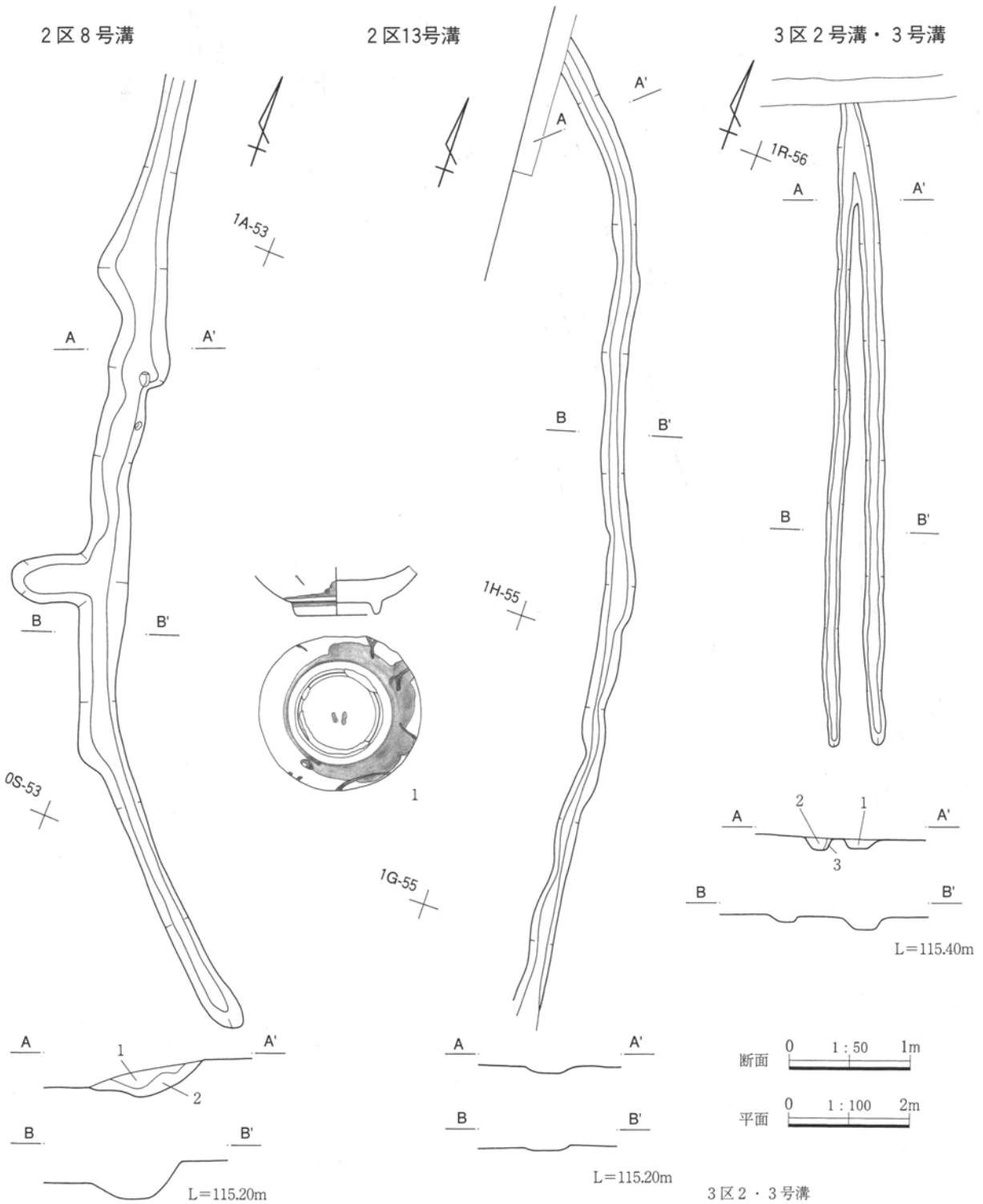
4 褐灰色砂

5 灰黄褐色土 3に類似。

6 灰黄褐色土 3に類似、褐灰色砂を含まない。

第94図 2区7号溝・9号溝・10号溝・11号溝遺構図

4. 平安時代末以降の遺構と遺物



2区8号溝
 1 褐色土 IIに類似。
 2 暗褐色土 II主体、IVのブロックを10%含む。

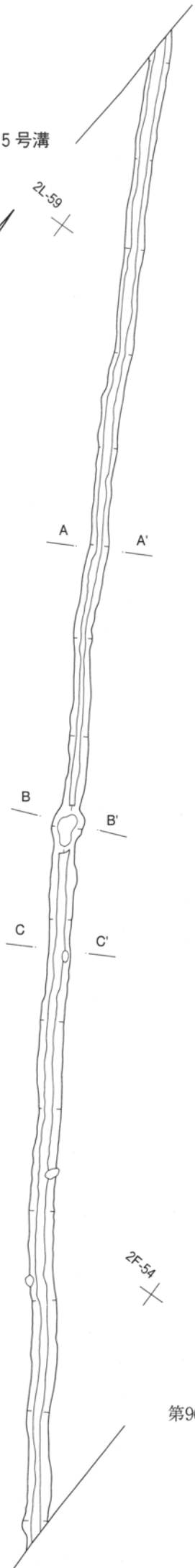
3区2・3号溝
 1 黒褐色土 As-Bを30%含む。
 2 暗褐色土 IIに類似。
 3 黒褐色土 As-Bを50%含む。

第95図 2区8号溝・13号溝・3区2号溝・3号溝遺構図・遺物図

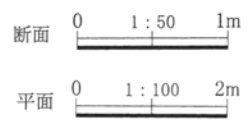
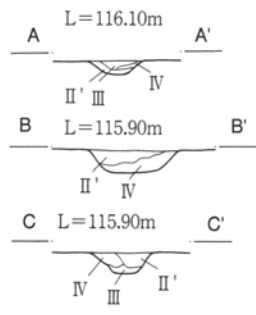
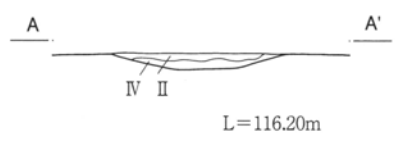
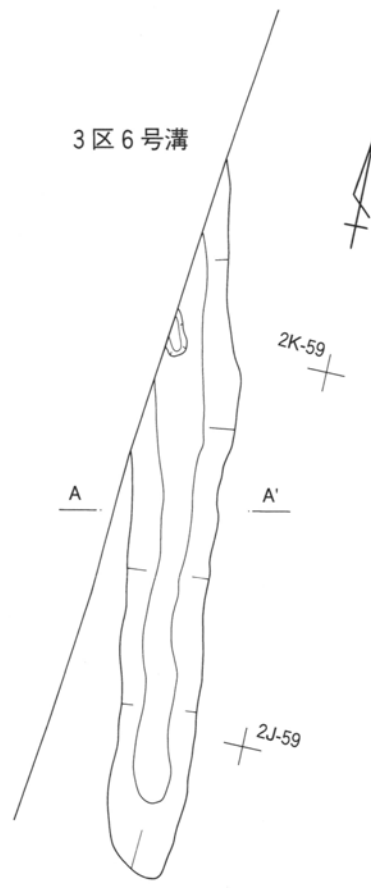
2区8号溝 P L56

遺物 No	種類	出土位置	計測値	胎土/焼成/色調	成整形の特徴	摘要
1	陶器 染付椀	埋没土中 底部	底径4.4台径3.8	水籤/還元焰/ 白色	外面に絵付け。	

3区5号溝

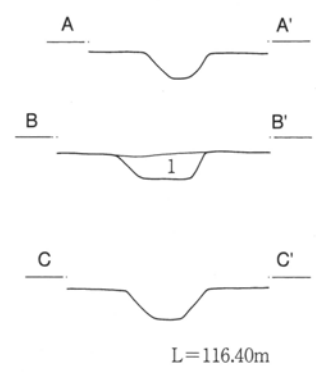
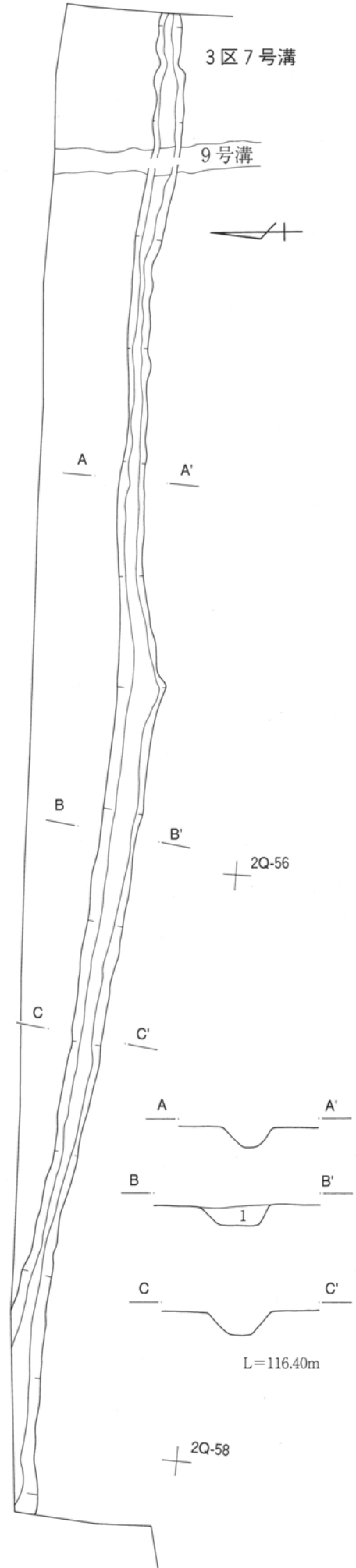


3区6号溝

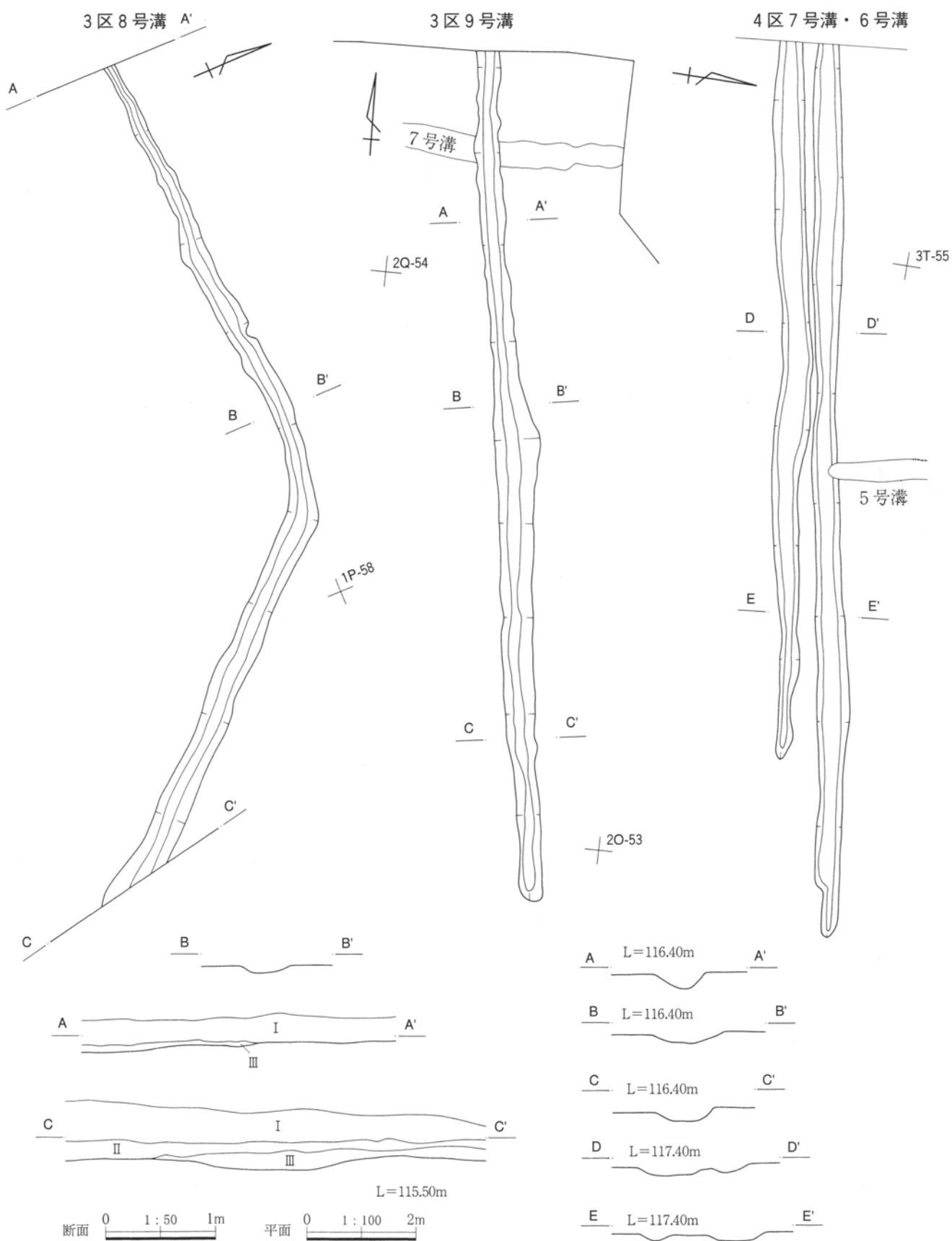


3区7号溝
1 灰色土 粘質土。

3区7号溝



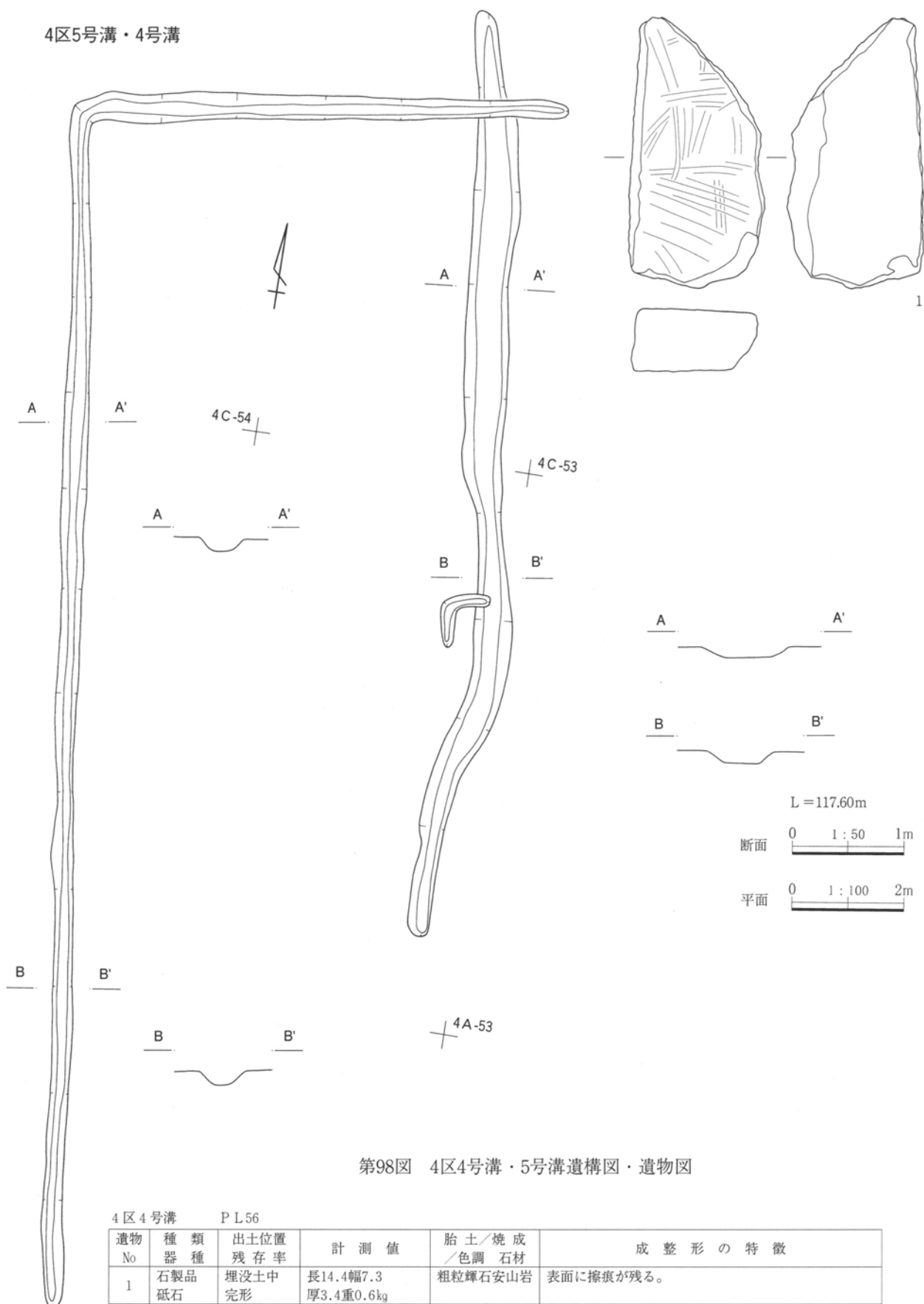
第96図 3区5号溝・6号溝・7号溝遺構図



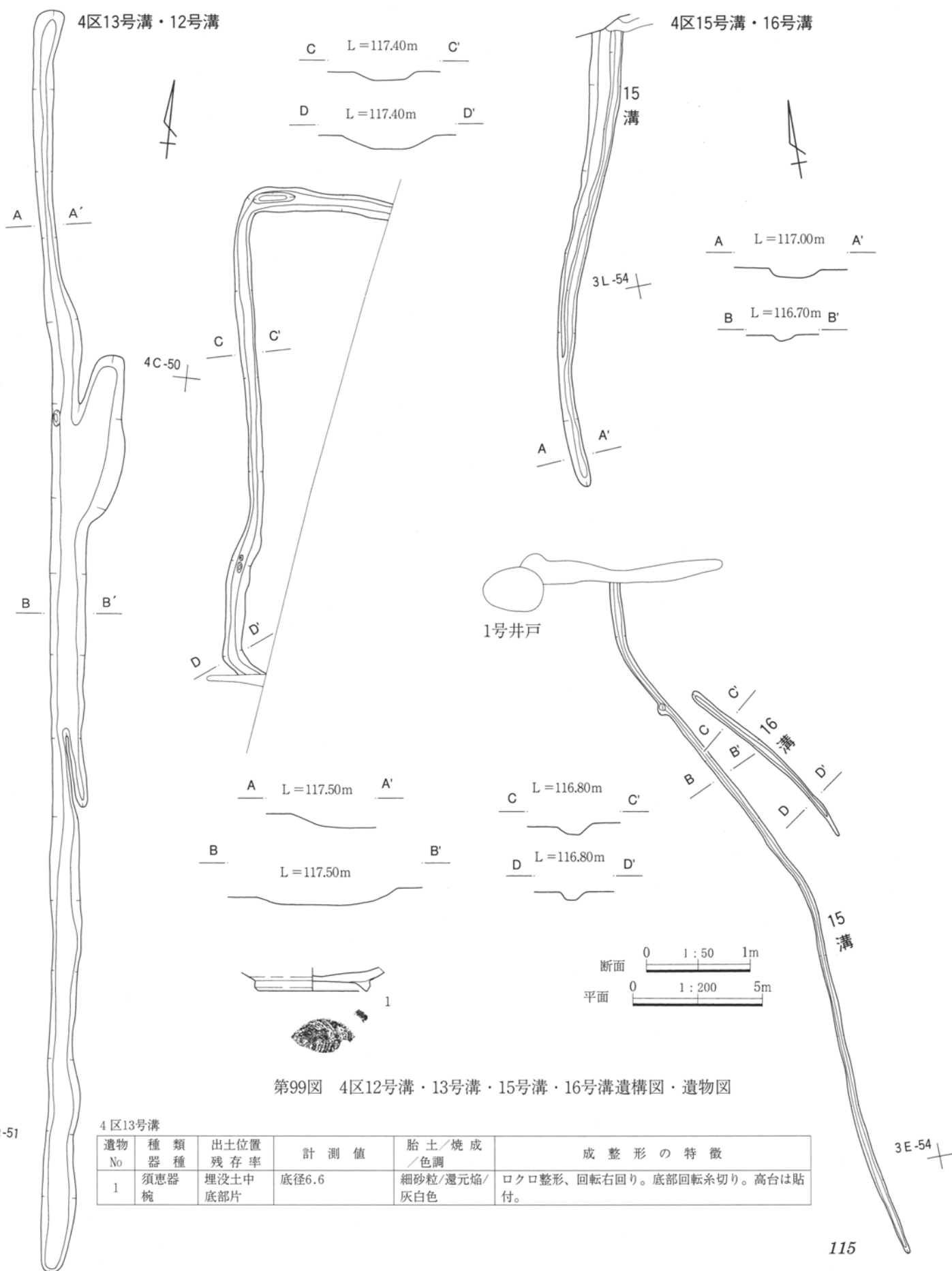
第97図 3区8号溝・9号溝・4区6号溝・7号溝遺構図

IV 遺構と遺物

4区5号溝・4号溝



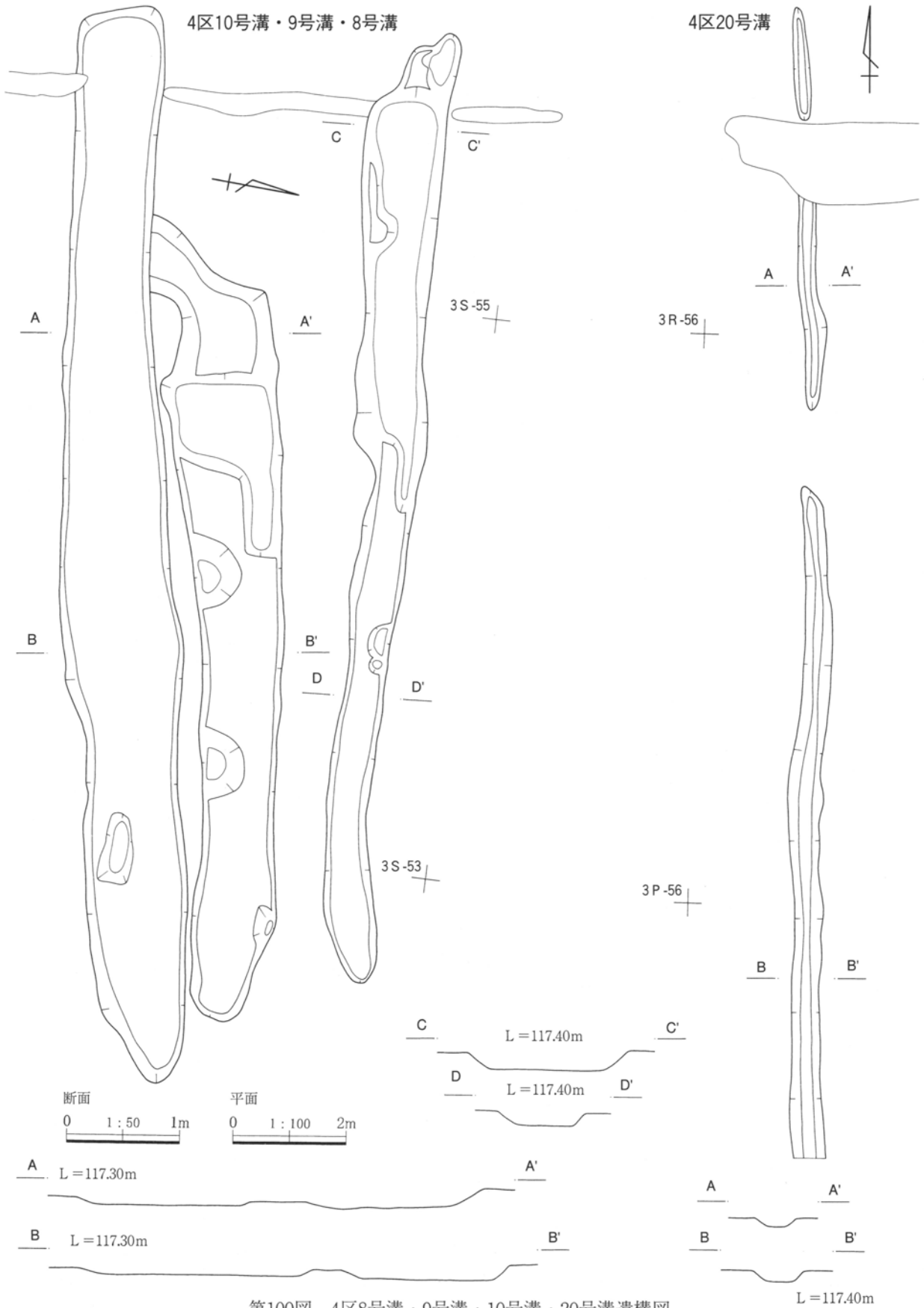
4. 平安時代末以降の遺構と遺物



第99図 4区12号溝・13号溝・15号溝・16号溝遺構図・遺物図

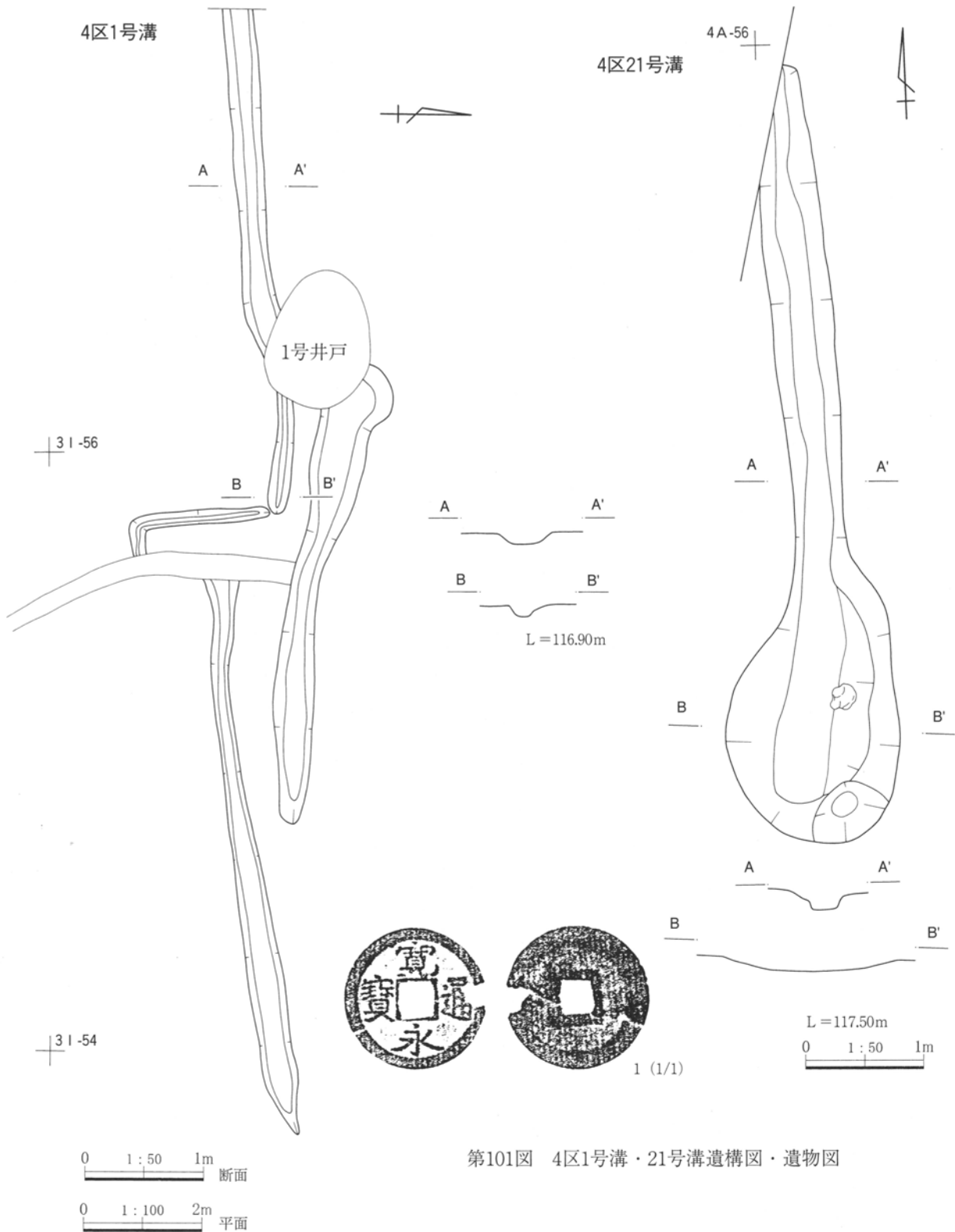
4区13号溝

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 色調	成整形の特徴
1	須恵器 椀	埋没土中 底部片	底径6.6	細砂粒/還元焰/ 灰白色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。高台は貼付。



第100図 4区8号溝・9号溝・10号溝・20号溝遺構図

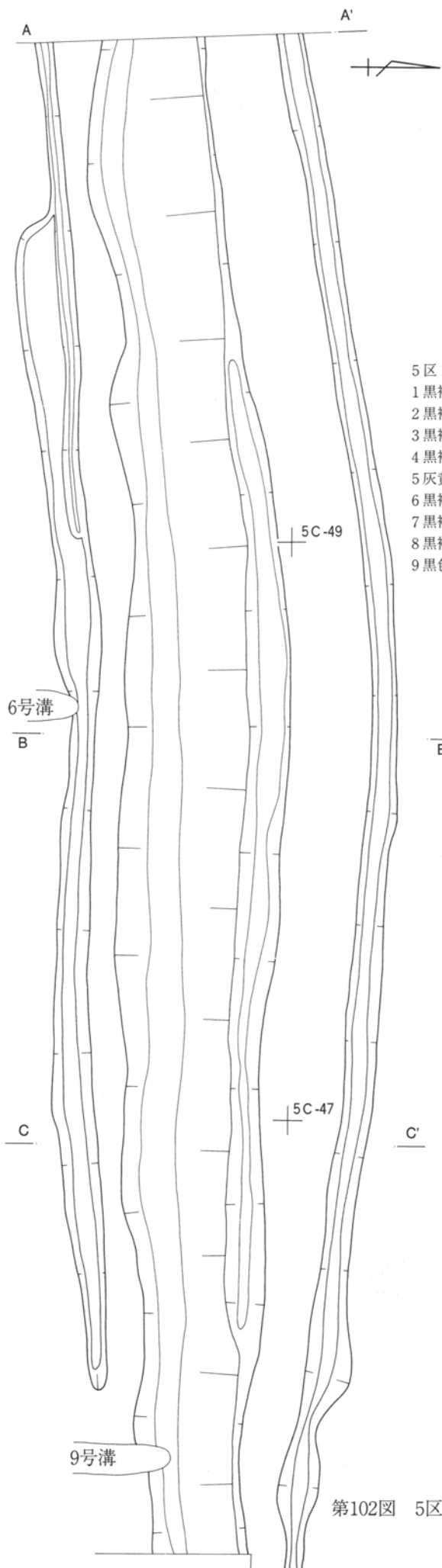
4. 平安時代末以降の遺構と遺物



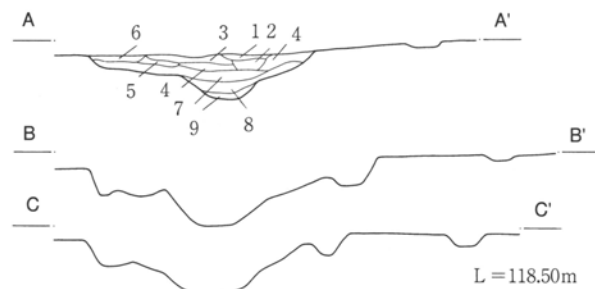
第101図 4区1号溝・21号溝遺構図・遺物図

4区1号溝 P L 56

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	銭貨 日本銭	埋没土中 一部欠損	径2.5孔0.6 厚0.1重3.3		銭種「寛永通宝」一文銭。	

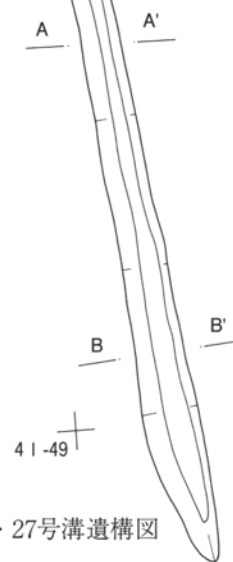
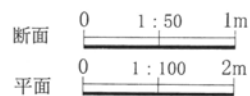
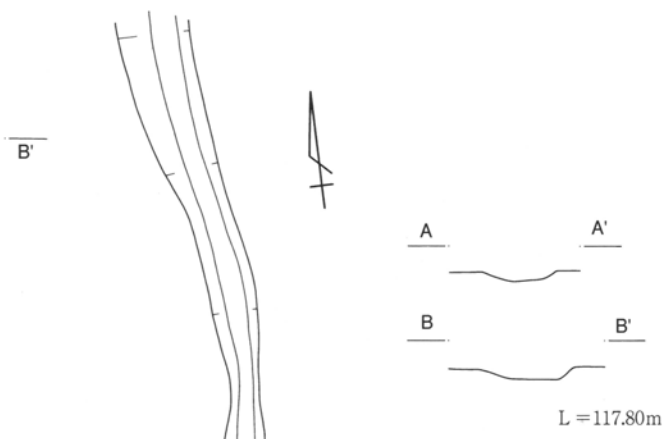


5区1号溝・3号溝

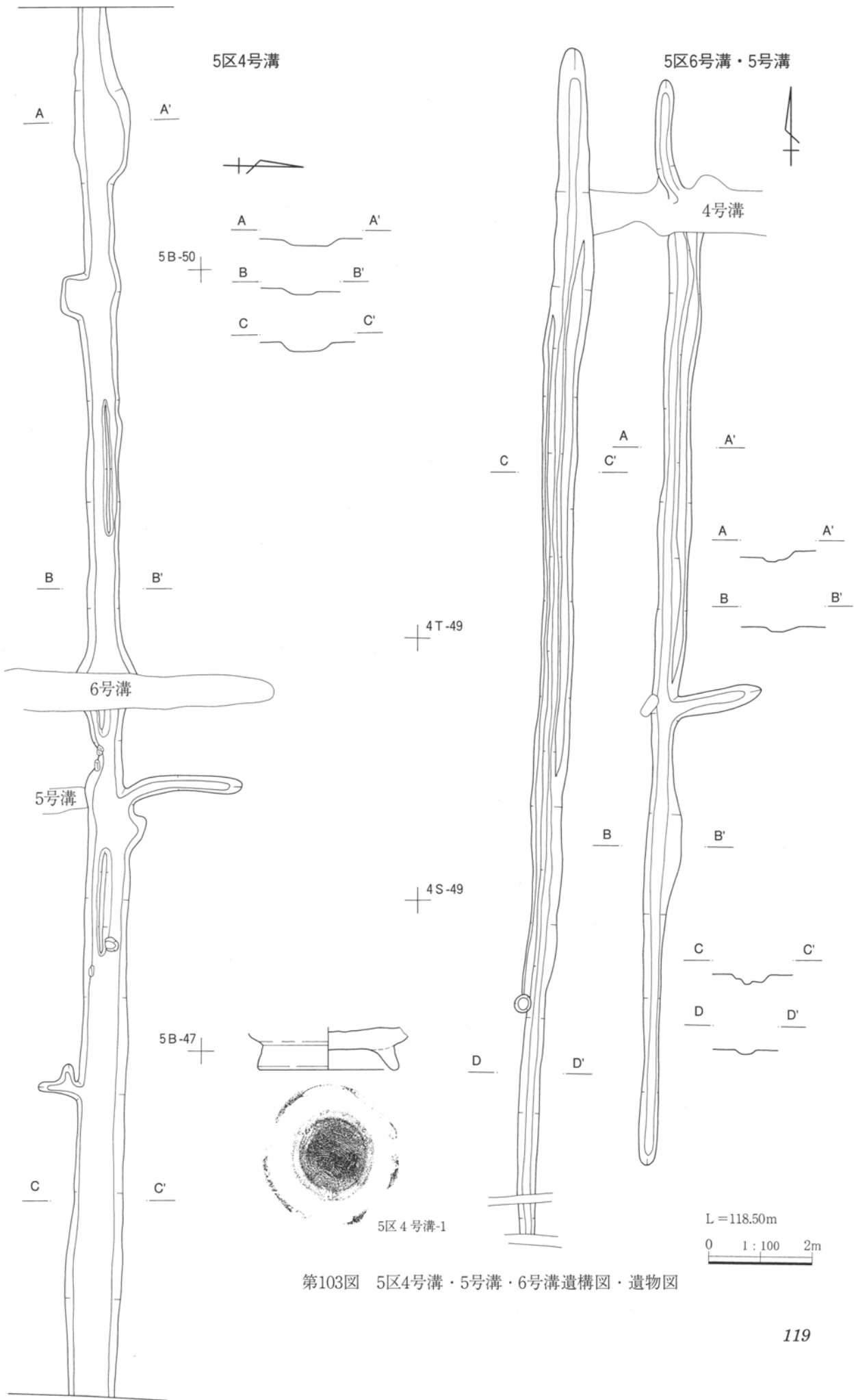


- 5区1号溝
- | | |
|---------|-------------------------------|
| 1 黒褐色土 | IIに類似。 |
| 2 黒褐色土 | IIに類似。 |
| 3 黒褐色土 | IIに類似、シルト質土若干含む。 |
| 4 黒褐色土 | IIに類似、シルト質土を少量含む。 |
| 5 灰黄褐色土 | シルト質土。 |
| 6 黒褐色土 | シルト質土、VIを若干含む。 |
| 7 黒褐色土 | シルト質土、白色軽石（径2mm程度）を1%含む。 |
| 8 黒褐色土 | 砂質土、白色軽石（径1mm程度）を微量と炭化物を若干含む。 |
| 9 黒色土 | 粘質土。 |

5区27号溝



第102図 5区1号溝・3号溝・27号溝遺構図

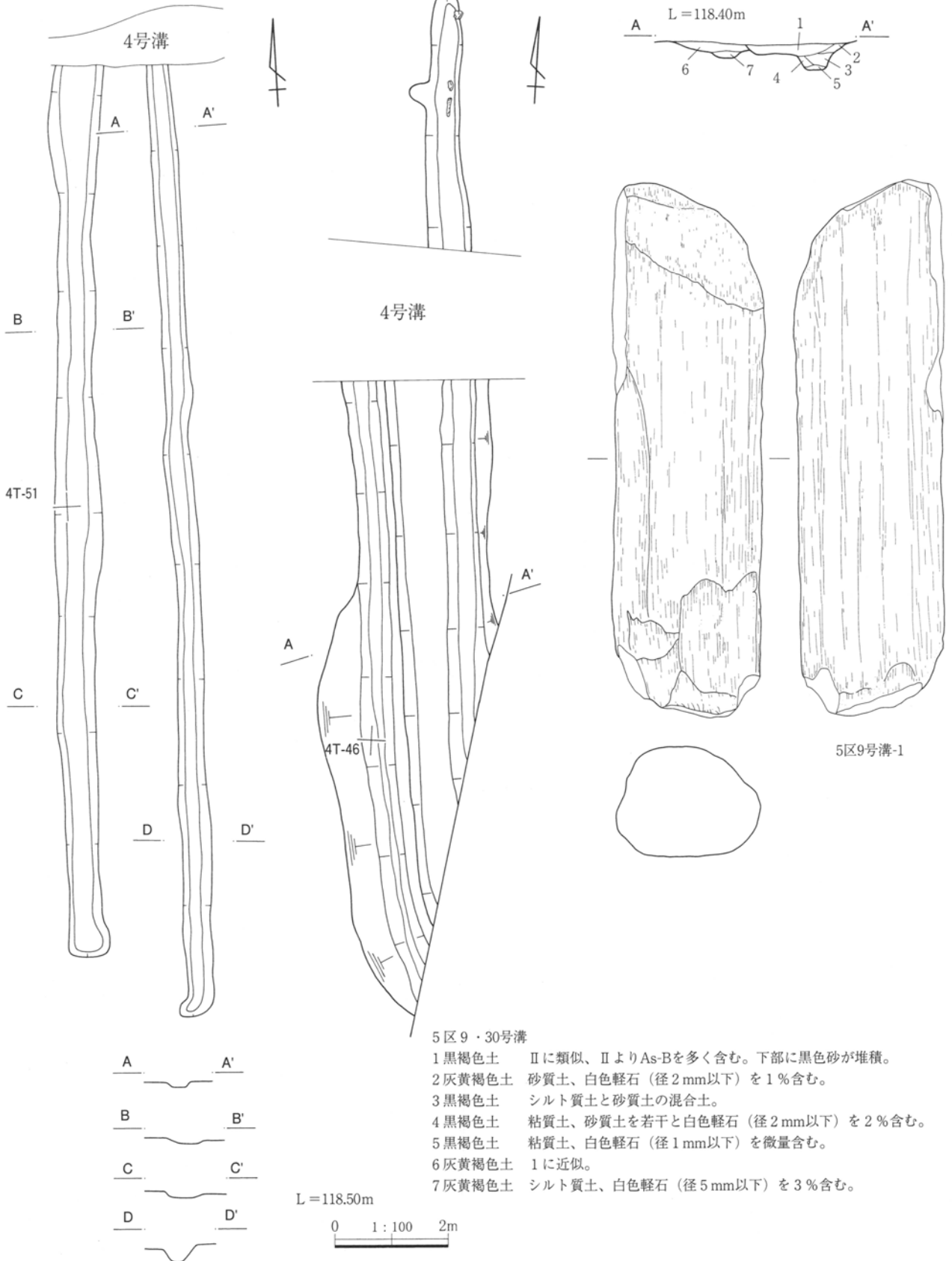


第103图 5区4号沟·5号沟·6号沟遺構図·遺物図

IV 遺構と遺物

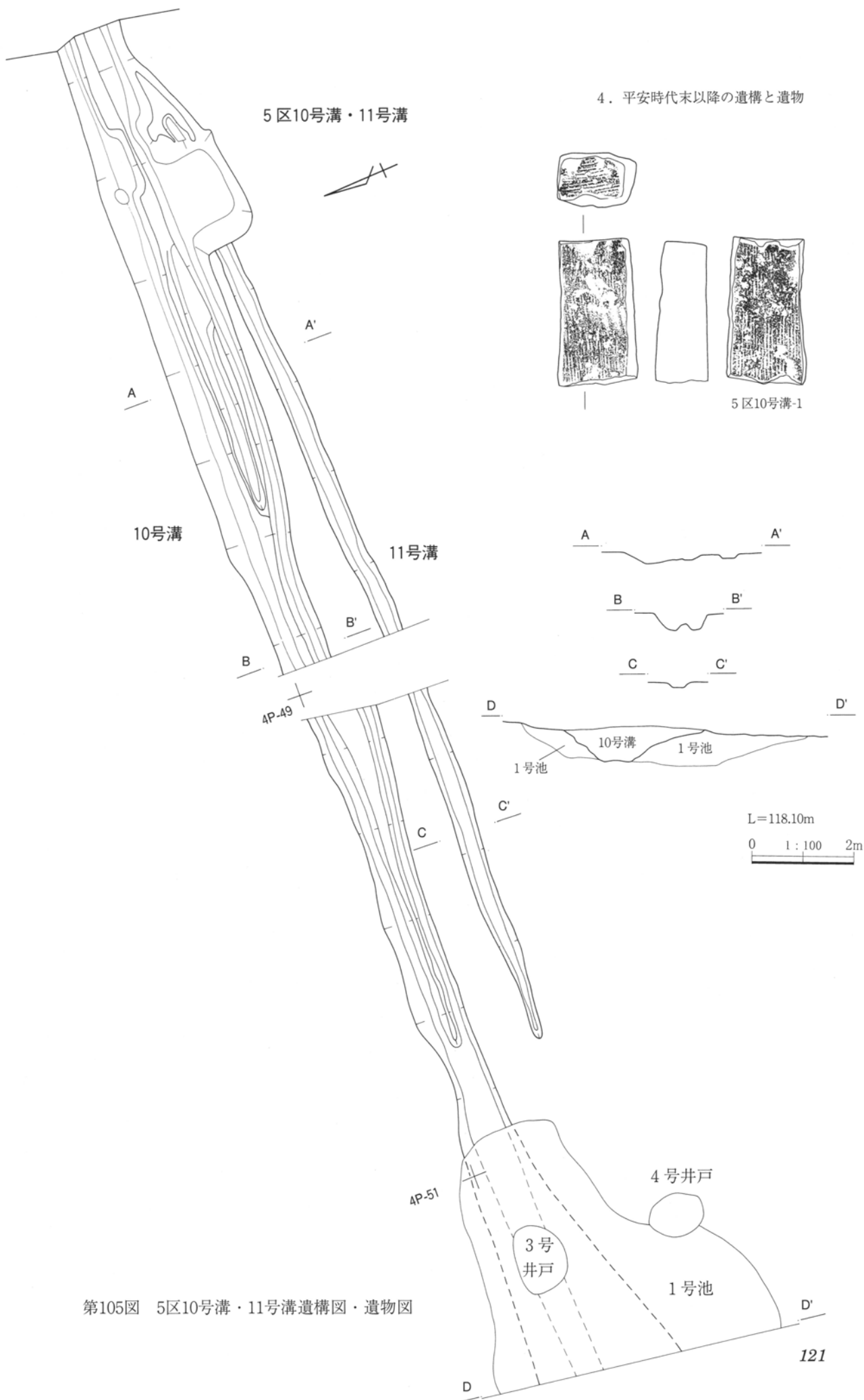
5区8号溝・7号溝

5区30号溝・9号溝



第104図 5区7号溝・8号溝・9号溝・30号溝遺構図・遺物図

4. 平安時代末以降の遺構と遺物

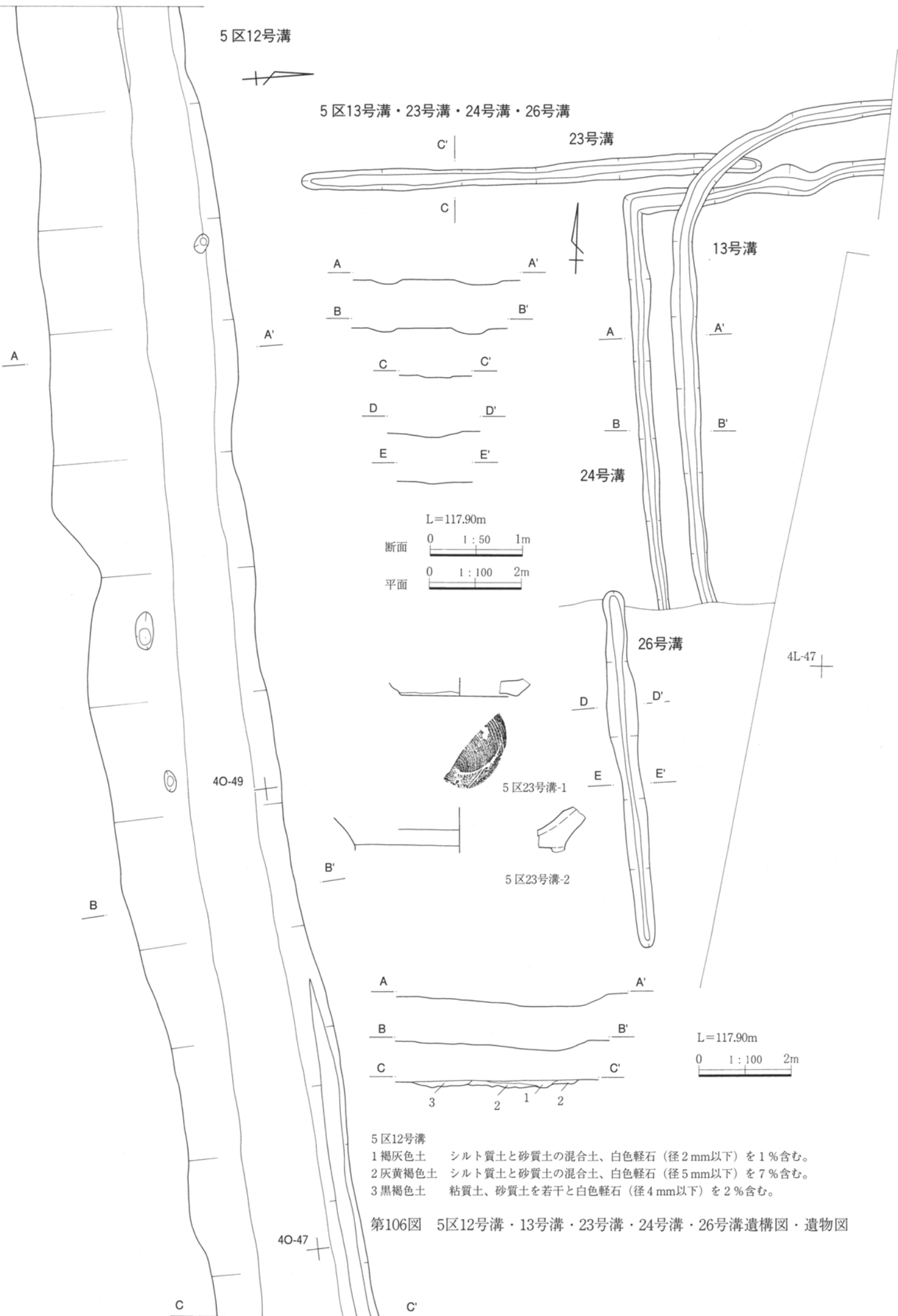


第105図 5区10号溝・11号溝遺構図・遺物図

5区12号溝



5区13号溝・23号溝・24号溝・26号溝



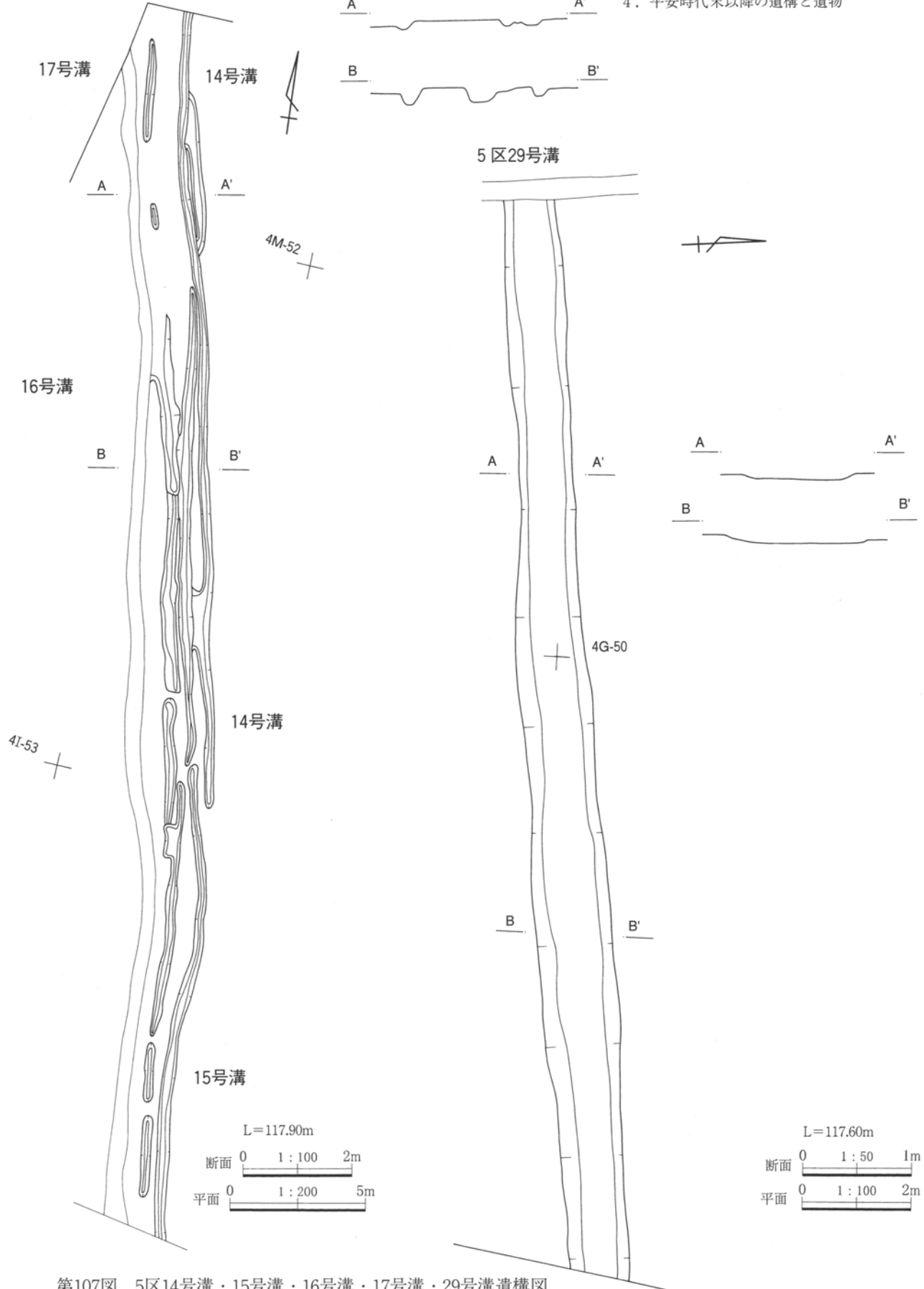
5区12号溝

- 1 褐灰色土 シルト質土と砂質土の混合土、白色軽石（径2mm以下）を1%含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土と砂質土の混合土、白色軽石（径5mm以下）を7%含む。
- 3 黒褐色土 粘質土、砂質土を若干と白色軽石（径4mm以下）を2%含む。

第106図 5区12号溝・13号溝・23号溝・24号溝・26号溝遺構図・遺物図

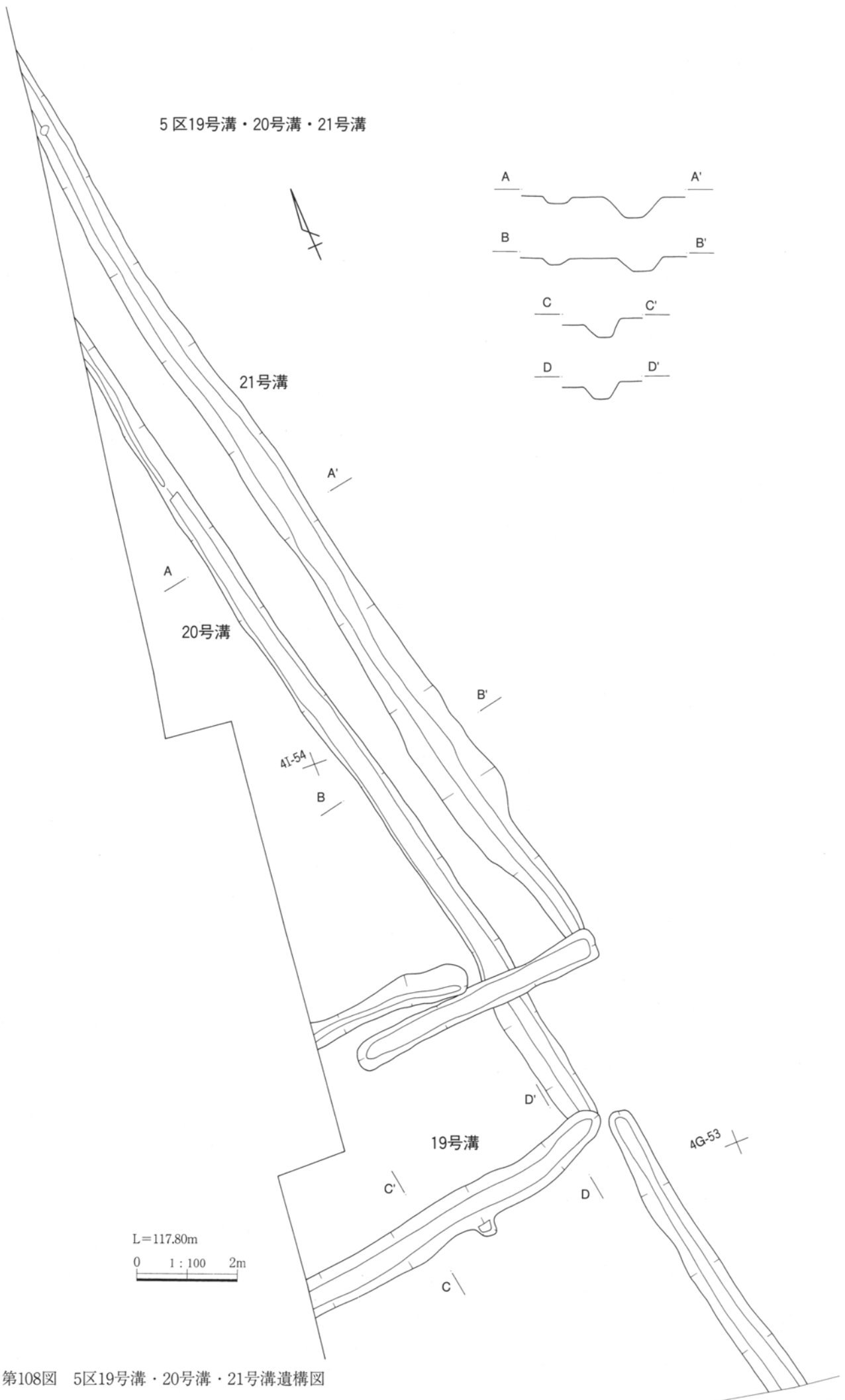
5区14号溝・15号溝・16号溝・17号溝

4. 平安時代末以降の遺構と遺物



第107図 5区14号溝・15号溝・16号溝・17号溝・29号溝遺構図

5区19号溝・20号溝・21号溝



第108图 5区19号溝・20号溝・21号溝遺構図

4. 平安時代末以降の遺構と遺物

5区4号溝 P L57

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 椀	埋没土中 底部	底径7.6台径8.2	微砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。高台貼付。底部器壁が非常に厚い。	

5区9号溝 P L57

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
1	石製品 石棒	埋没土中 下半部か	長(28.2)幅8.0 厚7.8重2.4kg	雲母石英片岩		

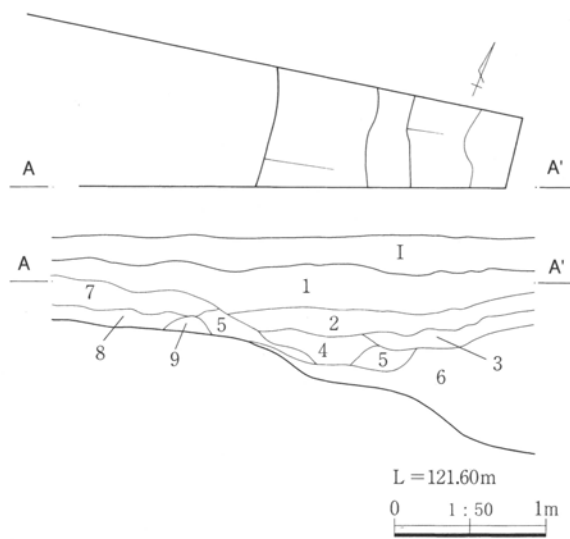
5区10号溝 P L57

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
1	石製品 砥石	埋没土中 下半を欠く	長(8.6)幅4.6 厚3.1重210	砥沢石	左右側面はよく使用されているが、上下面、上側面は未使用か。	

5区23号溝

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	須恵器 杯	埋没土中 底部片	底径7.6	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り。	
2	須恵器 瓶	埋没土中 底部片	底径14.0	粗砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ整形、回転方向不明。高台が貼付。胴部下位は回転ヘラ削り。	

6区3号溝



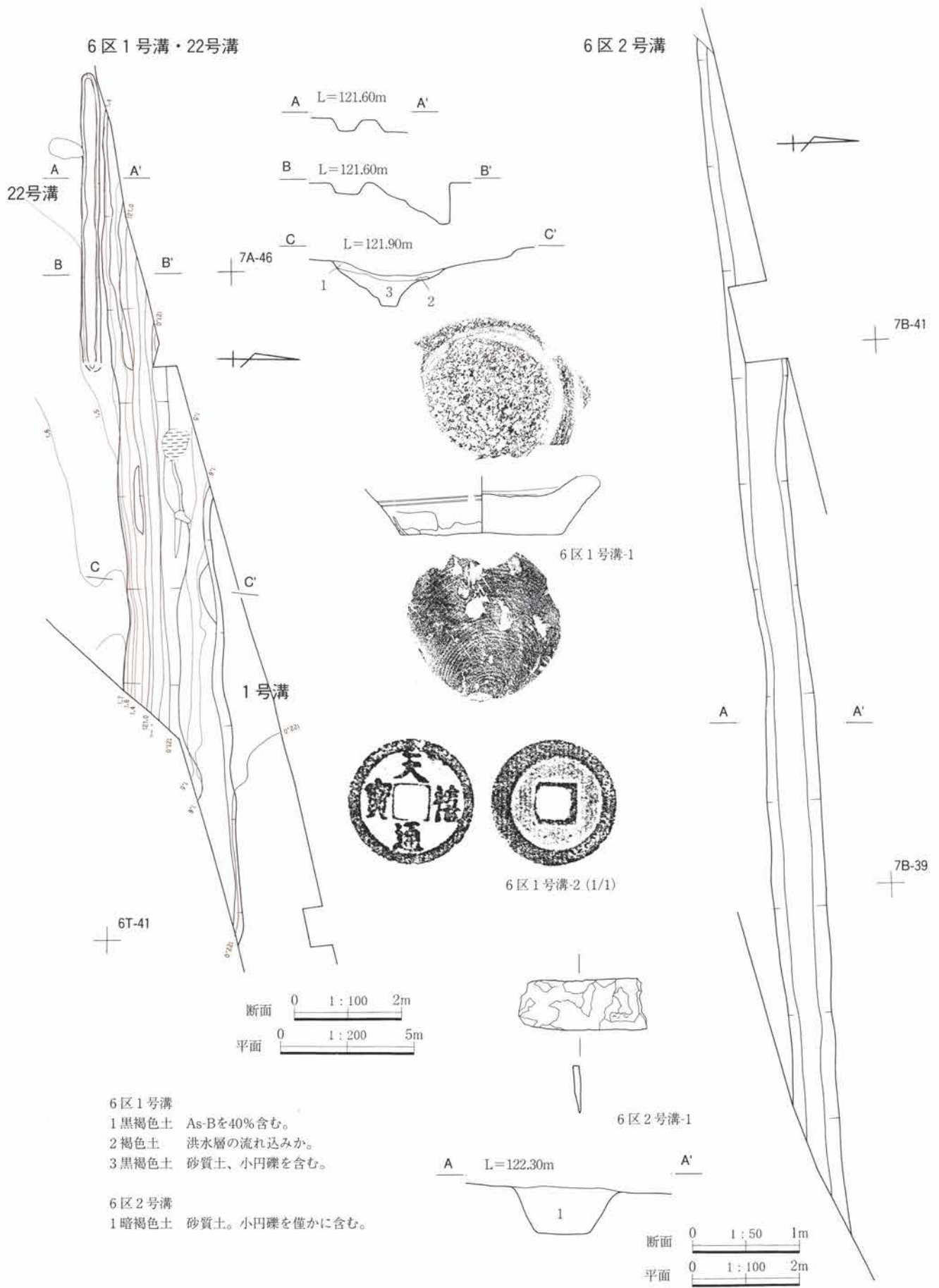
6区3号溝

- 1 におい黄褐色土 IIに類似。
- 2 暗褐色土 IIに洪水層が混入。
- 3 暗褐色土 2に類似、2より暗い色調。
- 4 暗褐色土 2に類似、2、3より暗い色調。
- 5 暗褐色土 2に類似、Ⅶブロック(径5~10mm)を5%含む。
- 6 褐色土 2に類似、Ⅶブロック(径5~10mm)を5%含む。
- 7 暗褐色土 2に類似、Ⅳ・Ⅶが混入。
- 8 暗褐色土 5に類似。
- 9 暗褐色土 2に類似、Ⅶブロック(径5~10mm)を30%含む。

第109図 6区3号溝遺構図



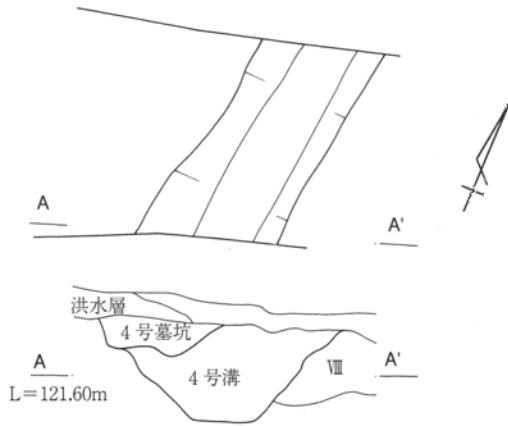
第110図 菅谷城址概略図



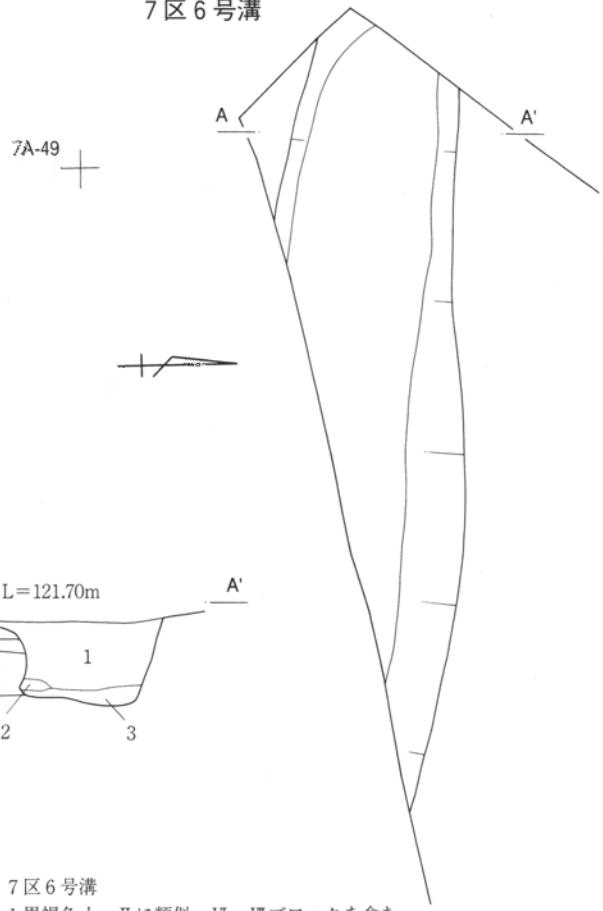
- 6区1号溝
 1 黒褐色土 As-Bを40%含む。
 2 褐色土 洪水層の流れ込みか。
 3 黒褐色土 砂質土、小円礫を含む。
- 6区2号溝
 1 暗褐色土 砂質土。小円礫を僅かに含む。

第111図 6区1号溝・2号溝・22号溝遺構図・遺物図

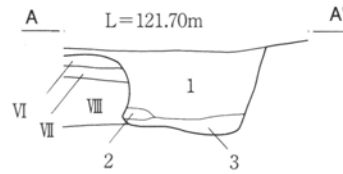
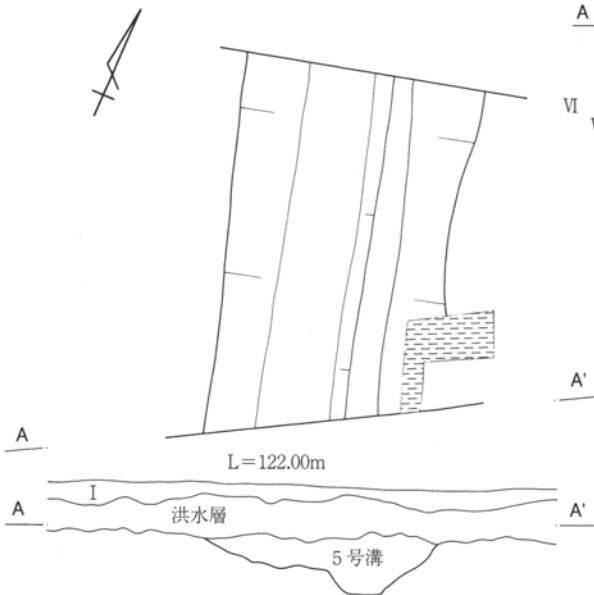
6区4号溝



7区6号溝



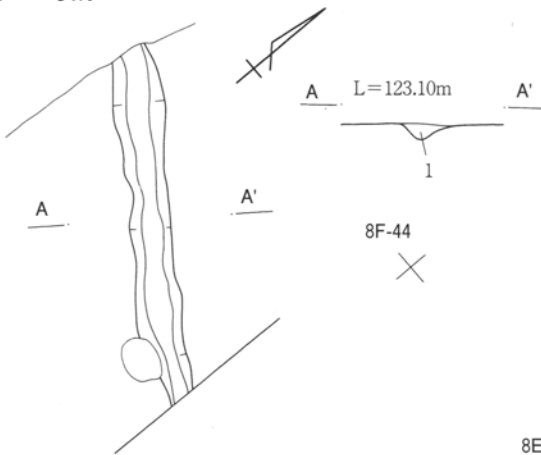
6区5号溝



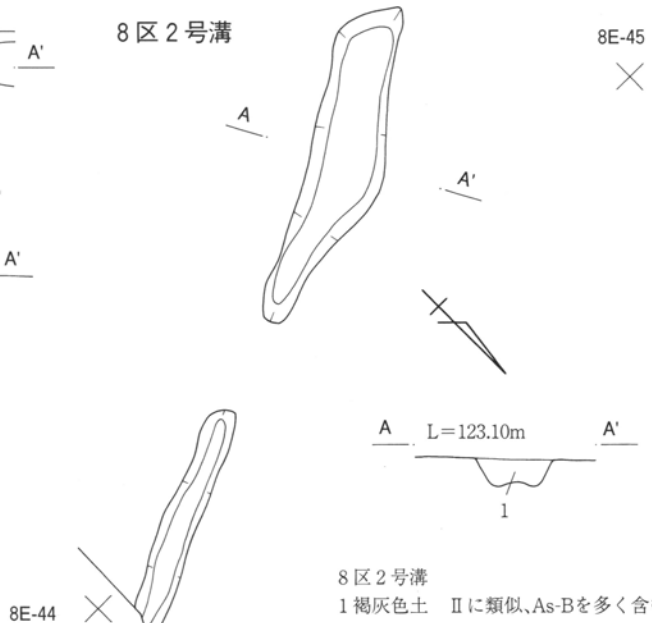
7区6号溝

- 1 黒褐色土 IIに類似、VI・VIIブロックを含む。
- 2 暗褐色土 VIIの崩落土。
- 3 暗褐色土 IVに類似、VIIをブロックで20%含む。

8区1号溝



8区2号溝



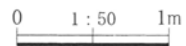
8区2号溝

- 1 褐灰色土 IIに類似、As-Bを多く含む。

8区1号溝

- 1 褐灰色土 IIに類似、As-Bを多く含む。

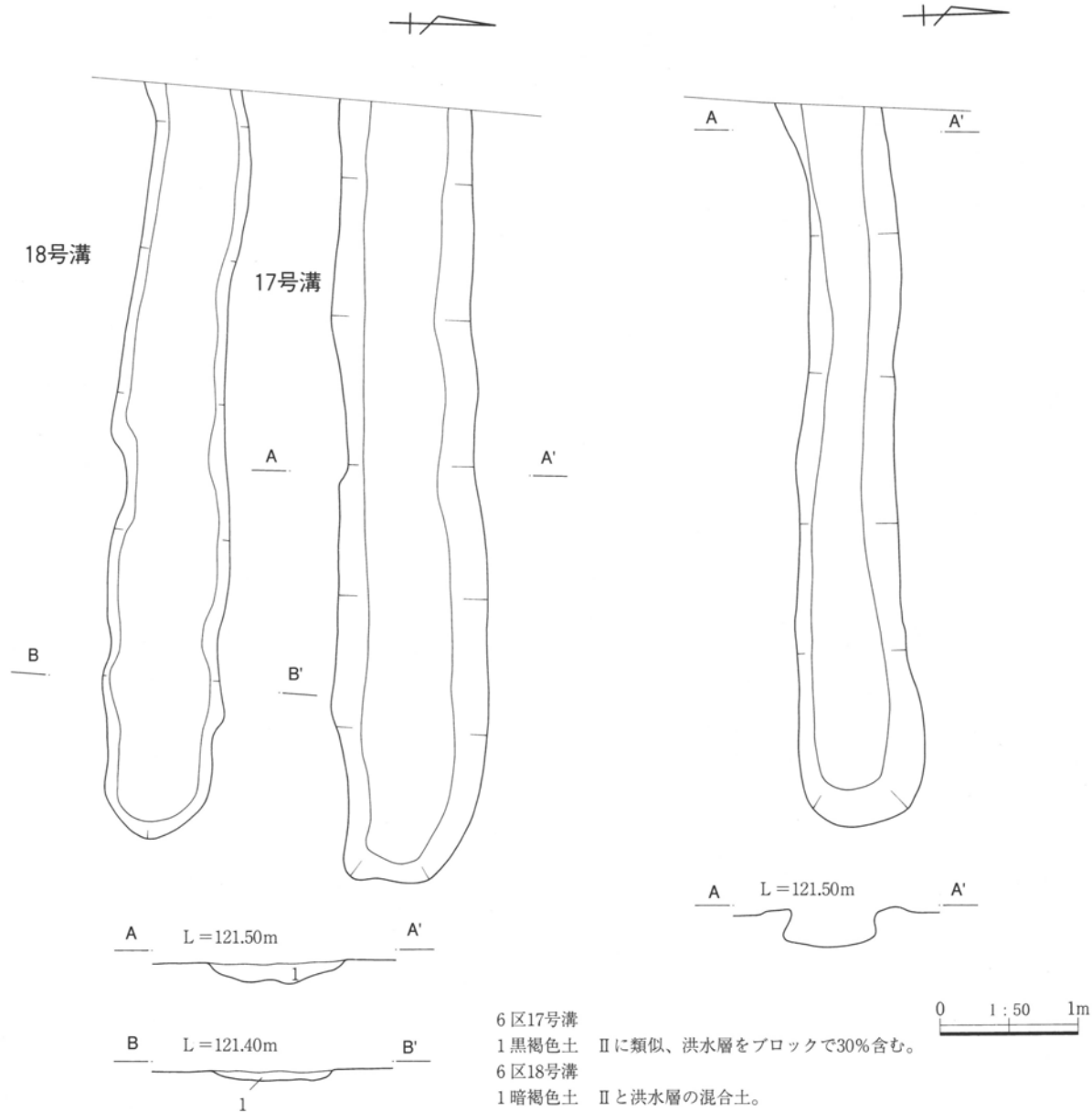
第112図 6区4号溝・5号溝・7区6号溝・8区1号溝・2号溝遺構図



IV 遺構と遺物

6区17号溝・18号溝

6区19号溝



第113図 6区17号溝・18号溝・19号溝遺構図

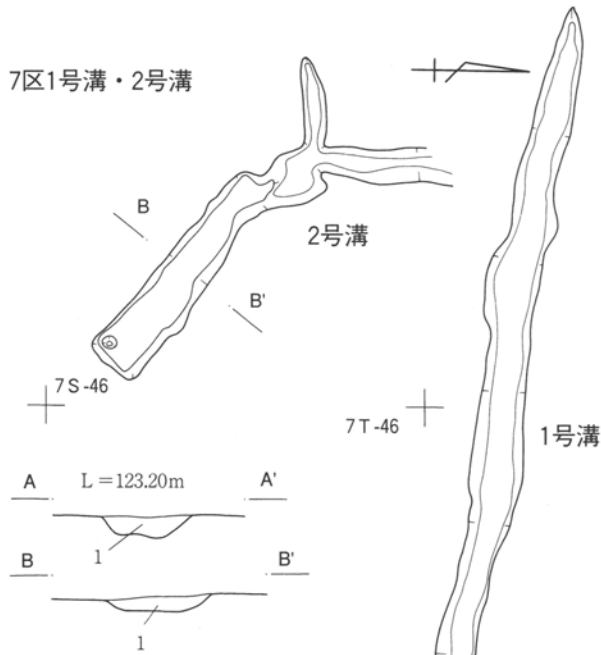
6区1号溝 PL57

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	軟質陶器 甕	埋没土中 底部	底径9.0	細砂粒/還元焰/ にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り。胴部下位は回転ヘラ削り。内面はナデ。	
2	銭貨 渡来銭	埋没土中	径2.4孔0.6 厚0.1重2.9		銭種「天通宝」、北宋、初鑄1017年。	

6区2号溝 PL57

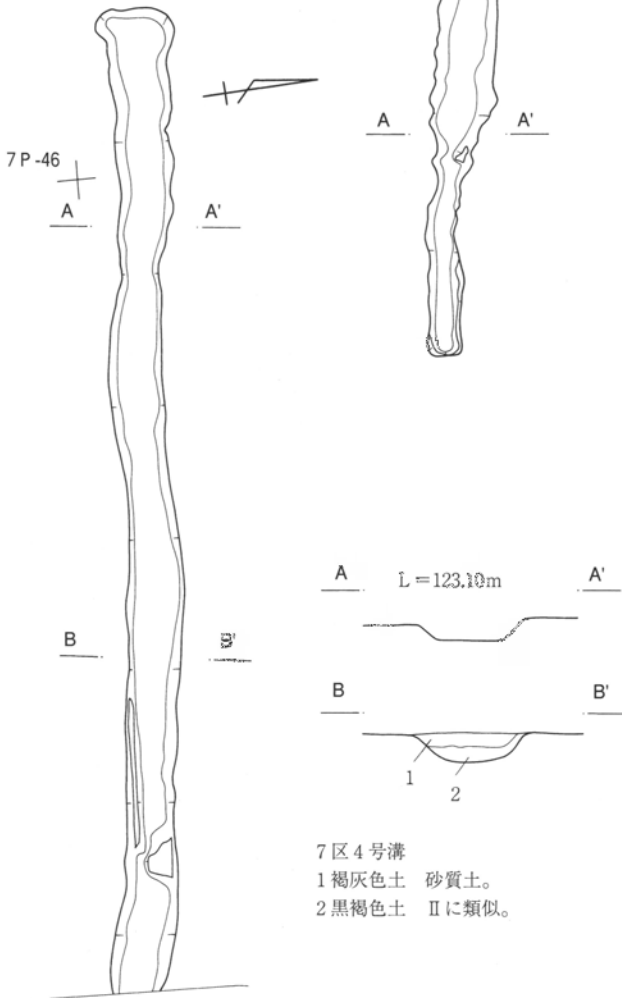
遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	鉄器 刀子	埋没土中 小片	長(4.7)幅1.8 厚0.2重5.41		刀身先端部付近片	

7区1号溝・2号溝



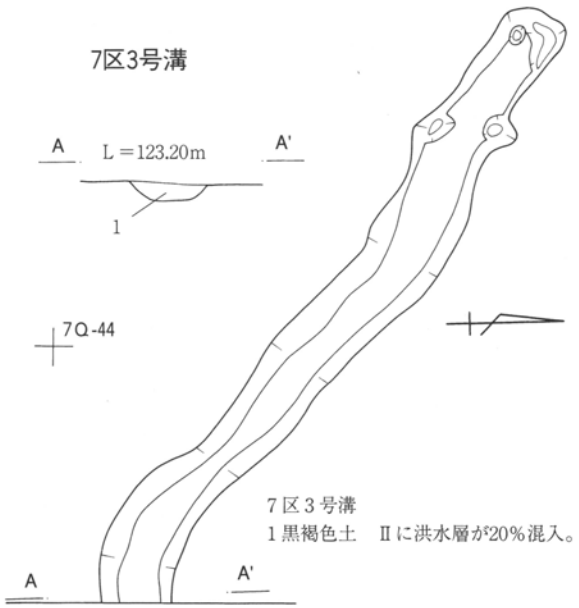
7区1号溝
1 褐灰色土 IIに類似、As-Bを多く含む。
7区2号溝
1 黒褐色土 IIに洪水層が20%混入。

7区4号溝



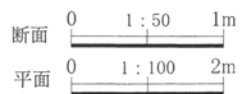
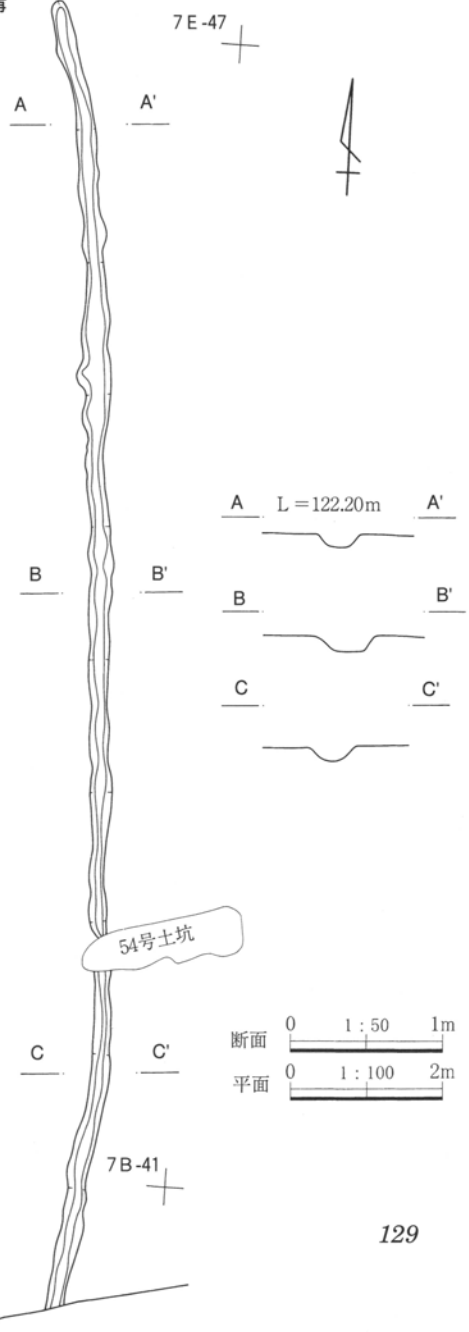
7区4号溝
1 褐灰色土 砂質土。
2 黒褐色土 IIに類似。

7区3号溝



7区3号溝
1 黒褐色土 IIに洪水層が20%混入。

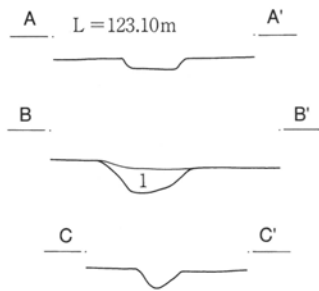
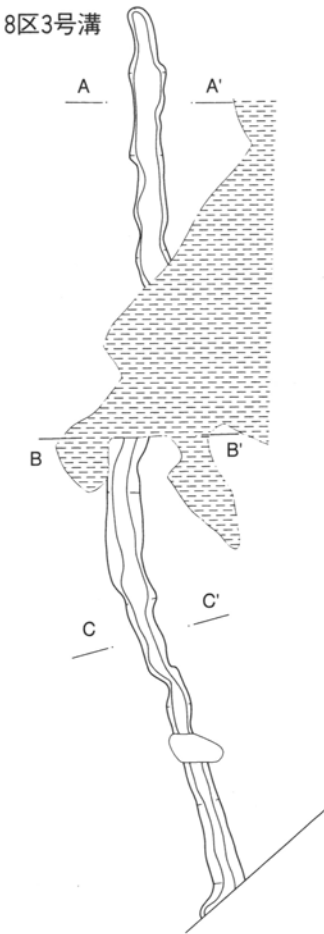
7区5号溝



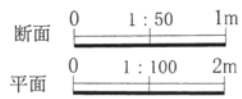
第114図 7区1号溝・2号溝・3号溝・4号溝・5号溝遺構図

IV 遺構と遺物

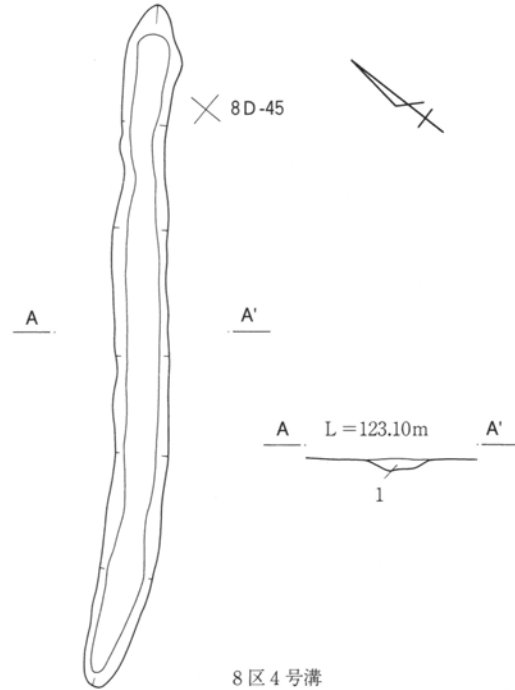
8区3号溝



8区3号溝
1 灰白色土 砂質土。

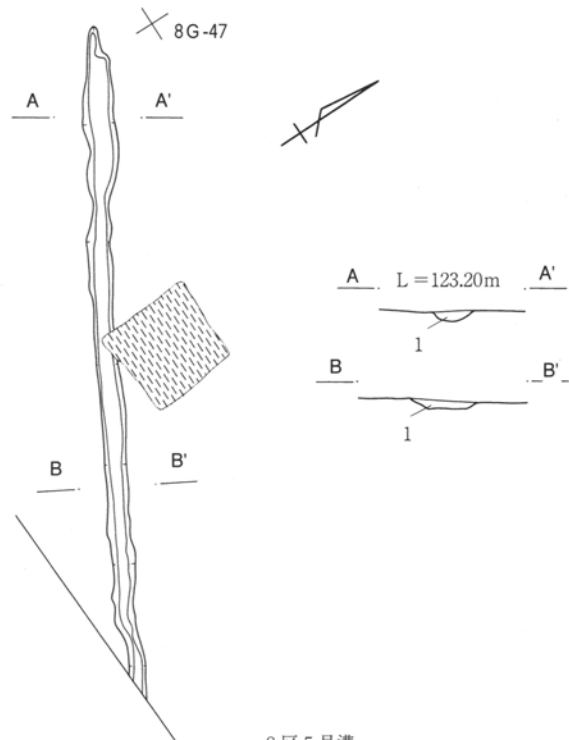


8区4号溝



8区4号溝
1 褐灰色土 IIに類似、As-Bを多く含む。

8区5号溝



8区5号溝
1 褐灰色土 IIに類似、As-Bを多く含む。

第115図 8区3号溝・4号溝・5号溝遺構図

(8) 水田

2区～4区南 III (As-B) 層下水田

①位置と重複

本水田は2区南端から4区南部までの約250m、0J～3E-51～60グリッドに位置する。他遺構との重複は小規模な溝や土坑、攪乱などとの重複が確認された。新旧関係は本水田の方が概ね古い。

②被覆土層と残存状態

被覆土層はⅢ層であるAs-Bである。Ⅲ層の残存状態は地形によって異なり3～20cmである。

残存状態は被覆土層によって左右されている。Ⅲ層の残存が厚い箇所は当然良好な状態であるが、Ⅲ層の残存が薄い箇所では不良な状態である。特に2区1C～1K-54～59グリッドでは圃場整備がおこなわれたときにⅣ層まで削平されており水田面・アゼは僅かに残存する程度と悪い状態であった。

③水田域の地形

水田域は全体的には僅かに南南東に傾斜する谷地に立地しているが2区南端や東側は泥流丘が存在しておりその影響が水田区画にも見られる。また、3区北側には下層に埋没河川が存在するため2E～2Oグリッドの間では全体よりやや東へ向かう谷地が形成されている。この水田域の傾斜は2区0P-55から3区2C-59の160m間で1.75mの比高差であることから10.9/1000の角度0.6°とごく僅かなものである。3区北側の埋没河川部分は12.5/1000の角度0.7°と僅かであるが傾斜がある。

④区画

区画は地形に多少の規制を受けて設定されているが、下位に位置するV (Hr-FA) 層下水田やVI (As-C) 層下水田よりも条里制を意識した規格性が窺える。ただし今回の調査では明確な大区画の確認は南北方向でのアゼでは可能性が見られたがその他では確証は得られなかった。それぞれの小区画では2区で比較的東西に細長い長方形を呈す区画が多く見られるのに対して3区、4区では方形または南北にやや長い長方形を呈す区画が多くなる。区画の方位は全体的にはほぼ北方向を向いているが3区の埋

没河川上に位置する区画では地形に影響され20°ほど西へ傾く設定がおこなわれている。

区画の面積は南側の区画が北側より広い傾向が見られる。最大は全貌が明らかではないが区画414の $234.40\text{m}^2 + \alpha$ 、最小は区画442の 2.00m^2 で平均 $40\text{m}^2 + \alpha$ である。

⑤アゼ

アゼは作業道を兼ねる大アゼは検出されず、クロ的な小アゼだけである。アゼ高は最高でも8cmと低い残存状態である。アゼの設定は4区の南北方向に設けられた水路4区19号溝から3区の区画465・468・469・472・476・479の西辺アゼにかけては直線的に設定されている。この直線的なアゼは3区の南端の区画435・430、2区の区画420・421、405・412の西辺アゼまで見ることができる。この直線的なアゼは2区で泥流丘によって遮断されるが約250mほど直線を意識して存在する。その他のアゼは一区画ずつを区画するためのもので連続しても2～3区画までとおるものが主である。

⑥取配水の方法

調査区内では取水施設は検出されなかったが排水のための水路が2条検出された。それぞれの水路は両側にアゼが築かれ湧水点、取水地から離れた区画へ配水されている。水口は全ての区画で検出されなかったが2区と3区の一部の区画で検出され、3区の区画477・481で見られる土坑状の窪みが見られる区画が存在した。また、2区の東西方向に長い区画では水口も1ヶ所ではなく2ヶ所存在する区画も見られた。

⑦耕作土

耕作土は下層に当たるⅣ層であるが水田耕作土として使用された部分は下位の土層より腐植土化が進んでいるのか黒色が強い色調を呈している。

⑧その他付随する遺構

配水のための水路3区8号溝、4区19号溝が検出されている。

⑨遺物

耕作土中より土師器や須恵器などの小片が若干出

IV 遺構と遺物

土しているが本水田に伴う遺物や図化可能なものは見られない。

4 区北 III (As-B) 層下水田

①位置と重複

本水田は4区北半の3N～4C-52～55グリッドに位置する。他遺構との重複は畠・溝との重複が確認された。新旧関係は本水田の方が古い。

②被覆土層と残存状態

被覆土はⅢ層のAs-Bであるがこの付近の堆積は2～5cmと薄い状態である。残存状態は南側では区画が確認できたが北側はアゼの一部が確認できただけである。

③水田域の地形

2区～4区南の水田域と同様に南南東へのごく緩い傾斜地でその傾斜も30～53から4E-54の550m間で0.60mの比高差であることから10.9/1000の角度0.6°とごく僅かなものである。

④区画

区画513・515・516は区画として確認できたが他の区画は一部だけで詳細については不明である。区画の面積は最大が区画521の86.40m²+α、最小が区画515の8.40m²で平均25m²+αである。

⑤アゼ

アゼは作業道を兼ねる大アゼは検出されず、クロ的な小アゼだけである。アゼ高は最高でも4cmと低い残存状態である。

⑥取配水の方法

取水・排水に係わる遺構は検出されていない。水口についても本水田域では確認されなかった。

⑦耕作土

耕作土は下層に当たるⅣ層であるが水田耕作土として使用された部分は下位の土層より腐植土化が進んでいるのか黒色が強い色調を呈している。

⑧その他付随する遺構

本水田に付随する遺構は検出されなかった。

⑨遺物

本水田耕作土からはごく少量の土師器や須恵器の

小片が出土したが本水田に伴うものや図化可能な物はなかった。

5 区 III (As-B) 層下水田

①位置と重複

5区の南西部分を除く全域、4E～5M-46～54グリッドに位置する。他遺構との重複は溝、池、井戸などと重複が確認される。新旧関係は本水田の方が古い。

②被覆土層と残存状態

被覆土層はⅢ層であるAs-Bである。Ⅲ層の残存状態は地点によって異なり北側の方が比較的厚く5～10cmほどであるのに対して南側は2～5cmと薄状態である。

残存状態は被覆土層の状態に左右され北側は比較的良好であるのに対して南側はアゼの一部や水田面の一部が確認される程度しかなかった。

③水田域の地形

水田域は他のⅢ(As-B)層下水田と同様な南南東へのごく緩い傾斜地に立地している。本水田の東側には微高地が存在しており区画570・576・583・587・589は水田域端部に位置する区画である。水田域の傾斜は4E-46から5M-48の125m間で比高差1.75mであることから14/1000の角度0.8°と他の2ヶ所の水田域よりごく僅かであるが傾斜が見られる。

④区画

区画は地形に多少の規制を受けて設定されているが基本的には条里制を意識してか一部を除いて北方向に向けた設定が見られる。その中では5Cと5Dの間の区画550～557は地形の変換点か形態も規模も他の区画と大きく異なる。その要因については後出の5区1号・3号溝が存在するため明確にはできなかった。5区1号・3号溝以南ではまた北側と同様に規格性が見られる区画に設定されるが南北方向のアゼがやや西へ傾いている。

区画の形態は方形または長方形を呈している。長方形の形態を呈すものは北側では東西、南北の両方

4. 平安時代末以降の遺構と遺物

に長い辺をもつものが存在するが南側では東西に長い形態を見せている。

区画の面積は最大が区画564の73.80m²、最小が区画553の2.50m²、平均は24m²+αである。

⑤アゼ

アゼは作業道を兼ねる大アゼは検出されず、クロ的な小アゼだけである。アゼ高は最高でも6cmと低い残存状態である。アゼの設定は基本的には区画を作るためのものであるため長く直線的に続く箇所は少ないが区画560・565・577・580・584・587の西側のアゼは44mほど直線的に設定されている。また、その南に位置する区画535・538・542・546の西側のアゼも北側に連続するように直線的に24mほど設定されている。しかし、この2本の直線的に長いアゼも僅かな角度であるが走行する方位が異なる。5区水田域のアゼは2区～4区南に比べると比較的東西・南北のアゼともズレが少なく直線的に設定されている。

⑥取配水の方法

取水に係わる遺構は区画576の北東に水路が確認された。この溝は5L-45グリッド付近からの湧水

を引き込んだものと見られる。ただし区画567は最も高位に位置する区画ではないことからこの他の取水施設は当然存在したと考えられる。

水田域内の配水は2区～4区南の水田域のように水路で配水されたのではなく水口によって高位の区画から低位の区画へ配水されていたようである。水口の位置は配水する区画が一区画のときは区画角に位置するが二区画への配水が行われるときは南辺の中程に位置するものもある。

⑦耕作土

耕作土は下層に当たるIV層であるが水田耕作土として使用された部分は下位の土層より腐植土化が進んでいるのか黒色が強い色調を呈している。

⑧その他付随する遺構

水路区画576に流れ込む溝の他には確認されなかった。

⑨遺物

本水田耕作土からはごく少量の土師器や須恵器の小片が出土したが本水田に伴うものや図化可能な物はなかった。

第13表 2区～4区南 III (As-B) 層下水田

No 1

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
401	0N-50	矩形か		3.4	1.8	114.36	114.35	1	2	6.40		
402	0O-51	矩形か		7.3	4.5	114.39	114.35	4	3	28.00		
403	0P-51	矩形か		6.5	2.2	114.38	114.35	3	4	9.60		
404	0K-53	矩形か		11.0	4.0	114.39	114.31	8	4	13.60		
405	0M-53	矩形か		16.7	-	114.45	114.34	11	2	38.40		
406	0M-55	矩形		7.5	4.0	114.55	114.52	3	3	38.00		
407	0M-56	矩形		3.3	2.2	114.61	114.56	5	3	6.40		
408	0M-55	矩形か		9.2	-	114.54	114.48	6	3	63.80		
409	0M-56	矩形か		4.5	-	114.55	114.48	7	3	34.00		
410	0O-54	矩形か		20.8	10.1	114.53	114.48	5	3	202.80	北中 413→	
411	0P-58	不明		10.0	-	114.61	114.57	4	4	7.50		
412	0Q-53	矩形か		10.8	-	114.60	114.42	18	1	10.40		
413	0Q-54	台形状	○	21.0	9.4	114.61	114.50	11	3	142.80	北2ヶ所 414→	南中 →410
414	0S-53	長方形		27.0	9.2	114.70	114.60	10	3	234.40	北2ヶ所 415→	北2ヶ所 →413
415	0T-54	長方形		22.0	8.5	114.80	114.67	13	5	174.00		
416	0T-59	矩形か		7.7	-	114.81	114.56	25	3	7.50		
417	1B-56	台形状		12.9	9.5	114.88	114.81	7	4	103.80	東2ヶ所 419→	南2ヶ所 →415
418	1A-59	矩形か		9.7	-	114.86	114.82	4	2	10.40		
419	1C-56	三角形?		4.5	3.6	114.90	114.86	2	3	11.70		
420	1E-53	矩形か		6.9	4.9	114.98	114.93	5	3	32.00	北西角 422→	
421	1F-53	矩形か		13.6	4.2	114.99	114.91	8	5	64.40		
422	1D-54	矩形か		26.7	5.0	115.11	114.96	15	5	134.80		東中 →420
423	1D-56	不明		14.5	6.6	114.93	114.90	3	1	86.60		
424	1G-57	不明		3.0	-	115.00	114.95	5	4	4.00		
425	1F-58	不明		4.3	-	115.02	114.95	7	4	21.20		

IV 遺構と遺物

No 2

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
426	1F-59	不明		4.8	-	115.03	114.97	6	4	6.50		
427	1G-57	不明		12.7	9.0	115.07	115.00	7	2	153.30		
428	1G-59	不明		9.7	-	115.07	115.02	5	4	10.80		
429	1M-53	矩形		6.0	5.0	115.06	115.02	4	4	21.20		
430	1M-54	長方形	○	6.6	2.4	115.23	115.06	17	5	14.80	北2ヶ所 435→	
431	1L-55	長方形?	○	9.3	2.5	115.23	115.14	9	1	20.40		
432	1L-58	矩形か		14.0	11.0	115.25	115.17	8	4	116.00	西北寄 434→	
433	1L-59	不明		5.5	5.5	115.29	115.21	8	2	4.80		
434	1M-59	不明		3.2	-					1.20		東中 →432
435	1N-53	長方形		7.3	6.3	115.10	115.07	3	4	43.40	北西角 436→	南西寄 →430
436	1P-53	長方形		6.6	3.2	115.20	115.09	11	5	20.40		東南角 →435・437
437	1N-55	鍵形		7.0	3.7	115.21	115.12	9	4	18.60		
438	1O-55	区画の可否			-	-	-	-	-	-		
439	1O-57	不明		1.7	1.6	115.36	115.26	10	1	2.40		
440	1N-57	台形状	○	8.0	6.3	115.29	115.21	8	4	42.80	西北隅 441→	
441	1N-59	長方形		4.5	4.2	115.35	115.26	9	4	15.60		東北隅 →440
442	1O-57	三角形	○	2.0	1.8	115.33	115.33	0	4	2.00		
443	1S-53	不整形		7.0	6.0	115.37	115.26	11	3	35.60		
444	1R-55	三角形		8.5	3.6	115.40	115.11	29	5	18.20	北中 445→	
445	1R-55	長方形		10.1	8.1	115.49	115.33	16	5	83.20		南中 444→
446	1Q-58	矩形		7.0	4.2	115.52	115.46	6	3	27.40		
447	1Q-59	矩形		7.5	5.7	115.54	115.50	4	5	33.60		
448	1S-58	長方形		5.5	2.8	115.55	115.49	6	6	11.00		
449	1R-59	長方形	○	6.2	4.5	115.55	115.51	4	4	24.40		
450	1S-59	矩形か		4.5	0.8	115.58	115.57	1	1	2.40		
451	1T-59	台形状	○	3.1	1.8	115.57	115.50	7	5	5.10		
452	1T-59	矩形か		2.2	1.8	115.58	115.40	18	4	3.60		
453	1T-58	長方形か		5.5	3.8	115.66	115.58	8	2	13.60	北西角 455→	
454	1T-59	長方形か		6.2	3.1	115.67	115.58	9	2	15.80	北東角 455→	
455	2A-59	長方形か		4.5	1.6	115.68	115.67	2	4	5.80		南西角 →453・454
456	2B-59	長方形か		5.0	2.8	115.75	115.68	7	2	11.80		
457	2B-59	長方形か		9.2	0.8	115.81	115.71	6	4	9.60		
458	2B-59	長方形か		6.5	2.3	115.80	115.74	6	2	11.00		
459	2D-59	長方形か		2.0	0.8	115.81	115.81	0	1	1.20		
460	2D-53	三角形か		-	-	115.64	115.60	4	2	3.20		
461	2E-53	不明		-	-	115.59	115.56	3	6	-		
462	2D-54	不明		13.8	5.0	115.71	115.57	14	4	64.80		
463	2D-57	不明		8.1	4.0	115.78	115.70	8	2	31.00		
464	2E-53	長方形	○	6.3	5.0	115.66	115.61	5	3	24.80		
465	2E-54	長方形	○	3.5	1.8	115.70	115.63	7	3	6.40		
466	2E-55	方形	○	9.5	8.5	115.80	115.68	12	3	78.80		
467	2D-57	方形か		10.8	9.0	115.85	115.79	6	0	88.80		
468	2F-55	長方形	○	3.5	2.0	115.69	115.63	6	1	2.80		
469	2F-53	矩形か		10.5	7.5	115.72	115.57	15	6	56.80		
470	2G-55	長方形		13.0	9.0	115.94	115.71	23	1	97.80	北東角 473→	
471	2G-53	不明		18.2	5.0	115.96	115.76	20	1	71.20		
472	2H-54	長方形	○	8.0	4.0	115.79	115.68	11	4	26.20		
473	2H-55	長方形	○	8.3	6.2	115.93	115.71	22	3	49.70	北東角 477→	南東角 →470
474	2J-54	三角形	○	3.5	2.2	115.90	115.87	3	5	4.90		
475	2J-53	矩形か		12.0	5.2	116.01	115.91	10	1	53.80		
476	2J-54	台形状	○	8.2	4.2	115.95	115.76	19	3	23.10		
477	2I-55	五角形	○	10.0	9.5	116.02	115.69	33	5	76.40	北隅2ヶ所 481→	南東角 →473
478	2I-57	矩形		-	-	116.09	115.96	13	4	38.40		
479	2K-54	長方形	○	4.9	4.3	116.00	115.87	13	4	18.40		
480	2K-55	三角形	○	5.6	4.5	115.99	115.92	7	4	18.20	北東角 484→	
481	2K-56	台形状	○	8.3	7.2	116.03	115.86	17	6	48.20	南面隅 488→	南東2ヶ所 →477
482	2L-58	不明		4.8	3.2	116.11	115.98	13	3	10.80		
483	2L-54	矩形	○	5.8	5.0	116.12	115.96	16	3	26.20		

4. 平安時代末以降の遺構と遺物

No 3

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
484	2L-55	矩形	○	6.5	3.9	116.12	115.96	16	1	21.40		南東角 →480
485	2M-55	長方形	○	5.0	3.4	116.20	116.13	7	2	16.40	北東角 490→	
486	2M-56	矩形	○	7.0	3.3	116.18	116.02	16	6	20.40	北東角 490→	
487	2L-57	方形	○	6.4	6.2	116.04	115.93	11	8	35.60		
488	2L-58	矩形		6.0	2.1	116.09	116.02	7	4	9.00		
489	2L-58	不明		8.0	3.7	116.13	116.06	7	0	10.60		
490	2N-55	不明		5.8	5.7	116.29	116.22	7	0	30.40		西→486/南→485
491	2N-56	矩形	○	5.0	3.5	116.24	116.13	11	2	15.80		
492	2M-56	矩形		7.5	4.5	116.15	116.01	14	7	29.20		
493	2O-56	長方形		5.0	4.3	116.25	116.19	6	3	20.20		
494	2O-57	矩形か		6.0	4.5	116.30	116.23	7	4	22.60		
495	2N-58	不明		2.2	2.0	116.14	116.14	0	3	2.60		
496	2P-56	不明		-	-					-		
497	2S-52	矩形か		9.0	4.7	116.46	116.36	10	3	28.20	北西隅 505→	
498	2R-54	不明		4.3	3.3	116.42	116.40	2	1	9.60		
499	2R-53	台形状		9.5	9.2	116.47	116.37	10	2	76.40	北東隅 506→	
500	2R-55	長方形か		9.8	4.3	116.46	116.42	4	2	34.90		
501	2R-57	長方形		2.0	1.4	116.48	116.45	3	4	1.60		
502	2R-56	矩形か		11.4	7.5	116.47	116.43	4	3	60.80		
503	2R-57	矩形		8.0	5.1	116.49	116.45	4	2	30.50		
504	2S-57	矩形か		4.5	4.0	116.49	116.42	7	3	15.30		
505	2T-52	矩形		5.0	3.0	116.43	116.40	3	2	13.80		南西隅 →497
506	2T-53	長方形	○	9.4	6.6	116.48	116.41	7	3	48.80		南東隅 →499
507	2T-55	長方形	○	8.9	4.7	116.49	116.45	4	2	38.10		
508	2T-56	方形	○	7.6	7.3	116.50	116.45	5	3	51.00		
509	2T-57	?		1.7	0.6	116.51	116.50	1	2	1.30		
510	3A-52	?		7.6	7.0	116.48	116.42	6	1	42.60		
511	3B-53	長方形		9.8		116.52	116.43	9	2			
512	3B-55	長方形		12.8	6.0	116.55	116.50	5	0	72.00		

第14表 4区北 III (As-B) 層下水田

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
513	3N-54			8.0	4.7	117.14	117.01	13	3	35.60		
514	3N-55			6.8	3.6	117.19	117.03	16	4	23.00		
515	3P-54		○	4.2	2.2	117.19	117.12	7	2	8.40		
516	3P-54		○	4.0	3.7	117.19	117.14	5	1	14.40		
517	3S-54			4.2	4.0	117.43	117.37	6	1	15.20		
518	3S-55			4.4	4.0	117.46	117.37	9	1	16.80		
519	3T-54			5.6	4.3	117.47	117.41	6	3	22.80		
520	3T-55			5.7	2.6	117.47	117.42	5	1	10.40		
521	4B-53			11.0	9.0	117.52	117.46	6	2	86.40		

第15表 5区 III (As-B) 層下水田

No 1

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
522	4E-48			15.0	5.3	117.39	117.28	11		43.00		
523	4G-47			7.7	6.6	117.54	117.42	12	5	47.20		
524	4G-49			13.5	4.2	117.51	117.42	9	2	47.40		
525	4H-48			14.4	5.2	117.58	117.43	15		52.50		
526	4I-47			6.5	3.9	117.65	117.57	8	4	24.20		
527	4I-48			6.9	2.2	117.67	117.58	9	2	8.90		
528	4J-48			4.1	4.0	117.69	117.66	3	1	15.30		
529	4J-48			5.5	3.4	117.74	117.65	9	2	15.20		
530	4P-46			8.9	2.7	118.03	117.94	9	4	19.40		
531	4P-48			9.5	3.2	118.06	117.90	16	0	29.20		
532	4P-47			4.7	4.0	118.08	117.95	13	1	19.70		
533	4P-48		○	4.6	2.1	118.07	117.57	5	2	8.80		

IV 遺構と遺物

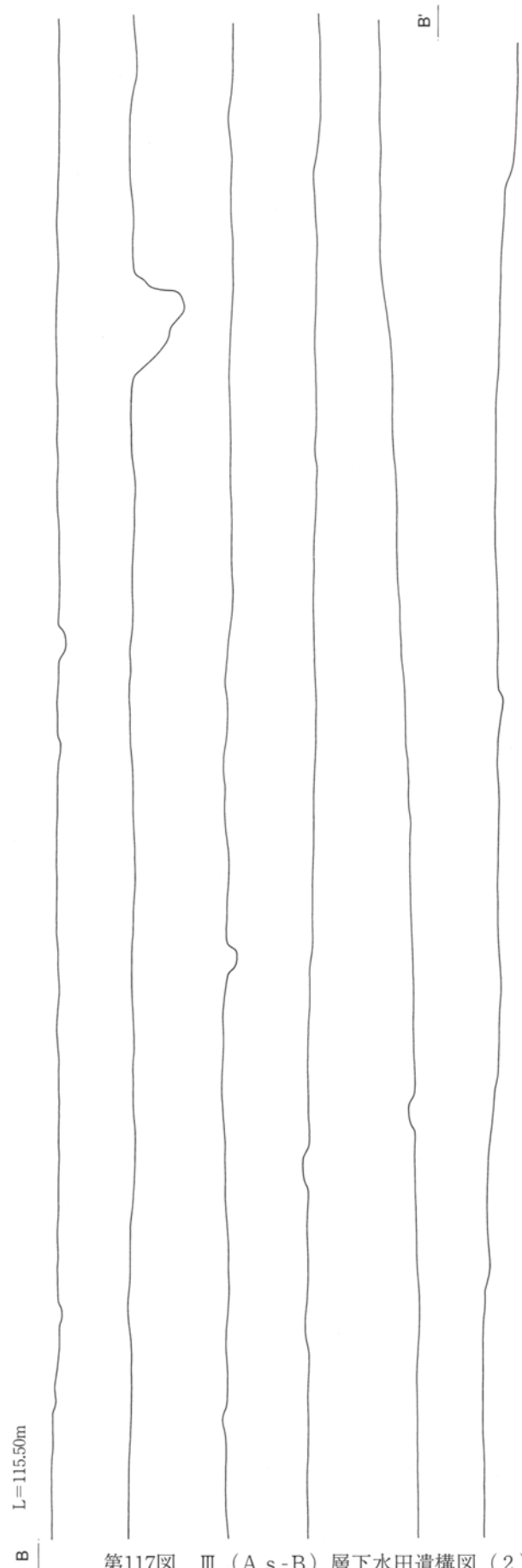
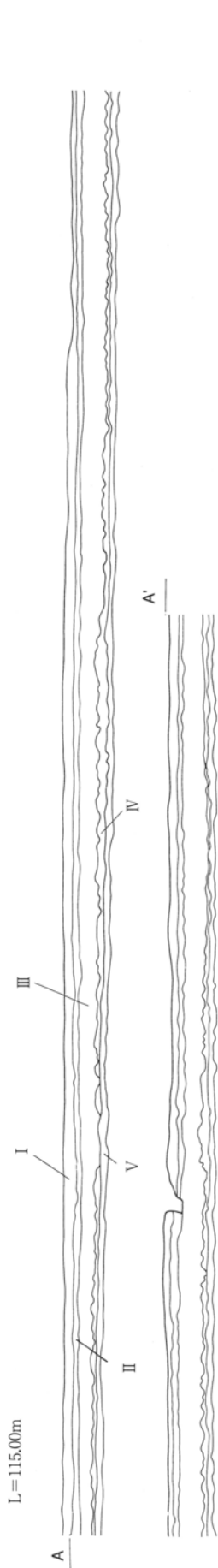
No 2

No	位置	形状	範囲	長軸	短軸	高位	低位	比高差	アゼ高	面積	取水水口	排水水口
534	4P-48			9.6	4.2	118.09	117.99	10	3	39.40		
535	4Q-46			7.7	5.0	118.15	118.01	14	2	32.10		
536	4Q-46		○	7.4	5.5	118.14	118.02	12	5	31.20		
537	4Q-48		○	9.0	3.9	118.17	118.05	12	4	26.60		
538	4S-46			5.0	4.9	118.25	118.15	10	2	21.20		
539	4R-47		○	6.0	5.0	118.24	118.17	7	3	27.60	北西角 543→	
540	4R-48		○	7.8	4.5	118.24	118.18	6	4	34.50	北東角 543→	
541	4R-50			8.4	4.6	118.28	118.08	20	2	37.00		
542	4T-46			5.9	5.5	118.30	118.24	6	2	27.30		
543	4S-47		○	6.5	5.4	118.32	118.20	12	3	31.00		南西角→539・540
544	4S-48		○	7.0	7.0	118.32	118.22	10	3	49.00		
545	4S-50			8.7	7.1	118.33	118.22	11	3	55.20		
546	5A-46			2.4	1.9	118.34	118.31	3	1	4.00		
547	5A-47			2.5	1.6	118.35	118.33	2	1	3.80		
548	5A-48			6.4	2.4	118.37	118.30	7	3	16.40		
549	5A-50			5.7	2.0	118.36	118.32	4	2	11.80		
550	5C-45			9.0	2.0	118.49	118.46	3	6	13.40	北 551・552→	
551	5C-45		○	5.1	3.9	118.54	118.49	5	5	16.10		南中 →550
552	5C-46		○	3.8	1.3	118.54	118.49	5	6	4.80	北中 560→	南中 →550
553	5C-46			3.5	1.3	118.46	118.40	6	3	2.50	西 554→	
554	5C-47			4.7	3.2	118.51	118.47	4	3	14.40		東 →553
555	5D-47		○	5.0	1.8	118.57	118.52	5	3	8.10	北中 561→	
556	5C-48			5.4	5.0	118.56	118.45	11	4	27.60		
557	5C-49			3.8	2.4	118.54	118.52	2	5	6.40		
558	5C-50			4.5	0.3	118.61	118.60	1	3	0.80		
559	5D-45		○	6.4	5.7	118.66	118.57	9	3	33.80		
560	5D-46		○	7.0	6.4	118.64	118.52	12	4	33.30		南中 →552
561	5D-47		○	7.0	4.7	118.63	118.52	11	5	29.00		南東隅 →555
562	5C-50		○	8.2	5.6	118.67	118.53	14	4	36.20	北西隅 567→	
563	5D-50			4.8	0.9	118.62	118.61	1	2	3.20		
564	5E-44		○	9.5	9.1	118.74	118.65	9	4	73.80		
565	5E-46		○	7.4	5.7	118.73	118.63	10	4	39.40	北東寄 572→	
566	5E-47		○	6.8	6.4	118.72	118.61	11	3	42.40	北東隅 573→	
567	5E-49		○	6.9	5.6	118.69	118.61	8	5	32.80		南西隅 →562
568	5E-50			4.0	0.5	118.69	118.62	7	1	1.80		
569	5G-44			5.0	2.3	118.84	118.75	9	2	8.50		
570	5G-44		○	4.5	4.5	118.82	118.75	7	1	17.80		
571	5G-45		○	4.6	4.0	118.81	118.76	5	3	17.00		
572	5G-46		○	6.0	5.4	118.80	118.73	7	4	29.70		南東寄 →565
573	5F-47		○	6.5	4.2	118.79	118.71	8	4	33.20	北中 578→	南東隅 →566
574	5F-48		○	6.8	4.5	118.79	118.72	7	3	30.00	東北角 573→	
575	5F-49			7.5	1.5	118.75	118.72	3	1	10.10		
576	5H-45			9.5	6.3	118.97	118.82	15	1	55.70	北東角 溝→	
577	5H-46		○	7.8	6.3	118.93	118.81	12	2	46.60	北東隅 579→	
578	5H-47		○	8.8	7.2	118.92	118.82	10	4	58.50		南中 →573
579	5J-46			4.5	1.0	118.97	118.91	6	1	3.60		南西隅 →577
580	5J-46		○	4.9	4.8	118.99	118.93	6	2	19.40	北東寄 584→	
581	5I-48		○	6.8	5.2	119.00	118.95	5	4	34.90	北585→/西582→	
582	5I-49			4.3	0.8	119.00	118.96	4	2	2.40		東北隅 →581
583	5K-46			4.4	1.2	119.14	118.99	15	1	3.40		
584	5K-47		○	4.9	4.2	119.09	119.01	8	3	18.50		南東寄 →580
585	5K-48		○	5.8	4.5	119.09	119.01	8	2	23.70		南東寄 →581
586	5J-49			4.7	0.3	119.13	119.05	8	1	1.60		
587	5L-47			4.5	4.3	119.18	119.11	7	2	13.60		
588	5L-48			6.8	4.4	119.19	119.11	8	3	22.20	北中 589→	
589	5L-48			6.7	0.5	119.23	119.17	5	2	2.60		南中 →588

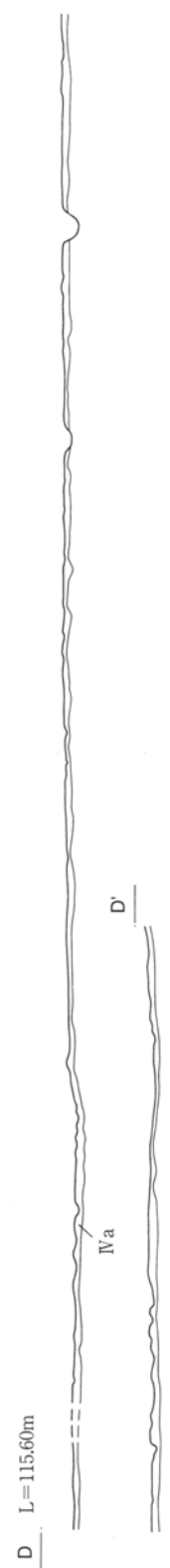
範囲は○は区画全域、ほぼ全域が調査区内で検出したもの、区画全域が調査できないものは調査区内の規模（斜文字で表示）。
単位は長軸・短軸がm、高位・低位が標高、比高差・アゼ高がcm、面積が㎡。

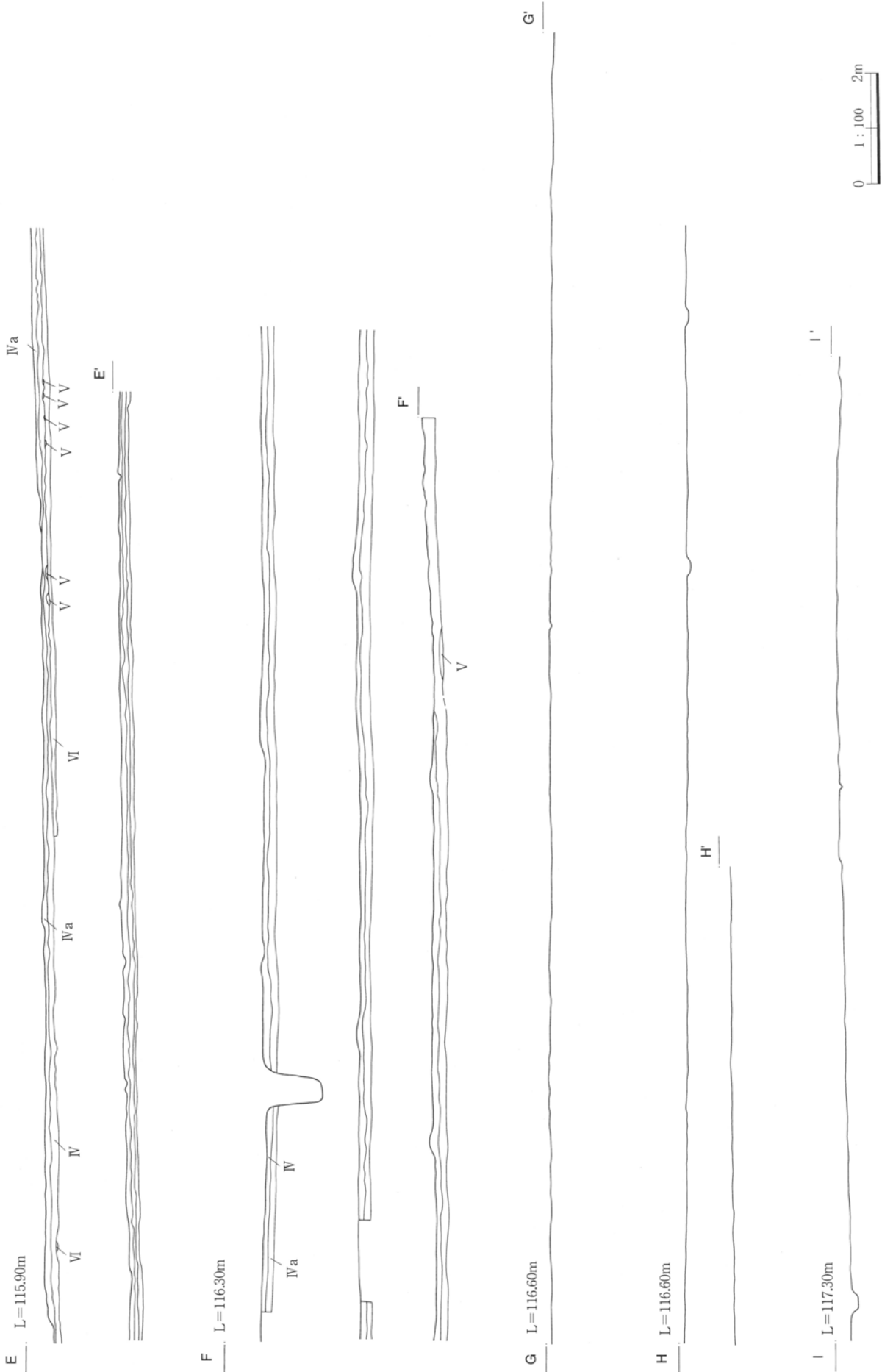


第116図 III (A s-B) 層下水田遺構図 (1)

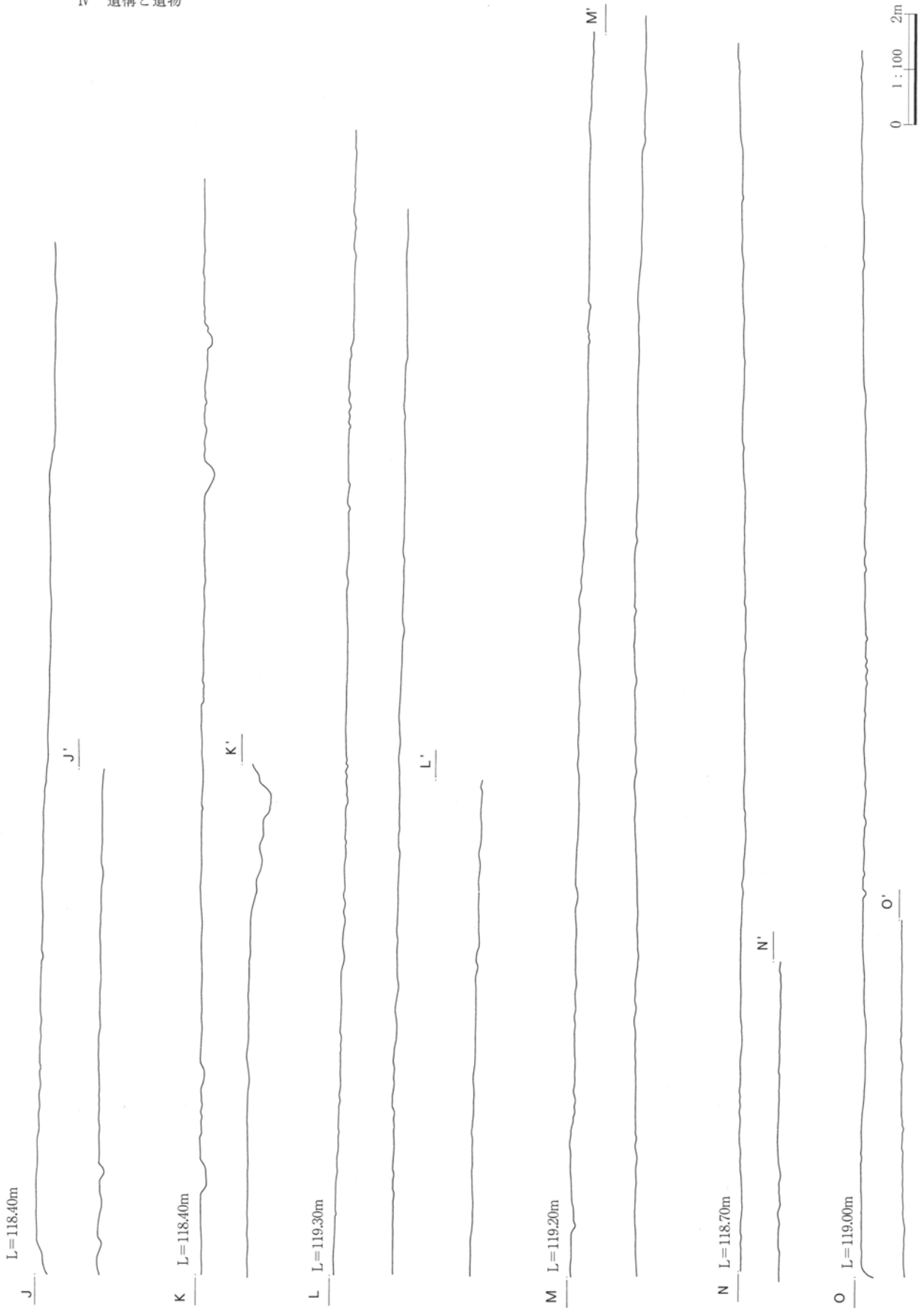


第117図 III (A s - B) 層下水田遺構図 (2)





第118図 III (A s-B) 層下水田遺構図 (3)



第119図 III (A s-B) 層下水田遺構図 (4)

(9) 畠

4区1号畠

本畠は4区調査区中程、30～3S-55・56グリッドに位置する。他遺構との重複関係はⅢ (As-B) 層下水田と重複する。新旧関係は本畠の方が新しい。残存状態はウネは後の耕作を受け攪拌されているがサクは比較的良好な状態である。

サクは地形の傾斜に沿って南北方向に掘られている。サクの間隔は20～50cmで全て同一時期の耕作ではなく何回かの耕作によるサクである。

畠区画範囲は南北20m、東西7m以上を測る。

本畠は2号畠と並列する位置関係にあり同一の畠とも考えられるが間に位置するⅢ (As-B) 層下水田の被覆土であるⅢ層は薄い堆積ではあるが、大きな攪拌を受けることなく堆積していたことから水田区画が存在していた箇所は低地化しており、畠地としては適さなかったか区画の境として利用されていたと推定される。

遺物は出土していない。

4区2号畠

本畠は4区調査区中程、30～3S-52～55グリッドに位置する。他遺構との重複関係はⅢ (As-B) 層下水田、8号～10号溝と重複する。新旧関係は水田より新しく溝より古い。残存状態はウネは後の耕作を受け攪拌されているがサクは比較的良好な状態である。

サクは地形の傾斜に沿って南北方向に掘られている。サクの間隔は20～70cmで全て同一時期の耕作ではなく何回かの耕作によるサクである。

畠区画範囲は南北23m、東西12m以上を測る。

遺物は土師器や須恵器の破片が出土しているが本畠に共伴する遺物は見られない。



第120図 4区1号畠遺構図



第121图 4区2号畠遺構図



第122図 6区1号畠遺構図

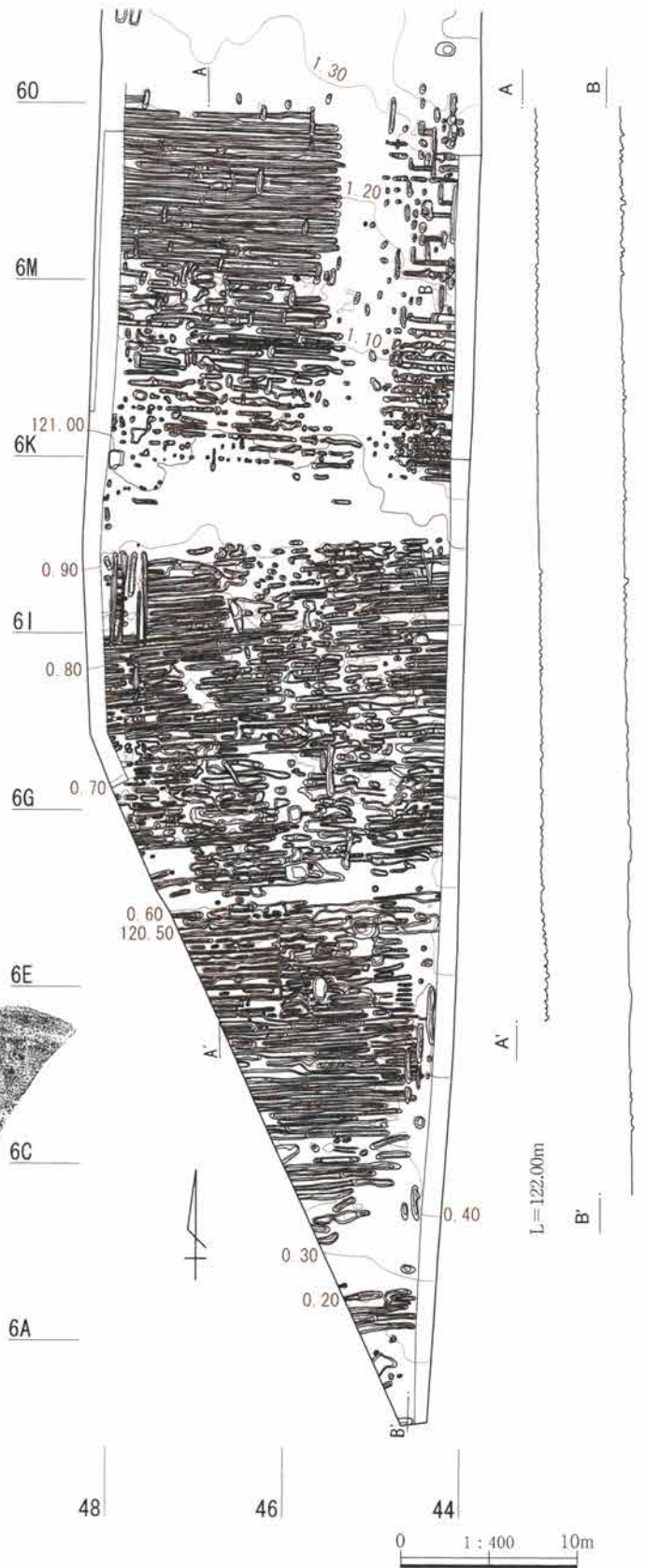
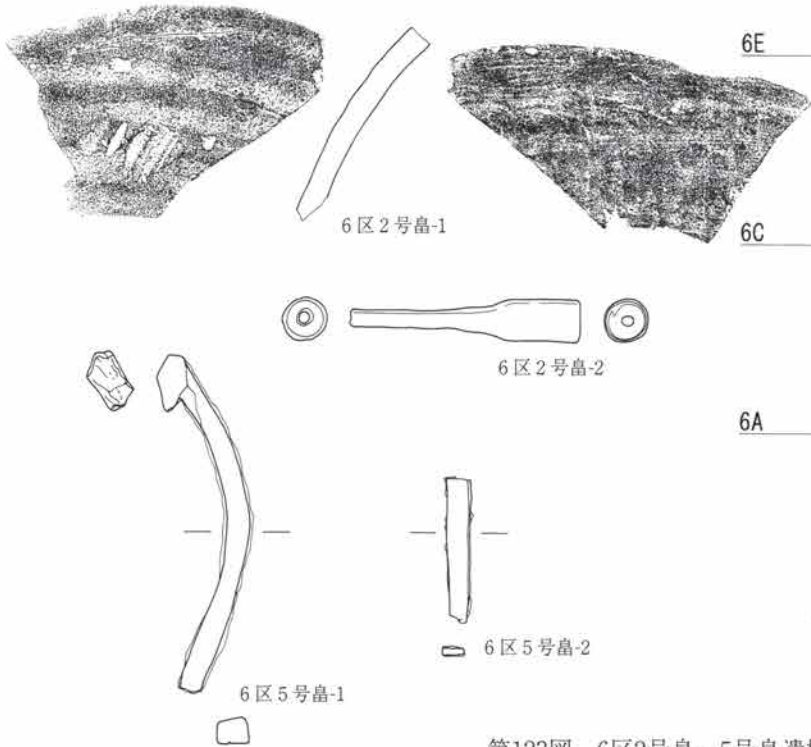
IV 遺構と遺物

6区1号畠～5号畠

畠は水田を検出した5区の低地から6区微高地にかけての5Lから6Oの間に位置する。1号～5号畠とも他遺構との重複関係は確認されなかった。残存状態はサクだけの検出である。その中では1号畠が後世の攪拌が激しいためかサクも部分的に残存する程度であるが2～5号畠はサクも比較的深く良好な状態である。これらの畠はサクや埋没土の状態から同一時期の耕作によると見られる。

畠のサクは東西方向に掘られている。サクは数年、数回にわたる耕作が行われた状態で検出されているため間隔については不明である。畠の区画は東西は不明であるが南北方向は約10m程である。区画と区画の間は2号畠と3号畠が1m前後、3号畠と4号畠、5号畠が5m、4号畠と5号畠が3mほどである。こうした状況は現在の土地区画と方向的には一致するところが見られる。

遺物は土師器、須恵器など古代の土器が多く出土しているがその中に近世陶磁器や銅製キセルなどこの畠の時期に近いと思われる物も出土している。



第123図 6区2号畠～5号畠遺構図・遺物図

6区2号畠 PL57

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	軟質陶器 甕	埋没土中 口縁部片		粗砂粒/還元焰/ 黄灰色	ロクロ整形、回転方向不明。口縁部下に叩き痕。	
2	銅製品 キセル	埋没土中 完形	長6.1幅0.4~1.1 厚0.1重4.48			

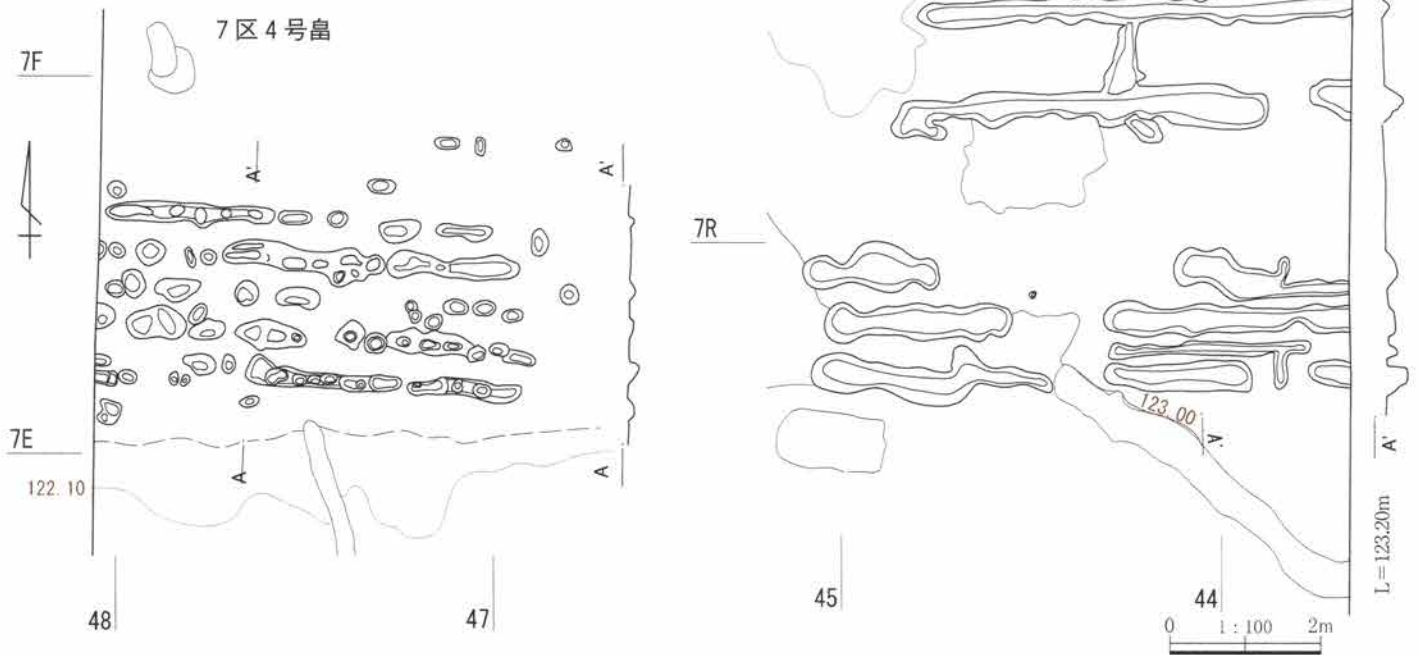
6区5号畠 PL57

遺物 No	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	鉄器 釘	II層 先端部欠損	長9.8幅0.8 厚0.6重16.40		頭部は長方形、断面は台形を呈す。	
2	鉄器 釘	II層 中程片	長(3.9)幅0.7 厚0.2重1.76		両端部を欠損。断面は板状の長方形を呈す。	

7区1号畠~4号畠

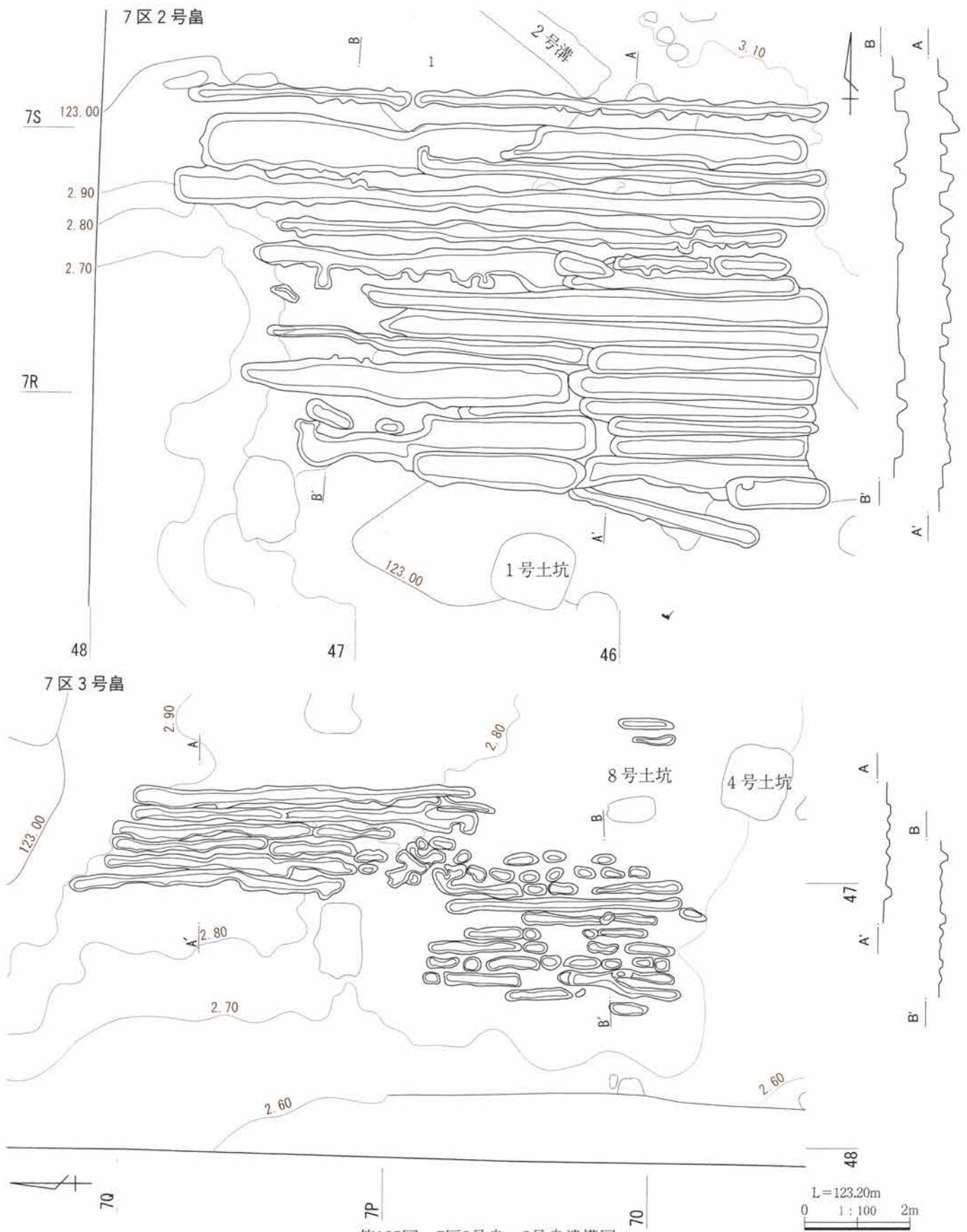
畠は北側の7Mから7Sと南側の7F-47グリッド付近で検出した。検出した畠は皆小規模な範囲であることから区画全体ではなく一部分であると見られる。残存状態は1号~3号畠は比較的良好であるが4号畠はサクの残りも浅くとぎれとぎれの状態である。

サクは3号畠が南北方向であるが他は東西方向に掘られている。1号畠と2号畠はサクの形態が近似していることから同時期の耕作の可能性が見られる。この畠が同時期のものであれば1号畠と2号畠の間隔は区画のためのものと見られる。そしてこの間隔は6区4号畠と5号畠の間の区画と直線状に位置する。



第124図 7区1号畠・4号畠遺構図

IV 遺構と遺物



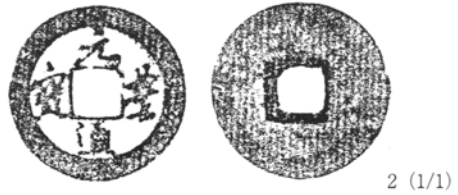
第125図 7区2号畠・3号畠遺構図

(10) 遺構外出土遺物

平安時代末以降の遺物は遺構確認面であるⅣ層上面より上位にあたるⅡ層を中心に出土している。平安時代末以降は主に中世、近世の遺物であるが検出した遺構が水田、畠などの生産遺構であるため全体の遺物量も少ない。遺物が出土した調査区は2区から7区調査区に及ぶが図化可能なものは全体が少ないこともあり1点から3点である。

出土した遺物は軟質陶器鉢、焙烙、鉄器釘、金属品銭貨である。

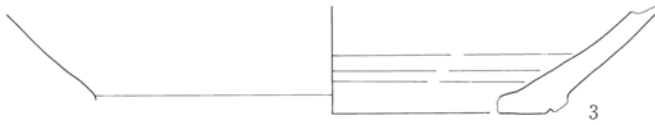
3区遺構外出土遺物



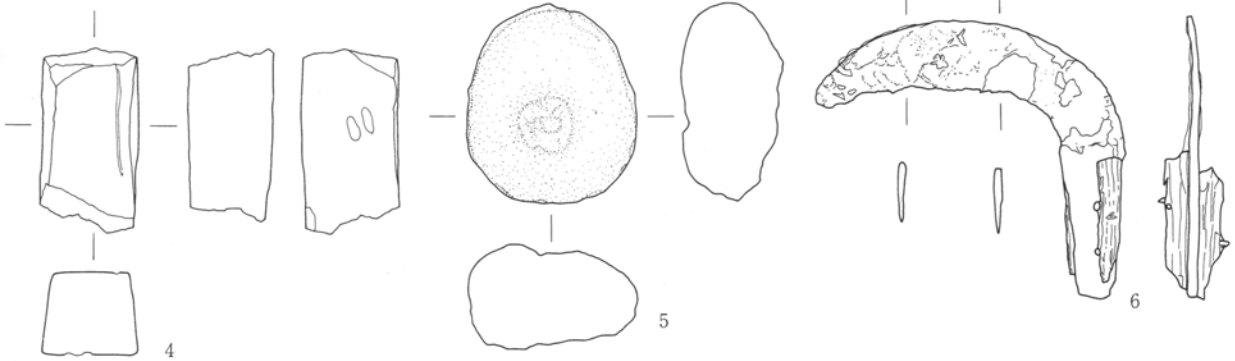
2区遺構外出土遺物



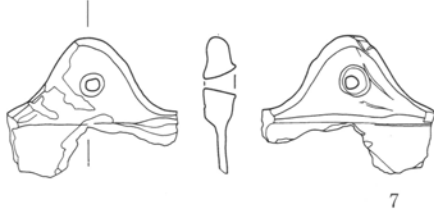
4区遺構外出土遺物



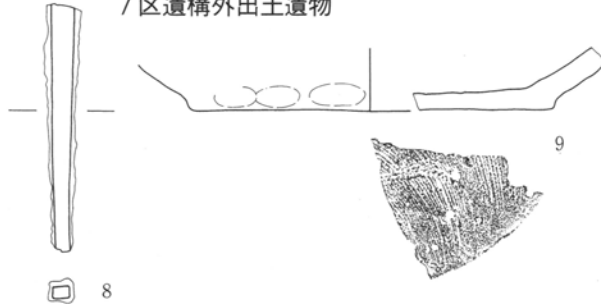
5区遺構外出土遺物



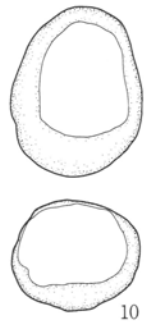
6区遺構外出土遺物



7区遺構外出土遺物



周辺表面採集



第126図 平安時代末以降遺構外出土遺物遺物図

IV 遺構と遺物

2区遺構外出土遺物 P L 57

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
1	軟質陶器 焙烙	I層 口縁部片	口径34.0底径32.0	微砂粒/酸化焰/ にぶい褐色	口縁部は横ナデ。内耳部分は貼付。	

3区遺構外出土遺物 P L 57

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
2	銭貨 渡来銭	埋没土中 完形	径2.4孔0.6 厚0.1重2.9		銭種「元豊通宝」、北宋、初鑄1078年。	3区1号溝出土

4区遺構外出土遺物

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
3	軟質陶器 鉢	II層 底部片	底径17.6	細砂粒/還元焰/ にぶい黄橙色	ロクロ整形、回転方向不明。高台が貼付されていたが剥落か。	

5区遺構外出土遺物 P L 57

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
4	石製品 砥石	4Q-50 中央部片	長(7.3)幅4.8 厚3.4重110	粗粒輝石安山岩	上部・下部を欠く。上下面、両側面とも使用されている。	
5	石製品 凹石	ほぼ完形	長7.9幅6.8 厚4.1重85.0	二ツ岳軽石	上面中央に浅い窪み。下面は座りが良いように打ち欠かされている。	
6	鉄器 鎌	5A-47 完形	長7.5幅8.0 厚0.3重27.13		柄木質部の一部と柄との装着のための釘が残存。	

6区遺構外出土遺物 P L 57

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
7	軟質陶器 鍋	6S-44 釣手		細砂粒/酸化焰/ 褐灰色	内外面ともナデ整形。	
8	鉄器 鍔	7A-41IV層 茎片	長(6.6)幅0.4~0.7 厚0.3重5.39		断面長径を呈す。	

7区遺構外出土遺物

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調	成整形の特徴	摘要
9	軟質陶器 鉢	底部片	底径14.4	細砂粒/還元焰/ 灰色	ロクロ成形、回転方向不明。底部は静止糸切り。胴部最下位に指頭痕が残る。	

周辺表面採集

遺物 No	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成 /色調 石材	成整形の特徴	摘要
10	石製品 用途不明	完形	長6.7幅5.2 厚4.4重80.9	二ツ岳軽石	上面に擦り痕が見られる。	

V まとめ

菅谷石塚遺跡は1996年12月～1997年3月と2000年1月～2001年3月までの1年7ヶ月の期間に面積22,860㎡発掘調査を行った。

遺跡は周辺の小八木志志貝戸遺跡や正観寺西原遺跡と同様にほぼ全域で確認できる遺構確認面として上面よりⅢ (As-B) 層下面の第1面 (本報告書「IV章4項 平安時代末以降の遺構と遺物」で掲載)、V (Hr-FA) 層下面の第2面 (本報告書「IV章3項 古墳時代後期～平安時代後期の遺構と遺物」で掲載)、Ⅶ層下面の第3面 (本報告書「IV章2項 縄文時代～古墳時代中期の遺構と遺物」で掲載) と各層位間に存在する洪水層やテフラ下面で確認した遺構面の多面にわたる発掘調査であった。各面での検出した遺構と遺物の数量は下面になるにしたがって減少していったが各発掘調査面・各時代で成果が見られた。その成果や問題点を簡単にまとめると下記のとおりである。

縄文時代 縄文時代は遺構を検出することはできなかったが若干の遺物が出土した。この地域では縄文時代の遺跡としては南に位置する小八木志志貝戸遺跡2区で中期から後期の住居や敷石住居、円形柱列、配石などが見つかっているが、標高が高位に当たる北側の近接地で見ることはいできない。本遺跡で出土した土器片は洪水などで運ばれてきた可能性が高いことから北に隣接する地域で縄文時代の遺跡が存在する可能性が指摘される。

弥生時代 弥生時代の遺構も縄文時代と同様に数少ないが2区の南西部で菅谷泥流丘通称「桜山」の麓で見つかった2区12号溝は断面V字状を呈するものであった。この溝の延長については南の1区や「桜山」東側で同様の溝が確認されていないことから南西に大きく振れる可能性がある。この地域は南の小八木志志貝戸遺跡や正観寺遺跡群で住居群や墓坑群が見つかっており本遺跡の2区もこうした集落の影響を受けていると見られる。

古墳時代 古墳時代ではⅥ (As-C混入黒色土) 層下面とⅤ (Hr-FA) 層の上下面の3面で水田を検出した。これらの水田は2区で検出され3区以北では見つかっていない。また、以前に「小八木志志貝戸遺跡群」で報告した1区でもⅥ層下面、Ⅴ層下面で水田を検出している。1区で検出した水田はⅤ層下面のものは形態や規模は同様であったがⅥ層下面で検出した水田では大きく異なる点が見られた。その相違点は地形に沿った区画の設定は同一であるが区画面積が1区では08～10㎡で2から4㎡の区画が大部分であるのに対して2区では10㎡～76㎡で平均20㎡と比較的大規模な面積で区画している。この違いの要因は当初水田域の地形傾斜にあると考えられたが2区が17/1000に対して1区は9/1000と1区の方が緩やかである。こうした状況のため現状では取水地点の違いなどによる水温の違いなど想定されるが解明までは至らない。

奈良平安時代 奈良平安時代の成果としてはこの地域に大規模な洪水災害が起きていたことが見つかった点である。これによってこの地域は相馬ヶ原扇状地の中で解析谷の間隔が広く平坦面が広がっている要因が解明された。また、洪水層下面で検出した小範囲を開発した水田はこの時代での農耕を考える上では重要な資料となる。

平安時代末・中世以降 本遺跡の中ではもっとも豊富な内容が見られた時代である。特にⅢ (As-B) 層下面で検出した水田は多少地形に左右された区画に設定されているものの南北方向のアゼのなかには長い間隔を直線的に条里制の名残りを窺わせる箇所が見られこの地域での条里制を再検討させる材料になり得ると考える。

以上期間と紙面の都合で十分な検討を行うことができなかったが今回の発掘調査成果が地域史解明の一助になれば幸いである。

VI 自然科学分析・鑑定

菅谷石塚遺跡の発掘調査を実施していく中で土層とテフラ分析、水田域でのプラント・オパール分析、花粉分析を行った。また、出土した人骨、獣骨の鑑定を行った。こうした分析・鑑定の結果を掲載した。

土層とテフラについて肉眼的だけでは確証を得ることができない点や南に位置する小八木志志貝戸遺跡を発掘調査した時点では確認されなかった土層が見られた。こうした点を解決するため自然科学分析を行った。なお、土層・テフラについては遺構の埋没土観察などで発掘調査担当者が共通認識をもつ必要があるため調査開始時点で1回行ったが調査後半段階で新たな洪水層などが確認されたため再度行った。

プラント・オパールについても当初水田遺構がⅢ (As-B) 層下1面だけしか検出されなかったが、調査後半に行った2区調査区ではⅢ (As-B) 層下、洪水層下、V (Hr-FA) 層上、V (Hr-FA) 層下、VI (As-C混入黒色土) 層下の5面から水田遺構が検出されたため2回の分析をおこなった。

発掘調査の結果、菅谷石塚遺跡では大部分が水田域であったことから谷地状の地形に立地しておりその土壌には花粉が残存している可能性が高いことから花粉分析についても行った。

今回行った土層・テフラ、プラント・オパール、花粉分析は株式会社古環境研究所に依頼した。

人骨・獣骨は6区調査区の墓坑、7区の井戸などから出土しているが残存状態はあまり良好でない。しかし、6区墓坑は調査区東側に存在した菅谷城とほぼ同時期のものであることから埋葬された人が菅谷城にかかわる人物と想定される。今回の鑑定の結果は今後、この地域の中世史解明の一助になると考えられる。なお、鑑定は当事業団榑崎修一郎氏にお願いした。

1. 土層とテフラ

1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な土層が検出された菅谷石塚遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ分析（テフラ検出分析・火山ガラス比分析）や屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、2区0G-54グリッド、2区0L-35グリッド、2区0H-53グリッド、2区0P-55グリッド、2区0H-42グリッド、2区1F-55グリッド、4区東壁トレンチ、4区西壁、5区4Jトレンチ、5区5Jトレンチ、6区6R-48グリッドの11地点である。

2. 土層層序

(1) 2区0G-54グリッド

2区0G-54グリッドでは、下位より岩屑なだれ堆積物（角礫層、層厚5cm以上）の上位に、下位より黄

褐色土（層厚9cm）、黄色軽石層（層厚24cm、軽石の最大径17mm、石質岩片の最大径3mm）、黄灰色土（層厚30cm）、灰色土（層厚14cm）、黄白色軽石を多く含む若干色調が暗い灰色土（層厚25cm、軽石の最大径7mm）、灰色土（層厚16cm、土器片を含む）、若干黄色がかかった褐色土（層厚11cm）、褐色土（層厚4cm）、暗褐色土（層厚6cm）、黒色土（層厚20cm）、黒褐色土（層厚10cm）、暗褐色土（層厚10cm）、黄褐色土粒子を含む灰褐色土（層厚18cm）、暗褐色土（層厚13cm）が認められる（第127図）。

(2) 2区0L-35グリッド

2区0L-35グリッドでは、下位より成層したテフラ層（層厚30cm以上）、砂混じり暗灰色土（層厚18cm）、灰白色軽石を多く含む暗灰色土（層厚19cm、軽石の最大径9mm）、灰白色軽石混じり暗灰色土（層厚19cm、軽石の最大径9mm）、灰色軽石混じりでかすかに成層した灰色泥流堆積物（層厚31cm、軽石の最大径22mm）が認められる（第128図）。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より灰色軽石層（層厚10cm以上、軽石の最大径3mm）、灰白色細粒火山灰層（層厚4cm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚16cm）からなる。このテフラ層は、その層相から約1.3~1.4万年前*1に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992）に同定される。

(3) 2区0H-53グリッド

2区0H-53グリッドでは、岩屑なだれ堆積物（亜角礫層、層厚5cm以上）の上位に、下位より黄色がかかった灰色土（層厚11cm）、黄褐色土（層厚12cm）、黄色軽石層（層厚31cm、軽石の最大径18mm、石質岩片の最大径3mm）、褐色土（層厚3cm以上）が認められる（第128図）。

(4) 2区1F-55グリッド

2区1F-55グリッドでは、下位より黒色土（層厚8cm）、灰色軽石を多く含む黒褐色土（層厚8cm、軽石の最大径12mm）、黄色細粒火山灰層（層厚2cm）、灰色軽石を多く含む黒褐色土（層厚2cm、軽石の最大径8mm）、褐色土（層厚11cm）、暗褐色土（層厚8cm）、成層したテフラ層（層厚9.5cm）、褐色砂質土（層厚12cm）、盛土（層厚51cm）が認められる（第128図）。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より灰色細粒火山灰層（層厚0.3cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚2cm）、青灰色細粒火山灰層（層厚0.2cm）、黄灰色軽石層（層厚3cm、軽石の最大径4mm、石質岩片の最大径2mm）、橙褐色粗粒火山灰層（層厚2cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）からなる。このテフラ層は、その層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979）に同定される。またその下位の灰色軽石については、特徴から4世紀中葉*2に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979）に由来すると考えられる。

(5) 2区0P-55グリッド

2区0P-55グリッドでは、下位より色調がとくに暗い暗灰色粘質土（層厚15cm）、暗灰色粘質土（層厚11cm）、灰色軽石に富む灰色土（層厚5cm、軽石の最大径6mm）、灰色軽石を含む黒灰色土（層厚4cm、軽石の最大径5mm）、黄色細粒火山灰層（層厚2cm）、灰色粘質土（層厚12cm）、暗灰色粘質土（層厚9cm）、成層したテフラ層（層厚6.6cm）、暗褐色砂質土（層厚4cm）、盛土（層厚37cm）が認められる（第5図）。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より灰色細粒火山灰層（層厚0.3cm）、黄褐色軽石層（層厚0.8cm、軽石の最大径3mm）、灰色細粒火山灰層（層厚0.3cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚1cm）、青灰色細粒火山灰層（層厚0.2cm）、黄灰色軽石層（層厚4cm、軽石の最大径3mm、石質岩片の最大径2mm）からなる。このテフラ層は、その層相からAs-Bに同定される。この地点では、黄色細粒火山灰層とAs-Bの直下から各々水田遺

構が検出されている。(第128図)

水田遺構の下位の土層に含まれる灰色軽石については、その岩相からAs-Cに由来すると考えられる。また、その上位の黄色細粒火山灰層は、層相から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に同定される可能性が高い。したがって、この地点で検出された水田遺構は、Hr-FAの直下に層位がある可能性が非常に高い。

(6) 2区0H-42グリッド

2区0H-42グリッドでは、下位より黒泥層(層厚7cm)、灰色砂層(層厚4cm)、黒灰色粘質土(層厚5cm)、灰色軽石に富む灰色土(層厚8cm, 軽石の最大径7mm)、黒泥層(層厚4cm)、黄灰色砂層(層厚1cm)、黒泥層(層厚0.2cm)、成層したテフラ層(層厚4cm)、灰色軽石を多く含む暗灰色粘質土(層厚8cm, 軽石の最大径5mm)、灰色軽石混じり暗灰色土(層厚5cm)、暗灰色粘質土(層厚11cm)、黄白色シルト層(層厚0.4cm)、灰色粘質土(層厚1cm)、灰色砂層(層厚5cm)、灰色砂質シルト層(層厚4cm)、円磨された白色軽石混じり灰色砂層(層厚12cm, 軽石の最大径28mm)、下位より若干細粒の灰色砂層(層厚9cm)、灰色土(層厚6cm)、黄色砂質シルト層(層厚3cm)、灰色粘質土(層厚6cm)、暗灰色粘質土(層厚5cm)、成層したテフラ層(層厚6.4cm)、暗褐色砂質土(層厚5cm)、灰色砂質土(層厚29cm)が認められる(第127図)。

これらのうち、下位の成層したテフラ層は、下位より黄色細粒火山灰層(層厚2cm)、淘汰の良い黄灰色粗粒火山灰層(層厚1cm)、黄白色細粒火山灰層(層厚1cm)からなる。このテフラ層は、耕作痕により切られている。このテフラ層は、層相からHr-FAに同定される可能性が高い。なお、その下位の土層に含まれる灰色軽石については、その岩相からAs-Cに由来すると考えられる。一方、上位のテフラ層は、下位より灰色細粒火山灰層(層厚0.2cm)、黄色粗粒火山灰層(層厚1cm)、青灰色細粒火山灰層(層厚0.2cm)、黄灰色軽石層(層厚5cm, 軽石の最大径3mm, 石質岩片の最大径2mm)からなる。このテフラ層は、その層相からAs-Bに同定される。

発掘調査では、砂-シルト互層の直下の土層から水田遺構が、また砂-シルト互層中から8世紀と推定される瓦が検出されている。このことから水田遺構の層位は、Hr-FAより上位にあり、As-Bより下位にある可能性が非常に高い。

(7) 4区東壁トレンチ

4区東壁トレンチでは、下位より灰色砂層(層厚3cm以上)、暗褐色泥層(層厚4cm)、灰色シルト層(層厚5cm)、暗褐色泥層(層厚7cm)、灰色シルト層(層厚6cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚21cm)、黄白色凝灰質砂層(層厚17cm)、黄灰色砂質土(層厚13cm)、砂混じり灰色粘質土(層厚16cm)、灰白色軽石を多く含む灰色粘質土(層厚3cm, 軽石の最大径4mm)、灰色細粒軽石混じり黒泥層(層厚13cm, 軽石の最大径2mm)、黄白色シルト層(層厚3cm)、円磨された黄白色軽石混じり黄灰色シルト質砂層(層厚14cm, 軽石の最大径4mm)、灰色砂礫層(層厚4cm, 礫の最大径13mm)、層理が発達した灰色砂層(層厚19cm)、円磨された黄白色軽石を含む灰色砂層(層厚11cm, 軽石の最大径3mm)、層理が発達した灰色砂層(層厚13cm)、褐色砂層(層厚29cm)、若干色調が暗い灰色砂質土(層厚16cm)、黄灰色土(層厚13cm)、灰色粗粒火山灰混じり暗灰色土(層厚22cm)、灰褐色砂質土(層厚68cm)が認められる(第128図)。

(8) 4区西壁

4区西壁では、下位より灰色粗粒火山灰を含む暗褐色土(層厚16cm以上)、灰色粗粒火山灰を含む暗灰褐色土(層厚24cm)、灰色軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚4cm, 軽石の最大径11mm)、灰色軽石(最大径6mm)および白色軽石(最大径2mm)を含む暗灰褐色土(層厚4cm)、暗灰褐色土(層厚5cm)、褐色

砂質土（層厚3cm）、灰褐色土（層厚3cm）、灰褐色土（層厚11cm）が認められる（第129図）。

(9) 5区4Jトレンチ

5区4Jトレンチでは、下位より灰色粗粒火山灰を含む暗褐色土（層厚23cm以上）、灰色粗粒火山灰を含む暗灰褐色土（層厚13cm）、灰色軽石に富む灰色土（層厚5cm、軽石の最大径11mm）、灰色土（層厚4cm）、暗灰褐色土（層厚4cm）、成層したテフラ層（層厚7.2cm）、灰褐色砂質土（層厚5cm）、若干色調が暗い灰褐色土（層厚9cm）、褐色砂質土（層厚12cm）、灰褐色表土（層厚17cm）が認められる（第129図）。

(10) 5区5Jトレンチ

5区5Jトレンチでは、下位より灰色軽石に富む黒褐色土（層厚5cm以上、軽石の最大径9mm）、成層したテフラ層（最大径2cm）、白色細粒軽石混じり黄灰色砂質火山灰層（最大径4cm）、灰褐色土（層厚4cm）、灰褐色土（層厚12cm）、若干色調が暗い灰褐色土（層厚12cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚2cm）、砂混じり灰褐色土（層厚48cm）が認められる（第129図）。

(11) 6区6R-48グリッド

6区6R-48グリッドでは、下位より灰色軽石混じり黒色土（層厚5cm以上、軽石の最大径7mm）、灰色軽石混じり灰色土（層厚3cm、軽石の最大径5mm）、暗灰色土（層厚2cm）、層理が発達した灰色砂層（層厚27cm）、灰色土（層厚22cm）、暗灰色砂質土（層厚29cm）、盛土（層厚13cm）が認められる（第7図）。これらのうち、灰色軽石混じり黒色土の上面には耕作痕が認められる。（第129図）

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラの特徴とその降灰層準を把握するために、2区0G-54グリッド、2区0L-35グリッド、2区0H-53グリッド、6区6R-48グリッドの4地点においてテフラ層ごとあるいは基本的に5cmごとに採取された試料のうち、36点、4区東壁トレンチと5区5Jトレンチの2地点において採取された8点の試料を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

2区0G-54グリッドでは、試料11に灰白色軽石（最大径1.7mm）、試料9に灰色軽石（最大径1.8mm）、試料7に黄灰色軽石（最大径1.3mm）、さらに試料1に灰白色軽石（最大径2.1mm）が少量ずつ含まれている。火山ガラスとしては、いずれの試料からも軽石型ガラスが検出される。とくに試料35、33、31には多くの無色透明の火山ガラスが含まれている。試料9、7、5には、黄灰色の軽石型ガラスが少量ずつ含まれている。

2区0L-35グリッドでは、試料8と試料6に灰白色軽石（最大径2.9mm）が少量ずつ含まれている。また試料1に灰色軽石（最大径1.7mm）が少量認められる。火山ガラスとしては、いずれの試料からも軽石型ガラスが検出される。とくに試料12には多くの無色透明の火山ガラスが含まれている。2区0H-53グリッドの試料5と試料3には、無色透明の軽石型ガラスが少量ずつ含まれている。

6区6R-48グリッドでは、試料10から試料8にかけて、また試料6から試料3にかけて、スポンジ状によく発泡した灰白色軽石（最大径5.7mm）が含まれている。軽石の班晶には、斜方輝石や単斜輝石が認めら

VI 自然科学分析・鑑定

れる。試料8から試料3にかけては、発泡が良くない軽石（最大径3.3mm）が含まれている。軽石の班晶には角閃石や斜方輝石が認められる。

4区東壁トレンチでは、灰色粗粒火山灰層から採取された試料1-4によく発泡した白色軽石（最大径2.3mm）が少量含まれている。試料1-3'および3には、発泡の良くない灰白色軽石（最大径3.1mm）が含まれている。とくに下位の試料3'により多く含まれていることから、試料3付近にこの軽石で特徴づけられるテフラの降灰層準があると考えられる。

5区5Jトレンチは、テフラ層である試料3や2にあまり発泡の良くない白色軽石（最大径1.8mm）が含まれている。この軽石の班晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。また試料1には、この白色軽石（最大径1.9mm）のほかに、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径3.1mm）が含まれている。この軽石の班晶としては、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

テフラの特徴記載および示標テフラとの同定を行うために、2区0G-54グリッドの試料37、試料23、試料9、2区0L-35グリッドの試料8と試料1、2区0H-53グリッドの試料3、2区1F-55グリッドの試料6の合計7点とについて、4区東壁トレンチで認められたテフラと示標テフラとの同定精度を向上させるために、試料-4と試料1-3'の2試料について、温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）により、テフラ粒子の屈折率測定を試みた。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を第17表・第18表に示す。

2区0G-54グリッドの試料37に含まれる火山ガラス（n）の屈折率は、1.502-1.506である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれており、斜方輝石（ γ ）の屈折率は1.707-1.711である。試料23には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれており、斜方輝石（ γ ）の屈折率は1.706-1.710である。試料9にも、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれており、斜方輝石（ γ ）の屈折率は1.705-1.709である。

2区0L-35グリッドの試料8に含まれる火山ガラス（n）の屈折率は、1.502-1.505である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれており、斜方輝石（ γ ）の屈折率は1.706-1.711である。試料1には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれており、斜方輝石（ γ ）の屈折率は1.705-1.709である。

2区0H-53グリッドの試料3には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量の角閃石が含まれている。斜方輝石（ γ ）の屈折率は、1.704-1.709である。また2区1F-55グリッドの試料6に含まれる火山ガラス（n）の屈折率は、1.515-1.520である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量の角閃石が含まれている。斜方輝石（ γ ）と角閃石（n2）の屈折率は、各々1.706-1.710と1.672-1.688である。

4区東壁トレンチの試料4に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.502-1.505である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.705-1.711である。一方、試料3に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.502-1.504である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.706-1.711である。

5. 考察

2区0G-54グリッドの試料37のテフラ層は、火山ガラスの屈折率、重鉱物の組み合わせ、さらに斜方輝石の屈折率などから、As-YPに同定される。試料23に含まれるテフラは、重鉱物の組み合わせや斜方輝石の屈折率などから、約1.1万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間総社軽石(As-Sj, 早田, 1990, 1996)あるいは約8,200年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間藤岡軽石(As-Fo, 早田, 1991, 1996)に由来すると思われる。試料9に含まれるテフラは、重鉱物の組み合わせや斜方輝石の屈折率などから、約5,400年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間六合軽石(As-Kn, 早田, 1990)に由来する可能性が考えられる。以上のことから、2区0G-54グリッドにおいて検出された土器片の層位は、少なくともAs-Sjより上位にあり、As-Knの下位にあると思われる。

2区0L-35グリッドの試料8に含まれるテフラは、火山ガラスの屈折率、重鉱物の組み合わせ、さらに斜方輝石の屈折率などから、As-Sjに由来すると考えられる。したがってその上位にある洪水堆積物は、その層位から総社砂層(早田, 1990)に対比される可能性が高い。

2区0H-53グリッドの試料3に含まれるテフラは、斜方輝石の屈折率から、約1.7万年前^{*1}と約1.6万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第1軽石(As-Ok1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)あるいは浅間大窪沢第2軽石(As-Ok2, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)と考えられる。わずかながら角閃石も含まれていることから、さらに約1.8万年前に浅間火山から噴出した浅間白糸軽石(As-Sr, 町田ほか, 1984)起源のテフラ粒子も混在していると考えられる。ただし、この角閃石については、非常に量が少ないことから、二次的に混入しているものと思われる。これらのテフラの下位にあり、本遺跡の基盤にあたる岩屑なだれ堆積物は、As-Ok1より下位にあることから、榛名火山の山体崩壊に伴って発生した陣場岩屑なだれ(早田, 1990)に対比される。その上位にある黄色軽石層は、層位や層相からAs-YPに同定される。

2区2F-55グリッドの試料6には、重鉱物の組み合わせや、火山ガラス、斜方輝石、角閃石の屈折率などから、As-CとHr-FAに由来すると考えられる。以上のことから、試料6については再堆積層の可能性が考えられる。なお、2区0H-42グリッドで検出された耕作痕の層位は、Hr-FAより上位にあり、8世紀と推定されている瓦を含む洪水堆積物より下位にある。

6区6R-48において検出された灰白色軽石は、その特徴からAs-Cに由来すると考えられる。また試料8付近に降灰層準のある白色軽石については、その特徴からHr-FAに由来する可能性が高い。したがって、この地点で検出された耕作痕は、As-Cより上位で、Hr-FAの下位にある可能性が高い。とくに試料1に多く含まれる淡褐色軽石は、その特徴からAs-Bに由来すると考えられる。このことから、本地点で検出された砂層の層位は、Hr-FAとAs-Bの間にある。

4区東壁トレンチの試料4のテフラ層は、層相、軽石の特徴、重鉱物の組合せさらに火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから、約1.3~1.4万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に同定される。また、試料3'付近に降灰層準があると考えられるテフラは、約1.1万年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間総社軽石(As-Sj, 早田, 1990)に由来する可能性が非常に高い。後述する放射性炭素(¹⁴C)年代測定結果と合わせると、その上位にある成層した水成層については、榛名東南麓から前橋台地にかけて分布する総社砂層(早田, 1990)に対比される可能性が高いと思われる。

また、5区5Jトレンチの成層テフラについては、層相や含まれる軽石の特徴などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)と考えられる。4区西壁の灰色土中に含まれる白色軽石についても、その岩相からHr-FAに由来する

と考えられる。これらのことから、5区5JトレンチのHr-FAの直下の土層中に多く含まれる灰色軽石や、4区西壁のFA包含層およびその下位の暗灰褐色土中に含まれる軽石、5区4Jトレンチの灰色土中に多く含まれる灰色軽石については、4世紀中葉*2に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C, 新井, 1979）に由来すると考えられる。

5区4Jトレンチにおいて認められるテフラのうち、成層したテフラ層は、下位より灰色細粒火山灰層（層厚0.2cm）と黄灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）からなる。このテフラ層は、その層相から、1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B, 新井, 1979）の最下部に同定される。したがって、下部と同様の層相をもつ5区5Jトレンチの灰色粗粒火山灰層も、As-Bに同定される。さらに4区西壁の褐色砂質土に含まれる粗粒火山灰についても、層位や特徴などからAs-Bに由来すると考えられる。

なお、5区5JトレンチにおいてHr-FA直上の灰褐色土（試料1）に含まれる、Hr-FA起源のテフラ粒子とAs-Cのそれとの比率について検討を行った。当初、含まれる軽石（粒径0.5~1.0mm）の岩相を観察することにより、比率を求めることを試みたが、実体顕微鏡下での観察では、細粒であることから、とくに発泡がよくないものについて完全に両者を識別することが困難であった。そこで、Hr-FA上部（試料1-2）と灰褐色土（試料1-1）の中に含まれる斜方輝石と角閃石の比率を検討することを試みた（各々100粒子を検鏡）。

Hr-FA上部（試料1-2）に含まれる斜方輝石と角閃石の比率は、35:65である。この値は、前橋市櫛島で検出されたHr-FA中に含まれる斜方輝石と角閃石の比率（32:68）と、さほど変わらない。一方、灰褐色土（試料1）に含まれる斜方輝石と角閃石の比率は、49:51である。As-Cには角閃石はほとんど含まれていないことから、仮に試料1に含まれる斜方輝石をHr-FAまたはAs-Cに由来すると考えると、試料1に含まれるHr-FAとAs-Cの比率は、おおよそ1:0.78と計算される。

6. 小結

菅谷石塚遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より陣場岩屑なだれ堆積物、浅間大窪沢第1軽石（As-Ok1, 約1.7万年前*1）あるいは浅間大窪沢第2軽石（As-Ok2, 約1.6万年前*1）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 約1.3~1.4万年前*1）、浅間総社軽石（As-Sj, 約1.1万年前*1）、浅間藤岡軽石（As-Fo, 約8,200年前*1）、浅間六合軽石（As-Kn, 約5,400年前*1）、浅間C軽石（As-C, 4世紀中葉*1）、榛名二ツ岳洪川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B, 1108年）など多くのテフラを認めることができた。またAs-SjとAs-Cの間には、総社砂層の堆積、Hr-FAとAs-Bの間の層位に、8世紀と推定される瓦を含む洪水堆積物を確認した。

本遺跡において検出された水田遺構の層位は、下位よりHr-FA直下、Hr-FAの上位で8世紀と推定される瓦を含む洪水堆積物の直下、As-Bの直下にある。またほかに耕作痕が、As-CとHr-FAの間と、Hr-FAより上位で8世紀と推定されている瓦を含む洪水堆積物の下位に存在する。さらに縄文時代の土器片の中には、As-Sjより上位にあり、As-Knの下位にあるものが存在することが明らかになった。

*1 放射性炭素（¹⁴C）年代。

*2 現在では4世紀を遡るとする説が有力になっているようである（たとえば、若狭, 2000）。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「3世紀後半」あるいは「3世紀終末」と考えておくのが妥当なのかも知れないが、土器をもとにした考古学的な年代観の変更については、考古学研究者による明確な記載を待ちたい。

文献

新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.
 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138-148.
 荒牧重雄 (1968) 浅間火山の地質. 地団研専報, no.45, 65p.
 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫 (1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流 中の炭化樹木の加速器¹⁴C年代. 第四紀研究, 34, p.377-379.
 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ—. 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865-928.
 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗 (1987) 始良Tn火山灰(AT)の¹⁴C年代. 第四紀研究, 26, p.79-83.
 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦 (1984) 浅間火山, 黒班〜前掛期のテフラ層序. 日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
 坂口 一 (1986) 榛名ニッ岳起源F A・F P層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
 早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
 早田 勉 (1990) 群馬県 of 自然と風土. 群馬県史通史編, 1, p.37-129.
 早田 勉 (1996) 関東地方〜東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
 若狭 徹 (2000) 群馬の弥生土器が終わるとき. かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43

第16表 テフラ検出分析結果 (1)

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
4区東壁	1	-	-	-
深掘トレンチ	2	-	-	-
	3	+	灰白	2.0
	3'	++	灰白	3.1
	4	+	白	2.3
5区5J	1	++	白>灰白	1.9, 3.1
	2	+	白	0.9
	3	++	白	1.8

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない. 最大径の単位は, mm.

第17表 屈折率測定結果 (1) 4区東壁トレンチ

試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)
3'	1.502-1.504	opx>cpx	1.706-1.711
4	1.502-1.505	opx>cpx	1.705-1.711

屈折率の測定は, 温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993) による. opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石.

第18表 屈折率測定結果 (2)

グリッド	試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)	角閃石 (n ₂)
2区0G-54	9	-	opx>cpx	1.705-1.709	-
2区0G-54	23	-	opx>cpx	1.706-1.710	-
2区0G-54	37	1.502-1.506	opx>cpx	1.707-1.711	-
2区0L-35	1	-	opx>cpx	1.705-1.709	-
2区0L-35	8	1.502-1.505	opx>cpx	1.706-1.711	-
2区0H-53	3	-	opx>cpx, (ho)	1.704-1.709	-
2区2F-55	6	1.515-1.520	opx>cpx, (ho)	1.706-1.710	1.672-1.688

屈折率の測定は, 温度一定型測定法 (新井, 1972, 1993) による. opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, ho: 普通角閃石. () は, 量が少ないことを示す.

第19表 テフラ検出分析結果 (2)

グリッド	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
2区0G-54	1	+	灰白	2.1	+	pm	無色
	3	-	-	-	+	pm	無色
	5	-	-	-	+	pm	黄灰
	7	+	黄灰	1.3	+	pm	黄灰
	9	+	灰	1.8	+	pm	黄灰
	11	+	灰白	1.7	+	pm	無色
	13	-	-	-	+	pm	無色
	15	-	-	-	+	pm	無色
	16	-	-	-	+	pm	無色
	17	-	-	-	+	pm	無色
	19	-	-	-	+	pm	無色
	21	-	-	-	+	pm	無色
	23	-	-	-	+	pm	無色
	25	-	-	-	++	pm	無色
2区0L-35	27	-	-	-	+	pm	無色
	29	-	-	-	++	pm	無色
	31	-	-	-	+++	pm	無色
	33	-	-	-	+++	pm	無色
	35	-	-	-	+++	pm	無色
	1'	+	灰	1.7	+	pm	無色
	2	-	-	-	+	pm	無色
	4	-	-	-	+	pm	無色
	6	+	灰白	2.9	+	pm	無色
	8	+	灰白	1.6	+	pm	無色
10	-	-	-	++	pm	無色	
12	-	-	-	+++	pm	無色	
2区0H-53	3	-	-	-	+	pm	無色
	5	-	-	-	+	pm	無色
6区6R-48	1	+++	淡褐	3.7	++	pm	淡褐
	3	+	灰白, 白	1.9, 1.7	++	pm	灰白
	5	+	灰白, 白	2.1, 2.3	++	pm	灰白
	6	+	白, 灰白	3.3, 3.1	+	pm	灰白
	7	+	白	3.3	+	pm	透明
	8	++	灰白>白	4.0, 1.0	++	pm	灰白, 白
	9	++	灰白	4.4	++	pm	灰白
	10	+++	灰白	5.7	++	pm	灰白

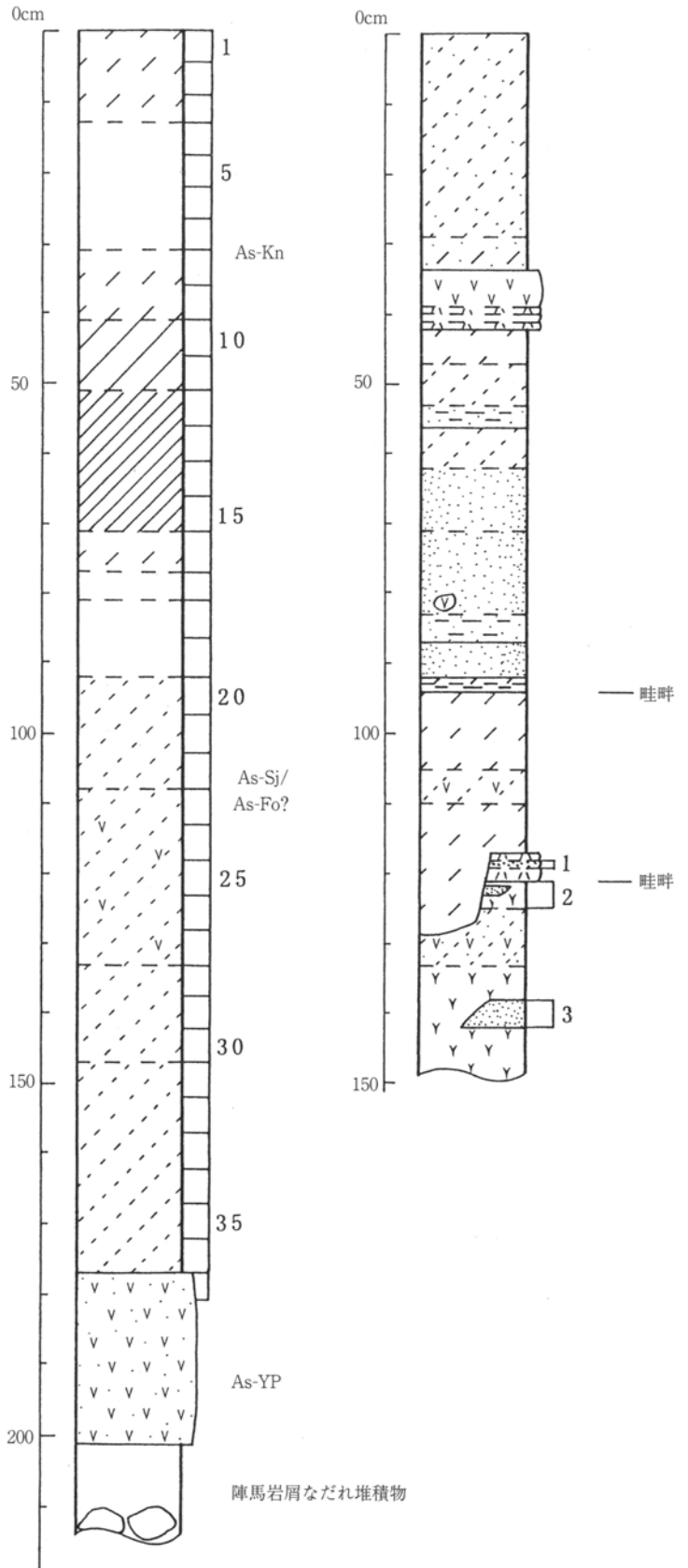
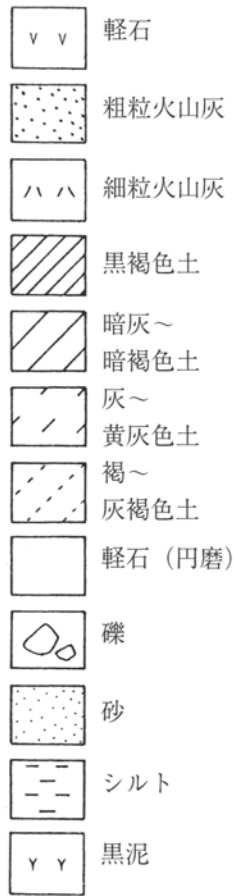
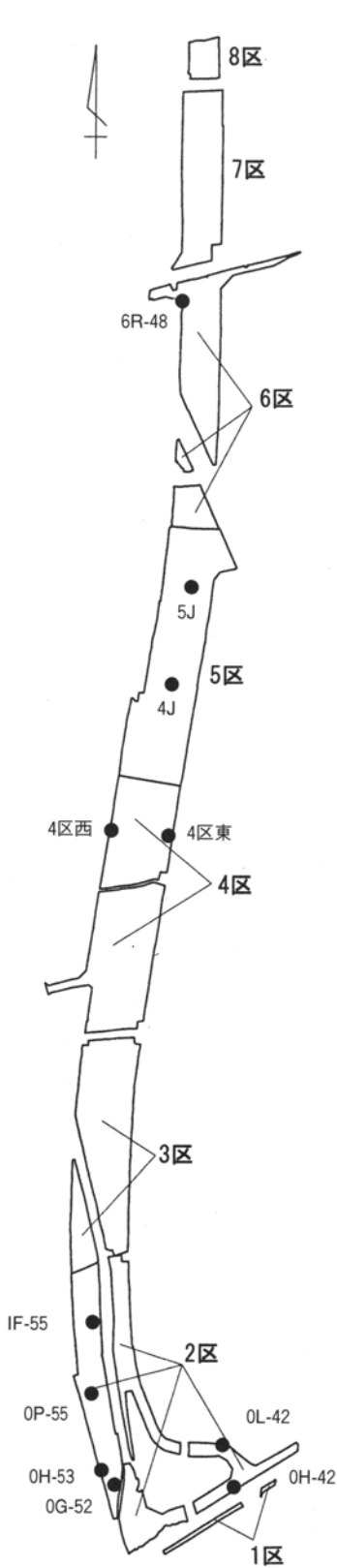
++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない. 最大径の単位は, mm. bw: バブル型, pm: 軽石型.

分析資料 採取地点

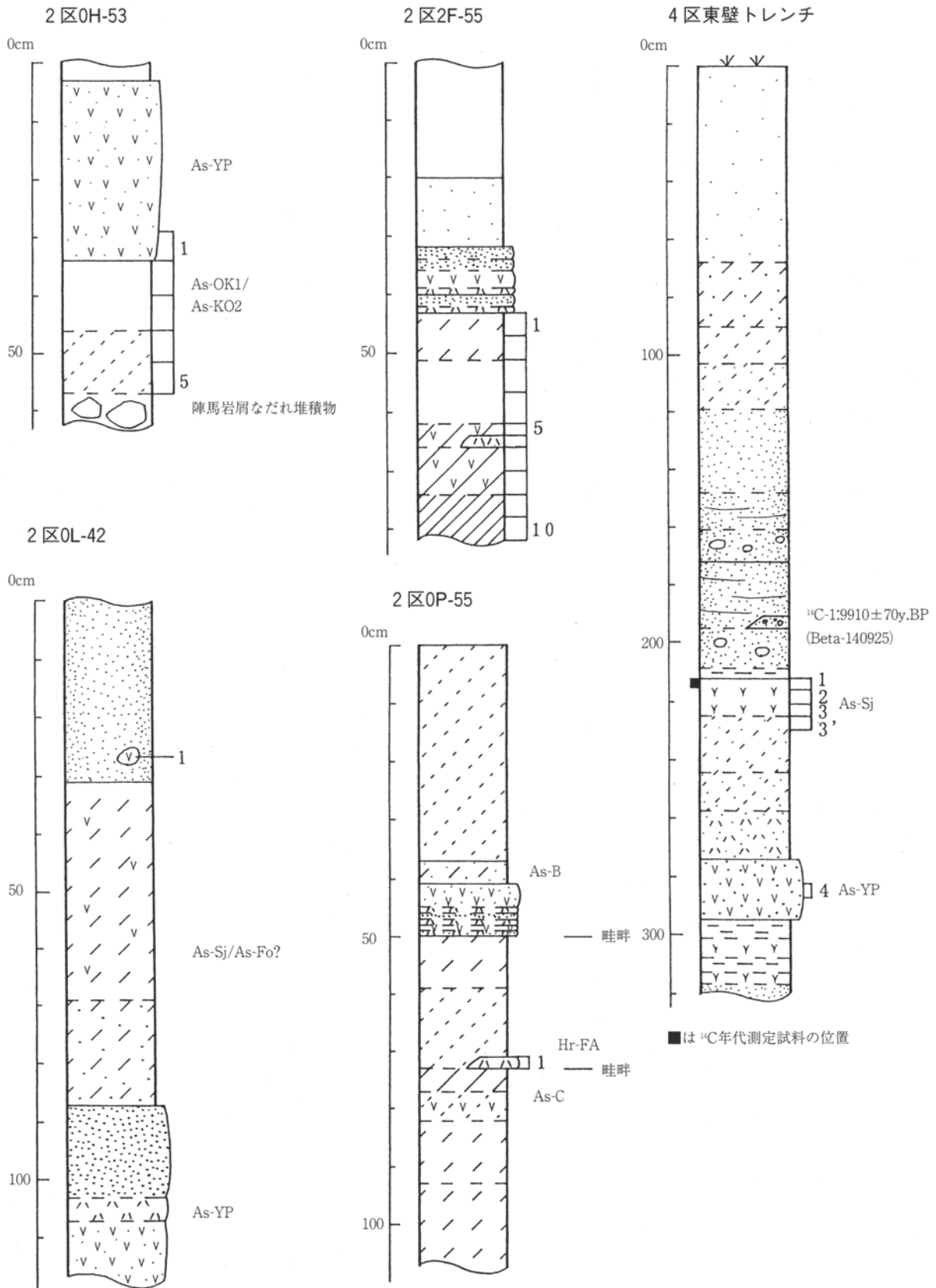
凡 例

2区0G-52

2区0H-42

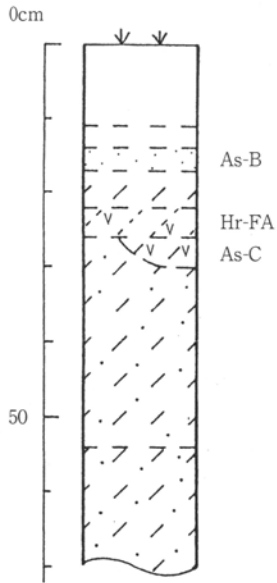


第127図 土層・テフラ分析地点の土層柱状図 (1)

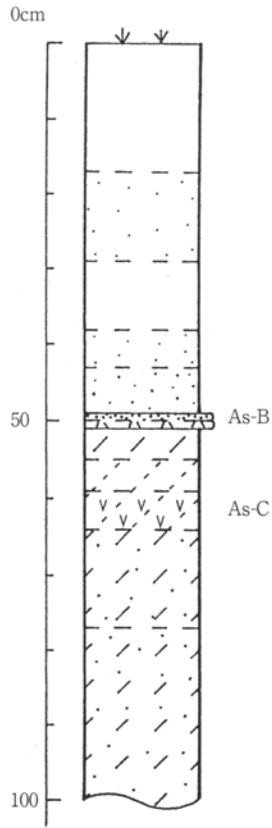


第128図 土層・テフラ分析地点の土層柱状図(2)

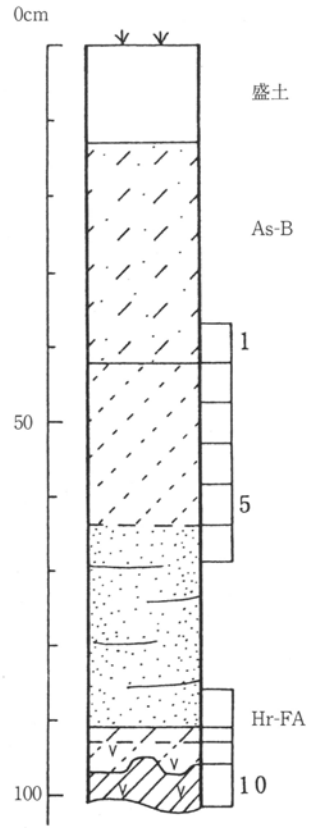
4区西壁トレンチ



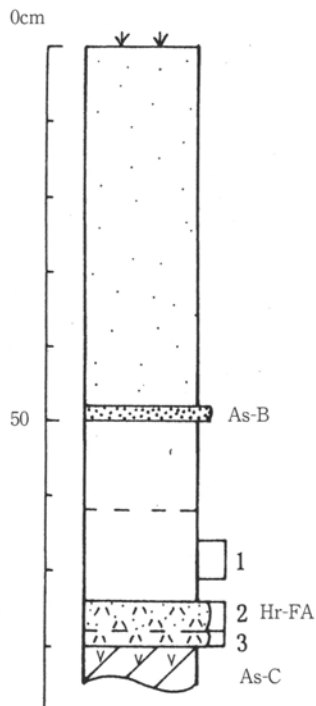
5区4J



6区6R-48



5区5J



第129図 土層・テフラ分析地点の土層柱状図 (3)

2. 放射性炭素年代測定

1. 試料と方法

試料名	地点	種類	前処理・調整	測定法
$^{14}\text{C}-1$	4区東壁トレンチ	腐植質土壌	酸洗浄, 低濃度処理	β 線計数法

2. 測定結果

試料名	^{14}C 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年BP)	暦年代(西暦)	測定No (Beta-)
$^{14}\text{C}-1$	9900±70	-24.7	9910±70	交点: BC 9305 1 σ : BC 9365~9265 2 σ : BC 9610~9240	140925

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は、標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動に対する補正により、暦年代(西暦)を算出した。具体的には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定、サンゴのU-Th年代と ^{14}C 年代の比較により補正曲線を作成して暦年代を算出する。最新のデータベース(“INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration” Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3))により、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68%確率)・2 σ (95%確率)は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1 σ ・2 σ 値が表記される場合もある。

3. プラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である (杉山, 2000)。

2. 試料

試料は、1回目の採取では4区東壁トレンチ、4区西壁、5区4Jトレンチ、5区5Jトレンチの4地点から採取された計7点、2回目の採取では2区1F-55グリッド、2区0P-55グリッド、2区0H-42グリッド、6区6R-48グリッドの4地点から採取された計25点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥 (絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加 (電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5}g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ (赤米) の換算係数は2.94 (種実重は1.03)、ヒエ属 (ヒエ) は8.40、ヨシ属 (ヨシ) は6.31、ススキ属 (ススキ) は1.24、タケ亜科 (ネザサ節) は0.48である。

4. 分析結果

水田跡 (稲作跡) の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を第20表および第130図・第131図に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1 gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) 4区西壁

As-B直下層（試料1）とHr-FA直下層（試料3、4）について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、As-B直下層（試料1）では密度が6,800個/gと高い値であり、Hr-FA直下層（As-C混、試料3）でも3,700個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

2) 5区4 J トレンチ

As-B直下層（試料1）とAs-C混層（試料2）について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、前者では密度が4,500個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。後者では密度が700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

3) 5区5 J トレンチ

As-B直下層（試料1）とHr-FA直下層（As-C混、試料2）について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、前者では密度が3,000個/g、後者でも3,700個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

4) 2区1 F-55グリッド

As-B直下層（試料1）からAs-C直下層（試料5）までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層（試料1）およびその下層（試料2）からイネが検出された。このうち、前者では密度が4,500個/g、後者でも3,700個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

5) 2区0 P-55グリッド

As-B直下層（試料1）からAs-Cの下層（試料6）までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層（試料1）からAs-C直下層（試料5）までの各層からイネが検出された。このうち、As-B直下層（試料1）およびその下層（試料2）では密度が5,300~6,000個/gと高い値であり、Hr-FA直下層（試料3）およびAs-C直下層（試料5）でも3,000~3,700個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

As-C混層（試料3）では、密度が800個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

6) 2区0 H-42グリッド

As-B直下層（試料1）からAs-Cの下層（試料6）までの層準について分析を行った。その結果、As-B直下層（試料1）からAs-C直下層（試料5）までの各層からイネが検出された。このうち、砂-シルト互層

VI 自然科学分析・鑑定

の直下層（試料4）とその下層（試料5、6）、およびHr-FA直下層（試料8）では密度が3,000～4,500個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-B直下層（試料1）とその下層（試料2、3）およびAs-C直下層（試料10）では、密度が700～1,500個/gと比較的低い値である。

7) 6区6R-48グリッド

Hr-FA直下層（試料1）とその下層（試料2、3）について分析を行った。その結果、Hr-FA直下層（試料1）とその下層（試料2）からイネが検出された。このうち、後者では密度が3,000個/gと比較的高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。Hr-FA直下層（試料1）では、密度が1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

(2) ヒエ属型について

5区5JトレンチのAs-B直下層（試料1-1）、2区0H-42グリッドでは、Hr-FAの上層（試料6）、Hr-FA直下層（試料8）、As-C直下層（試料10）からヒエ属型が検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点ではこれらを識別することは困難である（杉山ほか, 1988）。また、密度も1,000個/g前後と低い値であることから、ここでヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野・雑草である可能性も否定できない。

6. まとめ

プラント・オパール分析の結果、畦畔遺構が検出された浅間Bテフラ（As-B, 1108年）直下層、砂ーシルト互層の直下層、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）直下層からは、いずれもイネが多量に検出され、各遺構で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、浅間C軽石（As-C, 4世紀中葉）直下層やAs-Bの下層などでも、稲作が行われていた可能性が認められた。

文献

- 杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
杉山真二・松田隆二・藤原宏志 (1988) 機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—. 考古学と自然科学, 20, p.81-92.
藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) —数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) —プラント・オパール分析による水田址の探査—. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

第20表 プラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	2区2F-55グリッド					2区0P-55グリッド					
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	45	37				53	60	37	8	30	
ヒエ属型	<i>Echinochloa type</i>											
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	7	7	8	15	15		15	15	8	8	7
ススキ属型	<i>Miscanthus</i>	67	45	45	45	45	8		22		15	7
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i> (Bamboo)	15	15	30	15	45				8	23	90

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	1.32	1.10				1.55	1.77	1.10	0.22	0.89	
ヒエ属型	<i>Echinochloa type</i>											
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.47	0.47	0.47	0.95	0.94		0.95	0.95	0.48	0.48	0.47
ススキ属型	<i>Miscanthus</i>	0.84	0.56	0.56	0.56	0.56	0.09		0.28		0.19	0.09
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i> (Bamboo)	0.07	0.07	0.14	0.07	0.22				0.04	0.11	0.43

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	2区0H-42グリッド										
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	14	15	7	30	45	30	22	30		8	
ヒエ属型	<i>Echinochloa type</i>						7		8		15	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	7	8	7	22	45	30	15	75		53	8
ススキ属型	<i>Miscanthus</i>	7	30	7	22	15	15		38	8	23	
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i> (Bamboo)	28	15	37	37	37	7	7	8		23	

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	0.42	0.44	0.22	0.88	1.32	0.88	0.66	0.88		0.22	
ヒエ属型	<i>Echinochloa type</i>								0.63		1.26	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.45	0.47	0.47	1.42	2.83	1.89	0.94	4.74		3.32	0.47
ススキ属型	<i>Miscanthus</i>	0.09	0.37	0.09	0.28	0.19	0.19		0.47		0.09	0.28
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i> (Bamboo)	0.14	0.07	0.18	0.18	0.18	0.04	0.04	0.04		0.11	

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

検出密度 (単位: ×100個/g)

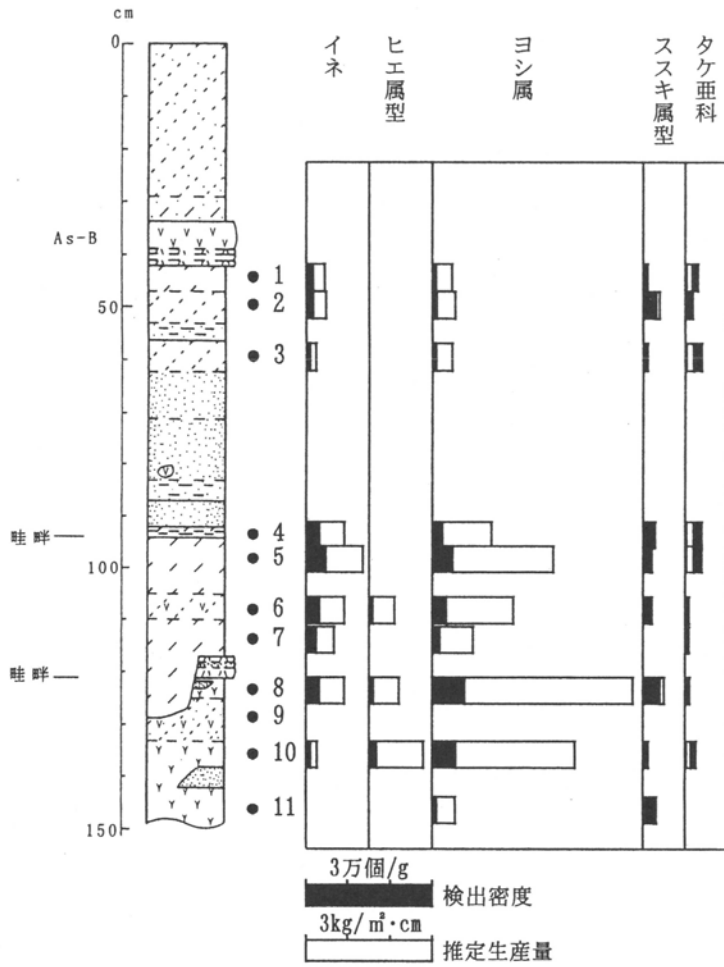
分類群	学名	4区西壁			5区4J		5区5J		6区6R-48		
		1	2	3	1	2	1	2	1	2	3
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	68	37	23	45	7	30	37	15	30	
ヒエ属型	<i>Echinochloa type</i>						8				
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	15	7	15			8		38	15	23
ススキ属型	<i>Miscanthus</i>	23	30	53	7	15	15	15	45	45	30
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i> (Bamboo)	8	15	68	30	75	8	7	8	23	75

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

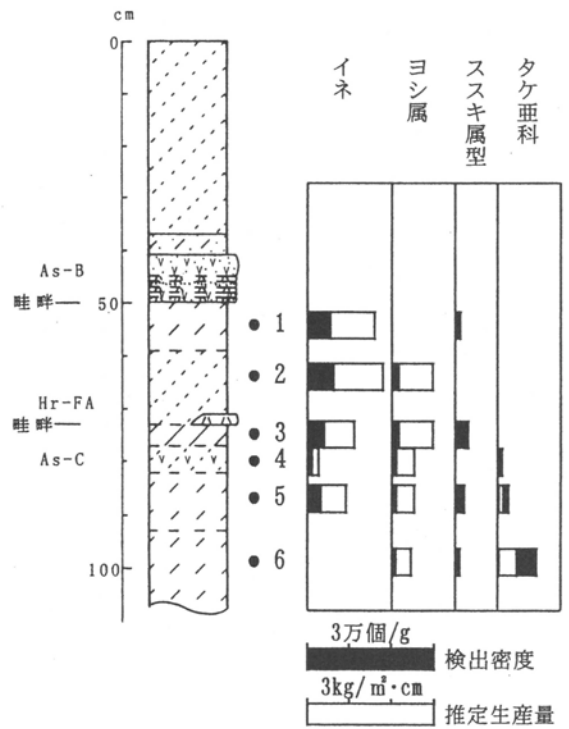
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)	2.00	1.10	0.66	1.32	0.22	0.88	1.10	0.44	0.88	
ヒエ属型	<i>Echinochloa type</i>						0.63				
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.95	0.47	0.95			0.47		2.38	0.95	1.42
ススキ属型	<i>Miscanthus</i>	0.28	0.37	0.65	0.99	0.19	0.19	0.19	0.56	0.56	0.37
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i> (Bamboo)	0.04	0.07	0.32	0.14	0.36	0.04	0.04	0.04	0.11	0.36

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

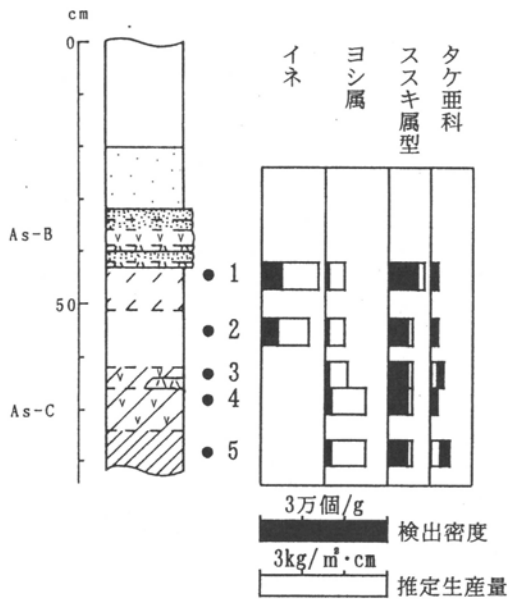
2区0H-42 グリッド



2区0P-55 グリッド

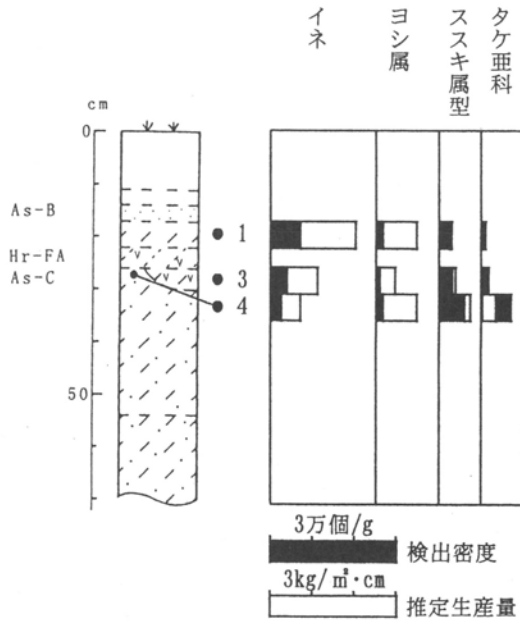


2区IF-55 グリッド

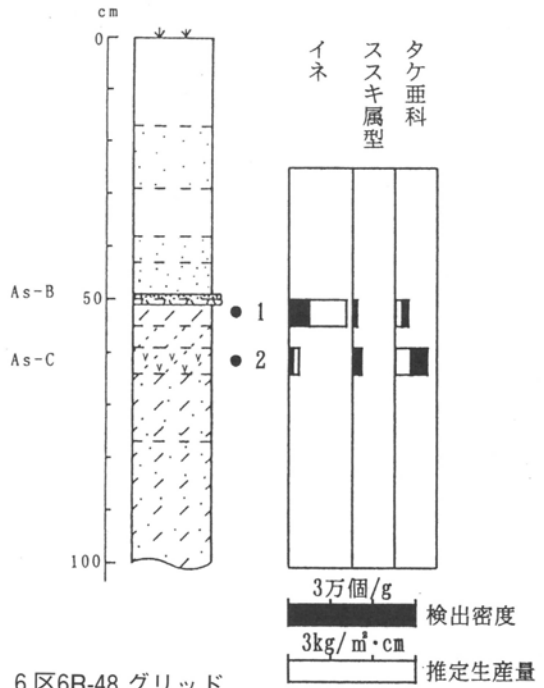


第130図 プラント・オパール分析結果 (1)

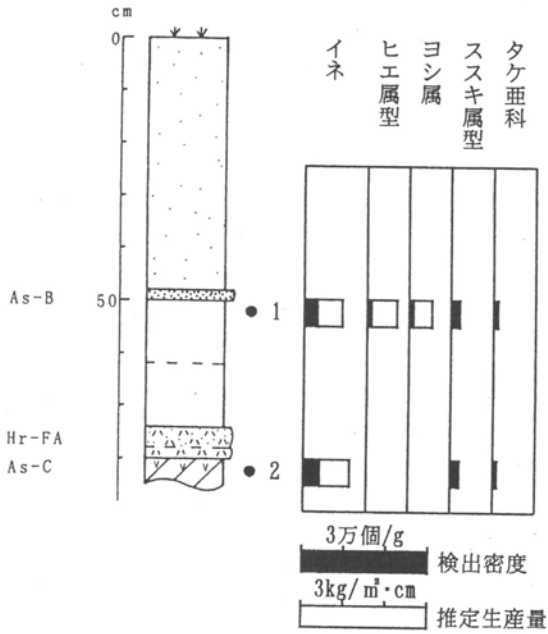
4 区西壁



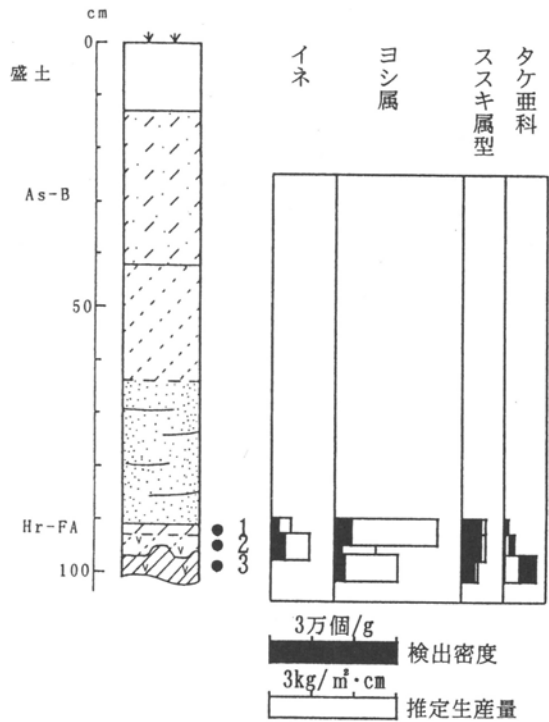
5 区4J



5 区5J



6 区6R-48 グリッド



第131図 プラント・オパール分析結果 (2)

4. 花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2. 試料

試料は、6区6R-48グリッドから採取された3点である。これらは、プラント・オパール分析に用いられたものと同一試料である。

3. 方法

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
- 2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 4) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
- 5) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。

4. 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉1、草本花粉4形態の計5である。分析結果を表1に示し、主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[樹木花粉]

スギ

[草本花粉]

イネ科、カヤツリグサ科、キク亜科、ヨモギ属

(2) 花粉群集の特徴

分析の結果、部分的にスギ、イネ科、カヤツリグサ科、キク亜科、ヨモギ属が検出されたが、いずれも少量である。

5. 花粉分析から推定される植生と環境

花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA, 6世紀初頭）直下層およびその下層の堆積当時は、ヨモギ属などが生育する比較的乾燥した環境であったと推定される。花粉があまり検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

文献

中村 純 (1973) 花粉分析. 古今書院, p.82-110.

金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.

高倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.

中村 純 (1980) 日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.

第21表 花粉分析結果

分 類	群	6区6R-48グリッド				
		学 名	和 名	1	2	3
Arboreal pollen	樹木花粉					
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ			1	2	
Nonarboreal pollen	草本花粉					
Gramineae	イネ科					1
Cyperaceae	カヤツリグサ科	1				
Asteroideae	キク亜科			1		1
Artemisia	ヨモギ属	2	2	2		
Arboreal pollen	樹木花粉	0	1	2		
Nonarboreal pollen	草本花粉	3	3	4		
Total pollen	花粉総数	3	4	6		
Unknown pollen	未同定花粉	0	0	0		
Fem spore	シダ植物胞子	0	0	0		
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)		
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)		

5. 菅谷石塚遺跡出土人骨

植 崎 修一郎

はじめに

菅谷石塚遺跡は、群馬県群馬郡群馬町菅谷に所在する。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、平成12(2000)年1月6日より平成13(2001)年3月31日まで行われた。本遺跡の、6区の1号墓坑・2号墓坑・3号墓坑・4号墓坑及び7区51号土坑より、近世の人骨が出土したので以下に報告する。

歯の計測方法は、藤田(1949)に従った。また、歯の計測値の比較は、中近世人のものはMATSUMURA(1995)より、現代人のものは権田(1959)より引用した。

1. 6区1号墓坑出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、北西～東南の長軸方向が約1m・北東～西南の短軸方向が約75cmの土坑より出土している。

(2) 人骨の出土部位

下顎骨片の他に、上顎の永久歯5本・下顎の永久歯10本の合計15本出土している。

(3) 被葬者の頭位

人骨は、覆土として取り上げられているので、被葬者の頭位は不明である。

(4) 被葬者の個体数

出土歯に重複部位は認められないので、被葬者の個体数は1個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

歯の歯冠計測値が小さいので、被葬者の性別は、女性と推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度は、歯の象牙質が点状に露出する状態であり、ブローカの2度にあたる。従って、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(7) 歯の病変

俗に虫歯と呼ばれる齲蝕は、15本の永久歯には認められなかった。また、歯石は、下顎左右第1切歯の舌側に認められた。

2. 6区2号墓坑出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、ほぼ南北の長軸約95cm、ほぼ東西の短軸約60cmの土坑より出土している。

(2) 人骨の出土部位

永久歯の遊離歯3本及び四肢骨片が出土している。

(3) 被葬者の頭位及び埋葬状態

出土人骨の出土位置より、被葬者の頭位は北側で、右下横臥屈葬と推定される。

(4) 被葬者の個体数

出土歯及び出土人骨に重複部位は認められないので、被葬者の個体数は1個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

出土歯及び出土人骨の大きさより、女性である可能性が高い。

(6) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を見ると、下顎小白歯は象牙質が点状に露出しており、下顎大白歯は象牙質が面状に露出しているブローカの2度である。従って、被葬者の死亡年齢は、約40歳代と推定される。

(7) 歯の病変

3本の永久歯には、齶触も歯石も認められなかった。

3. 6区3号墓坑出土人骨

人骨は、ほぼ南北の長軸約1.2m、ほぼ東西の短軸約90cmの土坑より出土している。出土部位は、残存状況の悪い、細かい頭蓋骨片や四肢骨片が出土している。被葬者の頭位は不明である。被葬者の個体数は残存状況が悪く不明であるが、恐らく、1個体であろう。被葬者の性別は、残存状況が悪く不明であるが、四肢骨片の厚さが薄いので、恐らく女性であろう。被葬者の死亡年齢も、不明であるが、恐らく成人であろう。

4. 6区4号墓坑出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、ほぼ南北の長軸約1.2m、ほぼ東西の短軸約95cmの土坑より出土している。

(2) 人骨の出土部位

頭蓋骨片・歯・四肢骨片が出土している。

(3) 被葬者の頭位

頭蓋骨の出土位置より、被葬者の頭位は、北側であると推定される。

(4) 被葬者の個体数

被葬者の個体数は、当初、1個体と考えられていた。しかし、整理作業中に、覆土として取り上げられた人骨片を接着復元したところ、後頭骨・左右側頭骨に重複部位が認められたので2個体と推定される。

(5) 被葬者の性別

4号墓に埋葬されていた被葬者は、歯の大きさ・側頭骨の乳様突起・四肢骨特に大腿骨の大きさが比較的小さいので女性と推定される。一方、覆土中に発見された人骨は、後頭骨の外後頭隆起も発達し、骨の厚さも厚く、乳様突起も大きいので男性と推定される。

(6) 被葬者の死亡年齢

被葬者の内、女性下顎大白歯の咬耗度は象牙質が点状に露出するブローカの2度であり、死亡年齢は約30歳代と推定される。また、覆土中検出の男性人骨は、ラムダ縫合が外板及び内板共に癒合していないが、この縫合の下部は癒合するのが遅いため死亡年齢の指標にはなりにくい。恐らく、成人であろう。

(7) 歯の病変

出土歯には、俗に虫歯と呼ばれる齶触は認められなかった。また、歯石は、上下顎の切歯・犬歯・小白歯の唇側・頬側面に付着が認められた。

(8) 覆土出土人骨の後頭骨

覆土より検出された後頭骨の厚さは、非常に厚い。外後頭隆起と内後頭隆起との距離では、19mmある。これは、大分県で発見されて後頭骨の骨壁が厚いという特徴を持つ聖嶽洞窟出土人骨の同位置での計測が18mmであることを見ると、本出土人骨はわずか1mmとはいえ聖嶽洞窟出土人骨より厚い点で興味深い(小片保、1967・1981;小片丘彦、1981)。但し、聖嶽洞窟出土人骨は後頭骨全体が厚いのに対し、本遺跡出土人骨は十字隆起部のみ厚い点が異なる。

5. 7区51号土坑出土人骨

(1) 火葬人骨の出土部位

火葬人骨は、長さ5mm~10mm前後の細片が約100片出土している。その中でも、同定できた部位は後頭骨片のみであった。人骨の残存状況は非常に悪く、恐らく、丁寧に収骨された後であろう。このような収骨状況は、現代にも続く、ほとんどの骨を収骨する東日本タイプの収骨方法であろう(植崎、2002)。

(2) 火葬の方法

火葬人骨の色は、明灰色から白色を呈しているので、火葬の際の温度は約900℃以上であろう。また、火葬人骨には亀裂・ゆがみ・ねじれが認められるので、白骨化させたものを火葬したのではなく、死体をそのまま火葬したと推定される。

(3) 被火葬者の個体数

出土人骨の残存量は、非常に少ない。しかしながら、出土人骨に明らかな重複部位は認められないため、被火葬者の個体数は1個体と推定される。

(4) 被火葬者の性別

人骨の残存状況が非常に悪いため、被火葬者の性別を推定するのに決定的な部位が無い。しかしながら、骨の厚さが比較的薄いため、女性である可能性が高い。

(5) 被火葬者の死亡年齢

人骨の残存状況が非常に悪いため、被火葬者の死亡年齢を推定するのに決定的な部位が無い。しかしながら、恐らく、成人であろう。

まとめ

菅谷石塚遺跡の、6区1号・2号・3号・4号墓坑・7区51号土坑より、人骨が出土した。6区1号墓坑には死亡年齢30歳代の女性が、6区2号墓坑には死亡年齢40歳代の女性が、6区3号墓坑には成人女性が、6区4号墓坑には死亡年齢30歳代の女性と成人男性の2体が埋葬されていたと推定された。6区4号墓坑出土成人男性後頭骨は、かなり厚い骨壁を持つことが特徴的である。また、7区51号土坑には成人女性が火葬にふされたと推定された。

謝辞

本稿を発表する機会を与えていただき、本遺跡に関する考古学的情報を与えていただいた(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の神谷佳明氏に感謝いたします。

引用文献

- 藤田恒太郎 1949 歯の計測規準について、「人類学雑誌」、61:1-6。
権田和良 1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67:151-163。
MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from morphology, National Science Museum Monographs No9, National Science Museum.
植崎修一郎 2002 下小島神戸遺跡出土火葬人骨、「群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要」、20:43-50。
小片丘彦 1981 旧石器時代人骨、「季刊・人類学」、12(1):50-58。
小片保 1967 「洞穴遺跡出土の人骨所見序説」、『日本の洞穴遺跡』、平凡社、pp.382-392。
小片保 1981 「旧石器時代人骨」、『人類学講座5.日本人I』、雄山閣出版、pp.7-25。

第22表 菅谷石塚遺跡出土人骨歯冠計測値及び比較表

上下	歯種	計測項目	菅谷石塚遺跡出土人骨						鎌倉時代人*		江戸時代人*		現代日本人**	
			1号墓		2号墓		4号墓		♂	♀	♂	♀	♂	♀
			右	左	右	左	右	左						
上顎	I 1	MD	7.3	7.3	—	—	—	8.5	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	7.0	6.9	—	—	—	6.9	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	I 2	MD	—	—	—	—	—	7.1	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		BL	—	—	—	—	—	6.1	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	—	—	—	—	—	7.9	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	—	—	—	—	—	歯石	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P 1	MD	6.3	—	—	—	—	7.2	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	8.7	—	—	—	—	8.9	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P 2	MD	6.4	—	—	—	—	6.7	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	8.9	—	—	—	—	8.9	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
M 1	MD	9.9	—	—	—	10.6	10.5	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47	
	BL	11.2	—	—	—	11.5	11.5	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40	
M 2	MD	—	—	—	—	9.3	9.0	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74	
	BL	—	—	—	—	10.6	10.5	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31	
M 3	MD	—	—	—	—	8.3	—	—	—	—	—	—	8.86	
	BL	—	—	—	—	9.4	—	—	—	—	—	10.79	10.50	
下顎	I 1	MD	5.1	5.1	—	—	5.5	—	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47
		BL	6.0	6.0	—	—	5.9	—	5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77
	I 2	MD	5.4	5.3	—	—	5.9	—	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL	5.8	5.9	—	—	5.9	—	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
	C	MD	5.5	6.8	—	—	—	6.9	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	6.8	7.6	—	—	—	7.3	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50
	P 1	MD	6.6	—	—	7.0	—	—	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	7.7	—	—	8.3	—	—	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	P 2	MD	6.9	—	—	6.7	7.3	7.0	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.5	—	—	8.0	8.0	7.9	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
M 1	MD	10.4	—	—	11.1	11.0	10.5	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32	
	BL	10.8	—	—	11.7	11.2	11.1	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55	
M 2	MD	9.7	—	—	—	—	10.6	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89	
	BL	10.0	—	—	—	—	9.8	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20	

註1：計測値の単位は、すべて、「mm」である。
 註2：歯種は、I 1（第1切歯）・I 2（第2切歯）・C（犬歯）・P 1（第1小臼歯）・P 2（第2小臼歯）・M 1（第1大臼歯）・M 2（第2大臼歯）・M 3（第3大臼歯）を意味する。
 註3：MD（歯冠近遠心径）・BL（歯冠唇舌径）を意味する。
 註4：「歯石」とあるのは、歯石が付着しているため計測できなかったことを示す。
 註5：*はMATSUMURA（1995）より、**は権田（1959）より引用。なお、MATSUMURA（1995）には、第3大臼歯のデータは含まれていない。

第23表 菅谷石塚遺跡出土永久歯の非計測的形質

上下	歯種	観察項目	観察結果						備考	
			1号墓		2号墓		4号墓			
			右	左	右	左	右	左		
上顎	I 1	シャベル型	有り	有り	—	—	—	—	有り	
		棘突起	無し	無し	—	—	—	—	無し	
		盲孔	無し	無し	—	—	—	—	無し	
	I 2	シャベル型	—	—	—	—	—	—	有り	
		棘突起	—	—	—	—	—	—	無し	
		盲孔	—	—	—	—	—	—	無し	
	C	犬歯結節	—	—	—	—	—	—	無し	
		中心結節	無し	—	—	—	—	—	無し	
	P 1	介在結節	無し	—	—	—	—	—	無し	
		中心結節	無し	—	—	—	—	—	無し	
P 2	介在結節	無し	—	—	—	—	—	無し		
	カラベリ結節	無し	—	—	—	—	無し	無し		
M 2	臼房結節	—	—	—	—	—	無し	無し		
下顎	M 1	第6咬頭	無し	—	—	*註	無し	無し	註：咬耗により観察不能	
		第7咬頭	無し	—	—	*註	無し	無し	註：咬耗により観察不能	
		原錐茎状突起	無し	—	—	無し	無し	無し		
		屈曲隆線	無し	—	—	*註	無し	無し	註：咬耗により観察不能	
	M 2	咬合面の溝型X	無し	—	—	—	—	無し		
4咬頭		有り	—	—	—	—	有り			

註：I 1（第1切歯）・I 2（第2切歯）・C（犬歯）・P 1（第1小臼歯）・P 2（第2小臼歯）・M 1（第1大臼歯）・M 2（第2大臼歯）を意味する。

6. 菅谷石塚遺跡出土馬骨

植 崎 修一郎

はじめに

菅谷石塚遺跡は、群馬県群馬郡群馬町菅谷に位置し、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が平成12(2000)年1月6日～平成13(2001)年3月31日まで行われた。この遺跡の、4区2号溝と7区2号井戸の2ヶ所より中世以降の馬歯が出土したので以下に報告する。

1. 4区2号溝

馬の上顎歯が1本分出土しているが、破損しており、同定及び計測は不能である。

2. 7区2号井戸

(1) 出土部位

馬の上顎切歯及び上下顎の第2小白歯～第3大白歯が出土している。

(2) 個体数

出土歯には、重複部位が無いため、個体数は1個体と推定される。

(3) 性別

馬の場合、性別は犬歯の有無により推定できるが、今回犬歯は出土しておらず、性別は不明である。

(4) 死亡年齢

歯の萌出状態を見ると、上下顎の第2大白歯(M2)及び第3大白歯(M3)は、まだ萌出していない状態である。馬の場合、第2大白歯は約16ヶ月～24ヶ月、また、第3大白歯は約2.5歳～5歳で萌出するとされている。さらに、切歯の咬耗状態より、死亡年齢は、約18ヶ月と推定される。

(5) 馬歯の病変

今回、出土した馬歯に歯石の付着があるものは1本も認められなかった。

(6) 馬の殉殺

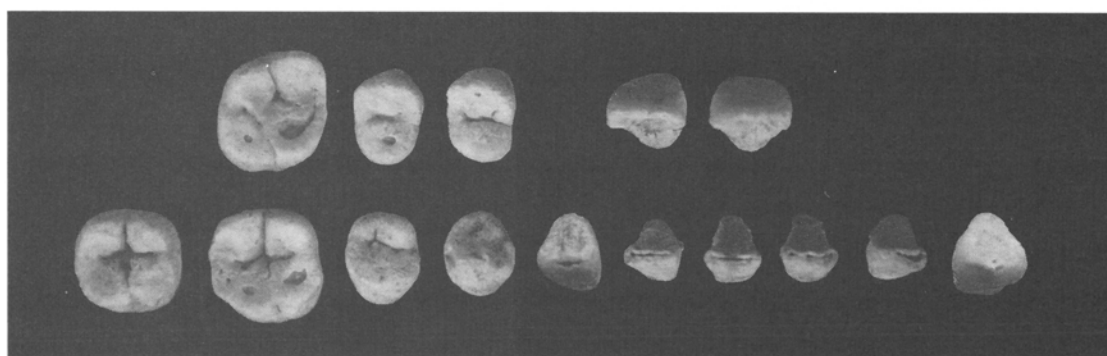
本馬歯は、死亡年齢が約18ヶ月と若いことから廃馬とは考えにくい。また、井戸から出土しているため、犠牲馬の可能性が高く、恐らく井戸を埋める際の祭祀に関連して殉殺されたのであろう。

まとめ

菅谷石塚遺跡の4区2号溝と7区2号井戸より、馬歯が出土した。4区2号溝からは馬の上顎歯1本が出土したが、破片であり歯種の同定はできなかった。また、7区2号井戸からは1個体分のほとんどの歯が出土したが、性別不明で死亡年齢約18ヶ月と推定される。この馬は井戸を埋める際の祭祀に関連して殉殺されたと推定される。

謝辞

本出土馬歯を報告する機会を与えていただき、考古学的情報をいただいた(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の神谷佳明氏に感謝いたします。



右上

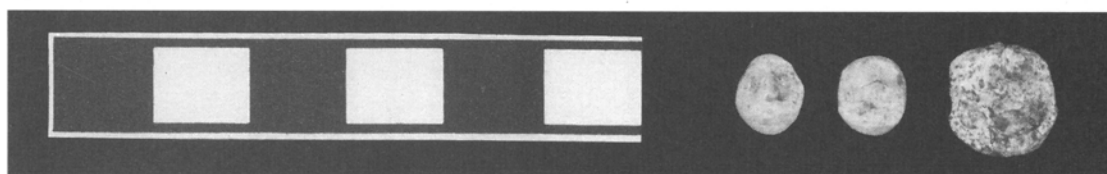
写真1 6区1号墓坑出土歯

左上



右下

左下



右上

写真2 6区2号墓坑出土歯

左上



右下

左下

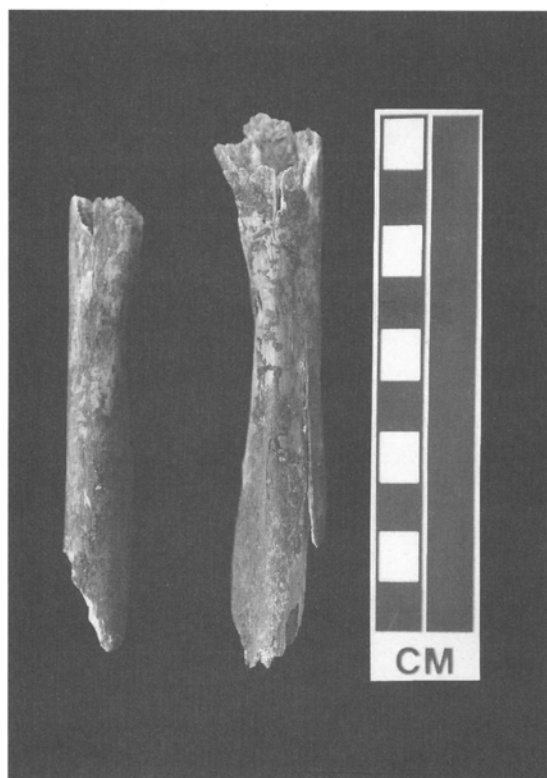
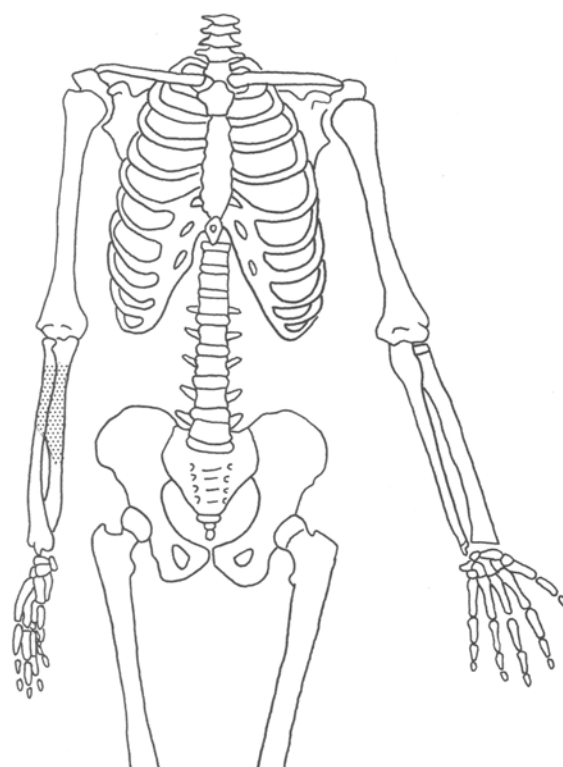


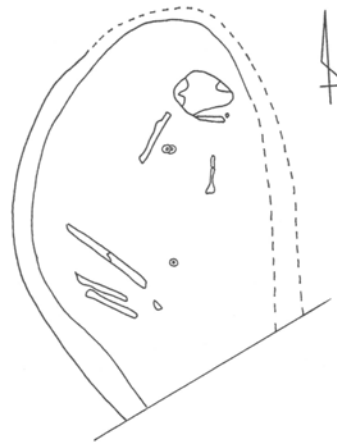
写真3 6区2号墓坑出土人骨
[左：右撓骨、右：右尺骨]



第132図 6区2号墓坑出土人骨出土部位



写真4 6区4号墓坑出土人骨出土状況



第133図 6区4号墓坑実測図

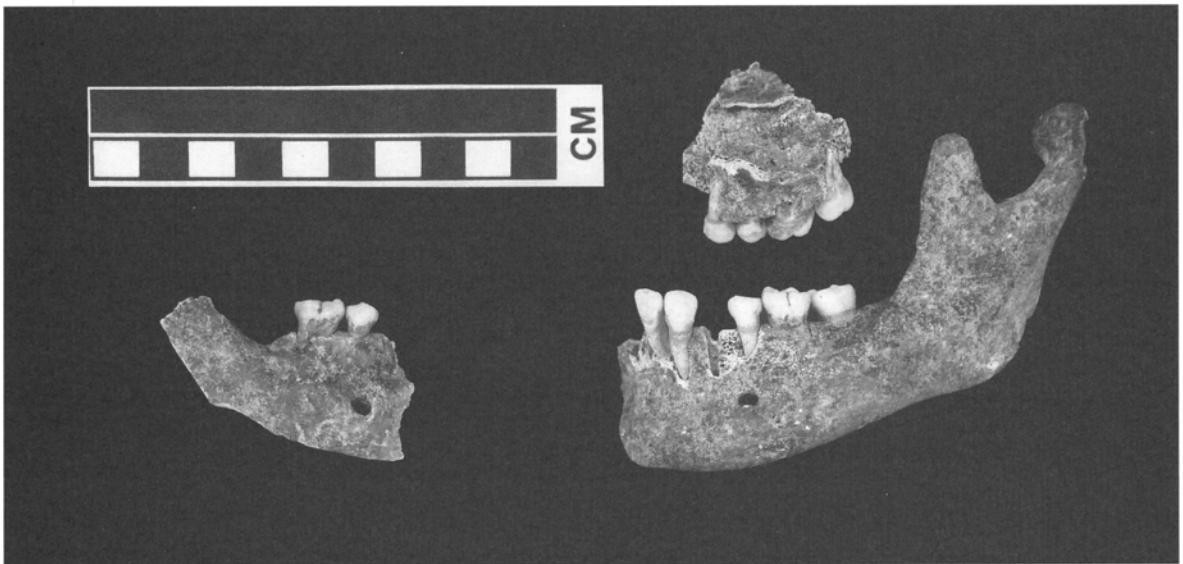


写真5 6区4号墓坑出土人骨
[左：下顎骨右、右上：左上顎骨、右下：下顎骨左]

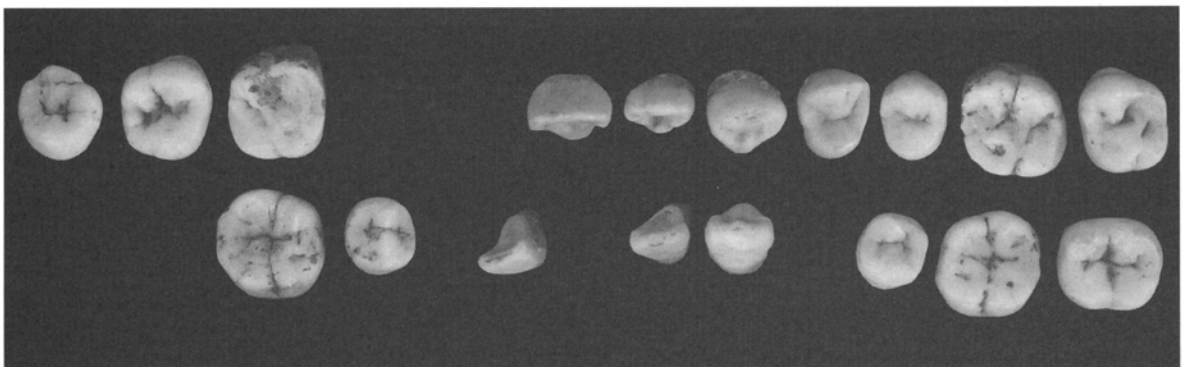


写真6 6区4号墓坑出土歯

右上		左上
	M3 M2 M1	I1 I2 C P1 P2 M1 M2
	M1 P2	I1 I2 C P2 M1 M2
右下		左下

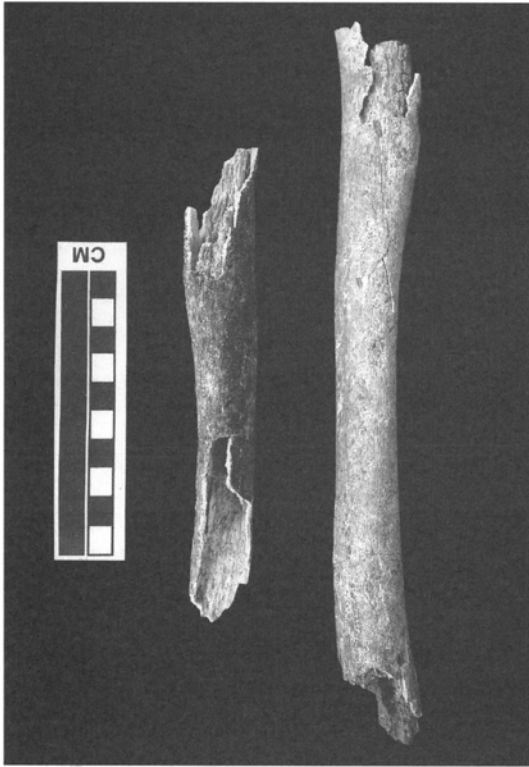
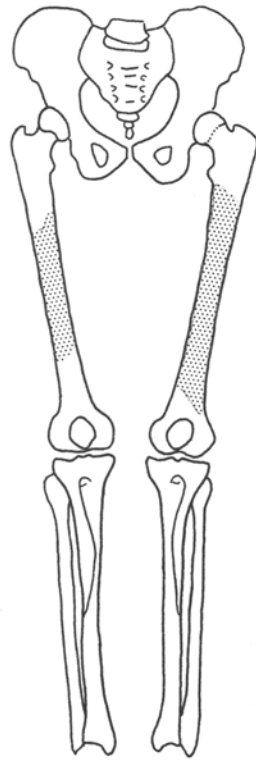


写真7 6区4号墓坑出土人骨
[左：右大腿骨、右：左大腿骨]



第134图 6区4号墓坑出土人骨出土部位

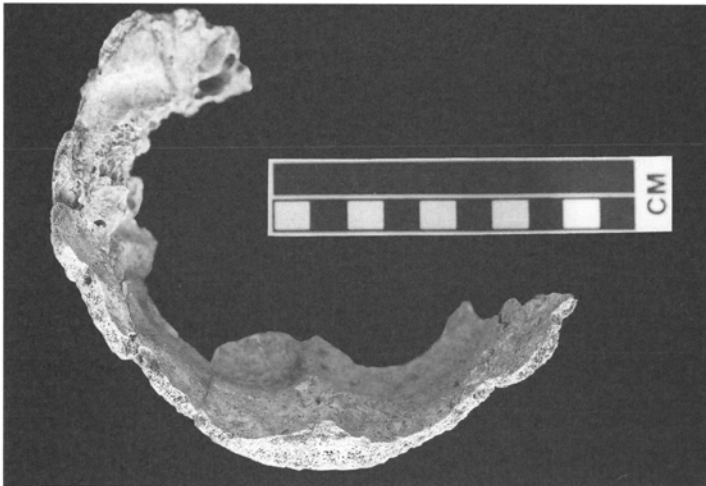
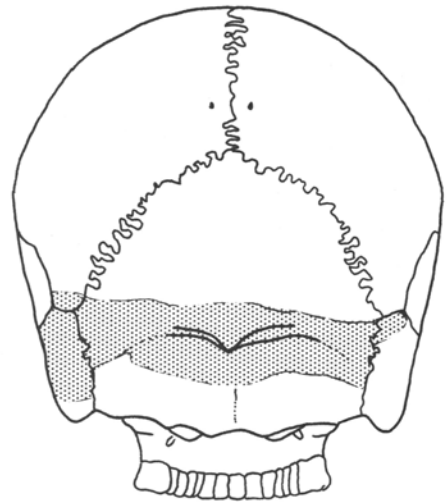


写真8 6区4号墓坑出土人骨
[後頭骨・左側頭骨上面観]



第135图 6区4号墓坑出土人骨出土部位

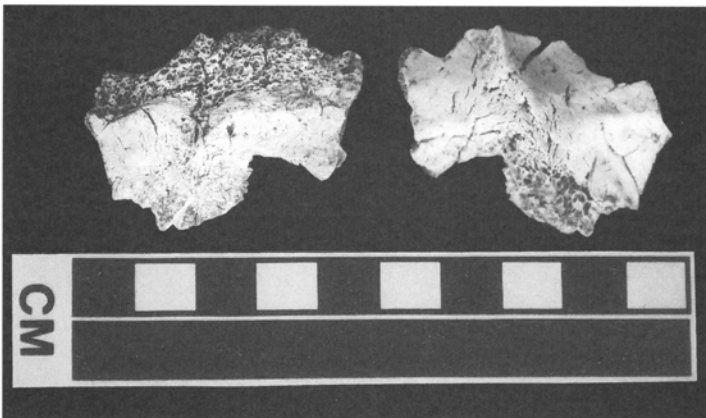
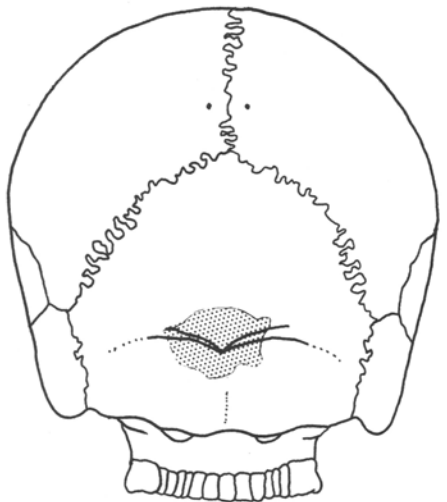


写真9 7区51号土坑出土火葬人骨
[左：後頭骨外面観、右：後頭骨内面観]



第136图 7区51号土坑出土火葬人骨出土部位



写真10 7区2号井戸馬齒出土状況

第24表 菅谷石塚遺跡出土馬齒計測値

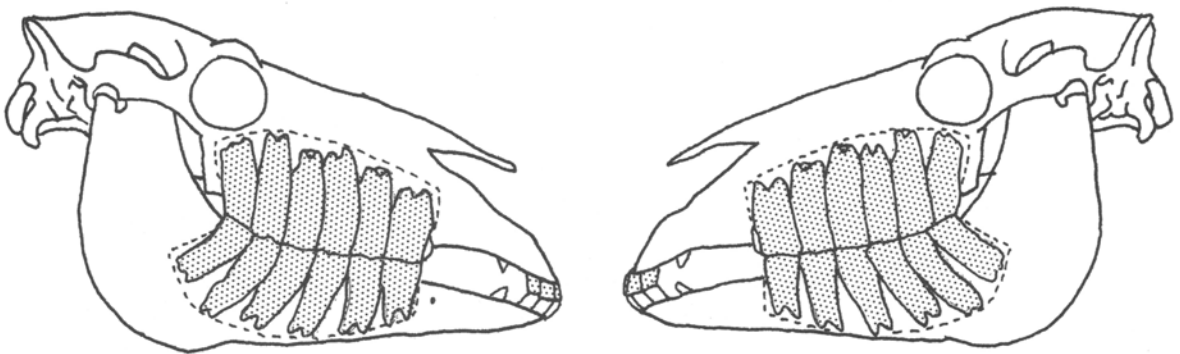
	齒種	齒冠長		齒冠幅	
		右	左	右	左
上	P 2	37mm	38mm	25mm	24mm
	P 3	27mm	28mm	26mm	26mm
	P 4	27mm	27mm	24mm	24mm
顎	M 1	30mm	30mm	25mm	24mm
	M 2	30mm	30mm	25mm	24mm
	M 3	26mm	27mm	20mm	20mm
下	P 2	31mm	31mm	14mm	14mm
	P 3	29mm	29mm	14mm	15mm
	P 4	28mm	29mm	13mm	13mm
顎	M 1	29mm	29mm	12mm	12mm
	M 2	30mm	29mm	14mm	14mm
	M 3	29mm	28mm	11mm	11mm



写真11 7区2号井戸出土馬齒右側頰側面觀



写真12 7区2号井戸出土馬齒左側頰側面觀



第137図 7区2号井戸出土馬齒出土部位

版 图

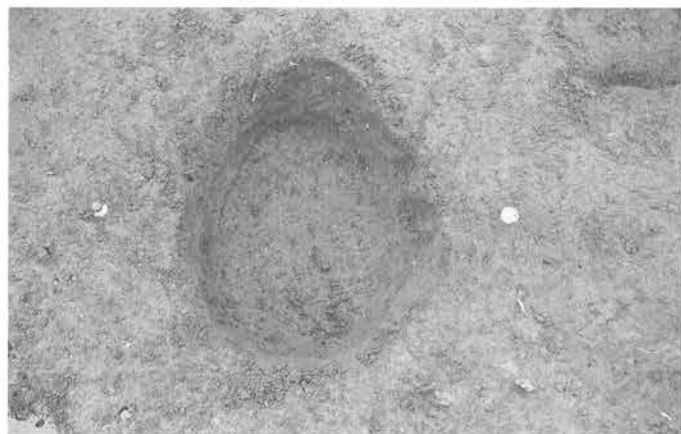


遺跡地遠景 S→



遺跡地近景 S→

PL. 2 縄文時代～古墳時代中期の遺構



6区43号土坑 E→



6区44号土坑 E→



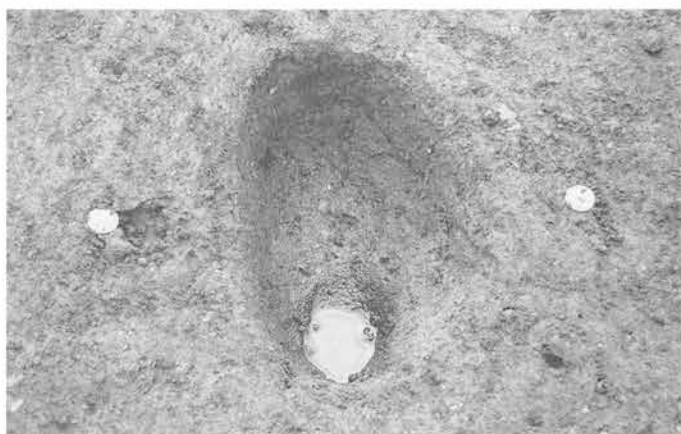
6区45号土坑 E→



6区46号土坑 E→



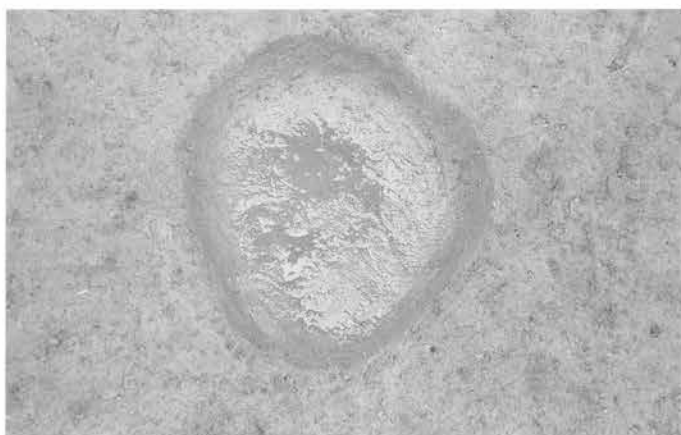
6区47号土坑 E→



6区48号土坑 E→



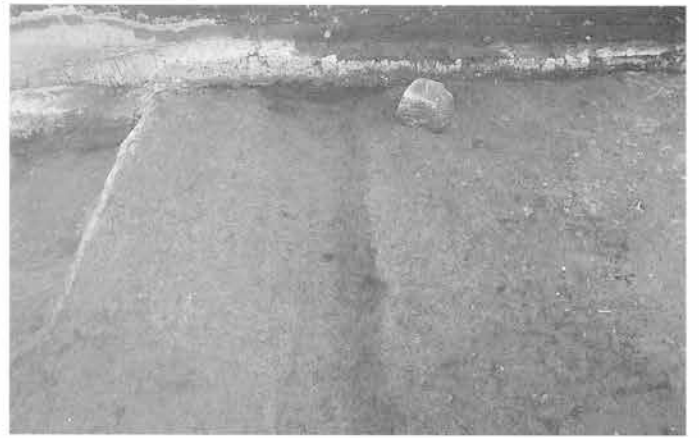
6区49号土坑 E→



6区50号土坑 E→



1区5号溝 E→



2区20号溝 S→



2区21号溝 N→



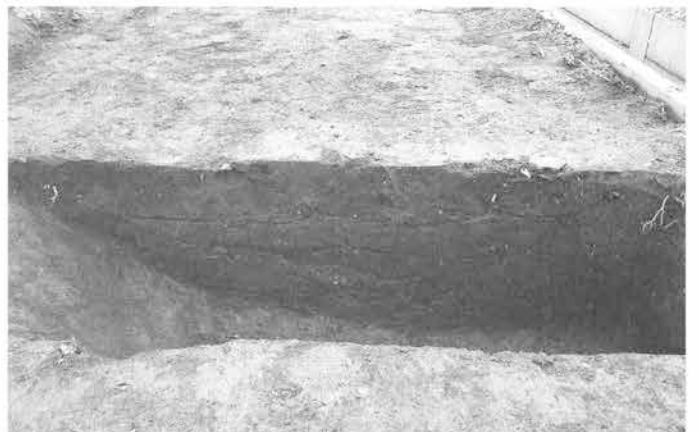
1区7号溝 N→



2区12号溝 垂直



2区12号溝 N→



2区12号溝断面① N→



3区11号溝 NE→



3区11号溝 E→



3区11号溝中間部分 S→



3区11号溝南部分 E→



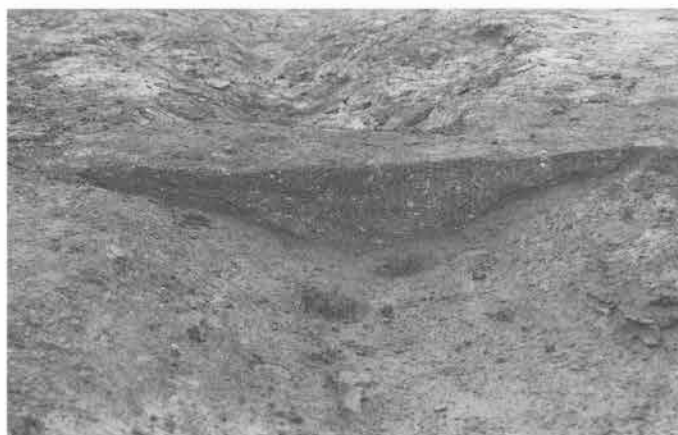
3区11号溝断面① E→



3区11号溝断面② S→



3区12号溝 N→



3区12号溝断面 N→



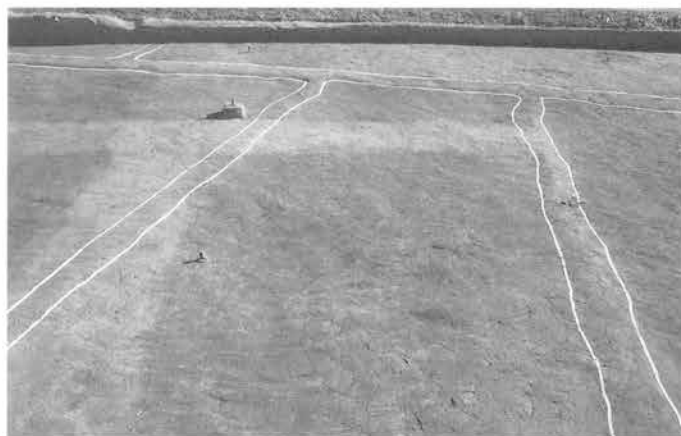
2区Ⅵ (As-C) 層下水田 垂直



2区Ⅵ (As-C) 層下水田 W→



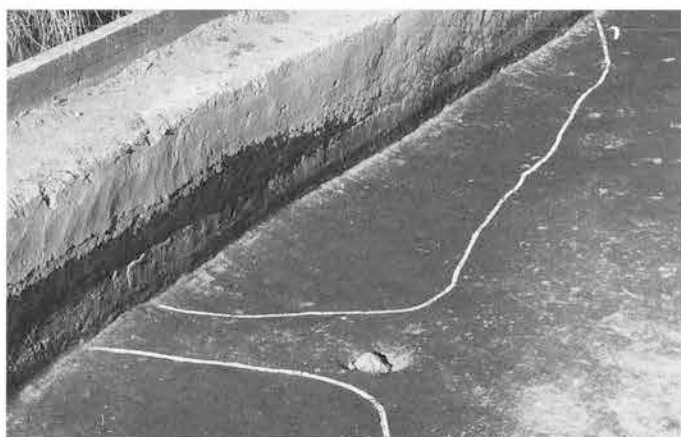
2区VI (As-C) 層下水田近景 S→



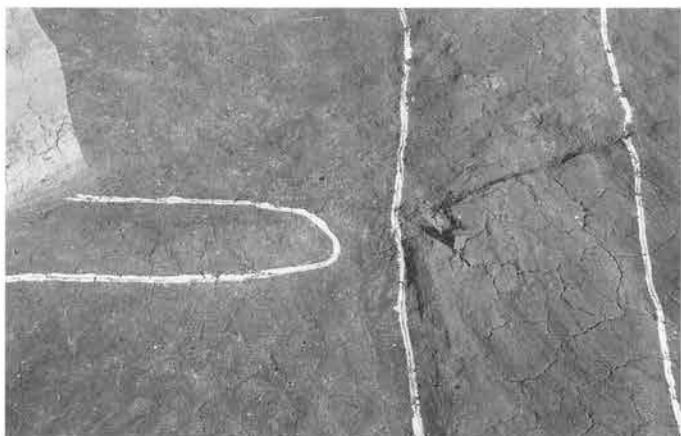
2区VI (As-C) 層下水田近景 W→



2区VI (As-C) 層下水田近景 W→



2区VI (As-C) 層下水田近景 S→



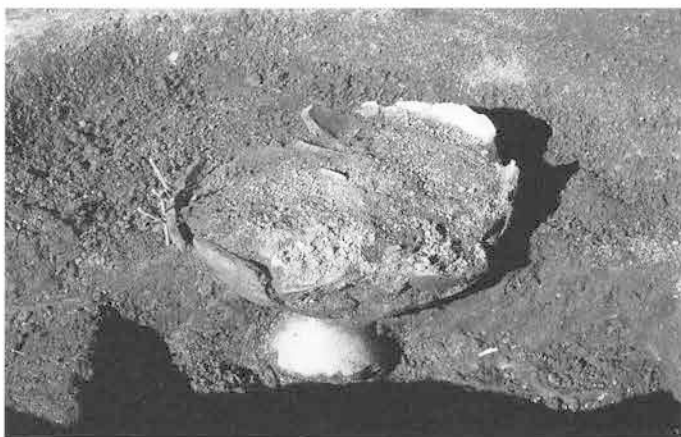
2区VI (As-C) 層下水田水口 S→



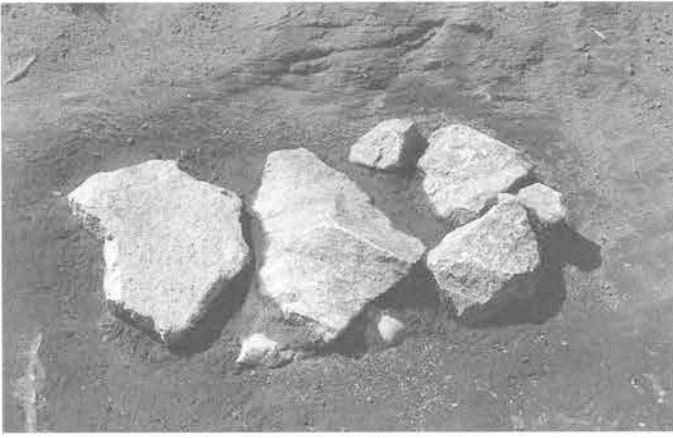
5区遺構外出土遺物 出土状態



5区遺構外出土遺物 出土状態



5区遺構外出土遺物 出土状態



2区1号墓坑検出状態 S→



2区1号墓坑 S→



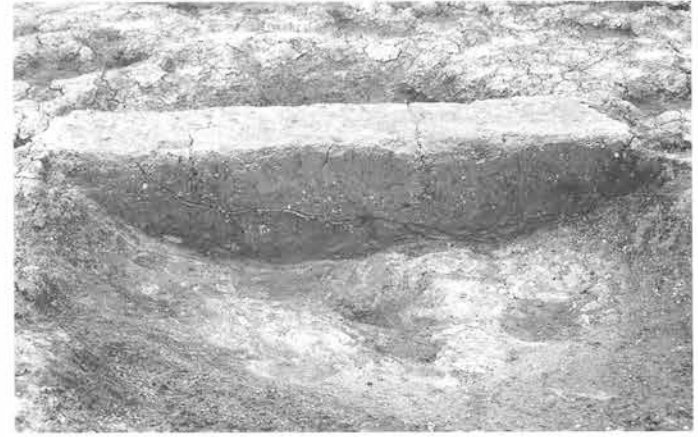
2区1号墓坑 E→



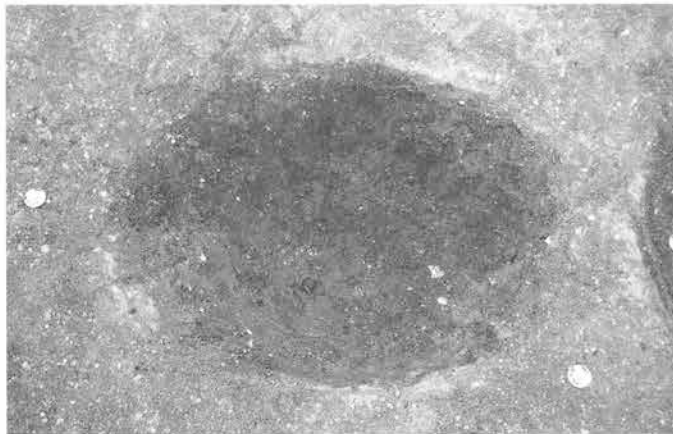
2区1号墓坑掘方 E→



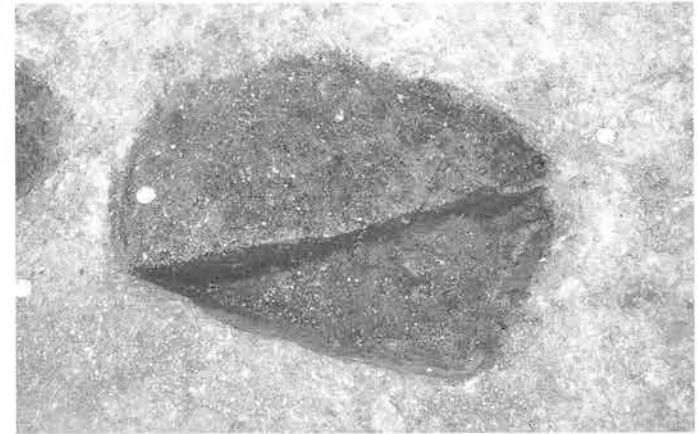
3区22号土坑 S→



3区22号土坑断面 S→



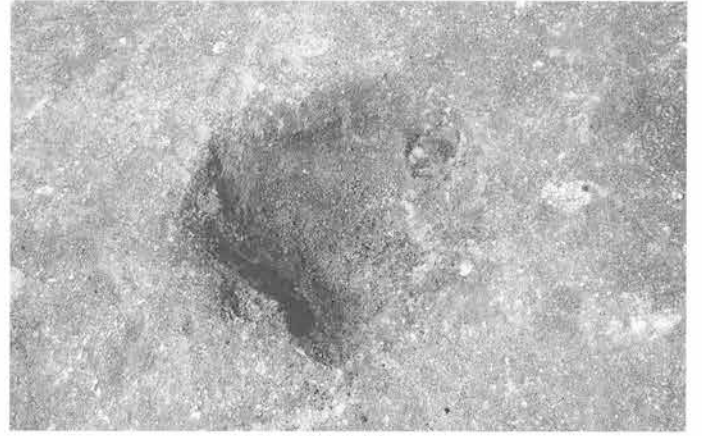
3区23号土坑 S→



3区24号土坑 S→



5区4号土坑 W→



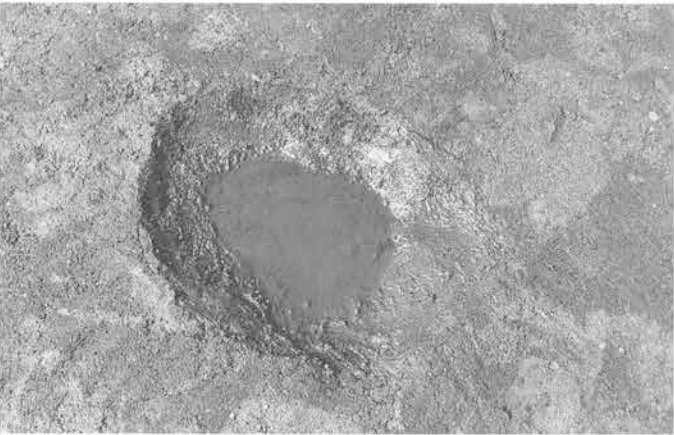
5区5号土坑 E→



5区6号土坑 E→



5区7号土坑 E→



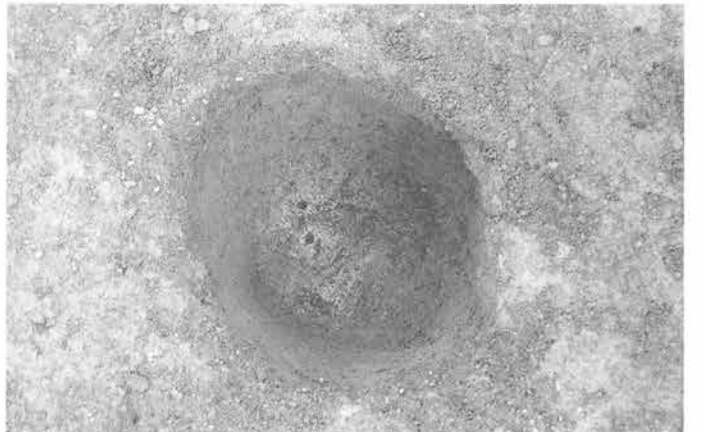
6区5号土坑 E→



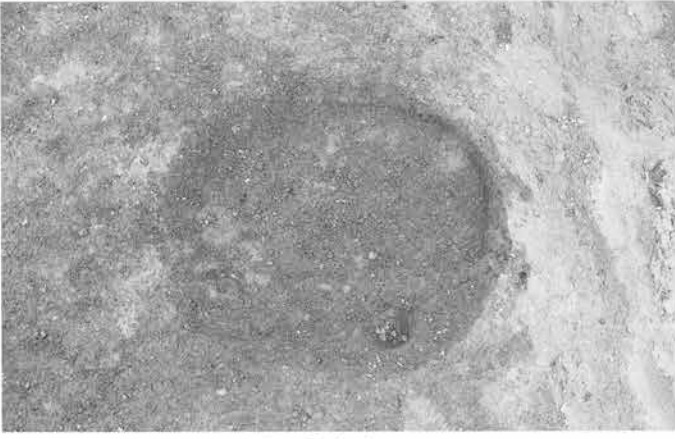
6区8号土坑 S→



6区14号土坑 E→



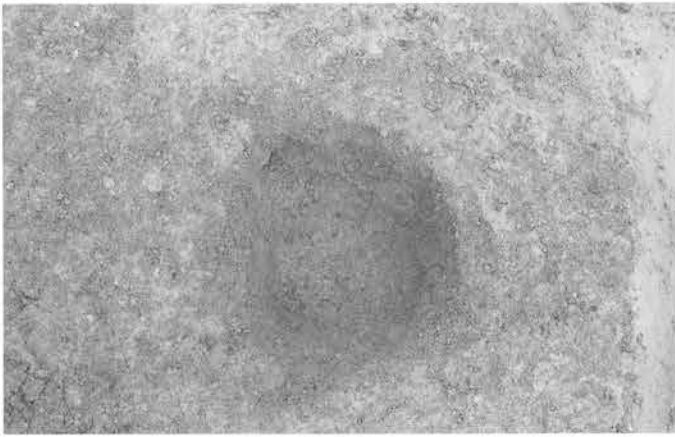
6区22号土坑 W→



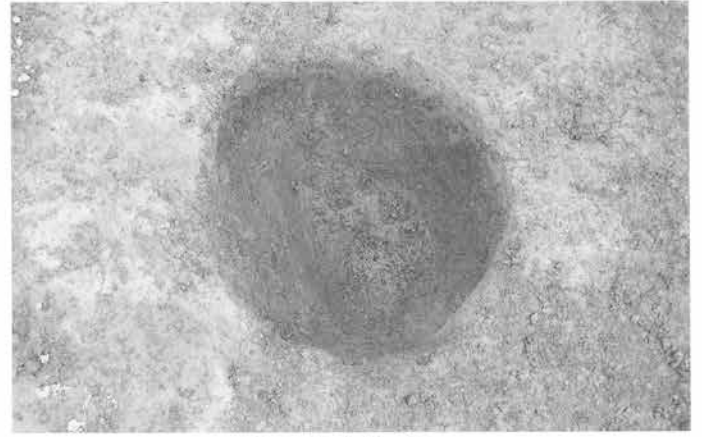
6区23号土坑 W→



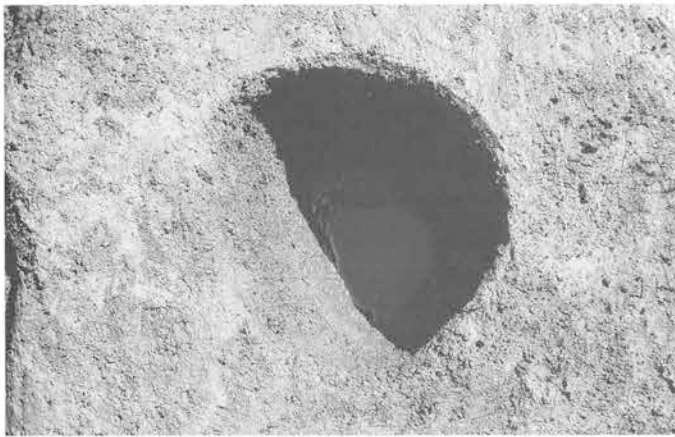
6区25号土坑 W→



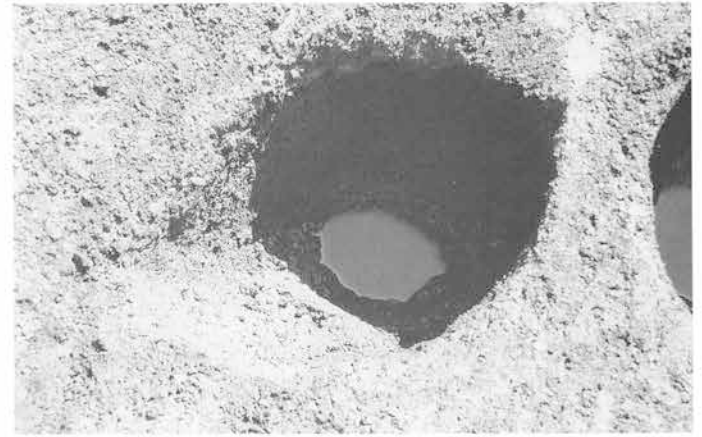
6区26号土坑 W→



6区27号土坑 W→



6区28号土坑 W→



6区29号土坑 W→



6区31号土坑 W→



6区32号土坑 W→



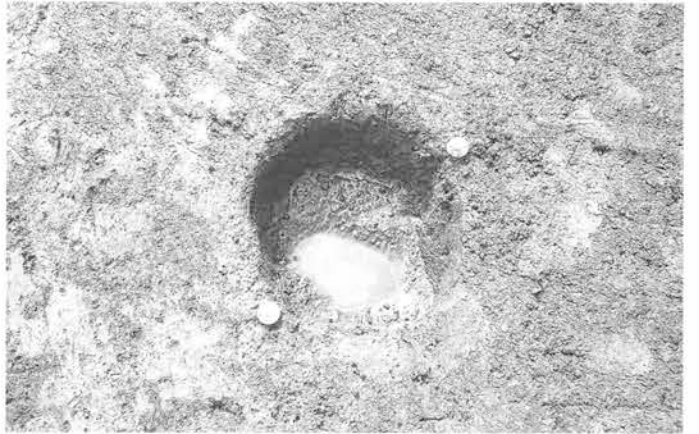
6区34号土坑 S→



6区36号土坑 S→



6区39号土坑 E→



6区40号土坑 N→



6区54号土坑 S→



6区54号土坑断面 W→



7区93号土坑 S→



7区94号土坑 S→



7区95号土坑 S→



7区96号土坑 S→



7区97号土坑 S→



7区98号土坑 S→



7区100号土坑 S→



7区101号土坑 S→



7区102号土坑 S→



7区103号土坑 S→



7区104号土坑 S→



7区107号土坑 N→



7区108号土坑 W→



7区108号土坑断面 S→



7区109号土坑 N→



7区113号土坑 E→



7区114号土坑 E→



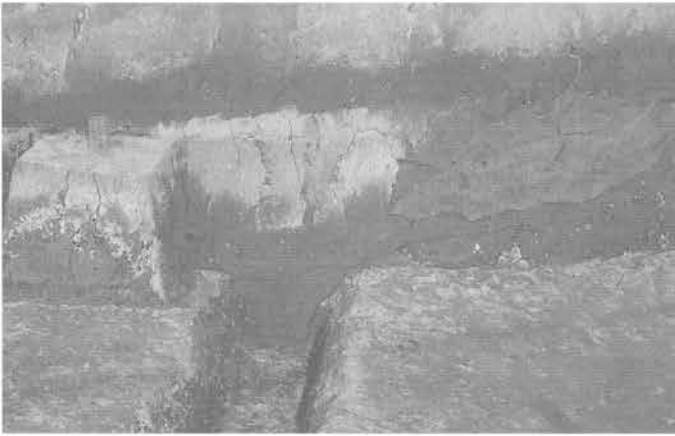
7区117号土坑 S→



1区4号沟 N→



2区14号沟 N→



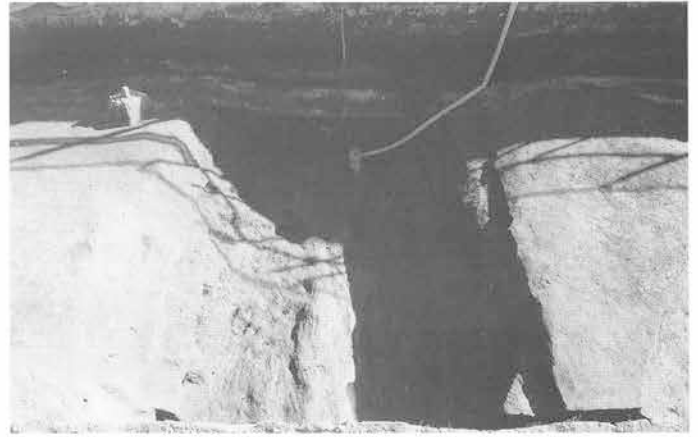
2区14号沟断面 S→



2区15号沟 N→



2区15号沟断面 S→



2区16号沟 N→



2区16号沟断面 S→



6区6号沟·7号沟 W→



6区9号溝 N→



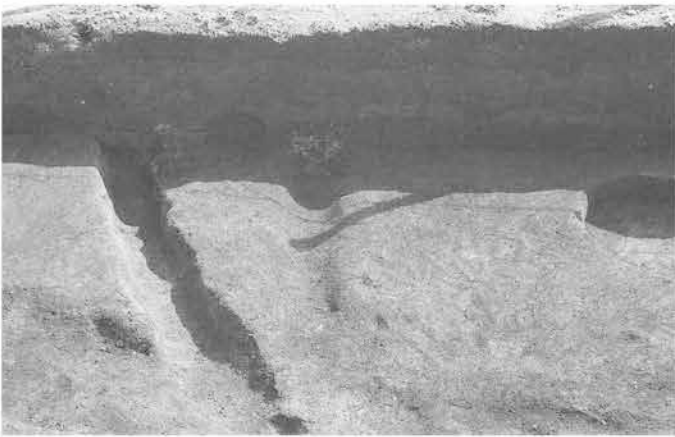
6区9号溝断面 N→



6区10号溝・11号溝 N→



6区10号溝・11号溝断面 N→



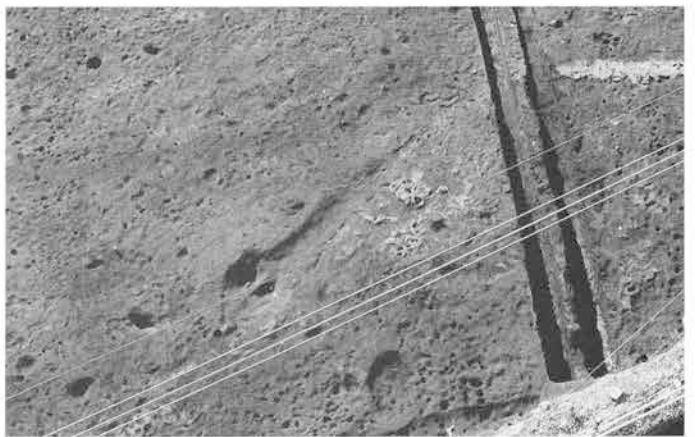
6区14号溝 N→



6区15号溝・16号溝 N→



6区15号溝断面 N→



6区23号溝 N→



7区古墳時代後期～平安時代溝群 垂直



7区古墳時代後期～平安時代溝群 N→



7区7号溝断面 W→



7区8号溝断面 S→



7区11号溝断面 E→



7区16号溝断面 E→



7区17号溝断面 E→



7区23号溝 E→



8区8号溝 W→



8区8号溝断面 W→



3区古墳時代後期～平安時代面全景 垂直



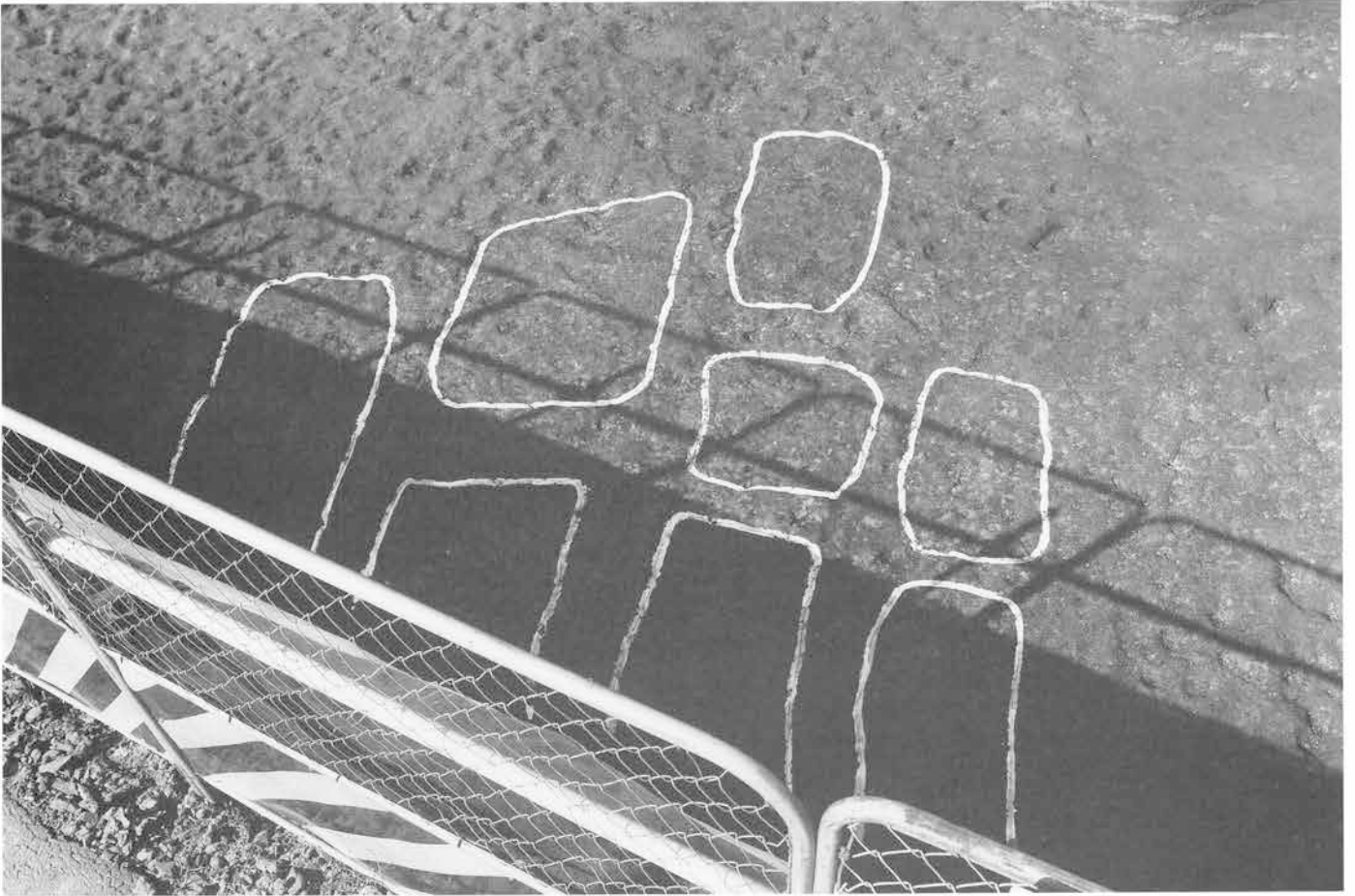
3区1号埋没河川 W→



3区1号埋没河川断面 W→



3区2号埋没河川 E→



2区東V (Hr-FA) 層下水田 S→



2区東V (Hr-FA) 層下水田 N→



2区東V (Hr-FA) 層下水田 N→



2区東V (Hr-FA) 層下水田 W→



2区東V (Hr-FA) 層下全景 W→



2区西V (Hr-FA) 層下水田 垂直



2区西V (Hr-FA) 層下水田 S→



2区V (Hr-FA) 層上水田 W→



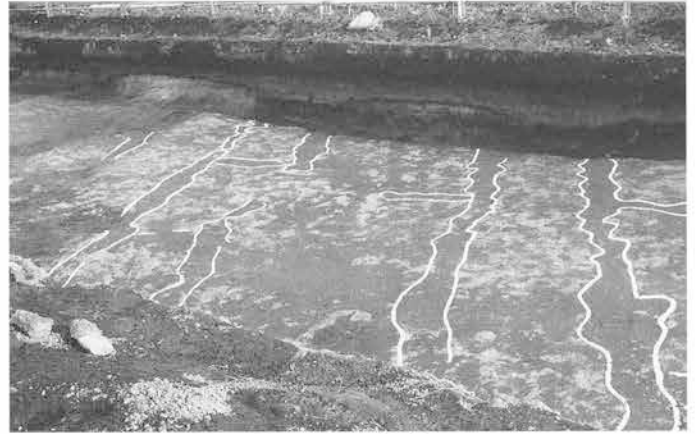
2区V (Hr-FA) 層上水田 N→



2区V (Hr-FA) 層上水田 W→



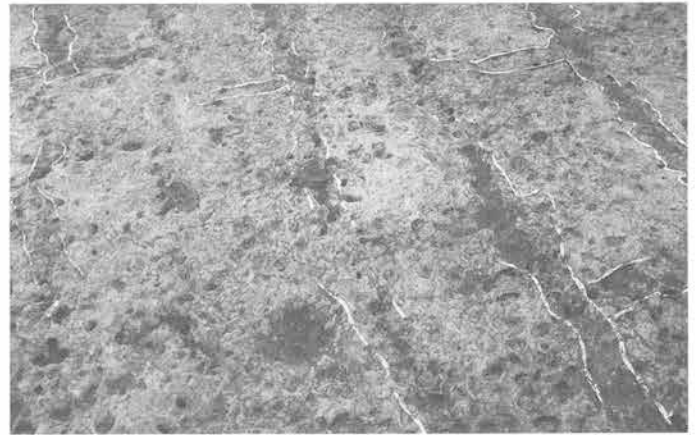
2区V (Hr-FA) 層上水田 N→



2区V (Hr-FA) 層上水田 N→



2区V (Hr-FA) 層上水田 N→



2区V (Hr-FA) 層上水田 S→



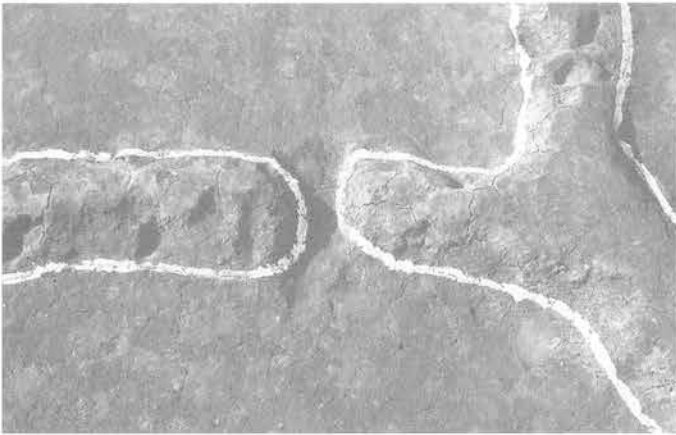
2区洪水層下水田 垂直



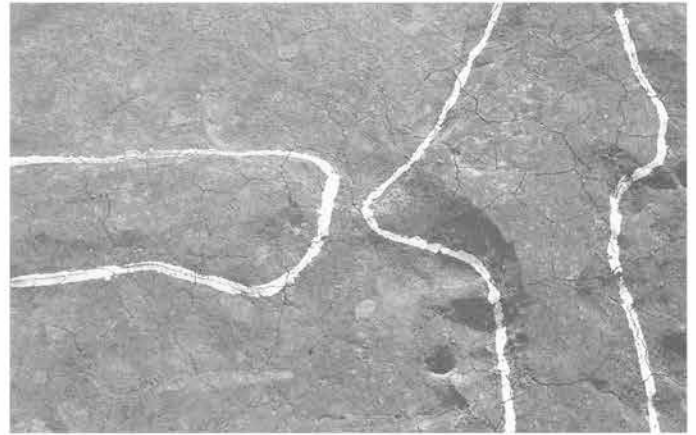
2区洪水層下水田 N→



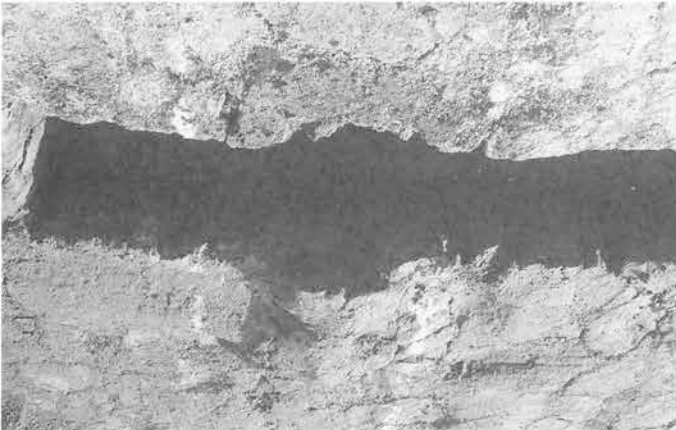
2区洪水層下水田 W→



2区洪水層下水田水口



2区洪水層下水田水口



2区洪水層下水田アゼ・耕作土断面



2区洪水層下水田アゼ・耕作土断面



2区平安時代末以降面全景 垂直



2区平安時代末以降面全景 N→



2区平安時代末以降面全景 S→



3区平安時代末以降面全景 垂直



3区平安時代末以降面全景 N→



3区平安時代末以降面全景 S→



4区平安時代末以降面全景 垂直



4区平安時代末以降面全景 N→



4区平安時代末以降面全景 S→



5区平安時代末以降面全景 垂直



5区平安時代末以降面全景 S→



5区平安時代末以降面全景 N→



6区平安時代末以降面全景 垂直



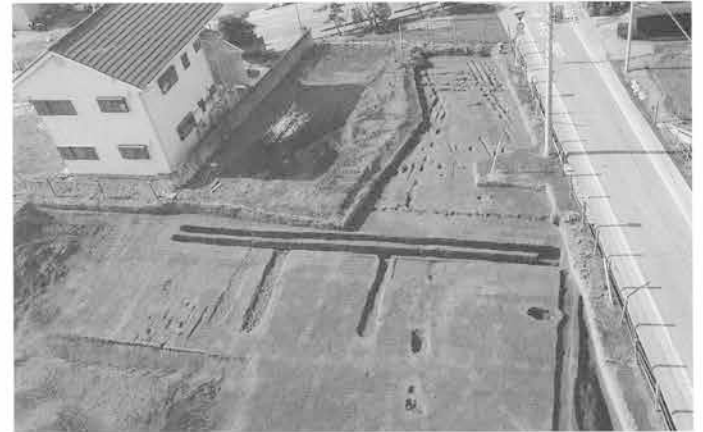
6区平安時代末以降面全景 N→



6区N平安時代末以降面全景 W→



6区S平安時代末以降面全景 垂直



6区2次平安時代末以降面全景 E→



7区平安時代末以降面全景 N→



7区平安時代末以降面全景 S→



7区・8区平安時代末以降面全景 N→



8区平安時代末以降面全景 N→



8区平安時代末以降面全景 S→



5区1号掘立柱建物 E→



7区1号掘立柱建物 S→



6区1号墓坑 S→



6区1号墓坑断面 S→



6区2号墓坑 S→



6区3号墓坑 S→



6区4号墓坑 S→



6区墓坑周边出土石塔群



2区1号土坑 S→



2区5号土坑 S→



2区7号土坑 S→



2区9号土坑 N→



2区11号土坑 W→



2区13号土坑 S→



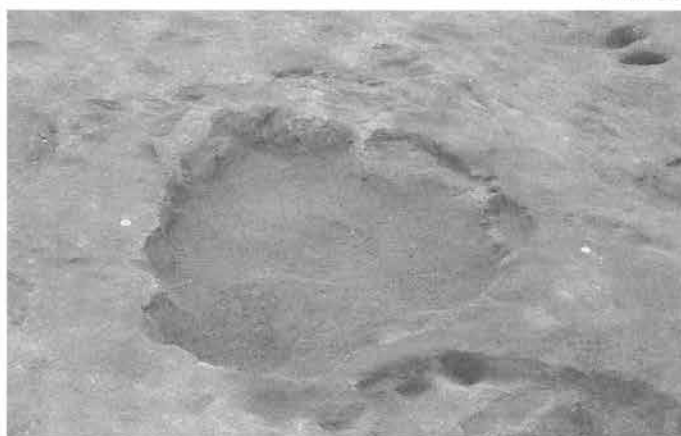
2区14号土坑 S→



2区16号土坑 S→



3区1号土坑 E→



3区4号土坑 N→



3区6号土坑 S→



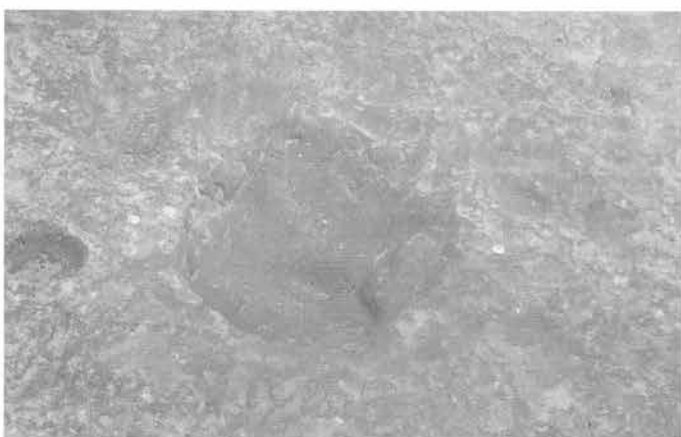
3区7号土坑 N→



3区8号土坑 W→



3区8号土坑断面 E→



3区11号土坑 W→



3区13号土坑 W→



4区3号土坑 S→



4区3号土坑断面 S→



5区1号土坑 W→



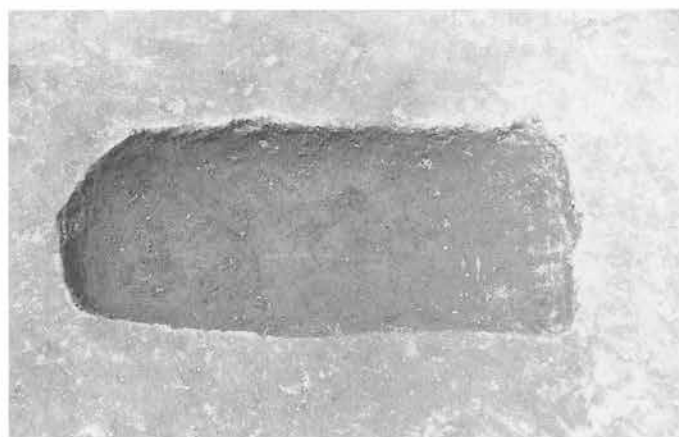
5区1号土坑断面 S→



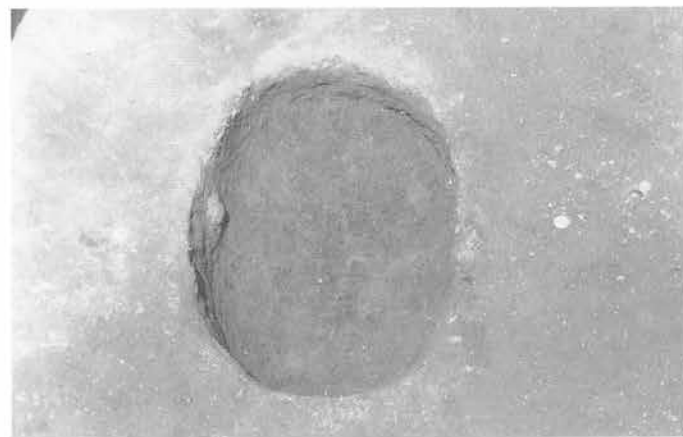
5区2号土坑 N→



6区1号土坑 S→



6区2号土坑 E→



6区3号土坑 S→



7区2号土坑 S→



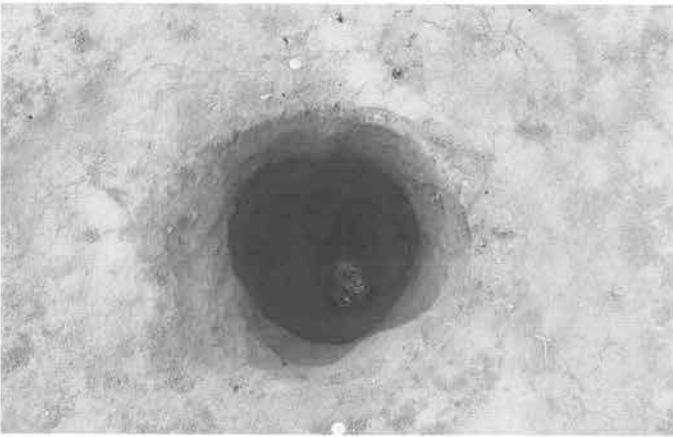
7区2号土坑断面 E→



7区5号土坑 S→



7区5号土坑断面 N→



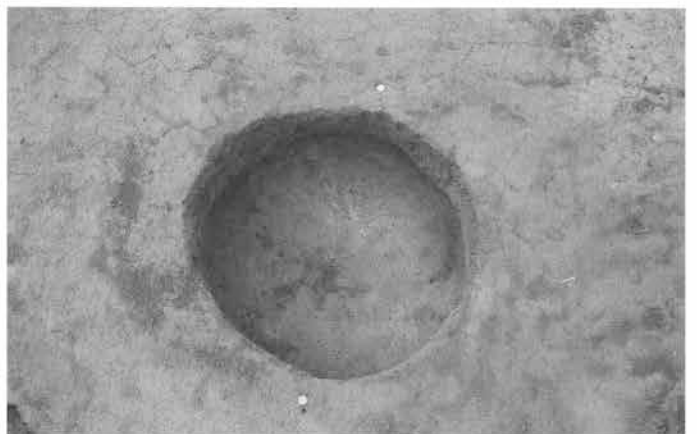
7区6号土坑 S→



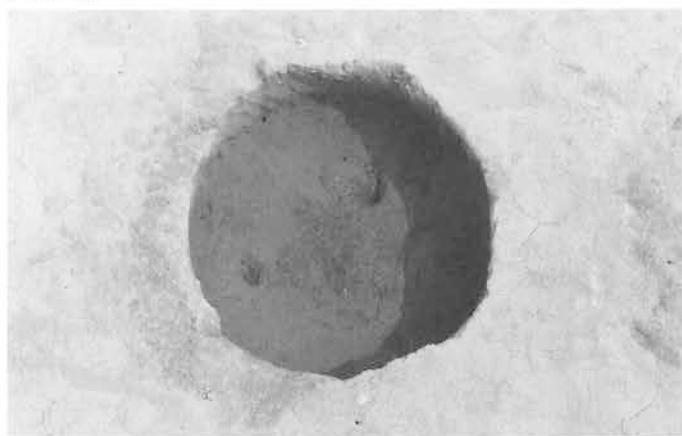
7区8号土坑 S→



7区19号土坑 S→



7区20号土坑 S→



7区22号土坑 S→



7区28号土坑 S→



7区29号土坑 S→



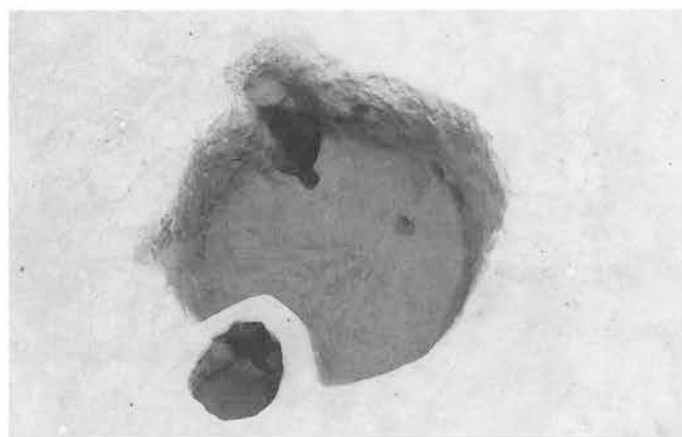
7区33号土坑 S→



7区34号土坑 S→



7区39号土坑 S→



7区47号土坑 W→



7区47号土坑断面 E→



7区51号土坑 E→



7区51号土坑断面 E→



7区53号土坑 S→



7区58号土坑 S→



7区79号土坑 S→



7区83号土坑 S→



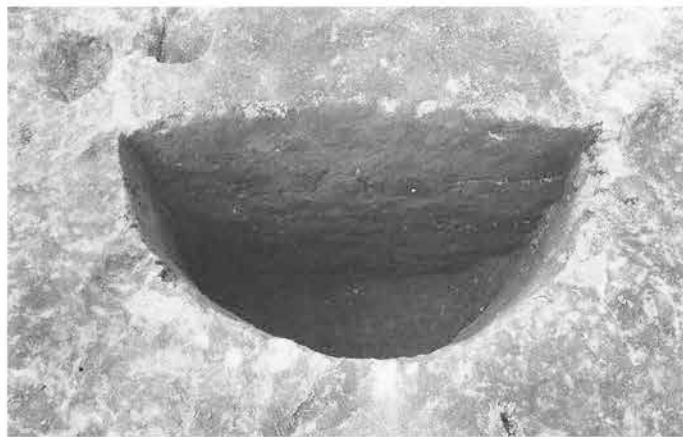
8区1号土坑 S→



8区2号土坑 S→



3区1号井戸 N→



3区1号井戸断面 E→



3区2号井戸 S→



3区2号井戸断面 S→



4区1号井戸 N→



4区1号井戸遺物出土状態 N→



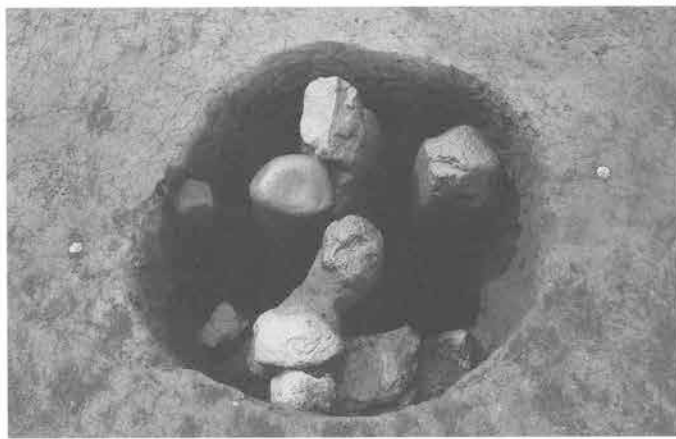
4区2号井戸 S→



4区2号井戸断面 N→



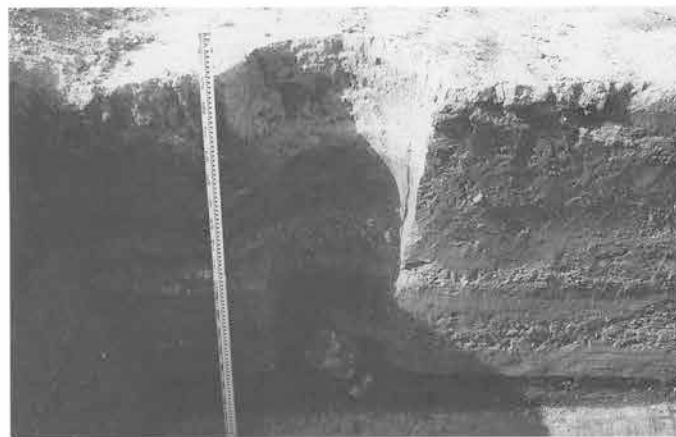
4区3号井戸 N→



4区3号井戸礫出土状態① N→



4区3号井戸礫出土状態② N→



4区3号井戸断面 S→



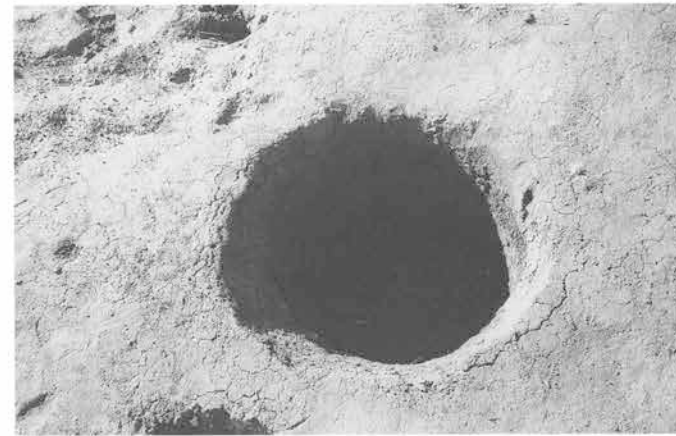
4区4号井戸 E→



4区4号井戸断面 S→



5区1号井戸断面 E→



5区1号井戸 E→



5区2号井戸断面 N→



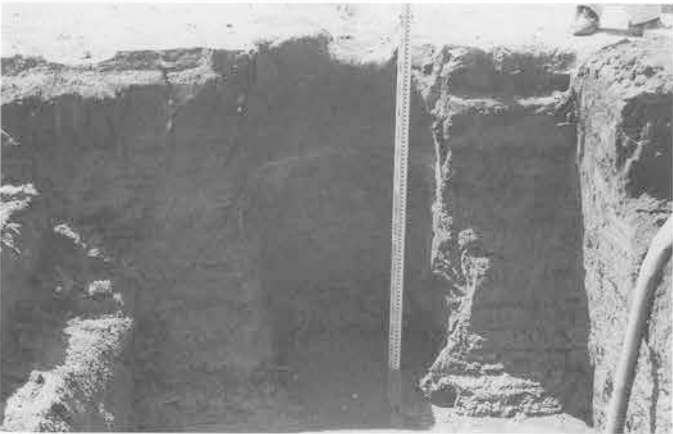
5区4号井戸 E→



7区1号井戸 S→



7区2号井戸 S→



7区3号井戸断面 N→



7区4号井戸断面 S→



5区1号池 W→



5区1号池断面 E→



2区1号道 NE→



2区1号道路面下 E→



4区1号道 N→



4区2号道断面 E→



4区2号道 E→



4区2号道・3号道 W→



4区4号道 N→



4区1号道・3号道交差部分 W→



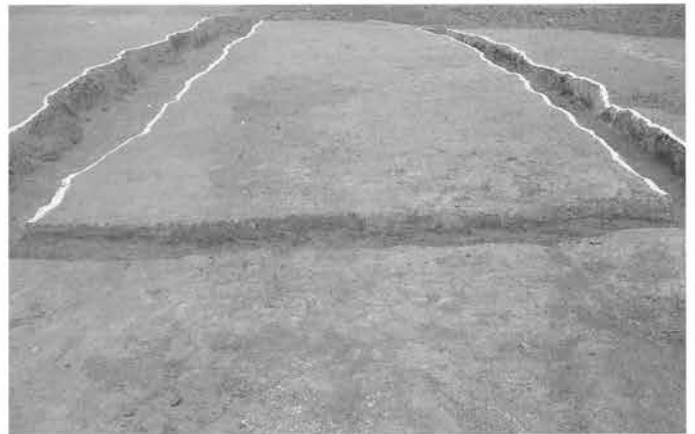
4区3号道断面 E→



4区5号道 W→



4区4号道 N→



4区4号道断面 S→



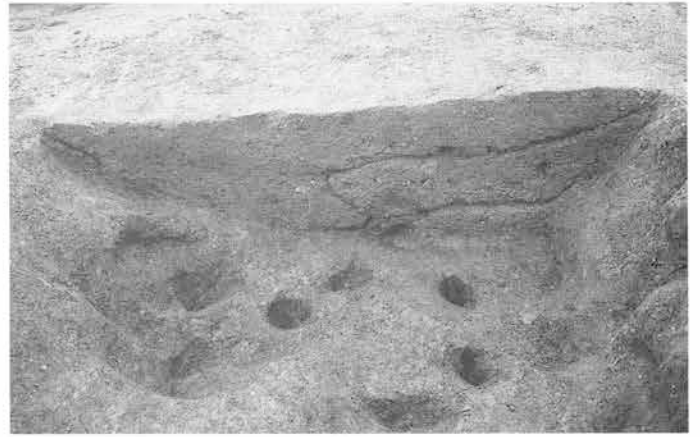
2区3号溝 S→



2区3号溝断面 S→



2区7号溝・9号溝 W→



2区7号溝断面 E→



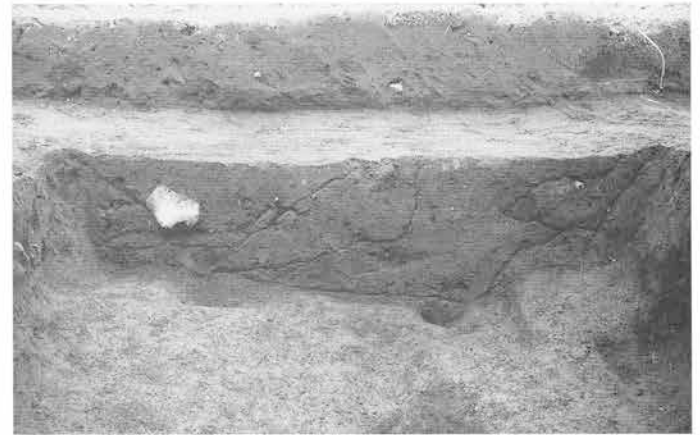
2区8号溝 S→



2区10号溝・11号溝 N→



2区10号溝断面 N→



2区11号溝断面 S→



3区1号溝 S→



3区4号溝 W→



3区5号溝断面① S→



3区5号溝断面② S→



3区7号溝 E→



3区7号溝断面 E→



4区13号溝 S→



4区13号溝断面 E→



5区1号~4号溝 E→



5区3号溝 W→



5区1号溝断面 E→



5区5号溝・6号溝 N→



5区7号溝・8号溝 N→



5区9号溝 N→



5区9号溝断面 N→



5区10号~12号溝 W→



5区14号~18号溝 N→



6区1号溝 W→



6区1号溝・22号溝 (2次部分) E→



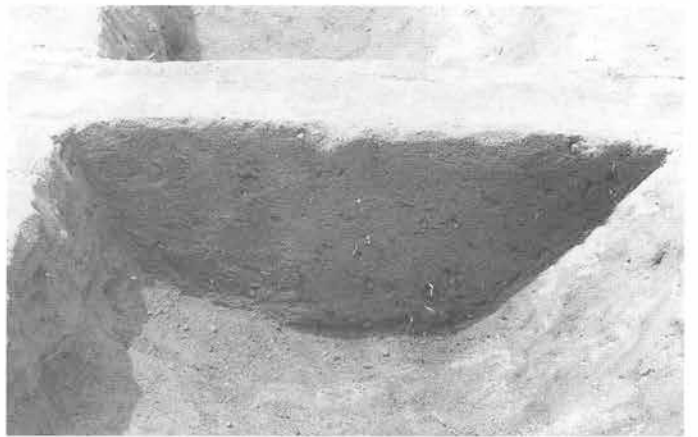
6区1号溝遺物出土状態 W→



6区1号溝断面 E→



6区2号溝 W→



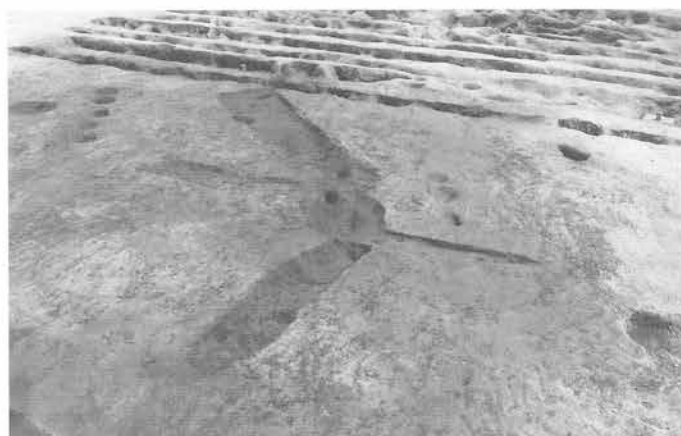
6区2号溝断面 E→



6区3号溝 N→



7区1号溝 W→



7区2号溝 N→



7区2号溝断面 W→



7区3号溝 W→



7区3号溝断面 W→



7区4号溝 W→



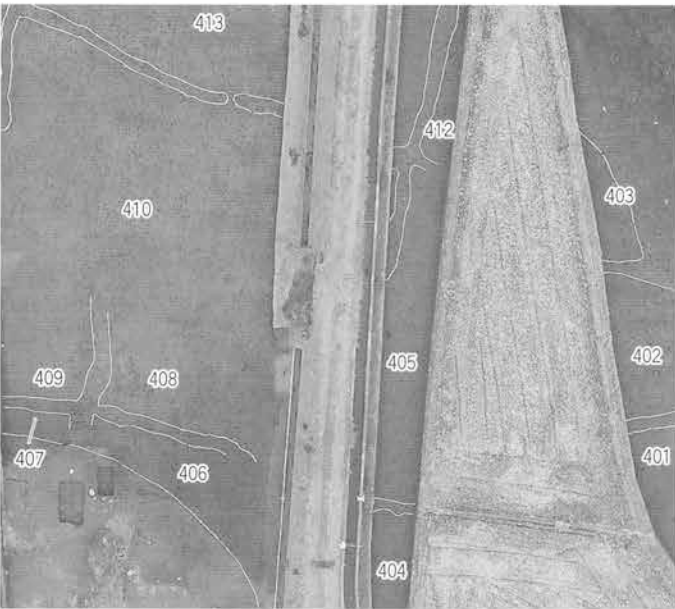
7区4号溝断面 E→



III (As-B) 層下水田 2区③



III (As-B) 層下水田 3区① (南端)



III (As-B) 層下水田 2区②



III (As-B) 層下水田 2区⑤ (北端)



III (As-B) 層下水田 2区① (南端)



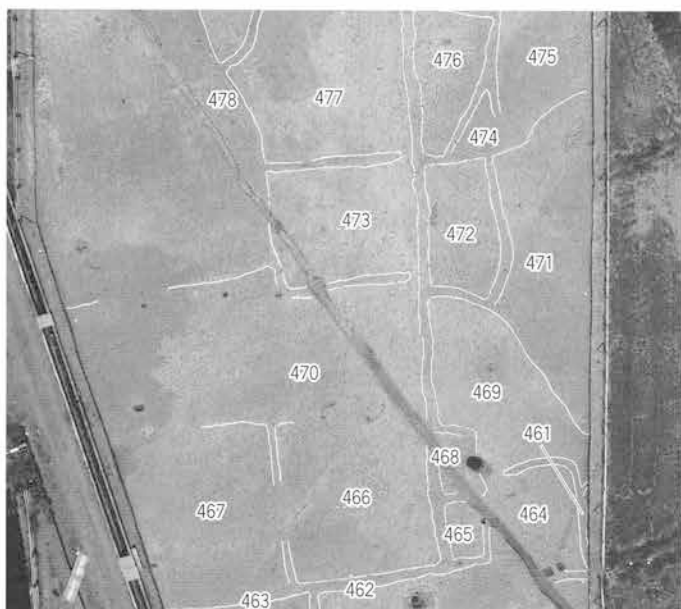
III (As-B) 層下水田 2区④



III (As-B) 層下水田 3区④ (北端)



III (As-B) 層下水田 4区③



III (As-B) 層下水田 3区③



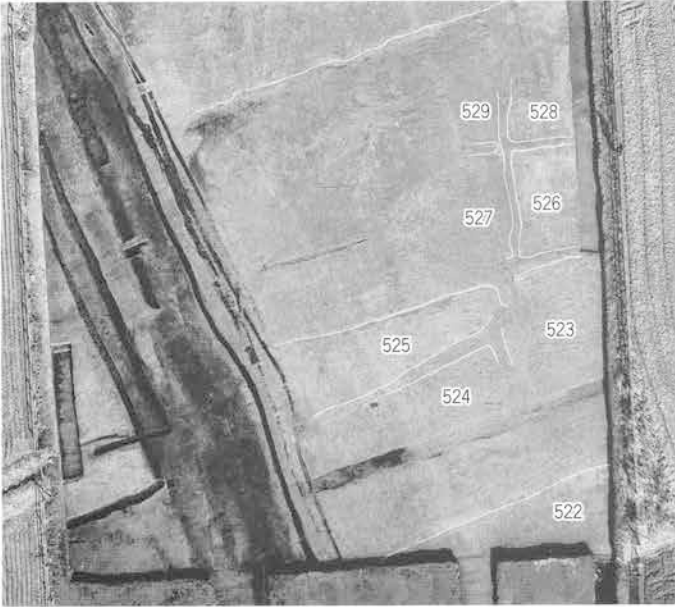
III (As-B) 層下水田 4区②



III (As-B) 層下水田 3区②



III (As-B) 層下水田 4区① (南端)



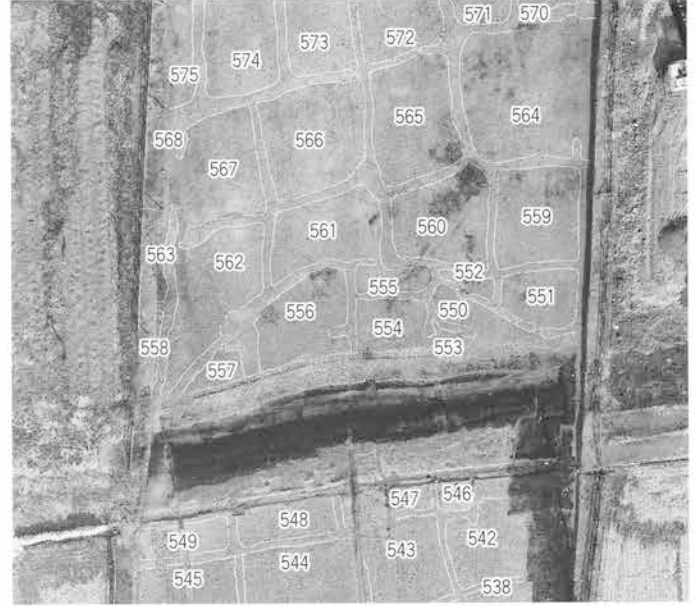
III (As-B) 層下水田 5区① (南端)



III (As-B) 層下水田 5区④ (北端)



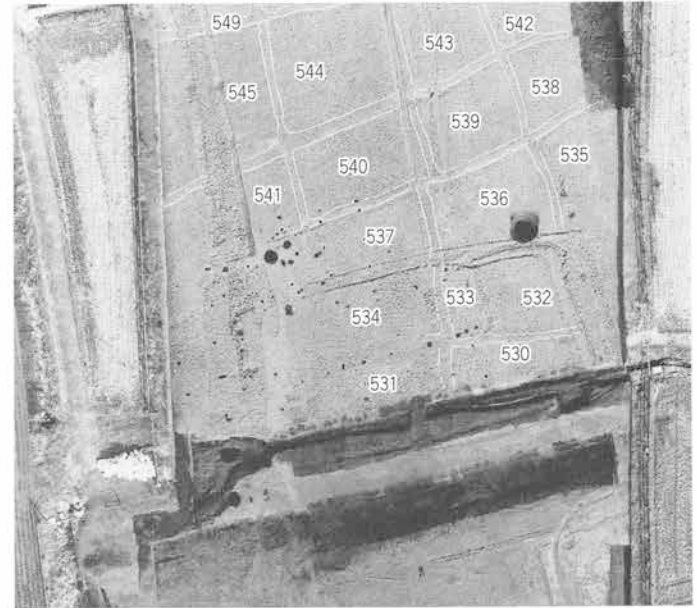
III (As-B) 層下水田 4区⑤ (北端)



III (As-B) 層下水田 5区③



III (As-B) 層下水田 4区④



III (As-B) 層下水田 5区②



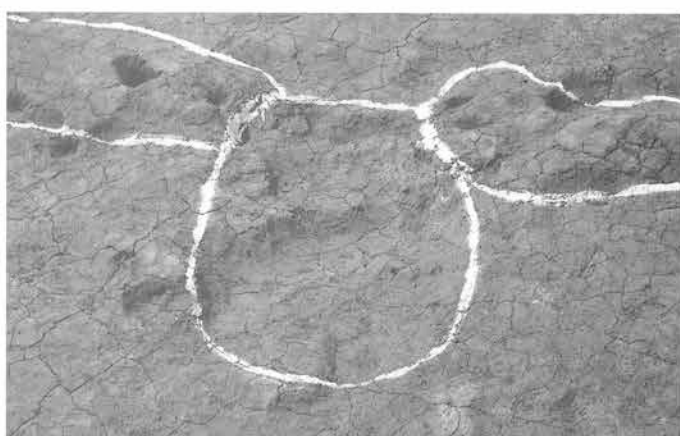
III (As-B) 層下水田 区画417→415東水口



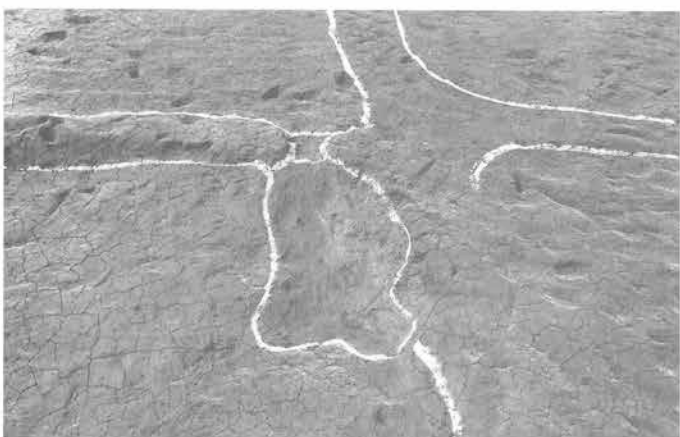
III (As-B) 層下水田 区画417→415西水口



III (As-B) 層下水田 区画415→414東水口



III (As-B) 層下水田 区画481→477水口



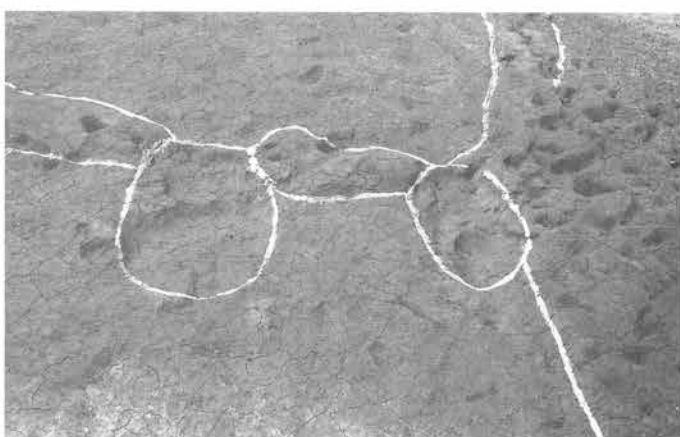
III (As-B) 層下水田 区画487→481東水口



III (As-B) 層下水田 区画487→481西水口



III (As-B) 層下水田 区画481→477水口



III (As-B) 層下水田 区画481→477水口



III (As-B) 層下水田 区画560→522→550水口



III (As-B) 層下水田 区画578→573水口



III (As-B) 層下水田 3区水路 (3区8号溝) S→



III (As-B) 層下水田 3区水路 (3区8号溝) N→



III (As-B) 層下水田 3区水路 (3区8号溝) S→



III (As-B) 層下水田 4区水路 (4区19号溝) N→



III (As-B) 層下水田 4区水路 (4区19号溝) N→



4区1号畠・2号畠 垂直



4区1号畠 N→



4区2号畠 N→



6区1号畠 SW→



6区1号畠 W→



6区2号畠 N→



6区3号畠 N→



6区3号畠 E→



6区4号畠 N→



6区4号畠 E→



6区5号畠 N→



6区5号畠 E→



7区1号畠・2号畠 N→



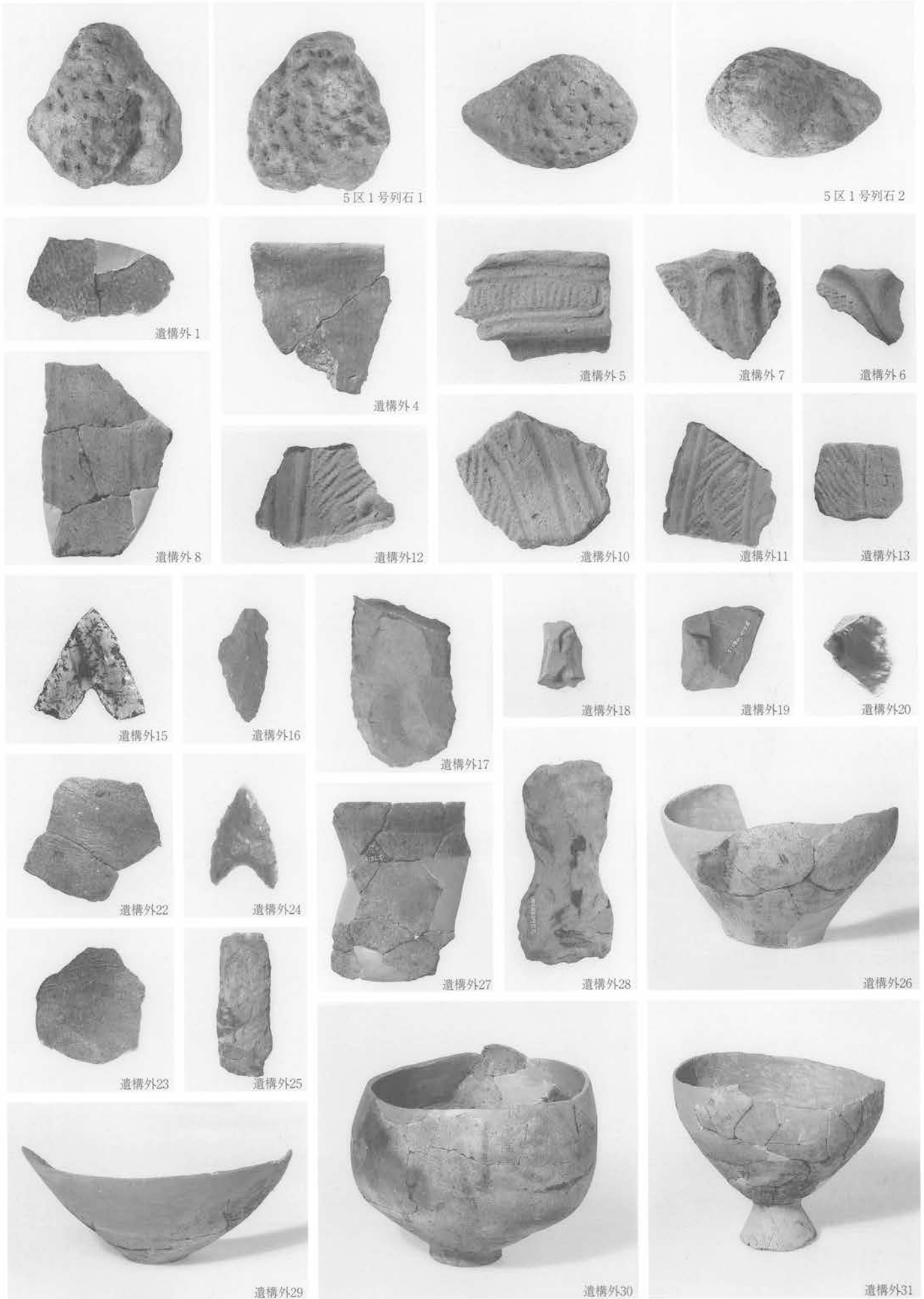
7区1号畠 W→



7区2号畠 E→

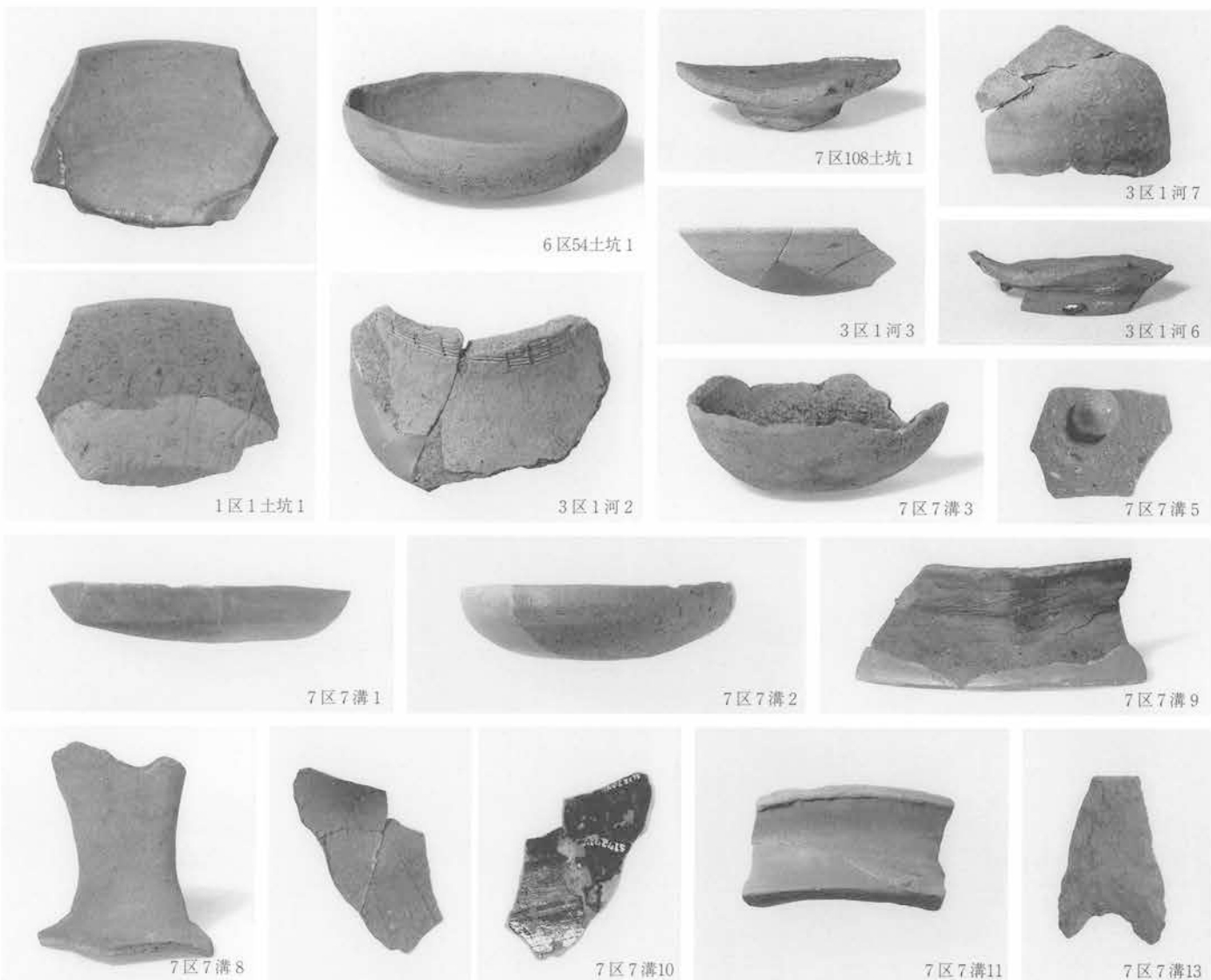


7区3号畠 S→





古墳時代後期～平安時代後期出土遺物





7区7溝12



7区8溝1



7区8溝10



7区8溝2



7区8溝14



7区8溝9



7区8溝15



7区8溝16



7区8溝19



7区8溝22



7区8溝26



7区8溝18



7区8溝27



7区8溝20



7区14溝1



8区6溝2



7区23溝1



7区8溝21



8区8溝1



7区16溝1



2区洪水層下水田1



遺構外4



遺構外6



遺構外7



遺構外10



遺構外11



遺構外17



遺構外21



遺構外15



遺構外16



遺構外22



遺構外23



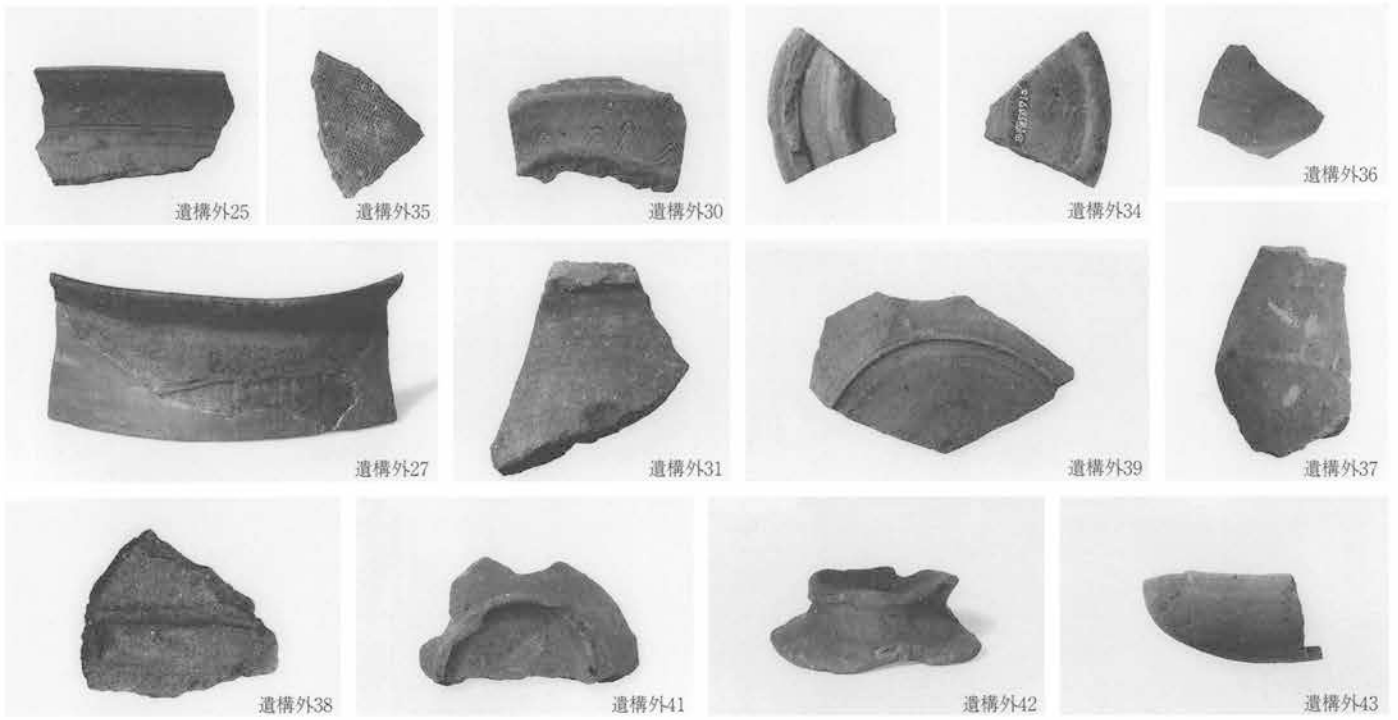
遺構外20



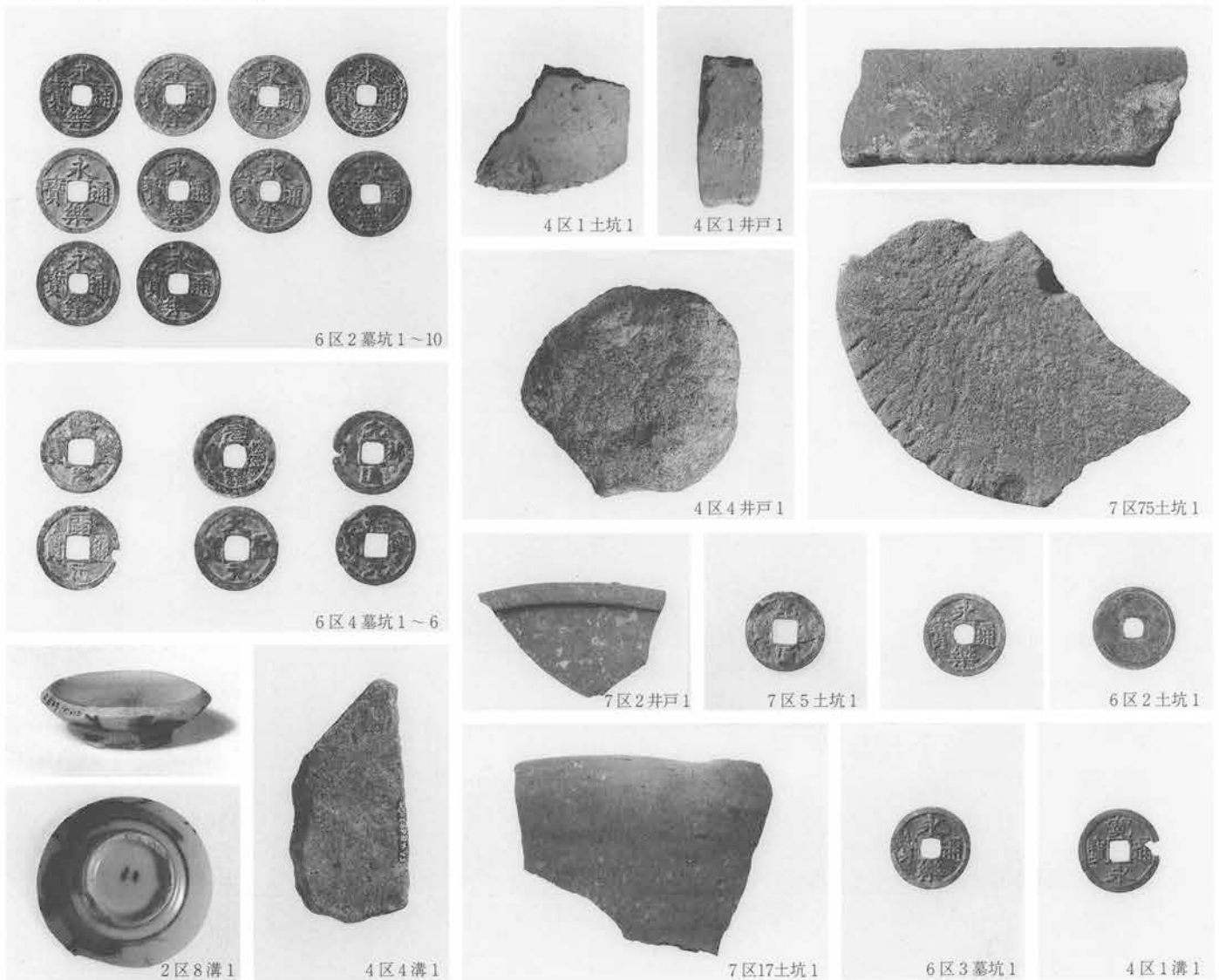
遺構外24

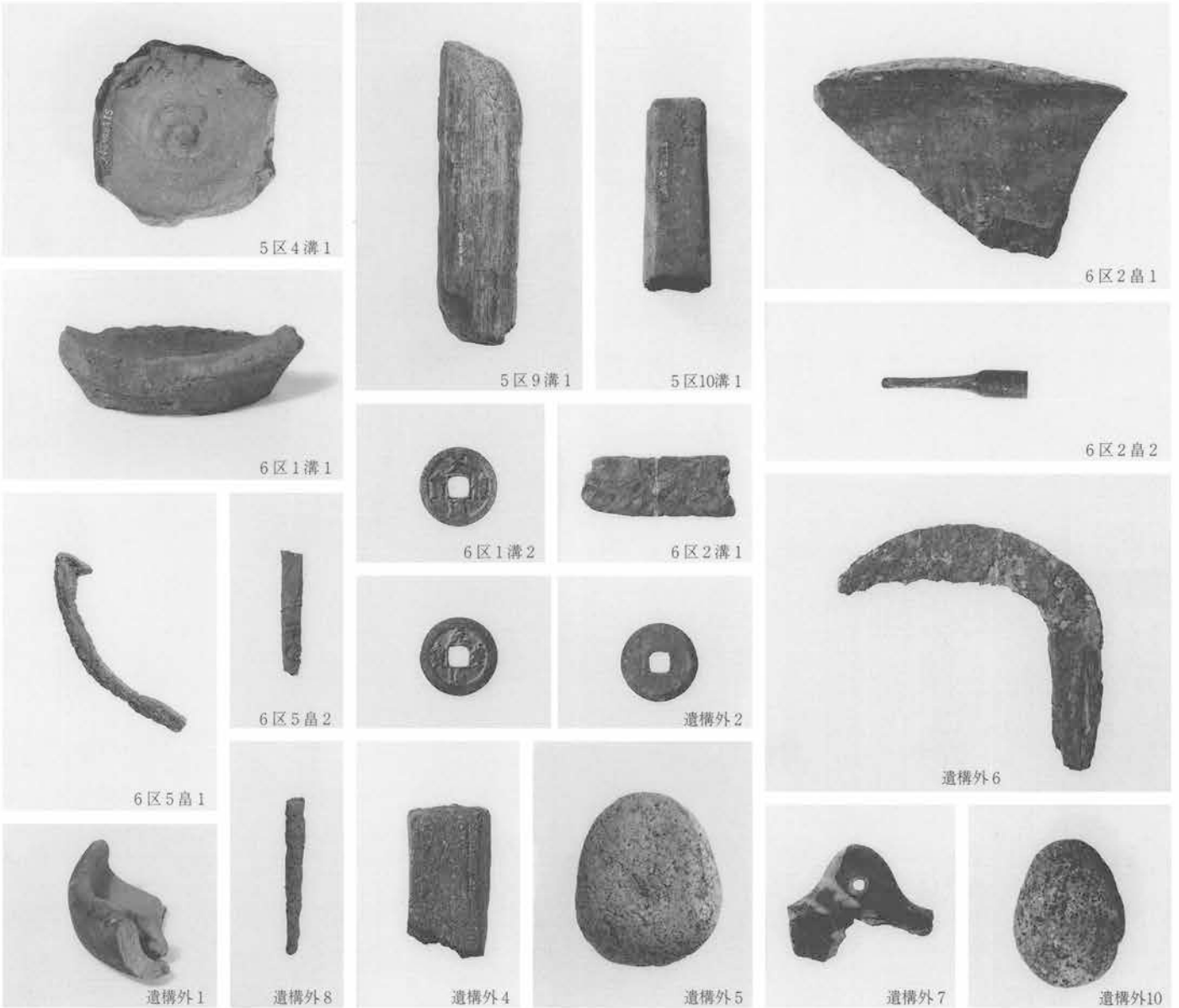


遺構外26

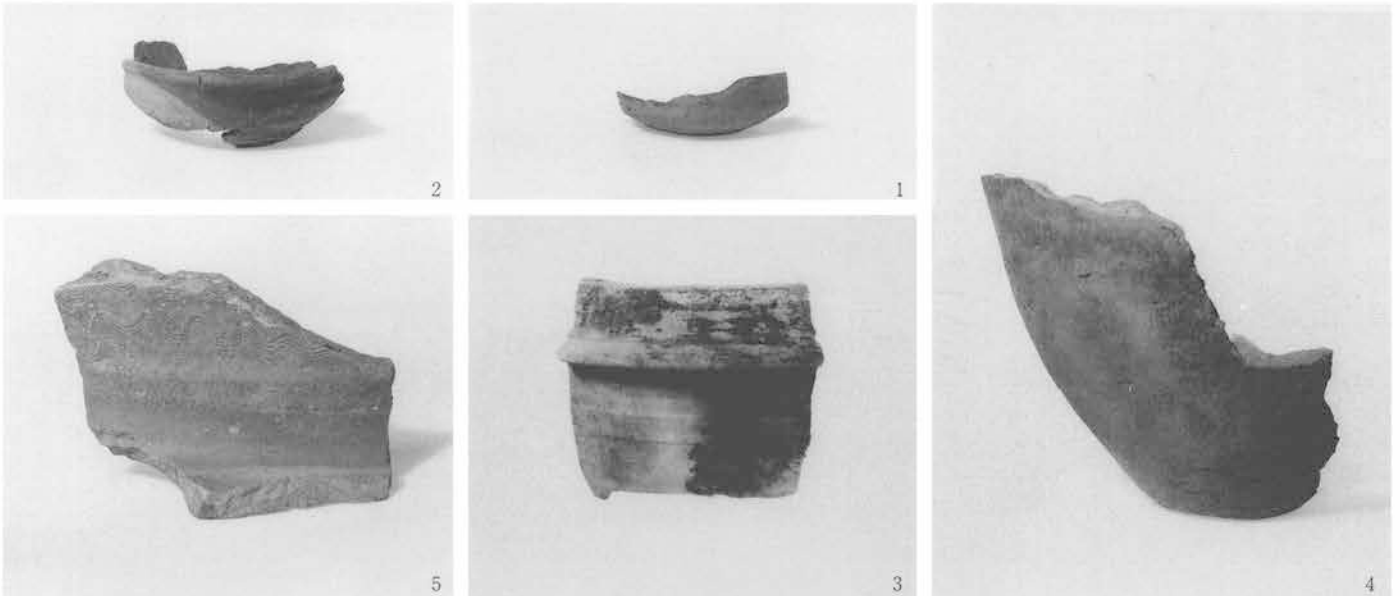


平安時代末以降出土遺物

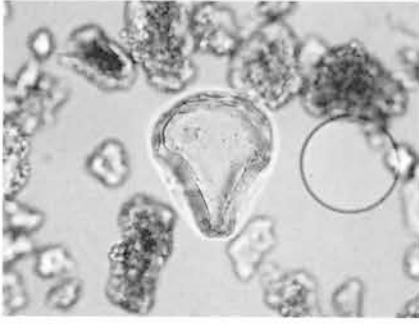




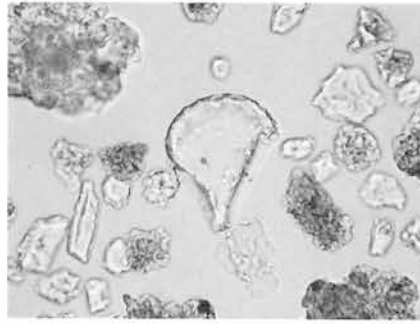
棟高東弥三郎遺跡試掘調査出土遺物



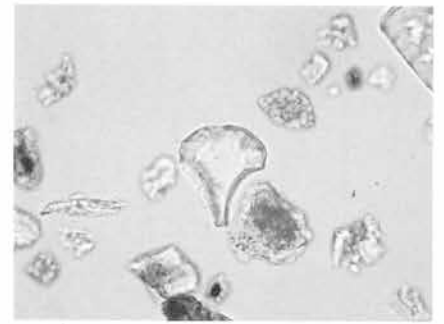
植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真（1）



イネ
OH-42 5



イネ
OH-42 5



イネ
OP-55 1



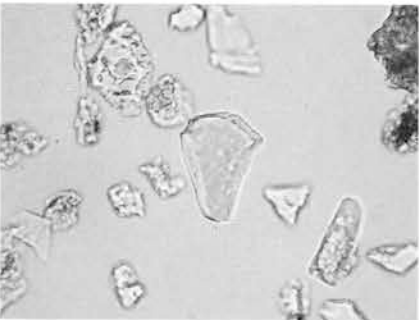
ヒエ属型
OH-42 8



キビ族型
OH-42 6



ヨシ属
OH-42 3



ウシクサ族A
OH-42 2



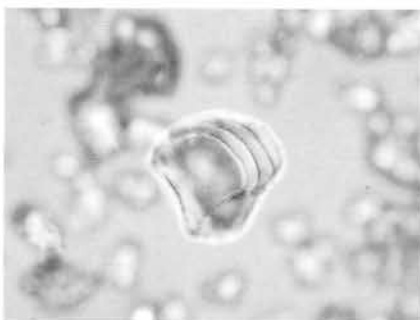
ウシクサ族B
OP-55 4



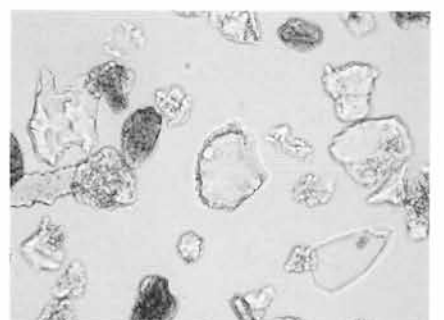
シバ属
OH-42 2



メダケ節型
OP-55 6



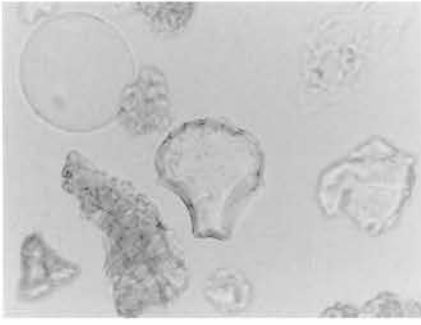
ネザサ節型
OH-42 2



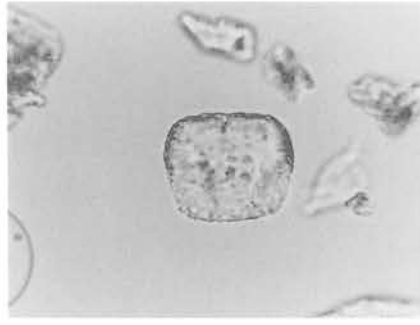
ミヤコザサ節型
6R-48 2

50 μm

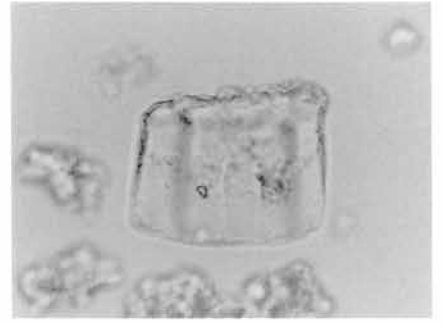
植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真（2）



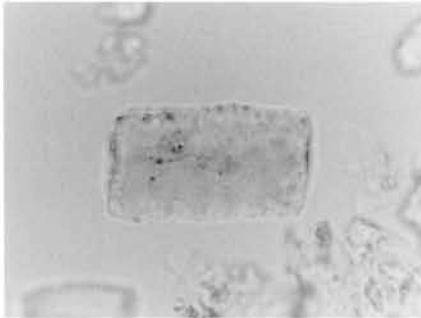
イネ
4区西壁 1



イネ（側面）
4区西壁 1



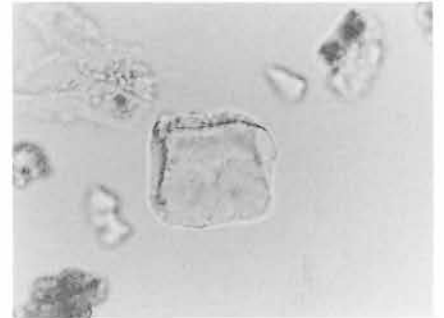
ヒエ属型
5区5J 1



キビ族型
4区西壁 3



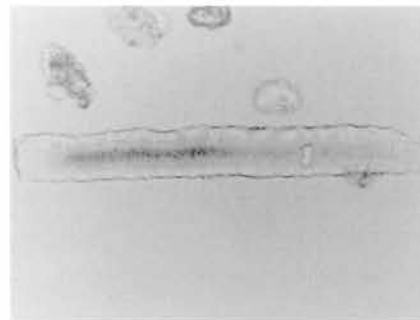
ヨシ属
4区西壁 4



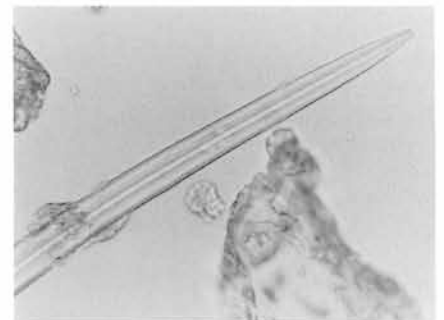
ススキ属型
4区西壁 3



ネザサ節型
4区西壁 4



棒状珪酸体
4区西壁 4



海綿骨針
4区西壁 1

50 μm

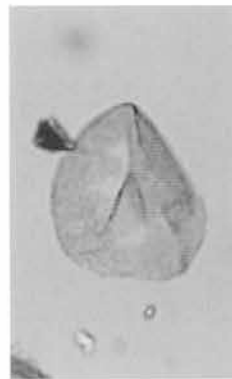
菅谷石塚遺跡の花粉



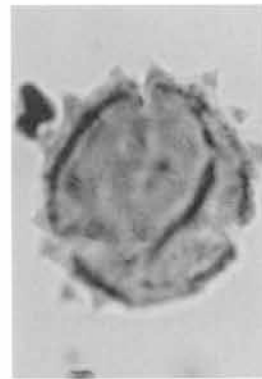
1 スギ



2 イネ科



3 カヤツリグサ科



4 キク亜科



5 ヨモギ属

10 μm

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第313集

菅谷石塚遺跡

主要地方道高崎渋川線改築（改良）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第9集

2003年3月20日 印刷

2003年3月25日 発行

発行／編集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毛新聞社出版局

菅谷石塚遺跡 付図1
 縄文時代～古墳時代中期
 遺構全体図 (S=1:400)



3A

2K

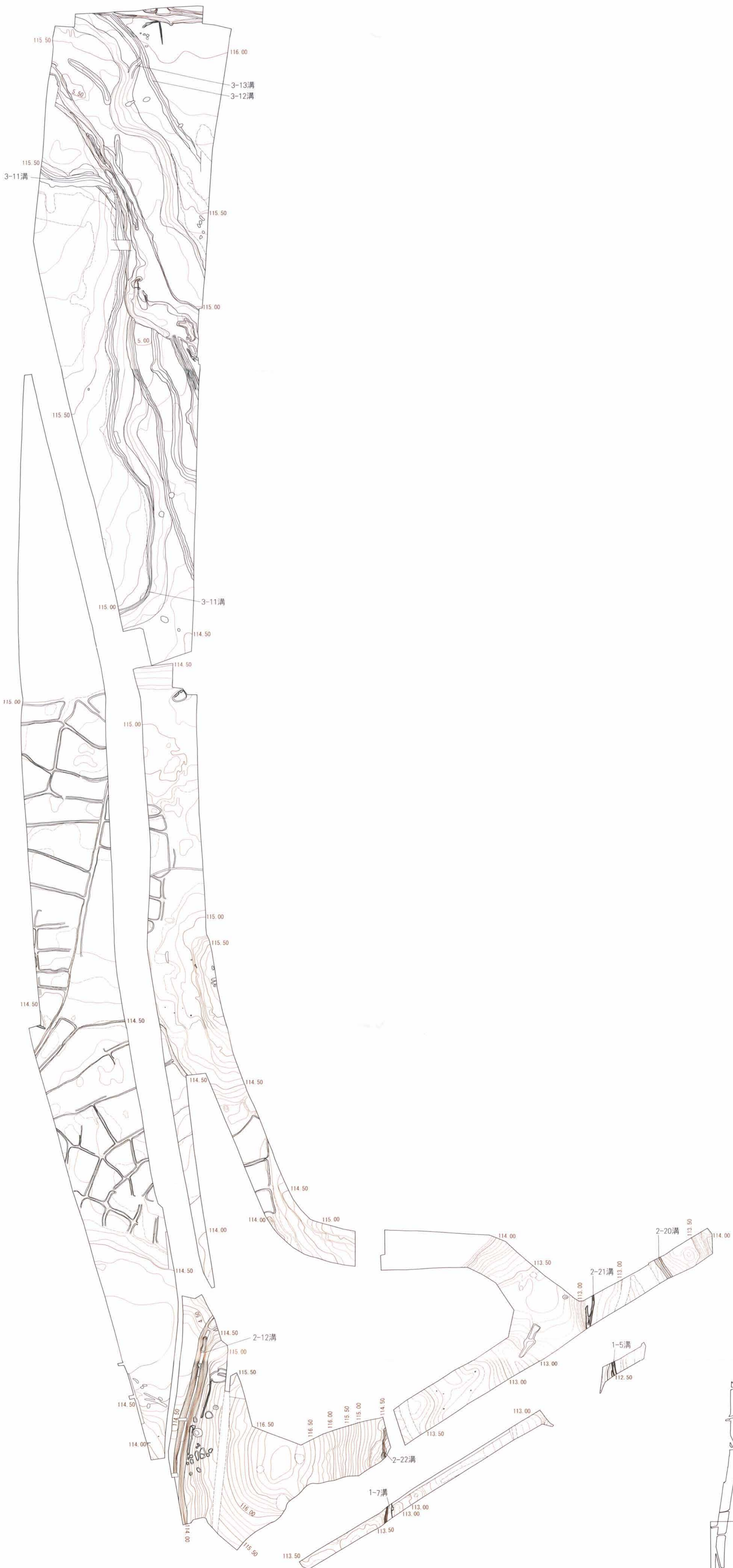
2A

1K

1A

OK

OA



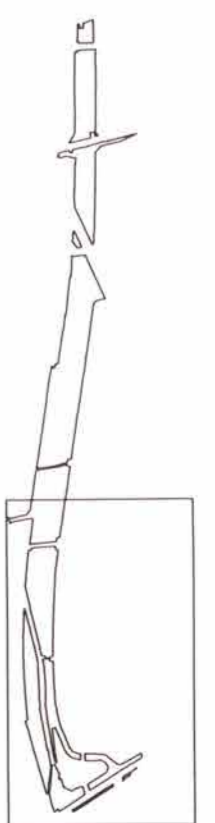
60

50

40

0

1:400 20m

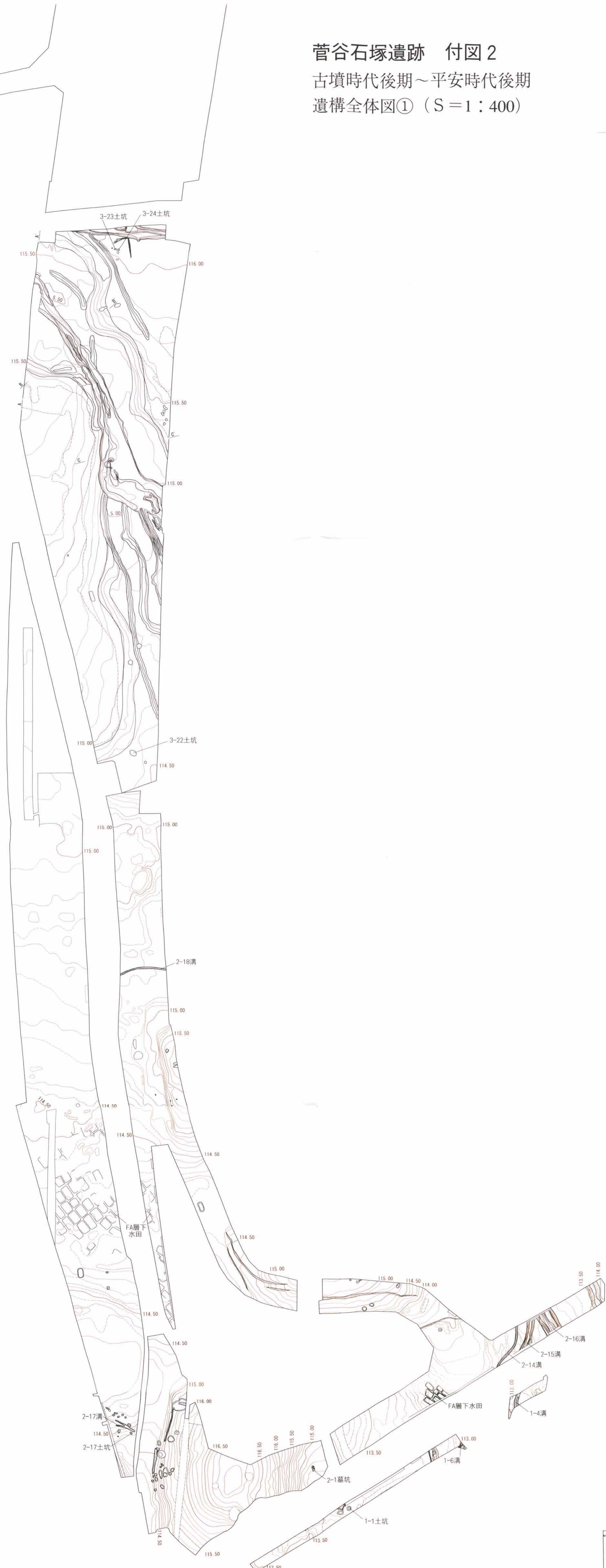


菅谷石塚遺跡 付図2

古墳時代後期～平安時代後期
遺構全体図① (S=1:400)



3A
2K
2A
1K
1A
OK
OA

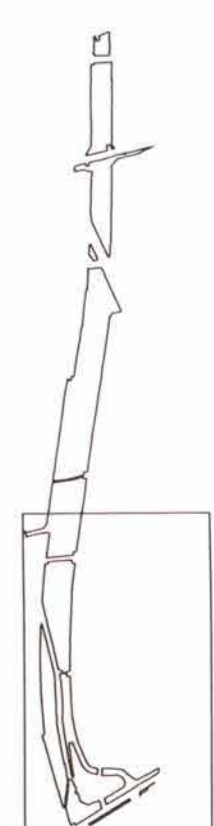


60

50

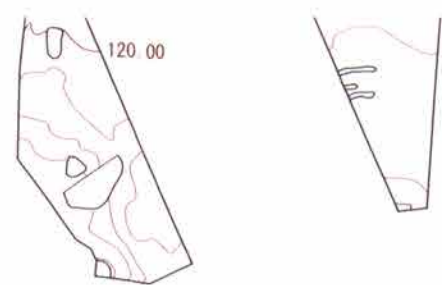
40

0 1:400 20m



6A

菅谷石塚遺跡 付図3
 古墳時代後期～平安時代後期
 遺構全体図② (S=1:400)



5K

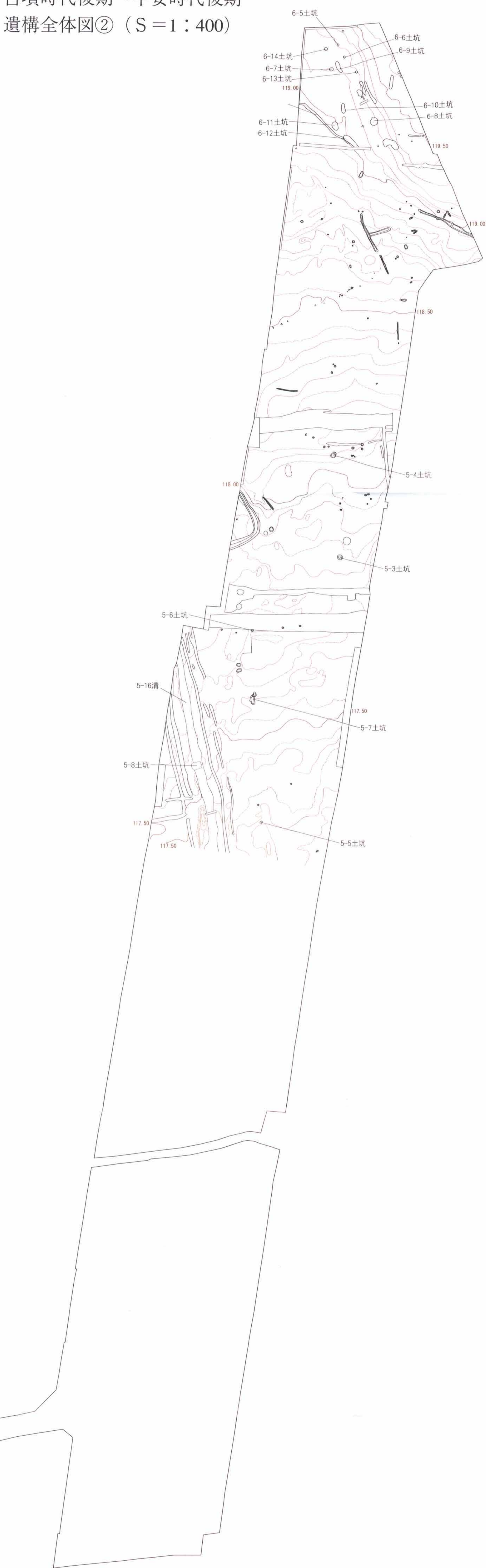
5A

4K

4A

3K

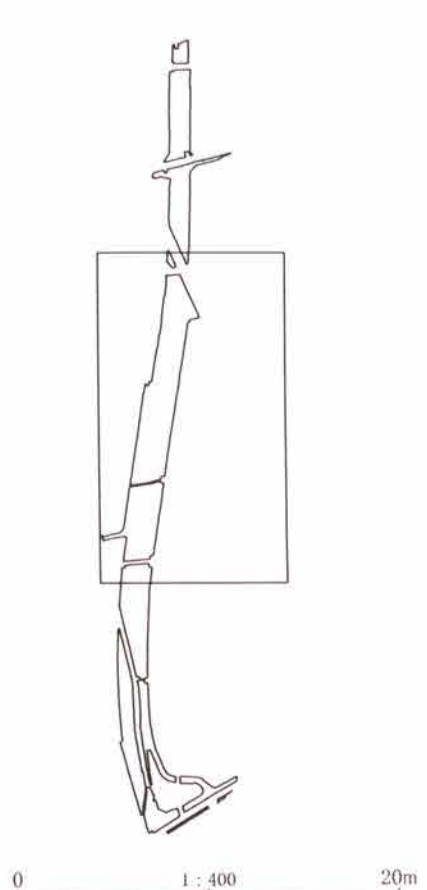
3A



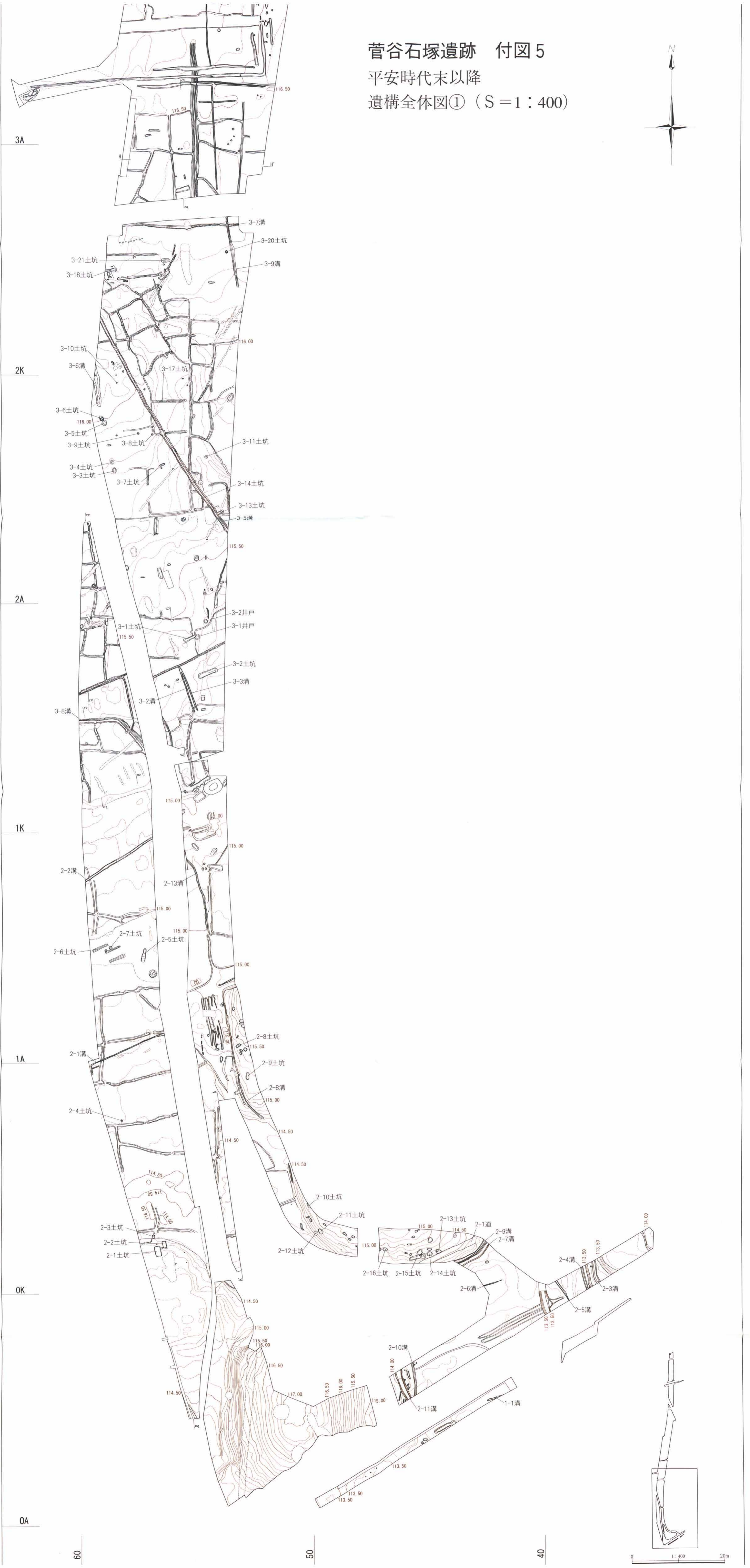
60

50

40



菅谷石塚遺跡 付図5
 平安時代末以降
 遺構全体図① (S=1:400)



3A

2K

2A

1K

1A

0K

0A

60

50

40

0 1:400 20m

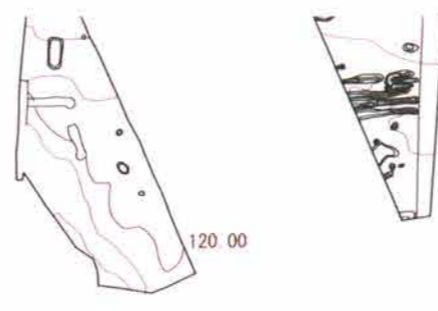
6A

菅谷石塚遺跡 付図6

平安時代末以降

遺構全体図②

(S = 1 : 400)



5K

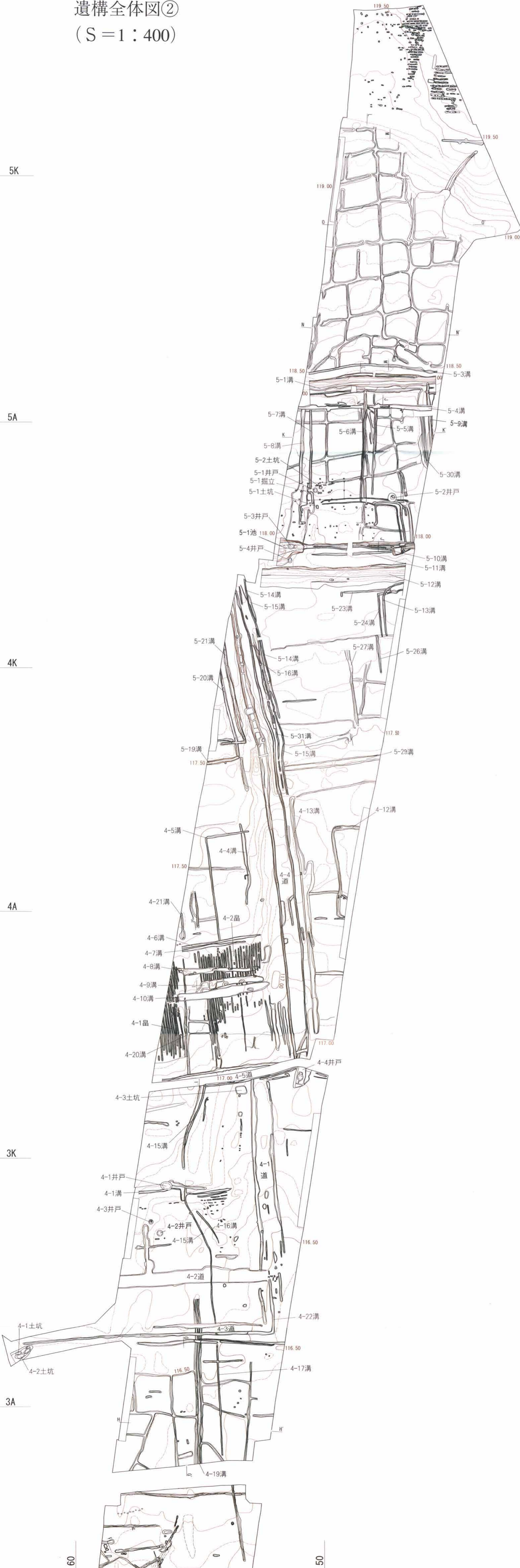
5A

4K

4A

3K

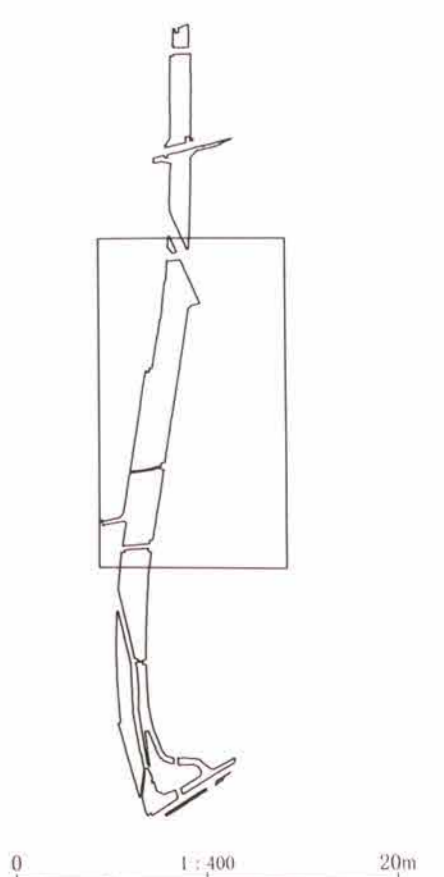
3A



60

50

40



菅谷石塚遺跡 付図7
 平安時代末以降 遺構全体図③ (S=1:400)



8K

8A

7K

7A

6K

6A

5K

